16ページ増、春の新カメラ&新レンズ情報が満載！

2017年3月号(毎月20日発売)2月20日発売
第18巻 第3号 通巻198号

デジタルカメラマガジン

3 2017 March

［特集 1］

美しき日本の桜を撮るためのテクニック&撮影地ガイド

桜の絶景写真

日本ベストセレクション100

［PICK UP］

話題の5,140万画素中判ミラーレスを
自然風景&ポートレートで実写検証
富士フイルム
GFX 50S

クラシカルデザインのAPS-Cサイズ小型一眼
リコー
PENTAX KP

フィルム並みにスリムになったM型最新モデル
ライカ
M10

［REVIEW］

パナソニック LUMIX GH5
キヤノン EOS 9000D/Kiss X9i
富士フイルム X-T20
キヤノン EOS M6
富士フイルム X100F
キヤノン PowerShot G9X Mark Ⅱ
タムロン 10-24mm F/3.5-4.5 Di Ⅱ VC HLD
タムロン SP 70-200mm F/2.8 Di VC USD G2

2017年3月号（毎月20日発売）
2月20日発売
「デジタルカメラマガジンWeb」http://digitalcamera.impress.co.jp/
表紙撮影●木村琢磨　商品撮影●加藤丈博
表紙デザイン●平岡和之（ビーワークス）

撮影情報の読み方

本誌の撮影情報は項目名を省略して以下の順番で記載しています。
カメラ名／レンズ名／焦点距離（35mm判換算）／露出モード（絞り、シャッター速度、露出補正）／ ISO感度／ホワイトバランス／記録モード／撮影地

※本誌での実勢価格は、2017年2月上旬にすべて編集部で独自調査したものです。標準価格、実勢価格、定価など価格表記については特に断りのない限り、すべて税込の価格になっています。©®™など商標は省略しています。

Presented by Nikon D500
The Wings of Icarus
イカロスの翼
WINGS 09 北海道東部
中野耕志
Koji Nakano

ニコン D500／ AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR ／500mm（750mm相当）／マニュアル露出（F4.8、1/4,000秒）／ISO 400／ WB：晴天

獲物の魚をめがけて水面スレスレに飛ぶオオワシ。両脚を前方に突き出し、今まさにつかみ取ろうとする瞬間だ。翼開長2mはあろうかという大型のワシなので動きは読みやすいが、それでも一瞬の出来事。D500であれば、こんな決定的瞬間が10コマ/秒で量産できる

ニコン D500／AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR／500mm（750mm相当）／マニュアル露出（F4、1/4,000秒）／ISO 400／WB：晴天

翼を巧みに使って反転するオオワシ。翼の上面が良く見える理想的な翼の形に写った。背景や光線状態をよく観察し、どのコースを通ったときにシャッターを切るかをあらかじめ決めておくと狙い通りの絵にしやすい

ニコン D500／AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR+TC-14E Ⅲ／700mm（1,050mm相当）／マニュアル露出（F5.6、1/1,500秒）／ISO 200／WB：晴天

漁港で見つけたシノリガモ。濃紺に赤茶色の特徴的な体色が美しい。ピクチャーコントロールを「風景」にして、コントラストを「－2」にして、アクティブD-ライティングを「強め（H）」に設定することで、繊細なトーンを表現した

ニコン D500／AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR／500mm（750mm相当）／マニュアル露出（F4.8、1/2,000秒）／ISO 200／WB：晴天

雪原に着陸するタンチョウ。鳥は風上に向いて離着陸するので、できるだけ風向きの良いタイミングを選んで撮影したい。また他個体が写り込まないようスッキリとした背景になる場所に降りてくる個体を待つと良い

Nikon D500 TECHNICAL GUIDE

チルト液晶とタッチAF&タッチシャッターでローアングル撮影も簡単

地面や水面にいる野鳥を撮る場合、できるだけ地面や水面にカメラポジションを下げて「鳥目線」を得ることでより魅力的な作品にできる。D500に採用されたチルト式の背面液晶パネルを上に上げてライブビュー撮影すれば、簡単にローポジションを得られるので便利だ。この液晶はタッチパネルを採用しており、AFを合わせたいところにタッチするタッチAFやシャッターを切るタッチシャッターにも対応しているので、左手でカメラを保持しつつ右手でタッチAF＆タッチシャッターという使い方もできる。

撮影者が立った状態で撮影したオオハクチョウ。カメラポジションは地上約1.5mなので、鳥を見下ろした俯瞰気味のアングルになる

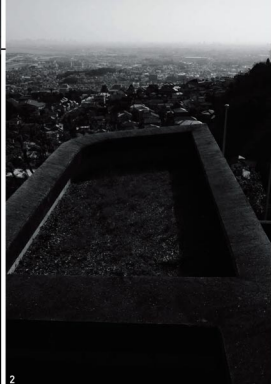
カメラポジションを水面近くまで下げて鳥の目線を得た。D500の背面液晶を上向きにチルトさせ、楽な姿勢でローポジションを得た

−15℃の極寒の地でオオワシと向き合う

冬の北海道東部。最低気温が−15℃を下回る日もあれば、立っていられないほどの強風が吹き荒れる日もある。撮影者にもカメラにも厳しい環境だが、その厳しさゆえに美しい自然を目の当たりにできるのもまた事実だ。流氷の便りが聞こえる頃になると、オオワシとオジロワシが知床半島に集まってくる。オジロワシは北半球で広く繁殖し日本でも少数が繁殖するが、オオワシは極東ロシアのみで繁殖する世界的にも希少な鳥だ。魚食性のワシで、水面付近の魚を鋭い脚でつかみ取るというダイナミックな狩りをする。このシーンはカメラのAF性能を評価するうえでも最適で、ワシをファインダーに捉えてからのAF合焦速度と、連写中のAF合焦連続性などが決め手となる。D500はD5と共通のAFモジュールを採用しているだけあって、AF性能は間違いなく最強。広域&高密度の153点AFシステムのおかげで、被写体が画面のどこにいてもAF撮影できる。今回のD500の設定値は次の通りだ。AFモードはAF-Cでグループエリア AF、露出モードはマニュアルで絞りはF4〜5.6程度、シャッター速度を1/4,000秒にセットした。あとはファインダーに捉えて連写するだけで、10コマ/秒でスーパーショットが量産される。近年はミラーレスの性能進化も著しいが、やはり野鳥の飛翔撮影では、光学ファインダーによる被写体追従のしやすさとAF性能の2点において、D500のようなハイエンド一眼の優位性が実感できる。

LOCATION ▶ 北海道東部（ほっかいどうとうぶ）

冬の北海道東部にはいくつもの野鳥撮影適地がある。羅臼のオオワシ・オジロワシ、鶴居のタンチョウ、屈斜路湖のオオハクチョウなどは人気の撮影地だ。そのほか野付半島や根室半島ではユキホオジロやツメナガホオジロなども期待できるし、海ガモ類を探しながらの漁港巡りも楽しい

協力：株式会社ニコン イメージング ジャパン

① XF16-55mmF2.8 R LM WR ／18.7mm（28mm相当）／絞り優先AE（F13、1/1,700秒、−1.0EV）／ ISO 200／ WB：晴れ

冬の朝、ピンと張りつめた空気と柔らかい光。湿度のある質感を表現するために、アベレージ測光を使って、 白飛びをしないようにした。さらにフィルムシミュレーションの「ACROS」を選び、滑らかな階調の表現にこだわった

② XF16-55mmF2.8 R LM WR ／24mm（37mm相当）／絞り優先AE（F11、1/200秒、−2.0EV）／ ISO 400／ WB：晴れ

建物からせり出した小さな空中庭園。フィルム撮影のころに当たり前のように付けていたイエローフィルター。「ACROS＋Yeフィルター」で適度なコントラストをつけて、遠景との距離感を表現した

静

FUJIFILM X-T2 FILES

No.5

【モノクロ】

北 義昭

TECHNIQUE X モノクロはACROS＋Yeフィルターをベースに ハイライトとシャドウで調整する

モノクロフィルムを使っていたころは、当たり前のようにイエロー（Ye）フィルターを使っていた。全体的なコントラストが少し上がり、特に雲や木々の描写が豊かになったからだ。X-T2でも「ACROS」「モノクロ」ともにYeフィルターが用意されている。Yeフィルターの被写体は人物よりも風景やスナップの方が向いている。「ACROS＋Yeフィルター」を使って撮影するだけでも十分効果はあるが、さらにハイライトトーンとシャドウトーン機能を使うことで、より好みの写真を作ることができる。この2つは、明るさを調節するものではなく、コントラストを調節するもので、明部や暗部にメリハリをつけたいときに使う。

XF16-55mm F2.8 R LM WR ／27mm（41mm相当）／絞り優先AE（F8、1/30秒、−0.7EV）／ ISO 400／ WB：晴れ

階調豊かなACROSのままでも良いが湿ったアスファルトの質感を強調するためにYeフィルターを使って少しコントラストをつけた

ACROS+Yeフィルター+ハイライト+4／シャドウ+1

ACROS

Yeフィルターを使った方がコントラストは高まり、パキッとした表現になる。ハイライトトーンとシャドウトーンをプラスにして調子を硬くした

ハイライトとシャドウ調整は露出に注意

ハイライトトーンとシャドウトーンで気を付けることは、効果を適用する前の露出で白飛び、黒つぶれを作らないことだ。この機能は白と黒の濃度をコントロールする機能ではないので、色情報がないと効果の意味がない

強い光が当たって白飛びしてしまうと、ハイライトトーンも効果がない

③ XF16-55mmF2.8 R LM WR／37.6mm（57mm相当）／絞り優先AE（F8、1/450秒、−0.3EV）／ISO 400／WB：晴れ

日常の中で光と影が見せてくれる絵画。自然の光をそのまま表現するために「モノクロ」に設定してナチュラルで滑らかなグラデーションを再現した

④ XF16-55mmF2.8 R LM WR／29mm（49mm相当）／絞り優先AE（F11、1/800秒、±0EV）／ISO 400／WB：晴れ

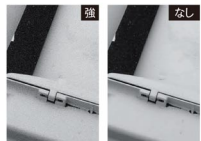
青空に映える雲を表現するため、「モノクロ+Yeフィルター」で濃厚な青空を再現した。少し質感を向上させるためにグレイン・エフェクトを弱に設定した

TECHNIQUE X グレイン・エフェクトで フィルム風のテイストに

X-T2には画像に粒状性をもたせることで、フィルムに近い表現が可能になるグレイン・エフェクト機能がある。ディスプレイで見るのではなく、プリントすることでその質感の高まりを表現することができ、ゼラチンシルバープリントのような作品を作ることができる。イメージとして粒状感を表現したいときはどんな被写体でも問題ないが、素材感や質感にこだわった表現をしたいときは、石や鉄といった、ハードな素材を選んだ方が良い結果を得ることができる。

XF16-55mm F2.8 R LM WR／16mm（24mm相当）／絞り優先AE（F11、1/50秒、±0EV）／ISO 400／WB：晴れ

グレイン・エフェクトは強と弱がある。「ACROS」ではすでに粒状性が組み込まれているので「モノクロ」の方が向いている

グレイン・エフェクトを使わないときは、コントラストのある普通の写真だ。グレイン・エフェクトを使うと、全体に粒状感が広がり、コントラストは抑え気味になる

効果のかけすぎには注意する

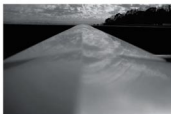
グレイン・エフェクトを強でかけると荒れが表現できるが、質感の向上が目的なら必要最小限に抑えておいた方が良い。やりすぎるとフラットになり立体感が失われてしまい、別の印象の写真になる

ノイズで階調がなくなり、のっぺりとした感じなってしまった

TECHNIQUE X 日中でも電子シャッターを使って 高速シャッターを切る

晴天時に開放で撮影したい場合に使うのが最速1/32,000秒まで設定できる電子シャッターだ。今まで、露出オーバーになっていた日中での開放絞りの撮影が簡単にできるようになる。他にもシャッター音がしないため、ストリートスナップや舞台撮影など音や気配を消しながら撮影をしないといけない場合には最適だ。振動が少ないため、ぶれにくいという利点もある。

XF35mmF2 R WR／35mm（53mm相当）／絞り優先AE（F7.1、1/30,000秒、−0.3EV）／ISO 400／WB：晴れ

逆光でススキが強風に煽られ左右に揺れている中、高速シャッターで強風の中ススキの一瞬の動きを写し止めた

XF23mmF2 R WR／23mm（35mm相当）／絞り優先AE（F2、1/23,000秒、±0EV）／ISO 200／WB：晴れ

日中に開放絞りで金属に映り込んだ雲にピントを合わせた。いつもなら露出オーバーになるが、電子シャッターのお陰で高速シャッターが切れた

スナップの味方、電子シャッターのメリット

1/32,000秒のシャッターが切れるということは、絞りの選択の幅も広がる。例えば日中でも開放絞りで高速シャッターを使ったボケと被写体を止める表現ができる

XF16-55mmF2.8 R LM WR／32mm（49mm相当）／絞り優先AE（F11、1/50秒、±0EV）／ISO 400／WB：晴れ

シャドウトーンを+3に設定して、影の強さ強調した。さらに、グレイン・エフェクトの弱でアスファルトの質感を表現した

TECHNIQUE X 広角レンズを使って

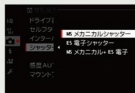
自分も一緒に滑って撮る

自分も一緒に滑って撮る追い撮り撮影は、視界を邪魔しないようにカメラは腰の高さにして、ファインダーや背面ディスプレイを見ずに撮影を行う。被写体との距離はだいたい2mほどで、16mm相当くらいの広角レンズで撮る。自分も滑っているので、ブレ軽減のためにシャッター速度は1/4,000秒以上は確保したい。撮影タイミングは少ないので縦位置パワー・ブースター・グリップを付けてBOOSTモードにしてカメラのパフォーマンスを上げておけば、過酷な環境下でもシャッターチャンスを逃さない。

XF10-24mmF4 R OIS ／10mm（15mm相当）／マニュアル露出（F5.6、1/4,000秒）／ISO 2500／WB：オート

レンズの中心で被写体を捉えるようにする。広角レンズなら被写体が多少真ん中から外れても、画面内に収まってくれる

高速移動時はメカニカルシャッターで対応しよう

高速シャッターが使える電子シャッターだが、動いている被写体を撮るとゆがんで写ることがある。そういうときはメカニカルシャッターに設定しよう

人がたくさんいる場所では撮影に集中できないため、中央も水平もずれてしまうことが多い。人工物もたくさん写り込むので良い写真が撮りにくい

FUJIFILM X-T2 FILES

No.6

【スノーボード】

藤原嘉騎

① XF16-55mmF2.8 R LM WR ／17.6mm（27mm相当）／マニュアル露出（F5、1/2,000秒）／ISO 400／WB：オート

雲が去り始め、日が差し込んでくる。その光景を背景に斜面を滑り下りる。AF設定をAF-Cモードにして追いかけた

② XF10-24mmF4 R OIS ／10mm（15mm相当）／マニュアル露出（F5、1/1,600秒）／ISO 2500／WB：オート

液晶モニターをチルトさせて、地面に近い低位置から撮影。スノーボーダーがギリギリ入る構図で迫力を出した

③ XF16-55mmF2.8 R LM WR ／16mm（24mm相当）／マニュアル露出（F8、1/500秒）／ISO 200／WB：オート

AF-Cのゾーンで待つ。優秀なAF性能のおかげでライダーが見えた瞬間にシャッターボタンを押すだけで撮ることができる

 撮影協力：池田将己／木下康友

TECHNIQUE X 被写体の動きに合わせて AFフレームを変える

動きが速く、突然現れるスノーボード撮影は、被写体が見えてからピントを合わせていたら間に合わない。AF-Cの半押し状態で待っていれば、被写体が現れたらカメラがピントを合わせてくれる。被写体の動きによってAFフレームを変えるとさらにAFの精度が高まる。被写体の動きが中央など左右の移動幅が余り大きくないときはゾーンに設定する。画面端から被写体が入ってくるときはワイド/トラッキングにする。ワイド/トラッキングは便利だが、雪でコントラストがなくなるとAFが迷うことがある。そういうときはゾーンにしてカメラを振ろう。

ゾーン設定時には SET 2に設定する

ゾーンAFで中央に被写体を捉える場合には、AF-Cカスタム設定を「SET 2」にしておこう。障害物にフォーカスが迷うことがなく、被写体を捉え続けてくれる。ゾーンのエリアサイズも変更可能で、5×5がバランスが良い

XF100-400mm F4.5-5.6 R LM OIS WR／115mm(175mm相当)／マニュアル露出(F5.6、1/2,000秒)／ISO 1000／WB：オート

スノーボードは見せ場が一瞬しかない。AF-C+ゾーン+連写モードで常に画角の真ん中に被写体が来るようにして決定的瞬間を狙っていこう

XF16-55mmF2.8 R LM WR／55mm(84mm相当)／マニュアル露出(F8、1/500秒)／ISO 200／WB：オート

画面の端に被写体があるときは、AF-C+ワイド/トラッキングで狙う。雪の撮影では被写体の色にもよるが広範囲でフォーカスが合うので、被写体が真ん中に来る前にフォーカスが端に寄り過ぎてしまうことがある

4 XF16-55mmF2.8 R LM WR／16mm(24mm相当)／マニュアル露出(F5.6、1/2,500秒)／ISO 400／WB：オート

逆光でパウダーが残っているポイントを探す。スプレーが上がったときに太陽の光が当たってスプレーが輝く写真が撮れる。太陽を直接見ると危険なので液晶モニターで確認しながら撮影する

5 XF16-55mmF2.8 R LM WR／19.4mm(30mm相当)／マニュアル露出(F5.6、1/2,000秒)／ISO 400／WB：オート

山の形になっている地形をジャンプ台に見立て飛び出してくるライダー。いつ飛び出してくるか分からない状況でも、AF-Cモード・半押し状態で待っていれば安心して撮影できる

TECHNIQUE X 防塵・防滴ボディを生かして 雪に寝転がって迫力を出す

ターン時に出るスプレーをうまく生かすことで写真に迫力を出すことができる。レンズはなるべく広角レンズを選ぶ。24mmくらいが背景とのバランスが良い。スプレーが上がりそうな雪面を見つけて寝転び、5m先のポイントにターンの山が来るように滑ってもらう。ターン時に出るスプレーが自分自身に向かって降りかかり、大粒の雪の塊も写すことができる。当然、X-T2も雪まみれになるが、防塵・防滴なので安心だ。レンズもWRで臨みたい。ゲレンデで行う場合は他の滑走者の邪魔にならないように注意して撮影しよう。

XF16-55mmF2.8 R LM WR／16mm(24mm相当)／マニュアル露出(F5.6、1/2,500秒)／ISO 320／WB：オート

雪面に寝転がりライダーが目の前に来るのをじっと待つ。背後の死角から急に現れるので恐怖と緊張が入り混じる

雪が降っても、かかっても 安心の防塵・防滴構造

マグネシウム合金を使用した防塵・防滴のX-T2。今回のようにスプレーをかけられるような撮影にも平気で耐えてくれる。さらに−10℃の耐低温性能も備えているので過酷な雪山でも安心して使用できる

アイレベルで撮影。寝転がっているときと違い上半身が動かせるので安心感が違う。しかし写真の迫力には欠ける

注目の中判カメラを 自然風景&人物で実写

FUJIFILM GFX 50S

FUJIFILM GFX50S | LANDSCAPE | 自然風景×萩原史郎

中判の解像力と色再現力は 風景の深淵まで捉えられる

GF32-64mmF4 R LM WR ／32mm（25mm相当）／絞り優先AE（F16、1/9秒、±0EV）／ ISO 100／ WB：晴れ

中判フォーマットセンサーから生まれる5,000万画素超の解像力は、従来までの鮮鋭感や立体感の概念を変えてしまう。ここまで被写体の細部が描けるとなれば、表現もおのずと変わる

01 GF120mmF4 R LM OIS WR Macro ／120mm（95mm相当）／絞り優先AE（F4、1/750秒、+0.7EV）／ ISO 12800／ WB：晴れ

この写真はISO 12800だが、さすがに少々ノイズが浮き出ている。とはいえ、この程度に収まっているわけだから使える範囲にある。ISO 3200は純然たる常用感度だと思う

02 GF32-64mmF4 R LM WR ／32mm（25mm相当）／絞り優先AE（F11、1/60秒、+0.3EV）／ ISO 100／ WB：晴れ

白梅にメジロがやってきた。良いポーズの瞬間を狙って撮影し、帰宅後に等倍拡大をして観察したところ、驚くべき精密さでメジロが描写されていた。さすがの解像力である

精密な描写力が必要とされる風景写真において、高解像性能は優先事項のトップである。GFXはこの1点だけを見ても、風景撮影用カメラの頂点の一角に立ったといえる。もちろん、その高解像性能を生かすためには十分なスキルがなければ宝の持ち腐れだが、少なくともカメラとしては申し分のないレベルに到達している。フィルムシミュレーションが使えるXシリーズのカメラであるという観点でいえば、色再現においてもなんら心配がないというのは、Xユーザーに限らず喜ばしい。

画質面だけでなく、現場での使い勝手が良かったことも強い印象として残っている。何といっても中判フォーマットカメラとしては軽量コンパクトで携行性に優れ、山歩きも十分にこなせる。加えて425点の測距点を持つAFや3方向チルト式の背面液晶モニターが使いやすく、自分の意志が素早く正確にGFXに伝わる点は、表現者をその気にさせてくれるものと感じた。EVFの見やすさ、使い心地もしかりだ。

これだけの高解像性能と色再現力、そして機動性や操作性を持ったGFXだから、おのずと表現も変わる可能性がある。GFXは人間の目では捉えきれない風景の深淵をつかめるカメラだから、これまで以上に風景を凝視して撮影に臨む姿勢が求められる。そのようにして表現された1枚の写真は人の心を揺さぶるに違いない。

※試作機による評価のため、製品版と外観および画質が異なる可能性があります

GF63mmF2.8 R WR ／63mm（50mm相当）／絞り優先AE（F4、1/280秒、＋1.3EV）／ ISO 1600／ WB：オート

不安定な姿勢での手持ち撮影。近距離ではわずかな動きでも手ブレの原因になる。十分なシャッター速度を得るためにISO 1600を使ったが、画質の劣化を全く感じさせない高画質だ

01

02

03

04

01 GF120mmF4 R LM OIS WR Macro ／120mm（95mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/320秒、+1.3EV）／ISO 400／ WB：オート

光が差し込む部屋でうたた寝をしているシチュエーションを、2階から120mmマクロで俯瞰撮影。中判ならではの優れた階調性を見て取れる

02 GF120mmF4 R LM OIS WR Macro ／120mm（95mm相当）／絞り優先AE（F4、1/600秒、+1.3EV）／ISO 100／ WB：オート

強烈な逆光でフィルムシミュレーション「Velvia」での撮影だが独特の派手な色彩が良く再現されており、レンズの解像力の高さも感じられる

03 GF32-64mmF4 R LM WR ／43mm（34mm相当）／絞り優先AE（F11、1/480秒、+0.3EV）／ ISO 400／ WB：オート

広角ズームの中間で青空を広く取り入れながら午後の光線を利用した。反射光で強いコントラスト表現だが、暗部の再現は良好だ

04 GF63mmF2.8 R WR ／63mm（50mm相当）／絞り優先AE（F4、1/750秒、+0.3EV）／ ISO 200／ WB：オート

フィルムシミュレーションの「PRO Neg. Std」を使用して顔と腕の肌を美しく再現してみる。柔らかくやさしい肌の質感は狙い通りの仕上がり

FUJIFILM GFX50S **PORTRAIT** ポートレート×HARUKI

手持ちで使える小型・軽量さが中判カメラの常識を大きく変える

待ちに待った国産の中判ミラーレスカメラが登場した。それが本機GFX 50Sである。これまで使用してきた中判デジタルカメラとの違いがいくつか挙げられるが、やはり最も大きな相違点は大型のミラーやペンタプリズムがなくなったことによる小型･軽量さだ。僕自身、フィルム時代から中判カメラでも長時間露光でない限り三脚を使用しないで撮影するスタイルなので、スタンドアローンで使える中判カメラは大歓迎だ。着脱式のEVFを装着したボディが約920g、レンズ3本をセットにしても3kgちょっとなので、これならバッグに入れて持ち歩くのが苦にならない重さだ。

今回、南房総でポートレート撮影を試みた。発売前に何度か本機を触ってはいたが、いざ現場で撮影してみると、これまでの中判デジタルカメラと比べていかにコンパクトかを改めて実感できた。強烈な太陽、激しい強風、暗い室内で手持ち撮影という過酷な条件下での撮影だったが、予想以上に軽快な動きで問題なく撮影でき、バッテリーも予想以上に持ちが良くて驚いた。ただ、多めに準備したはずのメモリーカードが足りなくなったのは少々想定外。

5,000万画素を超える高画質でありながら、気軽に持ち歩けるメリットを大いに利用して旅に出るのも良いし、ポートレートの現場で小型カメラ並みの機動力を発揮させて撮影するのも良いだろう。

モデル●河合美侑（オスカープロモーション）

［LANDSCAPE］
自然風景×萩原史郎

8つの分析

［PORTRAIT］
ポートレート×HARUKI

肉眼を超える精密さに脱帽

このレベルに達したら申し分ない。数m先の被写体を撮影したとき、目では見えていない部分が、等倍観察すると"精密"に描写されていたことには素直に感動した。風景写真のジャンルで待ち望まれていた性能だ

人物の質感を実感できる描写

デジタルカメラにおける解像力は、センサーとレンズ性能のマッチングから生み出される結果に占める割合が大きいが、今回は「質感」という表現部分にもこだわったのではと思える。GFXのセンサーが描き出す絵は素晴らしい

Velviaの色再現に安定感

Xシリーズのカメラなのでフィルムシミュレーションが使えることは最大のメリット。特に風景写真家は使い慣れたVelviaが使える点で、色再現には死角がないといえる。±5.0EVの幅広い露出補正が使えるのもうれしい

フィルムの色再現に忠実

フィルムシュミレーションをいろいろ使って試してみたのだが、さすがフィルムメーカーだけあってフィルムの表現をデジタルでうまく再現していると感心する。解像力が高いだけでなく、表現力という点でも優れた出来映えだ

ISO 6400まで十分実用域

ISO 3200までは完全なる常用範囲と言っていい。ISO 6400でさえ問題視するレベルにはない。ISO 6400までが躊躇なく使えるなら、表現範囲はかなり広がるはずだ。ISO 12800はややノイズを感じるので風景向きではない

ISO 1600の肌の質感に満足

ISO 400～1600くらいまで実写してみた結果、高感度特性はかなり優れているように思われる。室内外で条件を変えながらテストも含めて撮影してみたが、ISO 1600でも肌の質感は驚くほどノイズが少ないことを確認できた

構図の制約がない425点AF

画面のほぼすべてと言っていいレベルで425点の測距点が散りばめられているので、構図を作るときに制約を受けない。風景写真のジャンルにおいては測距精度もおおむね問題ない。背景が明るい場合は多少迷うことがある

精度や作動音の少なさは優秀

モデルに接近したマクロや逆光状態での撮影などを通して、AFは作動音が気にならないスムーズな動き。屋外でも自由に動きながらAF-Cで撮影した結果も半分以上は正確に合焦していたので、中判カメラでは優秀といえる

0.85倍の倍率が使いやすい

筆者はEVFを使い慣れているためか、GFXのEVFも全く問題なく使えた。むしろ倍率はX-T2より高い0.85倍を実現しているので、使い心地はさらに向上している。背面液晶モニターとの使い分けがフィールドでの鍵になる

着脱式なのが素晴らしい

取り外し式のEVFを備えているが、別売のチルトアダプター EVF-TL1を介してさまざまなアングルが使えるのも便利である他、EVFとしては倍率も高く視認性に優れている。普段はAF任せだがMFでも使ってみたくなる

Xユーザーなら迷わない

露出補正はボタンを押して電子ダイヤルを回す2アクション方式。X-T2は露出補正ダイヤルを回すだけなので、その点は少々残念。この部分以外はX-T2とほぼ共通の操作性を持っているのでXユーザーなら迷うことはない

しっかり握れるグリップ

ホールディングが素晴らしく良いカメラだといえる。縦位置グリップを使えばポートレート撮影では鬼に金棒だ。ボタン配置やメニュー構成が独特なので、これまで富士フイルムを使っていないユーザーは慣れるまで戸惑うかも

大三元の完成が待ち遠しい

使用した3本のレンズ（32-64mm、63mm、120mm）はそれぞれに素晴らしく、短期間の試用の範囲では欠点は見当たらない。もちろんラインアップ不足は否めないところだが、新システムなのでこれからの拡充に期待したい

絞りリングが直感的で良い

現在3本で年内に3本が追加されることは楽しみだが、経済的な覚悟が必要となる。いうまでもなく高解像力だが、それよりもアナログの絞りリングが備わっていることで、直感的な操作が可能なのはうれしい限り

写真の常識を覆す潜在能力

破格の性能を持ったGFXだが、どこまで浸透するか。かつてフィルム645判カメラが風景写真のジャンルを席巻したほどの支持を集めれば、風景表現の世界がガラリと変わる可能性を秘めたポテンシャルを有している

ボディ内手ブレ補正が欲しい

かなりダウンサイジングされた作りとはいえ、大型センサーはわずかなブレでも画質に影響が出るほど目立ってしまう。個人的には中判カメラでもボディ内手ブレ補正があるともっと気軽に撮影できるのでぜひ検討してほしい

[LANDSCAPE]

自然風景 × 萩原史郎

[PORTRAIT]

ポートレート × HARUKI

ダブルスロットで同時記録

プロフェッショナル用途のカメラとしては、ダブルスロットの安心感は計り知れない。64GBもしくは128GBクラスのカードに同時記録することで、不測の事態に対応できる仕様は、このクラスのカメラには必須である

425点AFとフォーカスレバー

GFXは425点という膨大な測距点を持つが、X-Pro2やX-T2に搭載されたフォーカスレバーが搭載されているため、測距点の素早い変更が可能だ。撮影現場でストレスを感じないので、スムーズに撮影を進めることができる

約369万ドットEVFの見やすさ

約369万ドットの有機ELタイプのEVFの見やすさは抜群。映像がクリアかつリアルに見えるので、まるでOVFをのぞいているような感覚になる。明るい屋外では積極的に使えるし、外せばザックへの収納性も高まる

3Wayチルト式液晶モニター

背面液晶モニターは可動式に限ると思っている。可能ならば縦位置にも対応してほしいが、GFXはそれを叶えているため撮影アングルの自由度が高まる。加えて撮影姿勢に無理がなく撮影ができるため、集中力が持続する

3Wayチルト式液晶モニター

チルトアダプターを活用したEVFとは別に、背面液晶モニターで確認しながら同じ光軸上で撮影が可能だ。縦位置に構えたままでの極端なローアングル撮影などで威力を発揮する。無理のない姿勢で集中力を維持しながら臨めるのはありがたい

多彩なフィルムシミュレーション

フィルムシミュレーションは15種類あるが、その中からビビッドな色表現の「Velvia」、肌色描写に適している柔らかい階調の「PRO Neg. Std」、モノクロの「ACROS＋Gフィルター」などで撮影したが、いずれもフィルムの効果が良く再現されている

メカシャッターと電子シャッターの併用

メニューのシャッター方式で「メカニカル＋電子」を選択することで、メカシャッターの最高速度である1/4,000秒を超える高速シャッターが使えるようになる。日中の屋外で大口径レンズの開放絞りを使うような撮影で有効だ。ただ、ローリング現象でゆがみが出やすいので注意が必要

AEブラケットで歩留まりアップ

瞬間的な表情を捉える際は、相手の動きと構図に集中したいが、思いがけず露出が変わることがある。プラスとマイナスの露光値を含めて3枚同時に撮影しておくと過度な露光外れを防げる。ただ、容量も3倍必要になる点は留意しておきたい

※バッテリー、SDカード含む

富士フイルム GFX 50S ／32mm（25mm相当）／絞り優先AE（F16、1/38秒、±0EV）／ ISO 100／ WB：晴れ

広角端25mmの描写は素晴らしく、画面の中央から四隅まで、ほぼ均一に高画質だ。画面の四隅でも像の崩れがない性能は、風景撮影では格別の安心感がある

四隅まで像が乱れない標準ズーム

LENS REVIEW

GF 32-64mm F4 R LM WR

写真・文・萩原史郎

● 発売予定日 2017年2月下旬 ● 予想実勢価格 291,000円前後

35mm判換算で25〜51mmに相当する標準ズームレンズ。広角から標準域までをカバーするので、風景撮影用の1本目としては最良の選択といえる。43.8×32.9mmのフォーマットに対応するため少々大柄だが、中判用レンズとしては標準的なサイズと質量だ。

11群14枚構成の光学系には、3枚の非球面レンズ（大口径高精度非球面レンズ含む）とEDレンズ1枚、スーパーEDレンズ1枚を使用。画面の四隅まで全く像が乱れない高品位な画質を実現しているため、画面の端に枝を入れる構図なども安心して作ることが可能だ。また逆光にも強く、画面に太陽を入れたときもゴーストは最小限にとどまっている。AFも静かで、自然の中で撮影していても自然との調和を乱さないスマートさを備える。

またボディに合わせて、防塵・防滴および−10℃の耐低温構造を持つので、雨や砂塵の中、あるいは降雪中でも安心して撮影を楽しめるのは風景写真家として大変心強い。

SPECIFICATION

● レンズ構成：11群14枚（非球面レンズ3枚、スーパー EDレンズ1枚、EDレンズ1枚） ● 35mm判換算焦点距離：25〜51mm相当 ● 最小絞り：F32 ● 絞り羽根枚数：9枚（円形） ● 最短撮影距離：0.5m（広角端） ● 最大撮影倍率：0.12倍 ● フィルター径：φ77mm ● 外形寸法（最大径×全長）：約φ92.6×116mm ● 質量：約875g

レンズ構成図

● 非球面レンズ ● EDレンズ
● スーパー EDレンズ

富士フイルム GFX 50S ／64mm（51mm相当）／絞り優先AE（F16、1/8秒、−0.3EV）／ ISO 100／ WB：晴れ

望遠端は51mmなので、望遠らしい表現はできないが、王道風景を撮るには最適。風景撮影用としては、63mmの単焦点よりも、このズームを選び、望遠端を使うのが合理的だと思う

LENS REVIEW **多様な使い方が楽しめる万能レンズ**

GF 63mm F2.8 R WR

写真・文•HARUKI

● 発売予定日 2017年2月下旬 ● 予想実勢価格 194,000円前後

SPECIFICATION

● レンズ構成：**8群10枚（EDレンズ1枚）** ● 35mm判換算焦点距離：**50mm相当** ● 最小絞り：**F32** ● 絞り羽根枚数：**9枚（円形）** ● 最短撮影距離：**0.5m** ● 最大撮影倍率：**0.17倍** ● フィルター径：**φ62mm** ● 外形寸法（最大径×全長）：**約φ84×71mm** ● 質量：**約405g**

レンズ構成図

● EDレンズ

富士フイルム GFX 50S ／63mm（50mm相当）／絞り優先AE（F2.8、1/420秒、+0.3EV）／ ISO 100／ WB：オート

50mm相当の標準レンズであるが、よく使う35mmの感覚と比較するとやや長めの中望遠に近い表現に。AFで合焦させた左目と唇と指先以外の部分をわずかにぼかすことにより、立体感を出している

Gマウントの63mmは35mm判換算50mm相当の標準レンズになるが、F2.8開放絞りで被写体に寄ればややマクロ的にも中望遠にもなる他、絞り込んで構図を選べば広がりのある見せ方も可能になる。使い方次第で無限の表現ができる万能レンズである。どれか1本選ぶなら僕は迷わずこのレンズを選ぶだろう。

富士フイルム GFX 50S ／63mm（50mm相当）／絞り優先AE（F2.8、1/280秒、+0.7EV）／ISO 320／ WB：オート

3m弱の距離からモデルの顔だけにフォーカスして開放F2.8で撮影。背景も手に持つ花もぼけている。このシチュエーションでもF8くらいまで絞れば広角らしい表現も可能になる

約5段分の手ブレ補正付き望遠マクロ LENS REVIEW

GF 120mm F4 R LM OIS WR Macro

SPECIFICATION

● レンズ構成：**9群14枚（EDレンズ3枚）**
● 35mm判換算焦点距離：**95mm相当** ● 最小絞り：**F32**
● 絞り羽根枚数：**9枚（円形）**
● 最短撮影距離：**0.45m** ● 最大撮影倍率：**0.5倍**
● フィルター径：**φ72mm** ● 外形寸法（最大径×全長）：**約φ89.2×152.5mm** ● 質量：**約980g**

レンズ構成図

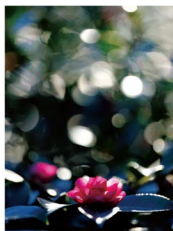
● EDレンズ

● 発売予定日 2017年2月下旬 ● 予想実勢価格 340,000円前後

写真・文•萩原史郎

発売段階で最も焦点距離の長いマクロレンズで、マクロ域の撮影だけでなく、遠景の切り取りにも使える。約5段分の手ブレ補正効果があるので、5,000万画素超のGFXでも手持ち撮影が可能だ。円形絞りが採用されているため、玉ボケをあしらった表現が楽しめる。

富士フイルム GFX 50S ／120mm（95mm相当）／絞り優先AE（F16、1秒、±0EV）／ ISO 100／ WB：晴れ

レンズラインアップが整わない今は中望遠レンズとしても使えるが、近距離の描写力が圧倒的であることは予想通り。大きくプリントして実物を超える大きさで鑑賞したとき、真価が発揮される

富士フイルム GFX 50S ／120mm（95mm相当）／絞り優先AE（F4、1/100秒、−0.3EV）／ ISO 100／ WB：晴れ

開放F4だが、センサーが大きいぶんよくぼける。0.5倍の倍率がやや物足りないが、ボケが美しいので及第点。手ブレ補正は手持ち撮影を可能にする

美しき桜を撮るための撮影テクニック&
桜の絶景
—日本ベストセレクション100

〚青森県〛

弘前公園

お堀を埋め尽くす見事な花筏

4月末になると桜が散り始め、花びらがお堀に積もり、花筏を作り出す。撮影に行ったときはまだ埋め尽くすほどではなかったので、NDフィルターを使い、60秒のスローシャッターで花びらを流した。お堀はピンク色に染まり動きのある写真になった。お堀の流れは実にゆっくりなので、花びらに動きを出したいのならなるべくシャッター速度を遅くすると良い。　（館野二朗）

01

青森県弘前市下白銀町　**4月下旬**
9時30分　**望遠レンズ**

東北で最も人気がある場所なので駐車場はいつも混雑する。車で訪れる場合はなるべく早めに駐車場に入れよう。弘前公園の桜は満開時も素晴らしいが、花筏も他ではなかなか見られないので、散り際狙い5月上旬に訪れるのもよい

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF70-200mm F2.8L IS Ⅱ USM／95mm／マニュアル露出（F18、60秒）／ISO 100／WB：太陽光

撮影地ガイド 写真

永久保存版 “52ページ” 総力大特集

日本に春を告げるように咲く美しき桜は、私たちの目を奪い、心を浮き立たせる。
写真を趣味としていると、なおのことその刹那的な美しさに魅了されるものだ。
「撮影テクニック」と「撮影地ガイド」が分かる絶景写真シリーズ第5弾のテーマは「桜」。
この春、絶対に撮り逃したくない日本各地の桜のベストセレクション100を紹介する。

アイコンの見方

写真を撮影した場所
実際にカメラを構えて絶景写真を撮った場所です。

撮影に適した時期
紹介している写真の撮影時期を上、中、下旬で分けて記載しています。桜の開花状況は今後の気象条件に伴い前後しますので、お出掛け前にご確認ください。

おすすめの撮影時間
紹介している絶景写真が撮れる時間です。30分ごとに区切って記載しています。

おすすめのレンズ
紹介している絶景写真を撮るのに最適なレンズの種類です。
23mm以下が 広角レンズ、
24～70mmが 標準レンズ、
71mm以上を 望遠レンズ
として表記しています。

〘山梨県〙

慈雲寺のイトザクラ

じうんじ

人々の営みを300年見守ってきた桜の巨樹

山梨県の天然記念物に指定されるしだれ桜。寺や庭園などカメラマンが多く集まる場所では三脚の使用が禁止されている所が増えてきていているが、慈雲寺もその1つ。手持ち撮影を余儀なくされるので手ブレ補正機構を搭載した機材があると便利。標準域で撮ると桜の形を表現しやすい。（山梨将典）

02

- 山梨県甲州市塩山中萩原
- 4月中旬
- 10時30分
- 標準レンズ

JR塩山駅からタクシーで約10分。車の場合は中央自動車道勝沼ICから広域農道フルーツラインを通って約15分。慈雲寺の脇に約50台分の駐車場がある

ニコン D3X／AF-S NIKKOR 28-300mm f/3.5-5.6G ED VR／38mm／マニュアル露出（F8、1/60秒）／ISO 100／WB：5,000K

[埼玉県]

丸墓山古墳

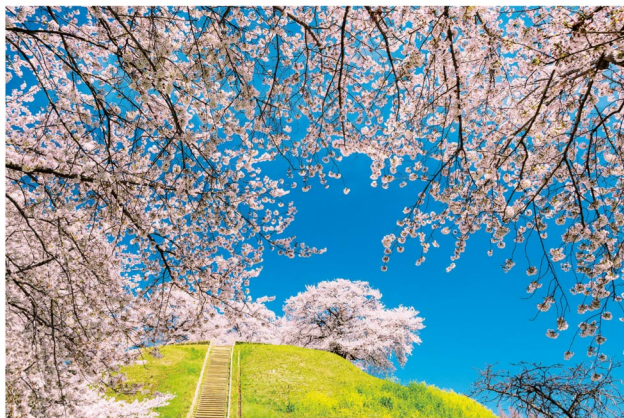
青空に映える古墳の桜

桜を手前に、山頂の桜を奥に配置して奥行きを表現した。手前と奥の両方の桜をシャープに写すため、F13まで絞っている。当日は強風のためISO感度を1000までアップすることで、1/250秒のシャッター速度を確保した。桜を止めることが大切だ。空が青くなる正午頃まで待つのもポイント。（金子美智子）

04

埼玉県行田市埼玉
4月上旬
12時
標準レンズ

JR吹上駅またはJR行田駅からタクシーで約20分。秩父鉄道行田市駅からはタクシーで約15分。車の場合は、東北自動車道羽生ICから約30分。関越自動車道東松山ICから約40分。約300台分の無料駐車場あり

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-105mm F4L IS USM ／28mm ／絞り優先AE（F13、1/250秒、+1.3EV）／ ISO 1000／ WB：太陽光

[京都府]

平安神宮

東神苑に咲き乱れる紅しだれ桜

泰平閣の中央から神苑を彩る桜を愛でる。超広角レンズでワイド感を演出し、周辺部の像流れを軽減すべく16mmにセットしてF16まで絞った。ピントと露光は屋外に合わせている。柱の正面で水平垂直を正確に構え、シンメトリーな額縁構図とした。（水野秀比古）

03

京都府京都市左京区岡崎西天王町
4月中旬
8時30分
広角レンズ

京都市内でもアクセスの良い岡崎エリアにあるので、鉄道、バス、車など多数の交通手段を利用できる。境内は無料だが神苑は拝観料金が必要。桜の季節は人気が高いため、人影の少ない絵柄を撮るなら早朝の時間帯がおすすめ

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／シグマ 12-24mm F4.5-5.6 Ⅱ DG HSM ／16mm ／マニュアル露出（F16、1/50秒）／ ISO 100／ WB：5,200K

ソニー α7R Ⅱ／300mm F2.8 G SSM Ⅱ／300mm ／絞り優先AE（F2.8、1/160秒、＋1.7EV）／ ISO 500／ WB：日陰

〚群馬県〛

わたらせ渓谷鐵道（けいこくてつどう）

圧倒的なボリュームの桜並木の中をゆく

有名撮影地で、線路上の道路から見下ろして撮るのが定番だが、ここでは離れた場所から超望遠レンズで圧縮して桜の迫力を出した。定番構図では右奥に木の緑が見えたり、手前に線路が見えるので桜の中を走る感じが弱くなる。よく見ると右下に電柱が写っているがこれは必要悪。桜のボリュームを出すためにあえて入れるという選択をしている。　（中井精也）

05

- 群馬県みどり市大間々町（大間々駅～上神梅駅）
- 4月上旬
- 17時30分
- 望遠レンズ

高低差のある桜並木の中に線路があり、大間々駅側の踏切で線路の上下の道が分岐する。写真はその踏切から撮影。上の道路から線路を見下ろして撮るのが定番だが、道が狭くて車は駐車できない

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF70-200mm F2.8L IS Ⅱ USM ／115mm ／絞り優先AE（F16、0.4秒、±0EV）／ ISO 800／ WB：オート

［佐賀県］

見帰り（みかえ）の滝（たき）

ライトアップされた桜と滝の見事なハーモニー

見帰りの滝には複数の撮影ポイントがあるが、4月初旬の桜と合わせた構図を狙うのであれば、吊り橋の上からのアングルがおすすめ。夕闇の迫る時間帯に、ライトアップの効果を確認しながら、桜がぶれず、なおかつ滝が美しく流れるシャッター速度を選択した。桜にピントを合わせてF16まで絞り込むことで、全体をシャープに描写している。（西川貴之）

06

- 佐賀県唐津市相知町
- 4月上旬
- 18時30分
- 望遠レンズ

国道203号線経由で、県道40号線の伊岐佐交差点を案内に従って東に曲がり約5分。途中に旅館や茶店があり、遊歩道の出発点に駐車場もあるが、終点の滝近くにある無料駐車場が便利。滝までは徒歩で約5分。夕方からはライトアップも始まる

ニコン D800E ／ AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR ／19mm ／絞り優先AE（F11、1/125秒、±0EV）／ ISO 100／ WB：太陽光

〚宮城県〛

西行戻しの松公園

風光明媚な松島湾が淡い桃色越しに広がる

キヤノン EOS 5Ds R ／ EF24-70mm F4L IS USM ／70mm ／絞り優先AE（F13、1/90秒、±0EV）／ ISO 200／ WB：太陽光

風が強くて桜が揺れてしまい、風に悩まされながら撮影した。桜のブレを防ぐため速いシャッター速度にしたかったので、ISO感度は200に設定。桜のボリュームと松島湾の景観を重視して、望遠気味の70mmで構図を作った。青空での撮影では順光になると花の立体感が薄れるので、昼頃のトップ光が良い。（新海良夫）

08

宮城県宮城郡松島町
4月中旬　11時30分
標準レンズ

公園一帯には260本の桜が咲き誇る。車の場合は、三陸自動車道松島海岸ICから約5分。駐車場あり。電車の場合は、JR松島海岸駅から徒歩で約35分。タクシーの場合は約5分

〚長野県〛

氏乗(うじのり)のしだれ桜(ざくら)

優美なしだれ桜と整然と並ぶスイセンの饗宴

撮影は11時。分教場跡に向かう道路際の斜面に咲いていたスイセンのリズム感に引かれ、しだれ桜と絡めようと考えた。完全な逆光だったので、左手をレンズにかざしてハレ切りをしながら、上を見上げるように手持ちで撮影。十分な被写界深度を得るためF11を選択している。（萩原俊哉）

07

- 長野県下伊那郡喬木村
- 4月中旬
- 11時
- 広角レンズ

中央自動車道松川ICまたは飯田ICを降りて約40分。県道251号線沿いを進む。喬木村クラインガルデンを目指すと分かりやすい。宇治三柱神社に隣接しており、5台分の駐車場がある

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／シグマ 15mm F2.8 EX DG DIAGONAL FISHEYE ／15mm ／マニュアル露出（F2.8、30秒）／ISO 3200／ WB：4,050K ／ケンコー・トキナー プロソフトン［A］／赤道儀による追尾撮影

〚新潟県〛

天蓋高原(てんがいこうげん)

満天の星空の下、残雪とともに咲き誇る桜の孤木

わずかに残雪が残る山中で、星空の下で咲き誇る桜の木に遭遇した。4月末の夜半を過ぎ、明るい天の川が程よい高さになる絶好のタイミングだった。LEDライトで淡く桜を照らした。天の川と桜が共に強調し合うような構図になるように慎重に追い込んでいった。（沼澤茂美）

09

- 新潟県村上市高根
- 4月下旬
- 3時
- 広角レンズ

村上市街から車で約30分の山中、天蓋山の麓に位置する。雪の量によってアクセス道路の通行止め解除の時期が変化するため注意が必要。田畑が多いが、当然のことだが耕作地には入ってはいけない

キヤノン EOS-1Ds Mark Ⅲ／EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM／110mm／絞り優先AE（F16、1/120秒、±0EV）／ISO 100／WB：太陽光

〔福井県〕

神子(みこ)の山桜(やまざくら)

山から海に向かって咲く 常神半島の千本桜

春になると若狭湾に面した常神半島(つねかみはんとう)に海上から山頂まで山桜が埋まる。全景を写すには町立岬小学校より先のなるべく離れた位置から撮影すると良い。山桜は場所によって分布がバラバラなので、中望遠レンズで桜の密度の高い場所を切り取ろう。西側に面した斜面なので、夕日に照らされた姿も美しい。（本橋昂明）

10

福井県三方上中郡若狭町

4月中旬　12時

望遠レンズ

車で三方湖から常神半島に向かう。海岸沿いの一本道なので迷うことはない。近くからの撮影は仰角となり迫力は乏しくなるので、離れた位置に移動する

ニコン D810／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／24mm／絞り優先AE（F8、2秒、－0.3EV）／ISO 400／WB：オート

〚秋田県〛

ゆり高原 ふれあい農場

鳥海山を望む 広大な牧場の桜並木

秋田県と山形県の県境にある鳥海山は出羽富士とも呼ばれ、日本海側からならどこからでも美しい姿が見られる。ふれあい農場やゆり高原一帯には桜並木があり、広大で美しい景観のバックには必ず鳥海山の眺望がある。このときは桜と鳥海山が赤く染まる早朝から空が青くなるまで誰もいない場所で撮影した。脚立を使ったハイポジションにすることで、覆いかぶさるような桜を画面上に入れて鳥海山の雄大さを表現している。敷地が広いのでいろいろなアングルで撮影できるスポットだ。（片岡 巌）

12

- 秋田県由利本荘市黒沢東由利原
- 4月下旬
- 9時
- 標準レンズ

JR羽後本荘駅で由利高原鉄道に乗り換えて前郷駅で下車。前郷駅からタクシーに乗って約15分で到着する

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED ／62mm ／絞り優先AE（F8、1/125秒、+0.3EV）／ ISO 200／ WB：オート

〚長野県〛

臥竜公園

竜ケ池の湖面を彩る 艶やか夜桜

臥竜公園の竜ケ池を取り囲む桜並木を画面いっぱいに配し、仰ぎ見るような構図で撮影した。夜桜が一番映えるのは、日没から約30分後の空の色彩がかすかに残る時間帯。風が吹くタイミング次第で花びらは揺れてしまうため、ブレ対策としてISO感度を400まで上げげて、シャッター速度を2秒に決めた。（丸田あつし）

11

- 長野県須坂市臥竜
- 4月中旬
- 19時
- 標準レンズ

長野電鉄須坂駅から徒歩で約20分。車の場合は上信越自動車道須坂長野東ICから約10分。さくら祭りの開催期間中は一部の駐車場で協力金500円の負担が必要。夜桜ライトアップは満開期間中の18時から22時まで開催される

【長野県】

松源寺（しょうげんじ）

古刹の山門を守る古桜と南アルプス

東向きの寺院なので午前中は順光になり、晴天ではきれいな桜花の姿が撮影できる。光線が低い日の出の撮影では赤みがかぶりメリハリが出ないので注意。9時頃に撮影すると気持ちの良い写真となる。背後の正門とのバランスも良く、また正門の中から見る桜も趣がある。（辰野 清）

13

- 長野県下伊那郡高森町下市田
- 4月中旬
- 9時
- 標準レンズ

JR下市田駅からタクシーで約5分。桜の裏に約10台分の専用駐車場がある。正門からの撮影では厳粛な行動が望まれる。奥には松岡城址があり、眺望も良いので桜と南アルプスが撮影できる。トイレがない点にも注意

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／EF24-105mm F4L IS USM／32mm／絞り優先AE（F16、1/200秒、－0.3EV）／ISO 400／WB：オート

キヤノン EOS 6D ／ EF100-400mm F4.5-5.6L IS Ⅱ USM ／135mm ／絞り優先AE（F14、1/160秒、－0.3EV）／ ISO 400／ WB：オート

〚奈良県〛

又兵衛桜（またべえざくら）

雄大な石垣の佇まいを桃の花が彩る

樹齢300年とも言われるしだれ桜で「本郷の瀧桜（たきざくら）」という別称もある。優美な樹形の古木でありながら、枝ぶり、樹勢が素晴らしく人気の桜だ。桃の花とのコントラストが鮮やかなので背景に配して彩りを添える。日が差す時間帯の半逆光を生かすことで、桜をきらびやかに表現している。もし人を入れたくないなら早朝に行くしかない。（福田弘二）

14

- 奈良県宇陀市大宇陀本郷
- 4月中旬
- 10時30分
- 望遠レンズ

名阪国道針ICから国道369号線、国道370号線を経由して国道166号線で大宇陀へ。各所に又兵衛桜への案内板がある。土日は渋滞を覚悟して早めに出よう

ソニー α7R Ⅱ／キヤノン EF16-35mm F4L IS USM ／22mm ／マニュアル露出（F8、1/15秒）／ ISO 400／ WB：オート

〚香川県〛

紫雲出山（しうでやま）

瀬戸内海の島々と桜が織りなす絶景

両サイドを桜に囲まれ、その隙間から瀬戸内海の島々を望むことのできるポイント。このときは曇り空の夕方で光は柔らかくメリハリがない状況だった。島に露出を合わせると桜が暗く写り、桜に露出を合わせると島々が白飛びしてしまう。そこで、島に露出を合わせ両サイドの桜にストロボの光を当てることで明るさと色を両立させた。（藤原嘉騎）

15

- 香川県三豊市詫間町
- 4月上旬　18時
- 広角レンズ

山頂付近に80台収容可能な駐車場あり。駐車場より徒歩20分で撮影地である展望台に辿り着ける。桜の季節は混雑で1時間ほどかかることもある。駐車場への登山道は道幅が狭いところもあるので対向車に注意が必要

［静岡県］

千光寺

（せんこうじ）

美しいしだれ桜と富士山が見える風景

キヤノン EOS 6D ／ EF24-105mm F4L IS USM ／32mm ／マニュアル露出（F8、1/320秒）／ ISO 320 ／ WB：オート

16

静岡県富士宮市精進川
3月下旬
12時30分
標準レンズ

JR西富士宮駅より車で約30分。ひっそりとしたお寺には、駐車場がある。隣には桜と富士山が撮れる常境寺がある。この辺りは富士山と桜が撮れるお寺がいくつかあるので、まとめて回ってみても面白い

しだれ桜の美しさと枝ぶりの迫力出すためには縦位置で撮影した。垂れ下がった枝の先に富士山を入れて視線を誘導すると良い。撮影時間は昼のトップライトの時間帯で桜に十分な光が当たり、形を良く表現できる。春は風の強い日も多く、桜の枝は細いのでとても揺れやすい。ISO感度を上げて、速いシャッター速度にしておき、風が収まるタイミングを撮影しよう。春の富士山周辺がとてもかすむため、ヌケの良い富士山と桜を撮れるタイミングは非常に難しい。天気の良い日を選んで何日か通って撮りたい。撮影ポイントは非常に狭いため、ほかのカメラマンとお互いに譲り合いながら撮影をしよう。（橋向 真）

TECHNIQUE

桜の高さと雄大さを引き出す

桜は左下から右上に伸び、左上から右下に垂れ下がっている。この姿を雄大に捉えるには左側に桜を配置し、左上から右下に桜が降ってくるような構図にする。桜の高さとボリューム感も出すことができる。

桜が右側だと窮屈な感じに

桜を右側に配置すると、左の木々が空間を埋めてしまい、桜と富士山も右に詰まり過ぎてしまう

時間の変化による違いを楽しむ

昼間はトップライトで桜の雄大さと生き生きとした表情を捉えることができる。夜には桜に自分でライトを当てることで昼間とは違った幽玄の美を表現できる。朝には逆光になり桜の幹はシルエットになる。このように時間帯によってさまざまな表現が楽しめる。

夜は自分でライトを当てて撮影

強いライトは桜を白飛びさせてしまうので、なるべく光量の弱いライトを選びたい。風の強い日などは枝が揺れてにじんでしまう

朝は赤富士とシルエットの桜

朝日を浴びて朱に染まる桜と、日の光が差し込む富士山を捉えることができる。かすんでいる富士山も春らしい雰囲気だ

[東京都]

六義園（りくぎえん）

都心の庭園を飾る優美な一本桜

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR ／35mm ／
絞り優先AE（F8、1/125秒、+0.3EV）／ ISO 400／ WB：5,000K

TECHNIQUE

35mmで桜の存在感を強調

六義園のしだれ桜は存在感のある優美な桜である。見事な桜ゆえ、パースを付けたりすることなく見たままの存在感を出すことを優先した。標準域のクセのない描写で仕上げたかったので、やや離れたポジションから35mmで撮影した。

広角で近づくとパースがつく

広角レンズで近づいて撮影すると、枝や花が広がるイメージが強くなり、桜が力強く迫ってくる

引き気味の場所から35mmで撮影。桜の優美な姿を捉えるのが狙いである。桜を画面中央に配置することで、桜の存在感を表現する。三脚は禁止されているので、ISO 400に感度を上げて手持ちで撮影。F値はF8にとどめ、シャッター速度を1/125秒として手ブレを防いだ。（深澤 武）

17

- 東京都文京区本駒込
- 3月下旬
- 9時
- 標準レンズ

電車の場合はJR山手線駒込駅から徒歩で約5分。専用の駐車場はないので、車の場合は近隣のコインパーキングを使用する。正門を入ってすぐの所にしだれ桜の巨木がある

キヤノン EOS 5Ds R ／ EF16-35mm F4L IS USM ／16mm ／絞り優先AE（F11、1/80秒、±0EV）／
ISO 400／ WB：太陽光

[北海道]

五稜郭（ごりょうかく）

函館五稜郭を彩る桜の色

18

- 北海道函館市五稜郭町 五稜郭タワー
- 4月下旬
- 8時
- 広角レンズ

最寄りの市電やバスの停留所からは徒歩約7〜15分。駐車場がないので、自家用車は近隣の有料駐車場を利用。五稜郭タワーの入場料は大人1人840円かかる

曇天の中で捉えた五稜郭の全景。ピクチャースタイルは細部まで描写できるディテール重視に設定。上からのアングルで手前から奥までシャープに見せたかったので、F11まで絞った。C-PLフィルターでコントラストを上げ、色彩が一番豊かに見えるポイントで撮影している。（GOTO AKI）

TECHNIQUE

広角レンズで全景を捉える

函館五稜郭の造形は全景を入れてこそ意味があるため、広角ズームレンズの16-35mmを選び、焦点距離16mmで撮影した。撮影地では、広角レンズで状況を伝えるカットを、望遠ズームレンズで美しい・面白いと感じたカットを、両方撮影するようにしている。

望遠レンズで日常を切り取る

同じ展望台から焦点距離200mmで撮影したカット。桜の絶景も日常の一部であることが感じられるワンシーンだ

[和歌山県]

七川ダム（しちかわ）

湖畔に咲き誇る記念樹

広大なダム湖の湖畔沿いに桜の木がずらっと並んでいるため、広い風景の全体を写し込もうとすると、インパクトに欠けた構図になってしまう。大きな1本の桜の木を主役に決めて構図を整えた。WBは太陽光にして青みを強め、＋0.3EV露出を補正して清涼な空気を表現した。　（竹本りか）

19

- 和歌山県東牟婁郡古座川町
- 4月上旬
- 8時
- 標準レンズ

電車の場合、JR古座駅からふるさとバス松根行きで約50分、今津橋下車。車では、阪和自動車道南紀田辺ICから国道42号を経由し、県道38号を七川貯水池方面へ約1時間20分

TECHNIQUE

木の根元まで入れて安定感を作る

桜の上部や左の枝先まではあえて入れないことで、画面の外に大きく広がる様子が伝えられる。こけむした幹が美しく印象的だったので、大きく大胆に入れたかった。根元部分も入れることで構図に安定感を出している。

幹を入れないと寂しい印象に

桜の枝先だけを切り取った。湖畔の桜並木の存在感は強調されたが、その分、前景の桜の存在が弱くなった

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-105mm F4L IS USM／40mm／絞り優先AE（F16、1/5秒、+0.3EV）／ISO 200／WB：太陽光

20

- 島根県松江市殿町
- 4月上旬
- 9時
- 標準レンズ

松江だんだん道路西尾ICから県道260号を西に約20分ほど進むと松江城の大手前駐車場がある。電車の場合、JR松江駅からレイクラインバスに乗り、大手前バス停で下車する

松江城は桜の季節だと9時頃にならないと天守に光が回ってこない。桜がうまく天守を囲むような場所をあらかじめ見つけておいて、絵柄のメインである天守にピントを合わせる。手前にある桜のピントが甘くならないようにF11まで絞り込んでパンフォーカスにしている。　（山梨将典）

[島根県]

松江城（まつえじょう）

国宝の天守を彩る桜の名所

ニコン D3X／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／24mm／マニュアル露出（F11、1/60秒）／ISO 100／WB：5,100K

TECHNIQUE

天守を中央に配して桜で囲む

桜を左右にバランス良く、天守に桜が被らないように入れることでボリューム感を表現した。中央に配置すると構図も安定する。天守を中央に配置することで画面左下に道が写り込むので、奥行きを表現することもできる。

バリエーションを撮るなら城は左

天守が右向きなので、バリエーションを撮影するなら右にカメラを振ろう。天守を左に配置することで、広がりを表現できる

〚秋田県〛

おしら様の枝垂れ桜

白山神社にある樹齢200年の古木

「おしら様の枝垂れ桜」のおしら様とは白山神社のことなので、このしだれ桜を撮るときは隣の神社も入れて撮りたい。ある程度自由に動けるので、好きな角度を見つけて撮影しよう。ここの朝日は後ろの山から上がってくるので朝一の光は期待できないが、山を越えた光は桜、神社の順に当たっていくので、時間が経つに連れさまざまな表情を撮影できる。桜に光が入ったときに撮影すると奥の山と神社は暗く落ち、朝日を浴びた桜の輝きをいっそう強調できる。　(館野二朗)

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM ／63mm ／マニュアル露出(F11、1/20秒)／ISO 100／ WB：太陽光

TECHNIQUE

横位置で桜と神社を切り取る

しだれ桜は枝が広がって横幅がある。それに続くように白山神社があるので、両方を収めるには横位置の方が良い。

縦位置では広がりがなくなる

横位置と同じような構図で縦位置にしてしまうと、横の広がりがなくなり桜と神社のバランスは悪くなる。その上、空の範囲が広くなりすぎて、桜の印象が弱くなってしまう

神社と桜をバランス良く配置する

神社と桜の位置をバランス良く撮影するには三分割構図が使える。やはり桜は大きく見せたいので画面内の2/3を占めるぐらいに置き、残り1/3に神社を収めるとバランスが良くなる。光の当たり方も考えられるとなお良い

桜に神社がかぶっている

桜は大きく迫力はあるが奥の白山神社が桜の幹に隠れて存在が薄くなってしまっている

桜の枝ぶりが良くない

この角度では桜の密度が足りない。ボリューム感がなく、平坦な感じになっている

21

- 秋田県湯沢市横堀
- 4月下旬
- 6時30分
- 標準レンズ

車の場合は湯沢横手道路雄勝こまちICから約5分。駐車場も完備しているのでアクセスは良い。電車ならJR横堀駅からタクシーで約5分。開花時期には休憩所や、地域の特産物を得る露店が出ているので立ち寄ってみるのも面白い

〚奈良県〛

吉野山（よしのやま）

桜と靄（もや）に包まれた幻想的な風景

靄のある写真を撮るには天気図を見てあらかじめ予測を立てることが重要になる。寒暖差のある早朝を狙うのもよいが、今回は大雨の日を狙った。靄＋雨の効果で全体的に白みがかった感じにできると思ったからだ。雨のときは気温が低く、湿度が高いために水蒸気が水になりやすい。特に吉野山のような山あいでは靄が発生しやすいので幻想的な靄と桜の風景写真を撮ることができる。吉野山のシンボルである金峯山寺から桜が広がっているように見せるため、望遠レンズで切り取った。空が暗くシャッター速度が稼げないのでブレ防止のために三脚とレリーズを使って撮影した。（藤原嘉騎）

- 奈良県吉野郡吉野町
- 4月中旬
- 9時30分
- 望遠レンズ

近鉄吉野駅で下車。桜が見頃となる期間には、マイカー規制がかかるので、車の場合は400台収容可能な吉野山観光駐車場に止める。早朝に撮影する場合はシャトルバスがないので、駐車場から約2時間歩くことになる。帰りは中千本公園から駐車場までシャトルバスが出ている

TECHNIQUE

靄の出るタイミングで撮影する

靄の吉野山を撮影するために寒暖差の大きい早朝に吉野山に登るか、雨の日の靄が山から立ち上るときを狙う。4月といえど吉野山は気温が低いので冬山に登るような温かい服装で行こう。

靄がないと現実感が出る

気温差が小さい早朝だと靄も立ち上らず、全体に白みがかからないので幻想的な雰囲気にならない。写真上部の町並みもはっきりと見えてしまい現実感が出てしまう

RAW現像で全体をくっきりさせる

靄が立ち込める雰囲気を強調するために、Photoshop Lightroomを使ってRAW現像をした。まず、明瞭度を下げて全体をぼかす。その後、かすみの除去で色を引き締めることで幻想的な雰囲気に変化させることができる。

ここでは明瞭度−30、かすみの除去＋60にした。部分ではなく全体を見ながら作業をすると調整しやすい

キヤノン EOS 6D ／ EF70-300mm F4-5.6L IS USM ／124mm ／マニュアル露出（F10、1/80秒）／ ISO 320 ／ WB：オート

ニコン D800／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED ／70mm ／マニュアル露出（F11、1/60秒）／ ISO100／ WB：5,050K

〖岩手県〗

小岩井農場（こいわいのうじょう）

遅い春を待ちわびる1本の桜

23

岩手県岩手郡雫石町
5月上旬
8時
標準レンズ

東北自動車道盛岡ICから国道46号経由で約15分。一本桜を見渡せる広域農道沿いに駐車場あり。周囲の牧草地や農道に入らないよう注意。鳥害で開花状況に影響が出ることも

広い牧場の中に1本だけ立っている桜は撮影できる場所から少し離れている所にあるので、中望遠域の画角が必要となる。圧縮効果で空、山、桜、牧草をバランス良く配置している。また、副題となる後方の岩手山がシャープに写るようにF11まで絞り込んでいる。（山梨将典）

TECHNIQUE

高めの光線で山並みをクリアに写す

太陽光から黄色みが取れる頃になると、太陽は斜め後ろのやや高い位置にきて、気温も上がり靄も晴れてクリアになる。PLフィルターを使うと青空が濃くなり、桜の薄紅色や山並みの稜線がはっきりする。

日の出ごろなら立体感を表現

日の出の時間帯もおすすめ。真横から差し込む朝日は桜を紅色に染めるとともに、陰影をつけて立体感を出してくれる

〖宮城県〗

船岡城址公園（ふなおかじょうしこうえん）

桜の彼方で輝く夜の宝石

キヤノン EOS 5Ds R ／ EF24-70mm F4L IS USM ／44mm ／絞り優先AE（F8、3秒、±0EV）／ ISO 400／ WB：オート

TECHNIQUE

WBをオートにして各々の色を出す

WBをオートにしているのは、暮れゆく空や街明かり、夜桜の照明など大切にしたい色が多種だからである。複数の種類の光源がある街の夕景を背景にする場合、完璧なイメージ作りは難しいので、オートで撮影して気になった場合は撮影後に微調整すると良い。

太陽光だと青みが強い

WBを太陽光にすると青みが強くて、夜桜や街明かりが魅力的な色調に表現されない

空の明るさが失われてくるころ、街の照明は一気に輝きを増す。空が黒くつぶれると奥行きや雄大さが失われるので、ハイライトとシャドウ部との明暗差が少ない日没30分後がシャッターチャンス。桜や街明かりの色を鮮やかに出すために、WBはオートに設定している。（新海良夫）

24

宮城県柴田郡柴田町
4月中旬
18時30分
標準レンズ

JR船岡駅から徒歩で約15分。車の場合は東北自動車道白石ICから約20分。山頂のため、夕暮れ時は寒くなる。風も強く、防寒対策が必要だ

【青森県】

岩木川河川公園
（いわきがわかせんこうえん）

青白ピンクの三重奏が美しい

TECHNIQUE

62mmで岩木山を引き寄せる

岩木山の圧倒的な存在感を見せたいので、62mmで引き寄せた。手前の桜を圧縮すると、花の密集感も出るので鮮やかな桜写真となる。

40mmだと岩木山が小さい

広角気味の40mmだと空が多くなり、画面が散漫になる。街灯も写り込んでしまい、間延びした写真になってしまう

ニコン D810／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／62mm／絞り優先AE（F8、1/320秒、−0.3EV）／ISO 200／WB：オート

岩木川沿いにあるこの公園は、正面に残雪の岩木山がそびえ立ち、ソメイヨシノやしだれ桜が咲き誇る。ポジションによっては背景に電線や街並みが入るので、62mmの焦点距離で脚立を使い、高い位置から岩木山を引き寄せた。桜が山にかぶりすぎないように構図を決める。（片岡 巖）

25

- 青森県北津軽郡板柳町
- 4月下旬
- 9時
- 標準レンズ

ソメイヨシノや八重桜、しだれ桜が99本植えられている。車の場合は東北自動車道浪岡ICから約20分。無料の駐車場が併設されている。電車の場合は、JR板柳駅からタクシーで約5分。徒歩だと約10分

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／EF24-105mm F4L IS USM／50mm／マニュアル露出（F20、0.3秒）／ISO 200／WB：オート

【神奈川県】

篠窪の丘
（しのくぼのおか）

菜の花の丘陵から富士山を遠望

TECHNIQUE

事前のロケハンで確実に朝焼けを狙う

朝焼けを狙うなら前日にロケハンをして撮影ポイントを決めておく。日の出の時間も確認して少なくとも30分前には現場に到着し、三脚を立てておきたい。ロケハンをしておけば刻々と色が変化する朝焼けを逃さず撮影できる。

朝焼け後は菜の花を主題に

朝焼けの撮影後2時間も経てば日中の撮影ができる。改めてアングルを変え手前の花の密集度など確認して撮影する

26

- 神奈川県足柄上郡大井町
- 3月下旬
- 6時
- 標準レンズ

東名自動車道大井松田ICから県道77号線に入り、篠窪入口から県道708号線に入ってすぐのS字カーブを過ぎて左折し、すぐに右折。約10分でトイレのある駐車場が左に見える

菜の花畑を囲むように並ぶ早咲きの桜。平面的にならず奥行きが増して見える場所だ。広い画角で切り取っても富士山の存在感を表現できる。日の出直後はオーバー気味に写るので、モニターで露出を調整して朝焼けの色を再現する。菜の花が密集している所を狙おう。（富田文雄）

27

奈良県吉野郡天川村
4月下旬
7時
標準レンズ

国道309号線を南下、みたらい渓谷を過ぎて、冬季通行止めゲート手前を左の林道へ入り約15分。みたらい渓谷より先は、荒れている場所もあるので注意。近鉄道下市口駅から車で約1時間15分

〚奈良県〛

神童子谷（じんどうじだに）

山深い渓流に春を届ける一本桜

里の桜が終わるころ、薄暗い渓谷を照らすように１本の桜が咲く。晴れた日は光の扱いが難しい場所のため、曇天の方が撮りやすい。この日は雨上がりで水量も多く、普段は白く見える岩の表面が落ち着いた質感で撮影には最適だった。慎重に川を渡り、水の流れが表現できる撮影ポジションを探った。奥に見える桜と水の流れ、岩の配置がバランス良く画面に収まるよう縦位置を選択。PLフィルターで岩や水面の表情を調整し、適度に水の動きが感じられる1/15秒でシャッターを切った。　（石川真哉）

TECHNIQUE

縦位置で川の勢いを見せる

桜の木から川を挟んで対岸にポジションを取ったことで、流れに正対することができた。手前の水流の迫力を出すために、縦位置にしている。右上から左下へ勢い良く流れる渓流と岩をバランス良くフレーム内に収めることを心掛けた。

横位置だと水の流れを止めてしまい渓流のイメージが弱まる

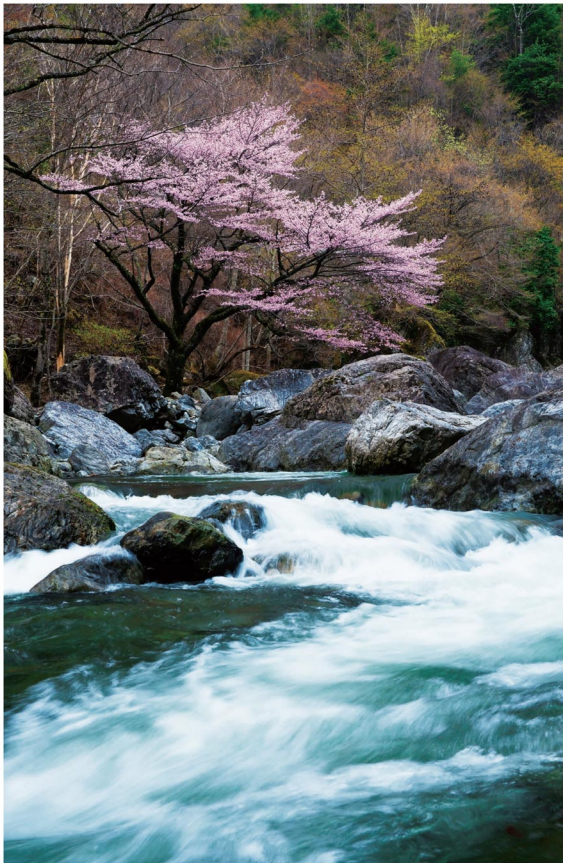
横位置だと桜の大きさや位置と比較して岩とのバランスが悪く、手前を流れる水流が止まってしまう。水の流れが表現できない

PLフィルターで反射を調整

ファインダーで効果を確認しながら、濡れた岩の反射を抑えて質感を出す。同時に桜の花びらの照かりも除去する。現場での判断が難しいときは、効果を変えて何カットか撮影しておき、後で一番良いカットをセレクトしても良いだろう。

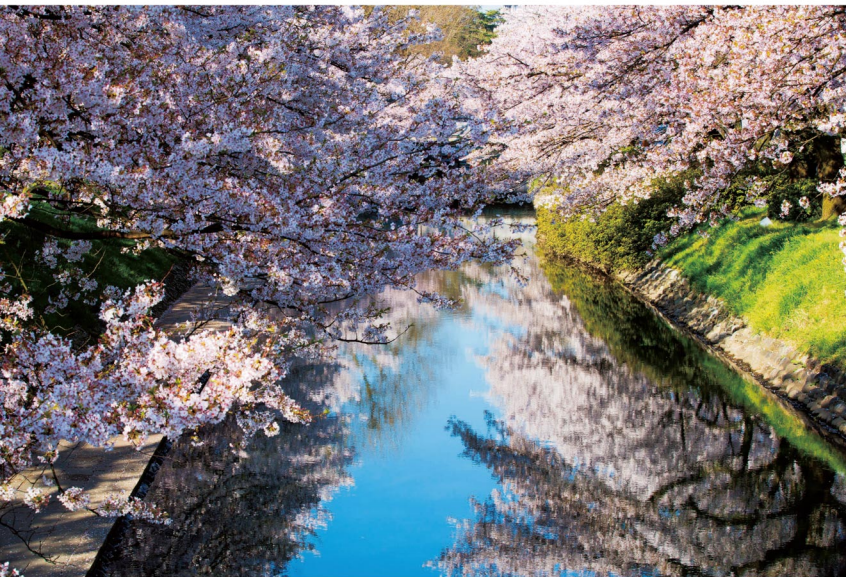
PLフィルターを付けても開放F値が明るいレンズを使用すればファインダーが明るいので反射を確認しやすい。明るいレンズを使用することをおすすめする

ソニー α900／Vario-Sonnar T* 24-70mm F2.8 ZA SSM ／55mm ／絞り優先AE(F11、1/15秒、−1.0EV)／ ISO 200／ WB：オート

〚富山県〛

松川べり

（まつかわ）

川沿いに連なる460本のソメイヨシノ

松川に架かる橋を順番に回り、人工物や観光客がなるべく入らない撮影ポイントを探した。立体感が出る半逆光気味の時間（朝の8時）を狙って、桜の重なり具合や青空と桜の映り込みをPLフィルターで調節する。人が多く三脚が立てられないので手持ち撮影で、かつF値は絞り込みたかったのでISO感度をやや高めのISO 640に設定。川にかぶさる桜の広がりを感じさせるために70mmで撮影している。本当はもっと広く写したかったが、周囲のビルや鉄塔がぎりぎり入らない横位置の構図に決めた。（安念余志子）

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM ／70mm ／絞り優先AE（F14、1/50秒、＋1.0EV）／ISO 640／ WB：太陽光

TECHNIQUE

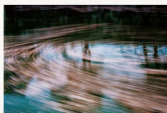
横位置の構図で川面を大胆に入れる

川に覆いかぶさるように咲いていたので、横位置構図にして、桜並木の情景や水面に写り込んだ青空と桜の分量をふんだんに入れた。人工物を極力入れないようにアングルを追い込んでいる。

縦位置だと映り込みが少ない

縦位置の場合、桜の花の重なり具合は良いが、水面に映り込む桜の量が少なくなってしまう

スローシャッターで花びらを流す

松川では、散った花びらをスローシャッターで流す写真も撮りやすい。コツとしてはF値を絞り込んで、ISO感度を下げる。それでも足りない場合は、NDフィルターを使いたい。

川面の花びらを流して撮影

10秒のスローシャッターで川面に散った桜の花びらを流した

28

- 富山県富山市本丸
- 4月中旬
- 8時
- 標準レンズ

電車の場合はJR富山駅から徒歩で約10分。車の場合は、北陸自動車道富山ICから約20分。民営の駐車場もあるが、市営の富山城址公園駐車場が便利だ

【福岡県】

宝珠山駅（ほうしゅやまえき）

花々が出迎えてくれるローカル線

宝珠山駅の北側から撮影する場合、晴れの日だと常に逆光になるのでコントラストがつかない曇りの日の方が撮影に適している。また、線路の両側には民家などかあるので、望遠レンズを使ってバランス良く花と列車を切り取ることで、散漫な構図にならないようにしよう。（山梨将典）

29

- 福岡県朝倉郡東嶺村
- 4月上旬
- 12時30分
- 望遠レンズ

JR小倉駅から日田行きの列車に乗って宝珠山駅まで約1時間45分。JR日田駅から小倉行き列車で約24分。車の場合は大分自動車道日田ICから約15分。杷木ICからは約25分

TECHNIQUE

手前の菜の花とローカル線を対比する

線路が正面に見える場所に構えて、駅に停車する列車と左下に流れていくレールで画面に動きと奥行きを出している。また、ローレベルにして線路のカーブに沿うように菜の花を手前に入れることで遠近感と花のボリューム感を出している。

列車が近いと奥行きが弱まる

列車が近づき過ぎると、両サイドの花と列車が同じポジションになり、遠近の対比がなくなり画面がフラットになってしまう

ニコン D810／AF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VR／250mm／マニュアル露出（F7.1、1/320秒）／ISO 320／WB：5,400K

30

- 愛媛県喜多郡内子町
- 4月中旬
- 19時
- 広角レンズ

松山自動車道内子五十崎ICから国道379号線に進み、寺村バイパスで県道228号線を南に入ると約15分で案内板がある。集落の中にあるので良識ある撮影を心掛けること

池に映る一本桜は全国でも少なく貴重だ。この桜は小さな池の対岸にあり、距離が近いため、広角レンズで鏡のように映るその佇まいを大きく捉えた。無風の日を選んでF13まで絞り込み、32秒のバルブ撮影を行った。ノイズを防ぐためにISO 400を選択している。（高棕俊樹）

【愛媛県】

相野の花（あいのはな）

鏡のような水面に映る妖艶な桜

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／EF17-40mm F4L USM／17mm／マニュアル露出（F13、32秒）／ISO 400／WB：蛍光灯

TECHNIQUE

水面に青が映える時間を狙う

この桜の素晴らしさは何といっても「池に映る」こと。ベストポジションは非常に狭いので、事前にフレーミングまで確認して手前の樹木の枝が重ならない場所に三脚を立てる。空に残る青さが水面に映る19時過ぎが最も美しい。

日中は池の濁りが目立つ

桜自体は日中も美しいが、濁った池の色が気になる。艶やかさを表現するためにはライトアップを狙って撮りたい

愛知県

奥山田のしだれ桜

持統天皇お手植えの伝説桜

キヤノン EOS 5D ／ EF24-70mm F2.8L USM ／70mm ／ 絞り優先AE(F16、1.6秒、−1.3EV)／ ISO 100／ WB：太陽光

31

- 愛知県岡崎市奥山田町
- 3月下旬
- 6時
- 標準レンズ

名鉄東岡崎駅から名鉄バス奥殿陣屋方面で約30分。北斗台口で下車し徒歩で約10分。桜まつり中は夜にライトアップされる

さまざまな角度から撮影可能なしだれ桜だが、白い空を入れたくなかったので、背景が暗い森となる場所から撮影。手前に菜の花を入れて華やかさを加えた。 （星野佑佳）

岐阜県

荘川桜

壮大に咲き誇るダムの桜

キヤノン EOS 5Ds R ／ EF16-35mm F4L IS USM ／16mm ／ 絞り優先AE(F11、1/320秒、+0.3EV) ／ ISO 200／ WB：太陽光

32

- 岐阜県高山市荘川町
- 4月下旬
- 8時30分
- 広角レンズ

東海北陸自動車道荘川ICから国道158号線、156号線で約15分。東海北陸道白川郷ICからは国道156号線で約40分

後ろに引きがないので超広角レンズでないと全体を写しきれない。背景に御母衣ダムの湖面を多く入れたいなら道を挟んだ土手に登って撮影しよう。 （福田弘二）

山梨県

わに塚の桜

夕暮れに浮かび上がる桜

ニコン D800／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED ／ 40mm ／マニュアル露出(F13、1/4秒)／ ISO 200／ WB：5,800K

33

- 山梨県韮崎市神山町
- 4月上旬
- 18時30分
- 標準レンズ

中央自動車道韮崎ICより車で約20分。シーズン中は約100台分の無料駐車場あり。電車の場合、JR韮崎駅よりタクシーで約15分

桜と八ヶ岳が被らない場所にカメラを構え、両方収まるようにフレーミング。照らされた桜と夕焼け空の明るさが同じになるわずかな時間が美しく撮影できる。 （山梨将典）

宮城県

白石川堤一目千本桜

川面に映る千本桜と蔵王連峰

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／ EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM ／ 65mm ／絞り優先AE(F16、1/30秒、−0.3EV)／ ISO 100／ WB：オート

34

- 宮城県柴田郡大河原町
- 4月中旬
- 7時
- 標準レンズ

JR大河原駅から徒歩約5分。車の場合、東北自動車道白石ICから国道4号線で大河原方面に約20分

桜並木と蔵王連峰が川面に映る風が穏やかな早朝が狙い目。水平線をセンターにしてスケールを出し、−0.3EVで桜のピンクや残雪が飛ばないように配慮した。（山梨勝弘）

高知県

中越家のしだれ桜

山中に立つ優雅な佇まい

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／ EF24-70mm F2.8L USM ／52mm ／ 絞り優先AE(F11、1/45秒、+0.5EV)／ ISO 200／ WB：太陽光

35

- 高知県吾川郡仁淀川町
- 4月上旬
- 12時
- 標準レンズ

高知自動車道伊野ICから約1時間30分。松山自動車道松山ICから国道33号線経由で約1時間30分。秋葉神社への道沿いにある

庄屋の中越家が佐川領主をもてなすために植樹したとされるエドヒガン。青空が濃くなる昼の光線を利用して、石垣と古道で山間の雰囲気を取り込んだ。 （西川貴之）

岩手県

七ツ田の弘法桜

闇に浮かび上がる古木

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED ／ 24mm ／絞り優先AE(F8、10秒、−0.7EV)／ ISO 400／ WB：オート

36

- 岩手県岩手郡雫石町
- 4月下旬
- 20時30分
- 標準レンズ

JR雫石駅から車で約15分。東北自動車道盛岡ICから約20分。ナビ設定の場合は「花工房らら倶楽部」のすぐ近くに設定しよう

弘法大師ゆかりの伝説を意識して、祠をアクセントに撮影。ライトアップの光も取り入れ、ハレーションを確認しながら、F8まで絞って撮影した。 （星野佑佳）

37 熊本県 肥薩線（ひさつせん）
桜並木を走り抜けるSL

ニコン D810／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／62mm／マニュアル露出（F5.6、1/500秒）／ISO 400／WB：5,200K

遮断機がない生活踏切の線路を挟んだ両サイドが撮影場所。このカットの反対側は撮影の激戦地になる。列車がぶれないよう1/500秒を基準に露出を決める。（山梨将典）

- 熊本県人吉市下原田町（西人吉駅～渡駅）
- 4月上旬　12時
- 標準レンズ

JR西人吉駅から渡駅方向の線路沿いを徒歩約10分の踏切周辺が撮影スポット。車の場合は九州自動車道人吉ICから約15分

38 高知県 盆栽桜（ぼんさいざくら）
棚田の頂点にぽつんと立つ桜

富士フイルム X-T1／XF16-55mm F2.8 R LM WR／42mm（64mm相当）／絞り優先（F13、1/40秒、±0EV）／ISO 800／WB：晴れ

桜が棚田の頂点にぽつんと立っているので、遠目から周りの情景と一緒に写す。強い雨が降り止むタイミングで霧が発生するので、その時を待った。（佐藤 尚）

- 高知県香美市
- 4月上旬
- 8時30分
- 標準レンズ

物部川北岸の日帰り温泉施設の湖畔遊から細い山道を上がり約5分。途中で分かれ道があるが上へ上へとイメージしておくといい

39 大阪府 大阪城公園（おおさかじょうこうえん）
満開の桜を従える大阪城

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／EF24-105mm F4L IS USM／47mm／絞り優先AE（F16、1/60秒、+0.5EV）／ISO 200／WB：太陽光

天守閣と桜をまとめるために、西の丸庭園から撮影した。F16まで絞り込んで桜と天守閣をシャープに描写。＋0.5EV露出補正して春の雰囲気を演出した。（西川貴之）

- 大阪府大阪市中央区大阪城
- 4月中旬
- 12時30分
- 標準レンズ

撮影場所の西の丸庭園には、大阪市営地下鉄谷町四丁目駅が近い

40 秋田県 桧木内川堤（ひのきないがわづつみ）
夕暮れをうねる桜のライン

ニコン D810／AF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VR／110mm／絞り優先AE（F11、1/6秒、±0EV）／ISO 100／WB：オート

薄暗くなった時間帯がフォトジェニックだ。薄暮の時間から撮影を始める。桜並木が黒くつぶれすぎない露出にして、淡く桜を浮かび上がらせる。（片岡 巌）

- 秋田県仙北市角館町
- 4月下旬
- 18時
- 望遠レンズ

撮影した古城山公園の展望台へは、車では秋田自動車道大曲ICから約40分。電車の場合はJR角館駅から徒歩約40分

41 群馬県 妙義山（みょうぎさん） さくらの里（さと）
桜の里から見る奇景

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF16-35mm F4L IS USM／20mm／絞り優先AE（F16、1/13秒、+0.7EV）／ISO 100／WB：太陽光

午前中の光が良いので車での早めの訪問がおすすめ。場所によって桜が影になるので、前日にロケハンをしておくといい。桜をフレームに奇景に視線を集める。（高橋よしてる）

- 群馬県甘楽郡下仁田町
- 4月中旬
- 9時
- 広角レンズ

上信越自動車道松井田妙義ICから約30分。電車の場合は、JR高崎駅から信越本線で松井田駅下車後、タクシーで約30分

42 大分県 古庄家のしだれ桜（ふるしょうけのしだれざくら）
白壁土蔵としだれ桜が美しい

ニコン D800E／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／55mm／絞り優先AE（F11、1/100秒、－0.7EV）／ISO 400／WB：晴天

絵になる白壁の土蔵としだれ桜を組み合わせる。桜の見事さを強調するため、土蔵の割合は少しにした。桜の樹形を崩さないよう白い空も入れた。（星野佑佳）

- 大分県竹田市炭竈
- 3月下旬
- 12時30分
- 標準レンズ

JR豊後竹田駅から車で約30分。県道638号線沿いに進み、炭竈バス停付近。近くに臨時の駐車スペースがある

〚京都府〛

宇治公園

宇治川中州に絢爛と咲くしだれ桜

塔の島から橘島へと回遊する一帯は桜が多く日中はにぎわうが、数本の桜がライトアップされる頃には人影もまばらとなる。桜と空の明るさが絶妙なバランスとなるよう、空に青みが残る時間帯に訪れた。川に沿って風が通るので、ISO感度を上げて速めのシャッターを切り、桜を静止させている。WBは蛍光灯にして大まかなイメージをつかみつつ、RAW現像時に最適な色温度まで追い込んだ。この桜は太陽の下だと白みが強く、電球で照らした方が淡いピンク色が強調されるので、現像時に花弁の赤みが鮮やかさを増すように調整した。光源が強烈なので、桜の支柱で遮光すると良い。　(水野秀比古)

43

- 京都府宇治市宇治
- 4月上旬
- 18時30分
- 標準レンズ

JR宇治駅から南東方向に徒歩約10分、または京阪宇治駅から川沿いに南下し徒歩約5分。観光客や周辺地域の人々の休息や散策の場所として親しまれている。桜の季節は明かりが灯されるが行き交う人々も少なく、夜桜撮影の穴場である

TECHNIQUE

LEDライトで左右から照らす

こぼれるほどに花弁をにぎわせながら絢爛に広がる桜の全体像を見せつつ、夕暮れを背景に桜の木が輝くような画にしたかった。焦点距離は35mmを選択し、横位置で画面いっぱいに桜の全景を取り入れる構図に決めた。ただし、ライトアップの光源だけでは、光量が少なく桜の隅々まで照らせていなかったため、LEDビデオライトをトラベル三脚に設置し、両サイドから照射して光を補った。暖色系のLEDで暗部を照らし、桜全体に柔らかく光を回している。なお、撮影者がほかにもいる場合などは、配置した三脚が妨げにならないように十分に配慮したい。

正面からの光では コントラストが強い

カメラに装着した外部ストロボで撮影。正面からの光線で桜より柵や石組みが明るくなってしまい、目障りな影やコントラストが目立ってしまっている

光源を補うLEDビデオライト

本作品で使用しているのはMcoplus LED-130というビデオライト。130球のLEDを搭載し、800ルーメンの光量を備えながら、3,000円前後で入手できる優れものだ

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-105mm F4L IS USM ／35mm ／マニュアル露出(F5.6、0.4秒)／ ISO 1600／ WB：4,200K

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／ EF24-70mm F2.8L USM ／24mm ／絞り優先AE（F13、1/45秒、±0EV）／ ISO 200／ WB：太陽光

〘東京都〙

奥多摩湖（おくたまこ）

エメラルドグリーンが桜を引き立てる

44

東京都西多摩郡奥多摩町
4月中旬
10時
標準レンズ

電車の場合は、JR奥多摩駅からバスで約20分。車の場合は、圏央道日の出ICまたは青梅ICより約60分。湖岸の駐車場からみはらしの丘遊歩道を歩く

桜と湖面が共に魅力的に見える場所は遠景に山の稜線が入るポイント。下方にある桜、湖面、山並み、空へと立体感を持たせるフレーミングにする。ツツジは色彩が強いのでバランスを崩さない位置に配置した。F値をF13に絞り込んで遠景までシャープに見せている。（新海良夫）

TECHNIQUE

24mmで湖を広く入れる

標準ズームレンズの広角側で広さをカバーして、手前に迫力ある桜を大きく見せる。爛漫の美しさは色彩の豊かさが大切な要素となるので、エメラルドグリーンの湖面を背景にした。ピンク色の反対色であるグリーンでピンク色を目立たせている。

望遠だと湖の印象が弱い

望遠レンズで撮影。花の密集感は出るが、湖のエメラルドグリーンの部分が少ないため桜色が引き立たない

〘石川県〙

のと鉄道（のとてつどう）

山腹に点在する桜をアクセントに

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／ EF300mm F4L IS USM ／300mm ／マニュアル露出（F6.3、1/800秒）／ ISO 400／ WB：太陽光

TECHNIQUE

全体に入る桜のボリュームを計算する

桜が車両で隠れてしまわない撮影ポイントを探った。ポジションは上げて、列車の上方にも桜の花が見えるようにしている。背景になる山腹の桜が画面に収まるよう気を付け、信号機の位置も工夫している。

車両で桜を隠さない

来た列車をとっさに撮影した1枚。背景の桜が隠れ、山腹の桜も中途半端。この問題をクリアする場所を探し撮り直した

斜光線で花弁が透けて白く輝く夕方。線路沿いの桜並木と山腹の桜との距離感を300mmの望遠レンズで圧縮し、遠くの桜を引き寄せた。F6.3で遠景の桜のボケを抑えている。列車が桜を背にした瞬間がレリーズのタイミング。信号機は桜と重ならないようにしよう。（米屋こうじ）

45

石川県七尾市中島町
4月中旬
17時
望遠レンズ

JR七尾駅または和倉温泉駅でのと鉄道七尾線に乗り換え、西岸駅下車。線路内に立ち入らないなど、列車運行の妨げにならないように十分注意しよう

キヤノン EOS 5Ds R ／ EF24-70mm F4L IS USM ／50mm ／絞り優先AE（F8、30秒、±0EV）／ISO 200／ WB：白色蛍光灯

［福島県］

霞ヶ城公園

闇夜に浮かぶ幻想的な桜

46

福島県二本松市郭内
4月上旬
19時
標準レンズ

車の場合は、東北自動車道二本松ICから約5分。電車の場合は、JR二本松駅から徒歩で約20分。霞ヶ城公園から道路を挟んだ高台に撮影ポイントの遊歩道がある

かすみがかかったような夜桜の美しい全景を撮りたいと思った。ライトアップされている遠景まではっきりと見せたかったのでF8を選択。ライトアップされていない手前の桜はLEDライトで明るく照らしている。花を幻想的に見せるためWBを白色蛍光灯にして青みを強めた。（新海良夫）

TECHNIQUE

手前の桜はLEDで照らす

手前にあった満開の桜は、ライトアップされておらず、黒くつぶれてしまっていた。LEDの懐中電灯で照らすと、桜が明るくなり、色もきれいに出てきた。

照らさないと桜が暗い

LEDライトで手前の桜を照らさないと、真っ暗なまま。ライトアップの様子は分かるが、幻想的にはならずもったいない

［愛媛県］

松山城

名城を包み込む満開の桜

キヤノン EOS-1Ds Mark Ⅲ／ EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM ／80mm ／絞り優先AE（F11、1/125秒、+0.3EV）／ ISO 250／ WB：オート

TECHNIQUE

望遠レンズで余計な要素をカット

80mmと望遠域をカバーするレンズを使用することにより、花が大きく明確になり、観光客もカットできる。不要な部分を画面に入れないことで画面も引き締められる。

50mmだと人物が写り込む

50mmでは人が写る。遠近感は中望遠より強調できるので、この構図狙いなら脚立によるハイポジションで人物をカットする

正午前後の時間帯だと光がきれいに回る。ソメイヨシノの花はピンクではなく白に近い。画面内で光が回っている桜の分量が多く、しかも見上げるアングルで空を入れてAEで撮影すると、露出がアンダーになってしまいがちだ。＋0.3～0.5EVの露出補正して撮影しよう。（山梨勝弘）

47

愛媛県松山市丸之内
3月下旬
12時30分
望遠レンズ

JR松山駅から伊予鉄道に乗り換え大街道駅を下車。徒歩5分の松山城ロープウェイ乗り場から本丸に向かう。車の場合、松山自動車道松山ICからロープウェイ乗り場まで約15分

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-105mm F4L IS USM ／93mm ／絞り優先AE（F18、1/6秒、−0.3EV）／ ISO 200／ WB：太陽光

〚福島県〛

福聚寺（ふくじゅうじ）

桜を組み合わせる絵作りが楽しめる

福聚寺境内にはソメイヨシノやしだれ桜など数十本の桜がある。中でもこのしだれ桜は竹林の中にあるので、撮影する角度によって濃いピンク色の桜が緑の中から浮かび上がるような写真を撮ることができる。しだれ桜の形の良い上の部分は横長すぎるため、手前にソメイヨシノの桜を置いてバランスを整えた。曇り空や順光など光が全体にきれいに回った状態では、立体感がなくなるので夕方の斜光線が桜に当たる時間帯を選んでいる。メインの桜の色をきれいな色に仕上げると、手前の花が白飛びしてしまうので、何枚か露出を変えて撮影し、適正露出のものを選んだ。（後藤昌美）

48

- 福島県田村郡三春町
- 4月中旬
- 17時30分
- 望遠レンズ

車の場合、磐越自動車道船引三春ICから約15分。電車の場合はJR三春駅からタクシーで約5分。徒歩だと駅から約30分だが、山道となる。2本の大きなベニシダレが有名。開花時期には夜間、ライトアップが行われる

TECHNIQUE

手前にも桜を入れてメインの桜を目立たせる

しだれ桜だけでは、どこでも撮影できる写真になってしまうので、周囲の桜を利用する。手前のソメイヨシノもきれいに見せたかったので、両者が被写界深度内に入るようにF18まで絞った。

主題以外の桜が多いと散漫になる

メインの撮影位置より少し離れた位置から、しだれ桜の全容を中心にして周囲にある桜で囲んで撮影。主題が散漫になり、インパクトの薄い写真となった

前景には色味の違う桜を配置する

赤みの強いベニシダレを主題にするため、手前には薄い色味の桜を配置すると主題が引き立つ。主題の桜の周囲を観察しながら、ちょうど良い桜を探した。

同系色が前景だと主題が目立たない

手前に同じ色味のしだれ桜を配置して撮影した。色の華やかさはあるが、両者とも同じ色のため、主題となる奥の桜が目立たなくなってしまった

〘福島県〙

龍ヶ岳（じょうだけ）

残雪の山々を従える優美なしだれ桜

エドヒガンザクラのトンネルを抜けるように斜面を登ると、雄大な山並みを背景に優雅に枝を広げる樹齢200年ほどのしだれ桜がある。この日は晴れていたが、いささか風が強い。光線は日中のトップライトだ。望遠ズームレンズを使って、広大な風景の中からしだれ桜をメインに背景の山並みと雲のラインを意識してシンプルに切り取った。画面の左右の端まで桜を配置し、鑑賞者に画面外にも桜の広がりを感じさせ、桜の園であるようなイメージを強調している。絞りはF11を選択し、細部に至るまで緻密な描写を心掛けた。　(萩原俊哉)

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR Ⅱ／122mm ／絞り優先AE(F11、1/125秒、±0EV)／ ISO 200／ WB：晴天

TECHNIQUE

横位置で風景の広がりを表現

横方向が長辺となるため、左右への枝の広がりを表現できる。また、雄大な山並みを背景に従えた、しだれ桜の威風堂々とした印象を得るため、奇をてらうことなく桜を画面中央に配置した。

縦位置は奥行きと高さを強調できる

縦位置を選択し、背景の山並みと対比させながらしだれ桜の高さを強調したカット。縦位置は、風景の奥行きや高度感を伝えることができる

晴天ではPLフィルターでコクを出す

桜の色合いと青空のコクを出すためにPLフィルターを使用した。約1.5段分ほどシャッター速度が低下することと、この日は風が強かったため、ISO 200を選択してシャッター速度を確保した。

曇天はソフトに狙いを変える

降雨後の霧を狙いソフトに表現。雨や霧で白飛びをするような場合は狙いを変えた方が良い

49

福島県郡山市中田町
4月中旬
12時30分
望遠レンズ

磐越自動車道船引三春ICから国道288号線を経由、県道40号線を南下し、ガソリンスタンド（伊勢谷商店）の先を左折する。細い道をしばらく進むと看板があり、3台ほどの駐車スペースがある

【京都府】

東寺の不二桜

（とうじのふにざくら）

夜空に浮かぶしだれ桜と五重塔

世界遺産の東寺にある不二桜と日本最高55mの五重塔の競演は、まさに古都京都のイメージ。不二桜と五重塔の両方が被写界深度内に入るように、F8に設定している。桜に近づき過ぎると遠景の五重塔が小さくなり過ぎるので、少し離れた位置から撮影した。（西川貴之）

50

- 京都府京都市南区
- 4月中旬
- 19時
- 標準レンズ

車の場合は名神高速道路京都南ICより国道1号線を約10分北上。府道114号線沿いから境内に入る。電車の場合は近鉄東寺駅から徒歩で約5分

TECHNIQUE

日没20分後の空色が美しい

晴天の日に限られるが、日没の20分後から10分間の空の色合いが美しい。ライトアップとの露出のバランスが良い時間帯である。最適となる時間帯はわずかしかなく、すぐに空が暗くなってしまうので、効率良く撮影を進めよう。

日没60分後で空が真っ暗に

空が暗くなった後は、五重塔の屋根の部分が空に同化してしまう。オートWBでは桜の色味の再現が難しい

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／ EF24-70mm F2.8L USM ／45mm ／絞り優先AE（F8、0.3秒、+0.3EV）／ ISO 800／ WB：太陽光

51

- 長野県大町市平
- 5月上旬
- 5時30分
- 望遠レンズ

大町市の国道148号線沿いにある中綱湖。ここは標高が高く桜の咲く時期も遅いので、他の桜が終わった頃に咲き始め5月の半ばまで楽しむことができる

中綱湖のオオヤマザクラは湖畔に植えられており、風のない日には湖面に鏡のように映り込む。特に早朝はあまり風がないので狙い目である。構図は桜の密集している場所をポイントにやや遠目から望遠レンズで狙えば画面いっぱいに桜と映り込みを写すことができる。（館野二朗）

【長野県】

中綱湖

（なかつなこ）

湖に映るオオヤマザクラのピンク

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF70-200mm F2.8L IS Ⅱ USM ／90mm ／マニュアル露出（F11、1/10秒）／ ISO 100／ WB：太陽光

TECHNIQUE

横位置で斜めから狙って奥行きを出す

中望遠レンズで桜が密集している場所を左斜めから横位置でアップに奥行きを表現している。シンメトリー構図にすることによって地上と映り込みが半々になり、奥に視線がいくようにしている。

縦位置では上下に余計なものが入る

縦位置では上下に余計なものが、多く入るため、桜と映り込みが弱くなってしまう。縦位置ならもっとクローズアップする必要がある

［北海道］

上御料の一本桜

かみごりょう　いっぽんざくら

残雪を背景に咲くエゾヤマザクラ

リコーイメージング PENTAX K-3／ smc PENTAX-DA★60-250mmF4ED［IF］SDM／250mm（375mm相当）／マニュアル露出（F11、1/30秒）／ISO 200／WB：太陽光

TECHNIQUE

微調整を重ねて構図を安定させる

里にある小さな桜と残雪の山を１つの画面に閉じ込めたいので、望遠レンズで風景を圧縮して描いた。残雪と新緑の中で存在感を失わないよう桜の大きさを常に意識してフレーミングした。構図を安定させるために三脚を使い、微調整を繰り返している。

構図を見誤ると春を表せない

桜の存在感が小さく背景とのバランスが悪い1枚。光も乏しいため鮮やかさに欠け、春の爽やかさを表現できていない

山里に咲くエゾヤマザクラを主役とし、背景に残雪の山を絡め、春のにぎやかさを表現した。やや逆光で透明感を出すため午後遅めの時間を選択。雲が時折太陽を遮り、風景に変化を加えてくれた瞬間に撮影している。反射をコントロールするためPLフィルターを使用した。　（中西敏貴）

52

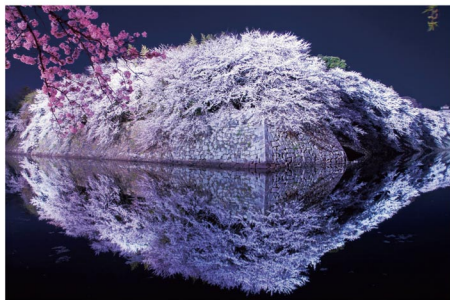
- 北海道富良野市上御料
- 5月上旬
- 16時
- 望遠レンズ

JR富良野駅から車で約20分。撮影は道路からできるが、交通量が多いので駐車場所に注意し通行の邪魔にならないようにする。また、畑に侵入しての撮影は絶対に行わないこと

［滋賀県］

彦根城

ひこねじょう

シンメトリーな映り込みの美しさ

キヤノン EOS-1Ds Mark Ⅲ／ EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM ／28mm ／絞り優先AE（F8、1/15秒、±0EV）／ISO 100／WB：3,500K

TECHNIQUE

鏡面を生かしてシンメトリーを意識する

上下対称の映り込みを狙いたいのならシンメトリーになるような場所で撮影したい。少しでも右や左にずれると、画面内の比重が変わり、違和感を覚える写真となる。画面右にも桜、右奥には天守が見える。あれもこれもと入れてしまうと印象が弱くなる。

天守を入れると主題が変わる

右奥にはライトアップされている天守が見える。画面に入れると左のように天守が主題となり映り込みの印象が弱くなる

53

- 滋賀県彦根市彦根城
- 4月上旬
- 17時30分
- 標準レンズ

桜の名所で城内よりもお堀の周囲に見どころが多い。アクセスはJR彦根駅から徒歩で約10分、車の場合は駐車場が多数あるが、桜の季節は混雑するので早めの行動をしたい

昼も夜もお堀の映り込みが楽しめる場所だが、桜の美しさならやはり夜の撮影が良い。上下対象のシンメトリーな美しさを求めるのなら、無風が絶対条件となる。お堀の石垣に覆いかぶさる桜のボリューム感を表現するには、石垣の角の場所が最もバランスが良い。　（本橋昴明）

54

神奈川県足柄上郡山北町（山北駅～谷峨駅）
4月上旬
12時30分
標準レンズ

JR山北駅から谷峨駅方向に300mほど歩くと桜並木が広がる。駅と県道のあいだに跨線橋が2つあり、撮影者はそこに集中している。周辺には車が置けないので、電車を利用しよう

「山北の桜」と聞けば、鉄道ファンなら誰もがピンとくる超有名ポイント。そんな場所こそ、自分ならではの構図を探すチャンスと考え、周囲を探索してみよう。このときの目標は、「定番構図からの脱却」と「桜のボリュームをできるだけ多くする」の2点。そこで線路と桜並木が離れた場所を探し、桜の枝の隙間から標準レンズで画面全体に桜を入れ、主題である列車が入る空間をポケットのように空けておく構図を作った。列車は一部しか写っていないが、列車そのものよりも、桜のボリュームを優先した結果だ。（中井精也）

〚神奈川県〛

山北の桜

桜並木の谷間を走る御殿場線の有名スポット

TECHNIQUE

マンネリ構図から脱却する

線路を跨ぐ陸橋から撮影する定番構図から脱却するために、桜並木と線路の距離が広くなる駅側のポイントに移動。これで正面がちのマンネリ構図を避け、列車の横側から撮影できるようになった。

正面から撮る定番構図だと画面上に空が入ってしまう

こちらが定番の構図。列車は全部入るが、両側の桜並木を入れると、どうしても空が入る構図。望遠で前ボケを狙うと、奥の陸橋が大きく写り雰囲気が出ない

桜のボリュームを優先する

列車よりも桜のボリュームを優先し、列車の一部だけを入れる。下の写真のように画面上の桜並木を入れると背景の空が邪魔になるので、思い切って上の桜並木は構図から外している。構図作りは「もったいない」との戦いなのだ。

構図は列車がないときに作る

枝の隙間から列車の入る位置だけを開けた「主題ポケット構図」で列車を待ち受ける。ただし上の桜並木を入れることで、白い空や木が雰囲気を損ねてしまっている

ソニー α7R Ⅱ／ Vario-Tessar T* FE 24-70mm F4 ZA OSS ／45mm ／絞り優先AE（F4、1/800秒、+1.7EV）／ ISO 400／ WB：日陰

キヤノン EOS 7D Mark Ⅱ／ EF16-35mm F4L IS USM ／24mm（38mm相当）／マニュアル露出（F9、1/800秒）／ ISO 400／ WB：太陽光

〖岩手県〗

釜石線（かまいしせん）

遠野の里に咲く桜並木に包まれて

遠野の市街地から少し離れたところにJR綾織（あやおり）駅があり、駅近くの小川に沿って桜並木がある。「SL銀河」運転時には大混雑をする撮影地でもある。列車を大きめに撮りたい鉄道ファンは線路に一番近い桜に集まるのだが、鉄道風景として考えると賢明ではない。はじめに、桜の枝ぶりを効果的に配置できる桜を選び、続いて列車の対比バランスを考える。鉄道風景なので、桜が占める割合は8割程度とボリュームを重視。そしてスポット的な空間を作り、そこに列車を入れるというのがコツだ。このメリハリが鉄道風景撮影では最も大切。今回は寄り添う2本の桜を選び、夫婦桜風にフレーミングをした。（長根広和）

55

- 岩手県遠野市綾織町（岩手二日町駅～綾織駅）
- 4月下旬
- 11時
- 標準レンズ

JR綾織駅から駅前の道を岩手二日町駅方面へ進むと川堤がある。そこに桜の老木が線路と直交するように並んでいる。駅から徒歩約5分で行ける場所だ。年に一度、桜の満開とSL銀河の運転日が重なり、その日は大混雑するので覚悟が必要

TECHNIQUE

桜でフレームを作って人工物を隠す

画面の四隅に広がるように2本の桜を配置。かつ、人工物が可能な限り見えなくなるように、桜の幹の配置で家やポンプ小屋を隠している。どこでも撮れそうな気がするが実は超ピンポイントで撮影位置を探っている。この繊細な作業をするために、早くから準備をして構図を検討しておきたい。

縦構図の場合は幹をフレームにする

横構図だけなく、縦構図も狙いたいもの。木の幹の造形を生かせば、縦構図でもフレームを作れる。本数が少ないので、無線レリーズやWi-Fi搭載カメラで2台同時撮影を狙うと便利だ

雲を入れるとボリューム感が増す

鉄道撮影は列車が通過する瞬間が命。快晴なら曇る心配がなくなり気が楽だ。ただ作品となると、空にもアクションが欲しい。雲でボリューム感を出すべくこの日は半日同じ構図で撮り続けた。

雲がないとアクセントが足りない

快晴は気持ちが良いが、「美しい」という感想で終わってしまう。そこにもう1つ何か取り入れたくなってしまうのだ。この気持ちが自身の作品を醸成させるためには大切だろう

〚滋賀県〛

海津大崎

桜の合間に見える琵琶湖

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／ EF24-105mm F4L IS USM ／35mm ／
絞り優先AE（F13、1/10秒、±0EV）／ ISO 400 ／ WB：6,800K

TECHNIQUE

三分割構図で安定感を出す

どのような写真でもどこかに安定感のある部分を作った方が作品として見やすい。地面という存在は最も安定を与えてくれるが、ここでは幻想的な色が主役であるため現実感のある地面を排している。代わりに水平線は安定しやすい上3分の1ラインに設定した。

水平線の位置は下でも安定する

水平線は下3分の1ラインでも安定する。日の出を入れた構図なら、撮影位置を変えやすい湖岸まで下りた方が良い

朝の柔らかい光を生かして湖面の揺らぎを広く捉えた上に竹生島を配置し、悠遠さを演出。桜以上のハイアングルを確保したく裏山を少し登った。カメラブレを防ぐためにミラーアップ撮影。漁に出る船がアクセントになるようにタイミングを計りシャッターを切った。（今浦友喜）

56

- 滋賀県高島市マキノ町海津
- 4月中旬
- 5時30分
- 標準レンズ

西近江路海津交差点から約5分。湖岸沿いを約4kmに渡ってソメイヨシノが咲く。街灯が少なく夜明け前から撮影するならヘッドライトを付けよう。日中は道路が混雑することもある

〚宮崎県〛

高千穂牧場

牧場の春の彩りが印象的

キヤノン EOS-1Ds Mark Ⅲ／ EF28-70mm F2.8L USM ／53mm ／
マニュアル露出（F22、1/13秒）／ ISO 100 ／ WB：オート

57

- 宮崎県都城市吉之元町
- 4月上旬
- 14時
- 標準レンズ

宮崎自動車道高原ICより国道221号、国道223号線を通り霧島温泉郷方面へ約30分。「高千穂牧場」の案内板を左折して約10分のところに広い無料の駐車場がある

桜並木の背景に高千穂峰がそびえ、青々とした牧草が春を表すのに絶好の場所。ほぼ1日中順光だが、風景が広いので青空が狙い目。手前に菜の花、中景に桜、遠景に高千穂峰と色・流れを横構図でまとめ、絞り込んでパンフォーカスとした。ハイアングルで奥行きを出している。（富田文雄）

TECHNIQUE

画面全体のバランスを考える

菜の花が多く咲き、桜並木のバランスが良く、菜の花と桜が引き立つように牧草の緑を入れ、山の高さが低くならない程度に横の広がりを出して画角を決めた。空の青さを強調するため、三脚を設置してPLフィルターを使用している。

桜のアップだと広がりが出ない

違う桜の木で花をアップ気味にし、桜越しに高千穂峰を撮影したが、広がりと山の高さが表現できていない

福井県

妙祐寺(みょうゆうじ)

北陸で一番早く咲くしだれ桜

キヤノン EOS 5D Mark II／EF24-105mm F4L IS USM／67mm／絞り優先AE(F10、1/2秒、+0.3EV)／ISO 400／WB：太陽光

夜明け前にスタンバイして日の出を待ち、朝焼けに染まる桜を狙った。近くの民家が入らないようにやや下からあおり、枝の広がりを表現している。（安念余志子）

58

福井県小浜市中井
3月下旬
6時
標準レンズ

JR小浜駅から車で約15分。もしくは、舞鶴若狭自動車道小浜ICから車で約20分。バスの場合は、中井橋停留所下車徒歩約5分

山形県

やすらぎ公園(こうえん)

春爛漫の桜回廊

ニコン D810／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／48mm／絞り優先AE(F8、1/80秒、±0EV)／ISO 100／WB：オート

朝の斜光線で対岸の桜並木に光が当たるのを待って撮影した。手前の菜の花をポイントにして柔らかくぼかしたかったので、カメラ位置を下げて撮影している。（片岡 巌）

59

山形県鶴岡市馬渡
4月中旬
9時
標準レンズ

車の場合は、山形自動車道庄内あさひICから約20分。日本海東北自動車道鶴岡西ICからは約25分

長野県

二反田の桜(にたんだのさくら)

斜面に咲く山桜の群生が見事

富士フイルム X-T1／XF100-400mm F4.5-5.6 R LM OIS WR／133 mm（202mm相当）／絞り優先AE(F11、1/60秒、−0.7EV)／ISO 320／WB：晴れ

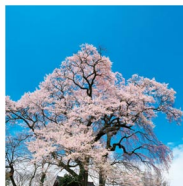
山の斜面にたくさんの山桜が咲く。遠くに離れて桜の多さを出す方が良い。この場合は民家を入れて里の雰囲気を出した。午前でも撮影は可能な場所である。（佐藤 尚）

60

長野県水内郡小川村
4月中旬
13時30分
望遠レンズ

県道31号線の小川村役場近くにあり、桜の斜面には遊歩道もある。離れた場所から北アルプスと一緒に写せるポイントもある

福島県

天神夫婦桜(てんじんめおとざくら)

仲良く寄り添う2本の桜

キヤノン EOS 5D Mark III／EF24-105mm F4L IS USM／24mm／絞り優先AE(F11、1/125秒、+1.0EV)／ISO 400／WB：太陽光

2本寄り添っている桜の特徴を生かすために桜全体を入れたいと考えた。24mmで広く菜の花を入れて、遊歩道をアクセントにして全体のバランスを考慮した。（西川貴之）

61

福島県郡山市西田町
4月中旬
12時
標準レンズ

磐越自動車道郡山東ICより約10分。高柴デコ屋敷の集落内にある。駐車場あり

新潟県

瓢湖(ひょうこ)

五頭連峰の残雪が眩しい

ニコン D810／AF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VR／125mm／絞り優先AE(F16、1/30秒、+0.3EV)／ISO 100／WB：オート

朝日は五頭連峰の背後から昇ってくる。順光になる11時頃がチャンス。青空を背景にして残雪の山並みをはっきりと見せるために、+0.3EV露出を補正した。（片岡 巌）

62

新潟県阿賀野市水原
4月中旬
11時
望遠レンズ

車の場合は、磐越自動車道新津ICより約15分。JR水原駅より徒歩で約30分。またはタクシーで約5分

福岡県

浅井の一本桜(あさいのいっぽんざくら)

夜の池に映り込む逆さ桜

ニコン D800E／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／24mm／絞り優先AE(F8、6秒、−1.3EV)／ISO 400／WB：電球

溜池に映り込む桜を撮影するには、風の少ない夜が良い。溜池は一周できるので桜が全て映り込む場所を探した。WBを電球にしても赤みが残る光源色なので注意しよう。（星野佑佳）

63

福岡県久留米市山本町
4月上旬
19時30分
標準レンズ

九州自動車道久留米ICより約20分。期間中は約60台が駐車できる臨時駐車場が設置されている

64 佐賀県 納戸料の百年桜

茶畑と八重咲きの一本桜

ニコン D800E ／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED ／31mm ／ シャッター優先AE（F9、1/200秒、−0.7EV）／ ISO 400 ／ WB：晴天

青空が魅力で空を多めに入れた分、茶畑の割合は減らしたが、斜めラインに配置して奥行きを出した。三脚が立てづらい場所なので、手持ちで撮影しよう。（星野佑佳）

- 佐賀県嬉野市嬉野町
- 4月上旬
- 11時30分
- 標準レンズ

長崎自動車道嬉野ICから約10分。JR武雄温泉駅から車で約10分。駐車場はなく、物産館「吉田まんぞく館」駐車場を利用する

65 神奈川県 二ヶ領用水

住宅街にある憩いの桜並木

ニコン D810 ／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR Ⅱ ／92mm ／ マニュアル露出（F11、1/13秒）／ ISO 100 ／ WB：5,300K

桜は朝や夕の赤みを帯びた斜めの光も美しく見える。このカットは朝の撮影なので日差しが足元まで来るのを待ち、望遠レンズで切り取った。（山梨将典）

- 神奈川県川崎市宿河原
- 4月上旬
- 7時30分
- 望遠レンズ

JR宿河原駅より徒歩約5分。多摩川に接する宿河原堰の取水口から約3kmほど桜並木が続く

66 三重県 三多気の桜

歴史のある桜並木と棚田

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ ／ EF70-200mm F2.8L IS Ⅱ USM ／ 130mm ／マニュアル露出（F11、1/15秒）／ ISO 100 ／ WB：太陽光

棚田に張られた水に花びらが浮いていた。少し高い位置から見下ろすようにカメラを構え、桜と棚田の両方を主役になるようにバランス良く配置した。（舘野二朗）

- 三重県津市美杉町
- 4月中旬
- 8時
- 望遠レンズ

国道368号から三多気の桜へ登っていく道は、道幅が狭いので注意が必要。近くには真福院があり参道には見事な桜並木がある

67 長崎県 白木峰高原

菜の花の絨毯に咲く桜

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ ／ EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM ／50mm ／ 絞り優先AE（F16、1/50秒、+0.7EV）／ ISO 400 ／ WB：太陽光

五家原岳の中腹に位置し、有明海と雲仙岳を背景にできる。遠景に漂う雲海が良い形になる瞬間を狙い、50mmで桜と菜の花をバランス良く切り取った。（西川貴之）

- 長崎県諫早市白木峰町
- 4月上旬
- 8時
- 標準レンズ

長崎自動車道諫早ICから国道34、57、207号線を経由して約30分。駐車場あり。電車の場合はJR諫早駅からタクシーで約30分

68 広島県 与一野のしだれ桜

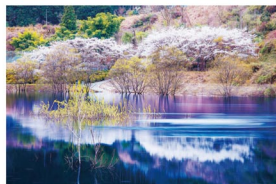
青空に映える大しだれ

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ ／ EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM ／61mm ／ 絞り優先AE（F11、1/160秒、+0.7EV）／ ISO 400 ／ WB：太陽光

小高い丘の上に立つこの桜は、草木を生かした撮影がおすすめ。手前の菜の花をアクセントにしてPLフィルターで青空の深みを出し、桜色を目立たせた。（西川貴之）

- 広島県山県郡安芸太田町
- 4月上旬
- 16時
- 標準レンズ

中国自動車道戸河内ICから国道191号線、県道305号線経由で約15分。私有地のため、遊歩道以外への立ち入りは禁止

69 三重県 青蓮寺湖

ソメイヨシノが湖面に映る

キヤノン EOS 6D ／ EF24-70mm F4L IS USM ／66mm ／ マニュアル露出（F16、5秒）／ ISO 100 ／ WB：オート

桜の映り込みが美しい湖。右手前にある白く動きのあるものは釣り船。ボートをスローシャッターで撮影し、水面に浮かぶ花びらが漂っているように表現した。（藤原嘉騎）

- 三重県名張市中知山
- 4月中旬
- 12時30分
- 標準レンズ

名阪国道針ICから約30分。森のレストランアーチの対岸にある道沿いの公園から撮影。公園内に10台ほどの駐車場がある

〖広島県〗

厳島神社（いつくしまじんじゃ）

夕暮れの臨場感を写し込む

曇り空ながら風のない穏やかな宵なので、スローシャッターでフェリーの光跡を写し込むことにした。船の明かりが動くことで、そこに流れる穏やかな時間を表現することができる。フェリーが移動する距離をイメージしてシャッター速度を決める。フェリーの位置を決定づけるシャッターを切るタイミングも重要だ。そして何より、塔がまっすぐ立っていることが最も大切だ。斜めの建物は「不安要素」として写るからだ。明るいうちに現場でフレーミングを考え、早めに三脚を立てる。影がつぶれず、桜が白飛びしないように注意してRAW現像している。（高椋俊樹）

70

- 広島県廿日市市宮島町
- 4月初旬
- 19時
- 標準レンズ

宮島へはJR宮島口駅よりフェリーで約10分。後ろを通過する際に大鳥居の撮影が可能なので、ズームレンズを装着したカメラを持って乗船すると良い。現場はフェリー乗り場から約15分の厳島神社宝物館の後方。境内から山道を登る

TECHNIQUE

光跡の長さを計算したシャッター速度に

スローシャッターで光跡を捉えるときは、対象物が何秒間でどのくらい画面上を移動するのかを考えてシャッター速度を決める。前景の桜とフェリーまできちんと描写したいため、F13まで絞り、ISO感度を200にして30秒のスローシャッターを選択した。

8秒程度では光跡が得られない

こちらは8秒のシャッター速度を得たが、船が動いておらず光跡が写らなかった。動きのない作品はドラマがなく、臨場感に乏しい

輝度差はRAW現像で調整して解消

人工光が多いと輝度差が出てしまうため、RAW現像で軽減する。露光量、ハイライト、シャドウを調節して、白飛びと黒つぶれを防ぐ。ハイライトとシャドウは極端にいじるとノイズが際立ってくるので程々にすることだ。

基本補正だけで明るさを整える

Photoshop Camera Rawを使用。ここでは基本補正で露光量＋1.85、ハイライト−67、シャドウ＋66とした

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／ EF28-70mm F2.8L USM ／38mm ／マニュアル露出（F13、30秒）／ ISO 200／ WB：蛍光灯

DJI Phantom3 Professional ／ FC300X ／4mm（20mm相当）／マニュアル露出（F2.8、1/2,000秒）／ISO 200／ WB：4,500K

【岡山県】

大平山（おおひらやま）

瀬戸内の島々と虫明の桜の競演

71

- 岡山県瀬戸内市邑久町
- 4月上旬
- 16時
- 広角レンズ

岡山ブルーライン虫明ICから県道465号線に入り、大平山方面に進んで約15分。岡山いこいの村を目指すと分かりやすい。アップダウンが多くカーブも多いので運転に注意

県道沿いに咲いた桜とアップダウンの多いシチュエーションをドローンを使って上空から撮影した。桜の立体感が出やすい半逆光の16時ごろを狙っている。WBを4,500Kに設定し、新緑の緑や桜の色を調整。色味を強く出すためにカラー設定はあえてビビッドにした。（木村琢磨）

TECHNIQUE

ドローンを使った空撮で奥行きを強調

ドローン搭載のレンズは広角が多いので、なるべく被写体に寄って撮影し良い意味で空撮感を緩和したい。広角レンズの持つパースを生かして桜と山脈の奥行き感が出るように手前の桜に寄り気味で撮影した。

ドローンだからと高さを求めない

空撮だとつい高さを求めてしまうが、広角レンズで何も考えずシャッターを切るとただの広い風景の写真になってしまい、桜の写真として弱くなる

【島根県】

潮駅（うしおえき）

廃線が決まった三江線最後の春

TECHNIQUE

影ができない曇りの日がチャンス

谷にある駅なので、晴天になってしまうと、桜が日と影でまだらになってしまう。薄曇りの日が絶好の撮影チャンスだ。とはいえ、列車本数が極端に少なく、日中に列車がこちらに向かってくるのは7時58分の1本だけだ。バックショットで良ければ11時20分に1本あるので、晴天でも撮影に行った方が良い。

晴天時は影のまだらを生かす

晴天では桜がまだらになってしまうので、それを生かして模様として作品に仕上げた。1日1回のチャンスを無駄にできない

キヤノン EOS 5Ds ／ EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM ／400mm ／マニュアル露出（F8、1/320秒）／ ISO 800／ WB：太陽光

桜に包まれる駅として、ちょっとした観光地になっている潮駅。この鉄道風景が撮影できるのも残りわずか。駅を包む桜をできるだけ画面いっぱいに配し、桜をメインにするために列車は遠方に配置した。列車を手前にすると、桜より列車の存在感が大きくなってしまうからだ。（長根広和）

72

- 島根県邑智郡美郷町潮村
- 4月上旬
- 8時
- 望遠レンズ

JR潮駅から石見松原方面へ向かうと、左手の丘にデイサービスセンターがある。その駐車場から駅を俯瞰撮影可能。必ず施設の方に撮影許可をもらうこと。駅から徒歩約5分

キヤノン EOS 5D Mark II／EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM／28mm／
絞り優先AE（F16、1/4秒、±0EV）／ISO 200／WB：オート

〖愛媛県〗

開山公園（ひらきやまこうえん）

桜の波と瀬戸内の海の共演

73

- 愛媛県今治市伯方町
- 4月中旬
- 16時30分
- 標準レンズ

西瀬戸自動車道伯方島ICから国道317号線を伯方町伊方方面へ行き、県道50号線入りすぐに左折して開山公園へ。約10分。無料駐車場あり

伯方島（はかたじま）の開山公園の山頂展望台は360度見渡せる桜の絶景スポット。ここでは東の日の出を狙うカメラマンが多いが、西の夕景も良い。近景の桜は無論だが遠景の瀬戸内海の風景も大事な要素なので、F16まで絞った。展望台は微妙に揺れるのでカメラブレに注意しよう。　（山梨勝弘）

TECHNIQUE

夕焼け前の赤みを帯びた光を生かす

夕焼け前の赤みを帯びた柔らかな光で撮影することで、桜がほんのり赤く染まり、妖艶な風情を醸し出す。時間帯ごとにさまざまな撮影ができる場所だ。

早朝や薄暮なら光跡を生かそう

夜の雰囲気も良く、車の光跡を入れると雰囲気が出る。1台で光跡を作ると露光時間が長くなるので、車が連なるときを狙う

〖福島県〗

五斗蒔田桜（ごとまきださくら）

丘の上に立つ見目麗しい一本桜

TECHNIQUE

桜の色が目立つような雲を見極める

かなり雲の動きが早く、選り好みすることができた。あまり画面いっぱいを雲で埋めてしまうと、雲の白によって桜のピンクが目立たない。ピーク前の状態だったことを考えると、雲はあるけれど青空が多めのタイミングでシャッターを切ることが正解と考えた。

雲が多いと桜がかすれてしまう

雲が多いと、桜の背後に雲が回ってピンク色を感じにくい。同時に太陽の光が遮られたので、コントラストも若干弱い

富士フイルム X-T1／XF10-24mmF4 R OIS／10mm（16mm相当）／
絞り優先AE（F11、1/160秒、+0.3EV）／ISO 800／WB：晴れ

福島県のしだれ桜の中でも群を抜いた美しさを誇る桜だ。360度どのアングルから見ても美しい。左右に枝を伸ばした悠然たる様子を引き出すため超広角レンズを選択。横位置で慈愛と気品に満ちた姿が切り取れた。形の良い雲を待ってシャッターを切って完成とした。　（萩原史郎）

74

- 福島県郡山市中田町
- 4月中旬
- 12時
- 広角レンズ

磐越自動車道船引三春ICから国道288号線を経由、県道40号線を木目沢方面へ進み約35分。3～4台分ではあるが、必ず道路ではなく駐車スペースに止めること

富士フイルム X-T1／XF10-24mmF4 R OIS／21mm（32mm相当）／絞り優先AE（F11、1/60秒、±0EV）／ISO 400／WB：オート

〚埼玉県〛

唐沢川

からさわがわ

川面に映った青空と輝く桜並木

川沿いの並木は、朝日が当たると桜が輝いて印象的な風景になる。川の奥行きを出すために、西側の土手の歩道に三脚を立てて、広角レンズで川が斜めに入る構図とした。川面に映り込む桜を印象的に表現したかったので、空は入れないようにカットした。F値はF11まで絞って、花のディテールがはっきりと分かるようにしている。太陽が高くなって光が回りすぎると花にメリハリがなくなってしまうので、撮影する時間を見極めるのが肝心だ。日の出後が狙い目。太陽が差すと急に気温が上がって風が出てくるため、水面の波立ちにも気を配る必要がある。（野呂希一）

75

- 埼玉県深谷市本住町
- 4月上旬
- 6時
- 標準レンズ

唐沢川の桜はJR深谷駅南側の並木が有名だが、こちらは駅の北側、深谷城趾公園付近の川沿い。川幅も広く、花見客で混雑することもない。電車の場合はJR深谷駅から徒歩で約20分。車の場合は、関越自動車道花園ICから約20分

TECHNIQUE

川面が明るくなるタイミングを狙う

桜に日が当たり始めたのは6時。川面が明るくならないと映り込みがきれいに見えないので、桜と川面の明るさのバランスが良くなるのを待ち、17分後に撮影。自分の目で見えている色合いを表現したいのでPLフィルターは使っていない。

桜並木に光は当たっているが、まだ川面は暗い

曇天の夕方の光線は桜にメリハリがなく、川もきれいに見えない

アップで捉えて花のボリュームを表現

唐沢川は土手の歩道や橋の上から桜を眺められるので、いろいろなアングルで撮影することができる。花付きの良い部分を望遠レンズでアップで切り取る。すぐ近くには民家が多いので、人工物が入らないようにフレームを調整する。

今日が満開！という桜のボリュームを出すために、西側の土手の桜に近づいて縦位置で撮影

〘茨城県〙

沓掛峠（くつかけとうげ）

開放的な峠で春を謳うヤマザクラ

県内のソメイヨシノが散った後に咲き始めるヤマザクラの朗らかな表情と季節を意識して撮影した。空が開けている場所で、遠くの山並みまで見渡せる天気だったので超広角レンズで画面に開放感を与えた。青空の気持ち良さを重視するため、奇をてらわず三分割構図の安定した見せ方を選択。桜と青空の面積が不平等にならないように配分した。桜の強さを強調したければ空の面積を3分の1まで減らしても良い。地面は草が刈られ、下に道路も通る場所なので構図は空を抜く方が向く。訪れる日は晴れが吉だ。　（今浦友喜）

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF16-35mm F2.8L USM ／20mm ／絞り優先AE（F11、1/50秒、＋1.0EV）／ISO 200／ WB：6,000K

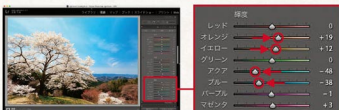
TECHNIQUE

輝度の調整で空と桜を分離させる

PLフィルターは逆光下では偏光効果が少ないうえに超広角レンズでは偏光ムラが目立ち、ゴーストも発生しやすくなるため使用していない。その分、空に薄くかかった雲と桜の色の分離が悪くなるのでRAW現像で輝度を中心に調整して、青空を濃く仕上げた。

RAW現像の調整前は薄雲と桜の色の分離があまり良くない。春がすみの空気感があり、これはこれで悪くはないが、平凡な印象にとどまっている

輝度のアクアとブルーを調整して空の濃度を高める

色の細かな調整ができるLightroomの「HSLパネル」で青空の濃さと分離感を高めた。色相と彩度の調整は大きく動かしすぎると不自然になるので最小限に抑え、輝度の主にアクアとブルーをマイナス方向に調整して濃度を出すと良い

76

- 茨城県久慈郡大子町
- 4月中旬
- 11時30分
- 広角レンズ

満開の季節でもそれほど混雑しない。アクセスは車がおすすめ。駐車場とトイレあり。周辺地域にはしだれ桜などもあり、開花時期も重なるので一緒に巡ってみると良い

【栃木県】

篠井(しのい)のしだれ桜(ざくら)

根元まで届きそうな圧巻のしだれ

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM ／150mm ／絞り優先AE(F5、1/100秒、±0EV)／ ISO 450／ WB：太陽光

TECHNIQUE

1枚目は枝がぶれないように注意

多重露光でふわっとしたイメージに仕上げているが、シャープに写す1枚は桜の枝が揺れてぶれていないことが大切。ぶれていると、芯のないピンボケ写真のようになってしまう。

ブレが止まるシャッター速度に

左は1枚目の写真。風の強さに合わせて、ブレが止まるまでシャッター速度を上げる。1枚撮りでも有効なテクニックだ

風がなく桜の枝も揺れていなかったので、多重露光機能で1回目はシャープに、2回目はアウトフォーカスでぼかして撮影して、2枚の写真を重ねることで、しだれ桜のボリュームや幻想性を高めている。夕方の斜光を使い、桜がより一層ピンクに輝くときを狙った。（金子美智子）

77

- 栃木県宇都宮市篠井
- 4月上旬
- 17時
- 望遠レンズ

東北自動車道宇都宮ICから約20分。民家が近いので早朝は静かに撮影しよう。桜の周りは水田だが、水田に水がないからと中に入ったり、あぜ道を歩いて壊したりしないように注意

キヤノン EOS 6D ／ EF24-105mm F4L IS USM ／24mm ／絞り優先AE(F8、1/800秒、±0EV)／ISO 200／ WB：オート

【岐阜県】

水門川(すいもんがわ)

散り際も美しい川面に浮く花びら

TECHNIQUE

ローアングルで桜の映り込みを狙う

地面に這いつくばるようにローアングルから撮影することで、川面に流れる桜の花びらを強調しながら空を写し込める。空の濃い青、桜の淡いピンクによって春らしさがぐっと強調され、爽やかで開放的な写真に仕上がる。不安定な体勢での撮影となるので、シャッター速度は1/800秒まで上げている。

アイレベルでは花びらが弱い

アイレベルで撮影すると川面に浮かぶ花びらが目立たず、遠近感が弱くなってしまう

水門川は昔の船町港で風情のある朱の欄干の橋と灯台がある。桜の満開の時期をあえて外して、ちょっと桜が散り始めたころに来ると桜の花びらが川面に流れて、風情のある風景が撮影できる。桜の色が鮮やかに写り灯台の影も目立たない昼の時間帯がおすすめ。橋と灯台と船と桜、そして川面の花びらのバランスを考えて構図を決める。（福田弘二）

78

- 岐阜県大垣市船町
- 4月上旬
- 13時
- 標準レンズ

名神高速道路大垣ICから国道258号経由で約15分で到着。東海環状自動車道を利用する場合は大垣西ICから約10分で到着

〘山形県〙

霞城公園

かじょうこうえん

濠に咲き誇る桜と山形新幹線

濠と桜だけを狙っても十分に絵になるが主題は新幹線。桜をシャープに写す絞り、新幹線をピタリと止めるシャッター速度のバランスが重要。高画質を維持するためISO感度は800、絞りをF9に設定。F9でも手前3分の1にピントを合わせると十分被写界深度を得られる。（高橋よしてる）

79

- 山形県山形市霞城町
- 4月中旬
- 10時
- 標準レンズ

JR山形駅から徒歩約10分。霞城の二の丸東大手門前の橋近辺が撮影地。人気の撮影スポットで、人が多いので場所を譲り合って撮影する余裕がほしい

TECHNIQUE

3両以上車体を入れて存在感を出す

存在感のある桜の中でいかに新幹線を際立たせるかがポイント。3両以上の車体が入るように構図を決めている。さらに桜の密度を感じさせる満開感のある構図にするためになるべく空を排除した。

両数が少ないと存在感が出ない

連続撮影のファーストショット。主題の新幹線が少ししか入っていないため、存在感が乏しく桜が主題のように見える

キヤノン EOS 5D Mark II／ EF24-105mm F4L IS USM ／67mm ／絞り優先AE（F9、1/800秒、+0.3EV）／ ISO 800／ WB：太陽光

80

- 徳島県美馬市木屋平
- 4月中旬
- 12時
- 標準レンズ

徳島自動車道脇町ICから国道193と492号線を経由して約50分。川井峠トンネル付近。10台ほどの駐車場あり。例年、開花は美馬市の平野よりも1週間ほど遅い

剣山を画面の中央に配置し、左右対象にしだれ桜で囲むと奥行きのある写真になる。桜が白飛びしないようにPLフィルターを使って、反射を取り除くと、青空も強調されてヌケの良い写真になる。撮影場所は狭いので、水平線が斜めにならないよう注意するのがポイントだ。（片岡 巌）

〘徳島県〙

川井峠

かわいとうげ

名峰剣山を望むしだれ桜

キヤノン EOS 5D Mark II／ EF24-105mm F4L IS USM ／32mm ／絞り優先AE（F18、1/15秒、+0.3EV）／ ISO 100／ WB：オート

TECHNIQUE

両サイドに桜を入れて奥行きを作る

枝が地面に届くほどの大木がたくさんあるので、枝ぶりの良いものを見つけて左右から滝のように流れる見事なしだれ桜の豪華さを出す。桜の花びらに半逆光気味で光が当たり、剣山まで奥行きができる。手前の桜から奥までがシャープに写るようにF18とした。

脇の桜がないと奥行きが弱い

画面サイドの桜の量が少ないと奥行き感じられず、剣山の存在感も弱くなってしまう。ちょうど良い形の枝を配置する

〚奈良県〛

諸木野の桜

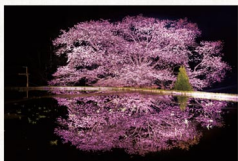
もろきのさくら

水田に反射する桜と天の川のコラボレーション

TECHNIQUE

要素を足して「作品」を撮る

桜の写真を作品にするのが難しい理由は、桜は美しくて当たり前だからだ。だから「作品」を作ろうとするならば、それ以外の要素や構図的な魅力が必要になる。35mmという広角域の構図を取ることで、映り込みと天の川という２つの魅力的な要素を加えることができた。

桜だけでも美しいが寂しい印象になる

桜を大きく写すために寄りで撮影したものだ。これはこれで十分に美しいが、やはり「天の川」が上にあるという希少性と比べると、作品としては弱くなる

光をコントロールする意識を持つ

ライトアップはもちろんのこと、街の光さえない真の暗闇の中に立つ桜を夜に撮るには、長秒露光だけでは光量が足りない。そこである程度大きな光量のLEDライトを準備して自ら桜を照らすことで、風景でも「光をコントロールする」という意識で撮影に臨む。

LEDライトがないと真っ暗になる

他の写真より露光時間が長く（40秒）でも、LEDライトの照射がないと、桜はわずかに輪郭が見える程度でほぼ真っ黒だ。ここまで黒いとRAW現像でもどうにもならない

ニコン D810／AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G／35mm／絞り優先AE（F1.6、20秒、±0EV）／ISO 640／WB：オート

桜の巨木と映り込みの頭上に天の川を配し、普通の桜の写真とは違う1枚に仕上げることを狙った。奥地の集落でもちろんライトアップなどはない。そこで土地所有者に許可を取り、LEDライトで桜を引き立たせた。一方、天の川を写すためにはある程度の高ISO感度と長秒露光、浅い被写界深度が必要だ。そこでF1.4の単焦点大口径レンズを用いた。LEDライトで当てた光が白飛びしないように注意する。ピントは桜に合わせ、星の光をぼかして大きく写し存在感が増すように計算した。（別所隆弘）

81

- 奈良県宇陀市榛原諸木野
- 4月上旬
- 4時
- 標準レンズ

名阪国道針ICから国道369号線を南下し約1時間、諸木野の看板を左折する。極めて細い離合困難の真っ暗な道なので、事前のロケハンを強く推奨する。また静かな村落のため撮影地での大声の嬌声などは厳禁である

〚岡山県〛

醍醐桜

里の丘にそびえ立つ孤高の一本桜

日の出とともにうっすらと浮かび上がる醍醐桜の輪郭。淡いグラデーションに染まる空と、朝靄で拡散された柔らかい光に包まれた花びらのディテールが残るよう、ライブビューで確認しながら適正露出を決定した。開花の時期は早朝でも見物客が多いため、利便性を優先し標準ズームレンズを選択。長い一脚にカメラを取り付け、人々の頭越しにハイアングルから撮影した。一脚にカメラを取り付けた状態で腕を伸ばしての不安定な撮影だったため、被写界深度を得つつ手ブレを防ぐためF4でシャッター速度を稼いだ。醍醐桜がうっすら光って見えるよう、太陽が昇る方角に重ねて撮影している。（木村琢磨）

82

- 岡山県真庭市別所
- 4月中旬
- 5時30分
- 標準レンズ

中国自動車道北房ICから県道84号線を北上し約30分。標識に従って左折する。駐車場完備だがピーク時は止められない場合がある。民家が隣接するエリアのため無断で敷地に入らないよう注意

TECHNIQUE

一脚でハイアングル構図を狙う

背景の山脈を生かした構図にすることで画面に奥行きを出し、標高が高い位置にそびえ立つ一本桜のシチュエーションを演出。ライブビューと一脚を活用して、ハイアングルからの構図を狙った。

アイレベルだと人の姿が写り込む

見物客やカメラマンがちょうど桜と重なってしまう。一脚を使い、人の頭より高い位置からチルトモニターで構図を確認しつつ、レリーズケーブルでシャッターを切った

露出アンダーで空にグラデーションを残す

朝焼けと醍醐桜の色を肉眼で見たときと同じバランスにするため、ライブビューで確認しながら露出を決定した。カメラが測光する適正露出よりもアンダー気味にして朝焼けの色を残している。

桜に合う露出だと空の色が抜ける

逆光での撮影となるため桜の適正露出に合わせてしまうと朝焼けの色が抜けてしまう。シビアな露出条件の時はライブビューを使うと思い通りの結果が得やすくなる

オリンパス OM-D E-M1／ZUIKO DIGITAL ED 12-60mm F2.8-4.0 SWD／32mm（64mm相当）／絞り優先AE（F4、1/25秒、－0.7EV）／ISO 200／WB：4,500K

富士フイルム X-T1／XF16-55mmF2.8 R LM WR／44mm(67mm相当)／
絞り優先AE(F13、1/40秒、−0.7EV)／ISO 2000／WB：晴れ

〚島根県〛

井川の一本桜

田んぼに桜の樹形を写す

83

島根県浜田市三隅町
4月上旬
7時
標準レンズ

国道9号線の三隅公園付近から山の方へ車で約20分。途中に案内板がところどころにあり、駐車場も整備してある。土地の人の田んぼの中にあるので畦には立ち入らないようにする

田んぼと一緒に写せる一本桜。引いて撮ることで山里の雰囲気が出せる。背景の民家は日本家屋で情緒があるのでバランスを考えて配置しよう。まだ暗い時間帯で風も吹いていたので、ISO感度を上げて速いシャッター速度を確保した。風が止むタイミングを待って撮ろう。 (佐藤 尚)

TECHNIQUE

田んぼに映る桜の映り込みを意識する

この時間帯こそ水の張られた田んぼに桜の姿を映し込みを意識する。奥の民家の室内から漏れる明かりを入れることで温かみが増してくる。ライトアップされていない背景の白い桜もフレーミングに意識する。

ライトアップ時は映り込みがきれい

夜になるとライトアップされて、田んぼの映り込みがきれいになる。その分周りが暗いので山里の雰囲気が薄くなる

〚鹿児島県〛

海潟トンネル

桜島を背景に咲くソメイヨシノ

TECHNIQUE

+1.0EV明るく補正して桜をはっきり

桜も噴煙も白っぽく、噴煙が高く上ると青空の面積も増えるので露出がアンダーになりやすい。露出を＋1.0EV補正すると桜の白や青空を適正露出で捉えられる。桜が白飛びしてしまうと台無しなので、ヒストグラムを確認しながら撮影する。

露出補正をしないと、露出が明らかにアンダーになってしまう。+1.0EV明るく補正すれば桜や桜島のディテールがよく分かる

ニコン D810／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／38mm／
絞り優先AE(F16、1/15秒、+1.0EV)／ISO 200／WB：5,000K

背景の青空がかすんでしまうと噴煙が映えないので、霞(かすみ)が少ない午前中の順光で明るめに撮影した。噴煙がないと桜島らしさは半減してしまう。ドンという鈍い音が聞こえたら撮影準備をはじめる。噴煙の最上部をカットすることで、煙が上へと伸びているように見せた。 (深澤 武)

84

鹿児島県垂水市海潟
3月下旬
10時
標準レンズ

桜島から垂水市方面へ向かう国道220号線の海潟トンネル付近の桜並木。JR鹿児島駅から車で約60分。北風が吹くと桜島から噴煙が降ってくるので注意

【長崎県】

西海橋公園

さいかいばしこうえん

朝日に照らされるアーチと満開の桜

TECHNIQUE

38mmで近づいてバランスを整える

西海橋の印象が強いので、桜が負けないように無駄な要素を省いて、シンプルに構成する。58mmで手前に取り込む桜の面積比を大きくして迫力を出し、絶対的な主役とした。奥の西海橋は主役に負けない名脇役としている。

65mmだと桜の印象が弱い

離れた高台から65mmで撮影すると望遠効果で橋の存在感が強くなる。桜の印象は弱くなり主役と脇役が逆転する

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM ／38mm ／
絞り優先AE（F16、1/10秒、+0.7EV）／ ISO 400／ WB：日陰

朝日が出た直後の斜光線がおすすめだが、手前の桜は日陰にあるため、WBが太陽光だと青みが強すぎて朝の雰囲気が伝わらない。そのためWBは日陰にして朝日に染まる橋の色を強調している。前景と背景の両方が被写界深度内に収まるように、F16まで絞り込んだ。（西川貴之）

85

- 長崎県佐世保市針尾東町
- 4月上旬
- 6時30分
- 標準レンズ

西九州自動車道佐世保大塔ICから国道205号と202号を経由して約20分。電車の場合は、JR佐世保駅から西肥バス西海橋行きで約50分、西海橋西口停留所下車

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-105mm F4L IS USM ／55mm ／
絞り優先AE（F13、1/60秒、+1.0EV）／ ISO 200／ WB：太陽光

【栃木県】

長福寺のしだれ桜

ちょうふくじ　ざくら

樹齢200年を超える長寿の桜

86

- 栃木県栃木市都賀町
- 4月上旬
- 9時
- 標準レンズ

東北自動車道栃木ICから約10分。電車の場合は東武鉄道新栃木駅下車後、タクシーで約10分で到着する。花の寺として知られており、四季折々の花を楽しめる

禅宗の寺院の中にあるしだれ桜を赤い屋根のお堂と境内の南側にある菜の花畑と組み合わせて、春の華やかさを表現した。菜の花の黄色としだれ桜のピンクがきれいに出るように＋1.0EVの露出補正をしている。さらに、PLフィルターを使用して空の青さも強調した。（金子美智子）

TECHNIQUE

ローポジションと横位置で要素を厳選

カメラポジションを低くすることで、手前に菜の花畑を入れつつ、奥にある車の駐車場や桜を見物に来ている人を隠すように撮影している。横位置にすることで空の面積も減らし、桜のピンクと屋根の赤、菜の花の黄だけに目が行く構図にしている。

縦位置では上側が大きく空きすぎる

メインカットと同じ場所から縦構図で撮影したもの。快晴の空は真っ青で素晴らしいのだが、空間がぽっかり空き、下部にバランスが偏る

〚千葉県〛

さくらの山(やまこうえん)公園

並木を飛び越えていく飛行機

キヤノン EOS-1D X ／ EF24-105mm F4L IS USM ／24mm ／マニュアル露出（F9、1/640秒）／ ISO 640／ WB：オート

TECHNIQUE

桜の並木で空の広がりを表現

この公園はたくさんの桜の木が並んでいるため、ライン状に配置すると奥行きを強調することができる。標準ズームレンズの広角端で、並木道を斜めに入れて空の広がりを表現した。

85mmだと桜がアップになる

85mmの望遠で、花と飛行機だけを切り取ると、奥行きの表現ではなくなる。ロケーションの存在感もなくなってしまう

長距離便は重量が重いため、上昇角度が低く、並木と近い距離で撮れる。そんな理由で北米か欧州行きの離陸機を狙った。被写界深度と手ブレしないシャッター速度を考えて、F9と1/640秒とした。機体が見えた時点で移動して、並木の入れ方を微調整した。　（チャーリィ古庄）

87

- 千葉県成田市駒井野
- 4月上旬
- 12時
- 標準レンズ

さくらの山公園には無料駐車場があるが、桜の時期は満車になる可能性が大。JR成田駅からバスの場合は、さくらの山停留所下車。順光になる11時30分以降がチャンス

〚徳島県〛

吉良(きら)のエドヒガン

月夜に見る樹齢400年の巨樹

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-105mm F4L IS USM ／24mm ／マニュアル露出（F13、30秒）／ ISO 400／ WB：マニュアル

88

- 徳島県美馬郡つるぎ町
- 3月下旬
- 22時30分
- 標準レンズ

徳島自動車道美馬ICから約30分。国道438号線から町道に入ってからの道は細いので、夜の運転は注意。夜桜を撮るときには近くに暮らす人にも配慮するマナーをお忘れなく

この立派な古木をより神秘的に捉えようと「月夜の夜桜」を狙った。月を逆光にして、広角レンズで夜桜を撮ると木が全体的にシルエットになり、花の色は消え気味だが、ここには提灯越しのアクセントライトが当たる。これを利用して光の足りない所はフラッシュで光を補った。（宮武健仁）

TECHNIQUE

ストロボを使って桜を照らす

桜の右側に少し離れてお堂があり、その前に提灯が吊るされていて23時まで灯っている。提灯で照らされた右側と月明かりで白く光る左上。光が足らずに影になる左下などをストロボで補ってバランス良く照らした。

提灯がないと真っ暗になる

23時を過ぎて提灯が消灯したあとは月明かりだけになる。ご覧のとおり真っ暗だ

89 富山県 向野の桜（むかいのさくら）
朝日に赤く輝くエドヒガン

キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ／EF70-200mm F4L IS USM／81mm／絞り優先AE（F13、1/10秒、－1.0EV）／ISO 100／WB：太陽光

桜の花をきれいな色で表現する時間帯の見極めは意外と難しい。エドヒガンは赤みが強いため、早朝の光を利用して赤みをより強調して撮影した。（新海良夫）

- 富山県南砺市中尾
- 4月中旬
- 6時
- 望遠レンズ

東海北陸自動車道福光ICより約10分。電車の場合はJR城端駅よりタクシーで約5分。山田川の堤防にある

90 福島県 花見山公園（はなみやまこうえん）
満開の桜と吾妻小富士

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF70-300mm F4-5.6L IS USM／140mm／絞り優先AE（F14、1/50秒、±0EV）／ISO 100／WB：太陽光

青空をきれいに表現したかったので午前中の光を選んだ。午後になると気温が上がり山並みがかすむことが多くなるので、午前中に撮影する方が良い。（高橋よしてる）

- 福島県福島市渡利
- 4月中旬
- 9時
- 望遠レンズ

JR福島駅東口より花見山直通の臨時バスで約20分。開花シーズンは交通規制のためマイカーの乗り入れは不可

91 三重県 春谷寺のエドヒガン桜（しゅんこくじのえどひがんざくら）
樹齢400年のヒガンザクラ

キヤノン EOS 5D／EF24-70mm F2.8L USM／45mm／絞り優先AE（F16、1/13秒、－1.3EV）／ISO 100／WB：太陽光

周囲に咲く桃色の花をあしらって撮影。電柱など人工物も多い場所なので、画面に入らないようカットしよう。やや仰ぐように撮って、桜の存在感を出した。（星野佑佳）

- 三重県松阪市飯南町
- 3月下旬
- 9時30分
- 標準レンズ

伊勢自動車道松阪ICから国道166号経由車で約35分。山の方に進むと車を停めるスペースがある。夜はライトアップされる

92 千葉県 吉高の大桜（よしたかのおおざくら）
巨木の一本桜と菜の花

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-105mm F4L IS USM／40mm／絞り優先AE（F16、1/60秒、－0.3EV）／ISO 100／WB：太陽光

全ての花が同時に開花することが少なく開花期間も短めなので市役所の開花情報をチェックする。遠めから標準レンズ以上で狙うと桜の形を表しやすい。（高橋よしてる）

- 千葉県印西市吉高
- 4月上旬
- 14時
- 標準レンズ

北総鉄道印旛日本医大駅からバスで教習所前で下車し、徒歩で約15分。開花シーズン中は、近辺は車両進入禁止となるので注意

93 石川県 金沢城公園（かなざわじょうこうえん）
あんどんが桜を温かく照らす

キヤノン EOS-1Ds Mark Ⅲ／EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM／35mm／絞り優先AE（F8、6秒、－0.5EV）／ISO 200／WB：太陽光

日没後約50分後に撮影。夜空が浮き上がらないように、－0.5EV露出補正した。あんどんに照らされた桜色を鮮やかに出すためにWBは太陽光にした。（新海良夫）

- 石川県金沢市丸の内
- 4月中旬
- 19時30分
- 標準レンズ

JR金沢駅からバスで約10分、兼六園下停留所下車後、徒歩で約5分。石川門がよく見える兼六園側から撮影すると良い

94 鳥取県 大岩駅（おおいわえき）
桜名所として有名な駅

キヤノン EOS 7D／EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM／220mm（352mm相当）／マニュアル露出（F11、1/400秒）／ISO 400／WB：太陽光

鳥取の桜名所として人気の大岩駅。半逆光で撮影すると桜に立体感が出ると同時に風景に奥行きが生まれる。屋根瓦が輝くのもアクセントとして狙っていた。（長根広和）

- 鳥取県岩美郡岩美町
- 4月上旬
- 15時30分
- 望遠レンズ

JR大岩駅すぐ横の踏切脇から撮影。くれぐれも線路に近づき過ぎず、安全な立ち位置から撮影しよう

95 茨城県 雨引観音（あまびきかんのん）

山門に遥か筑波山を望む

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF16-35mm F4L IS USM ／25mm ／絞り優先AE（F16、1/50秒、±0EV）／ISO 100／ WB：太陽光

- 茨城県桜川市本木
- 10月中旬
- 16時
- 標準レンズ

北関東自動車道桜川筑西ICから約15分。境内からの撮影となるため、立入禁止や柵を越えないように配慮しながら撮影すること

山並みがはっきりと見えた方が良いので、かすみやPM2.5が少ないヌケの良い日に撮影に行こう。山門から加波山、筑波山を入れる広角レンズが必要だ。（高橋よしてる）

96 新潟県 高田公園（たかだこうえん）

ライトに浮かぶ桜と三重櫓

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-105mm F4L IS USM ／40mm ／絞り優先AE（F11、0.4秒、＋1.3EV）／ISO 1600／ WB：4,500K

- 新潟県上越市本城町
- 4月中旬
- 18時30分
- 標準レンズ

北陸自動車道上越IC、もしくは上信越自動車道上越高田ICから約10分。有料の臨時駐車場がある

薄暮の時間である18時30分に撮影した。桜と三重櫓がかぶらないように構成。全体の色合いのバランスを考え、WBは4,500Kにして空の青味を生かした。（西川貴之）

97 山口県 錦帯橋（きんたいきょう）

夜桜に浮かぶ木造アーチ橋

ニコン D3X ／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED ／48mm ／マニュアル露出（F8、10秒）／ISO 100／ WB：5,700K

- 山口県岩国市岩国
- 4月上旬
- 19時
- 標準レンズ

山陽自動車道岩国ICから約10分。電車の場合はJR岩国駅からバスに乗車し、錦帯橋バス停で下車する

桜が暗く沈み込まないように、薄暮の時間に撮影する。フラッシュを使い手前に弱い光を当てると良い。橋を歩く人は10秒の長秒露光をするとぼけて消える。（山梨将典）

98 山梨県 実相寺（じっそうじ）

甲斐駒ケ岳とコラボレーション

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／EF24-105mm F4L IS USM ／55mm ／絞り優先AE（F11、1/160秒、−0.3EV）／ISO 160／ WB：太陽光

- 山梨県北杜市武川町山高
- 4月中旬
- 9時
- 標準レンズ

JR日野春駅からタクシーで約15分。車の場合は中央自動車道須玉ICより約15分。スイセンの畑には入らないように注意すること

南アルプスの山並みが見える撮影位置の選択が重要。青空と花をきれいに写したいなら午前中の光がおすすめだ。午後になると人が増えて前景は入れにくい。（高橋よしてる）

99 北海道 長寿桜（ちょうじゅさくら）

牧場にポツンと咲く一本桜

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR ／24mm ／絞り優先AE（F11、1/200秒、＋1.0EV）／ISO 400／ WB：晴天

- 北海道浦河郡浦河町
- 5月上旬
- 11時
- 標準レンズ

日高自動車道日高門別ICから国道235号を経由し、国道236号を浦河方面へ車で約1時間30分。無料の駐車場あり

桜に陰ができにくいトップライトの時間帯を選び、空と雲を生かすためにPLフィルターを使った。風があったので、ISO感度を上げて桜がぶれるのを防いだ。（星野佑佳）

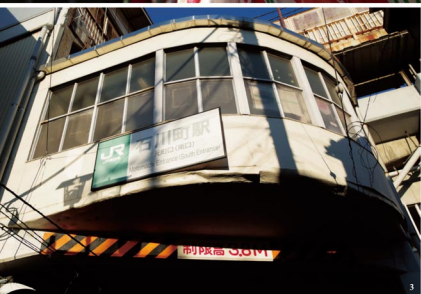
100 兵庫県 姫路城（ひめじじょう）

堀に映り込む桜と純白の城

ニコン D810／ AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED ／24mm ／マニュアル露出（F8、1/200秒）／ISO 320／ WB：5,200K

- 兵庫県姫路市本町
- 4月上旬
- 8時
- 標準レンズ

JR姫路駅より徒歩約20分。車の場合は山陽自動車道姫路東ICと姫路西ICからいずれも約20分で到着

ローアングルで水面をのびやかに写している。ローアングル撮影が可能な場所は5名分しかない狭い場所なので三脚で場所を独占せず、手持ち撮影しよう。（山梨将典）

① HD PENTAX-DA 20-40mmF2.8-4ED Limited DC WR ／20mm（30mm相当）／プログラムAE（F5.6、1/160秒、−0.3EV）／ISO 200／WB：オート

夕日を浴びて立体的に浮かび上がるトルソー。D-Range設定の効果で、白飛びを軽減しつつ光と影が良いバランスで再現された

② HD PENTAX-DA 20-40mmF2.8-4ED Limited DC WR ／40mm（60mm相当）／絞り優先AE（F4、1/125秒、−0.7EV）／ISO 100／WB：オート

視野率約100%、約0.95倍の光学ファインダーで、路地裏に差し込む光を感じながら撮影した

③ HD PENTAX-DA 20-40mmF2.8-4ED Limited DC WR ／20mm（30mm相当）／プログラムAE（F8、1/400秒、±0EV）／ISO 200／WB：オート

外壁の質感などを鮮明に捉えていて、駅名板の経年劣化の様子もしっかりと確認できる。緻密かつ階調豊かな画像だ

④ HD PENTAX-DA 16-85mmF3.5-5.6ED DC WR ／16mm（24mm相当）／プログラムAE（F7.1、1/250秒、±0EV）／ISO 100／WB：オート

レンズ補正がしっかり効いて、画面の隅々まで安定した描写が得られた。カスタムイメージ、ナチュラルは自然な色合いで好印象

クラシカルデザインのAPS-C機

超 高感度 小型 スタイリッシュ PENTAX KP

シルバー

ブラック

● 発売日 2017年2月23日 ● 実勢価格 138,000円前後

写真・文●岡嶋和幸

しばらくの沈黙を破り、リコーから待望の新機種が登場！ フィルムカメラを彷彿とさせるスタイリッシュな小型ボディが話題だが、K-1のAPS-C機版といっても良いほど高性能。ISO 819200を搭載し、画像処理エンジンのPRIME IV&アクセラレーターユニットがノイズを低減して高画質を生み出す。今月は、高感度撮影による実写を交えながら新機能紹介を中心とした速報レポートをお届けする。

※試作機による評価のため、製品版と外観および画質が異なる可能性があります

5 HD PENTAX-DA 16-85mmF3.5-5.6ED DC WR ／31mm（46mm相当）／プログラムAE（F9、1/320秒、−0.3EV）／ISO 100／WB：オート

高台から住宅地を見下ろす。約2,432万画素の高解像度で、細部までシャープだ

6 HD PENTAX-DA 20-40mmF2.8-4ED Limited DC WR ／40mm（60mm相当）／プログラムAE（F4、1/200秒、±0EV）／ISO 25600／WB：オート

ISO 25600の超高感度だが、解像感とノイズがバランス良く決まっている

7 HD PENTAX-DA 55-300mmF4-5.8ED WR ／150mm（225mm相当）／プログラムAE（F7.1、1/250秒、±0EV）／ISO 800／WB：オート

2人の輪郭は線が細くて滑らかで、ぼけた背景との分離も自然に感じられる

8 HD PENTAX-DA 15mmF4ED AL Limited ／15mm（22mm相当）／プログラムAE（F9、1/1,250秒、±0EV）／ISO 200／WB：オート

トビたちを素早く的確に捉えた。従来のAFシステムより速くて迷いも少なくなった印象

SPEC 撮像素子：**約23.5×15.6mm CMOSセンサー（APS-C）**／有効画素数：**約2,432万画素**／ファインダー視野率：**約100%**／シャッター速度：**1/6,000秒～30秒、バルブ（メカシャッター）、1/24,000秒～30秒（電子シャッター）**／連写速度：**約7コマ/秒（JPEG L★★★連続H）・約3コマ/秒（JPEG L★★★連続M）・約0.8コマ/秒（JPEG L★★★連続L）**／ISO感度：**ISO 100～819200**／手ブレ補正機構：**SR Ⅱ**／ローパスセレクター：**オフ、Type1、Type2、ブラケット（2枚）、ブラケット（3枚）**／記録メディア：**SD、SDHC、SDXCメモリーカード**／背面液晶モニター：**3型約92.1万ドットTFTカラー液晶**／外形寸法（W×H×D）：**約131.5×101×76mm（突起部を除く）**／質量：**約703g（バッテリー、SDカードを含む）**

設定ダイヤル

機能ダイヤルで選択した機能の設定を、ダイヤル操作だけで素早く変更できる。無効のときは、ダイヤルが動いても何も変わらない

機能ダイヤル

無効、測光方式、HDR撮影のタイプ、連続撮影の速度の4つの他、好みの機能を登録できるC1～C3が切り替えられる

スマートファンクション

機能ダイヤルで選んだ機能の設定を、設定ダイヤルで瞬時に変更できるシステム

シャッターボタン

電源レバー

前電子ダイヤル

露出などの設定値を変更する。メニューが表示されているときは、メニューのカテゴリーを切り替える

モードダイヤル

7つの露出モード、シーンアナライズオートモードの他、5つのUSERモードを用意。モードダイヤルロックボタンを押しながら回して撮影モードを切り替える

電子水準器／消去／Fx2ボタン

ファインダー内、ライブビューの電子水準器表示のオン／オフを切り替える。再生モード時は画像を消去

ファインダー

約100%のペンタプリズムファインダー。倍率は約0.95×（50mmF1.4・∞）

後電子ダイヤル

露出などの設定値を変更。再生モード時は画像を拡大したりする

静止画／LV／動画切替レバー

チルト式液晶モニター

上方向は約95度、下方向は約45度まで角度を変えられる。反射も少なく見やすい

スマートファンクションに登録できる機能：無効／測光方式／HDR撮影の種類／連続撮影の速度／カスタムイメージ／ローパスセレクターのタイプ／画像モニターの明るさ／ISO感度／露出補正／ブラケット幅／AFモード／AFエリア／フォーカスアシスト／プログラムライン／シャッターモード／記録サイズ／グリッド表示の種類／情報表示／画像表示拡大

SEA SIDE SHOP
DRINK
FOOD
カレーライス ¥600
焼肉丼 ¥600
フライドポテト ¥350
ジャンボフランク ¥450
ピザ
枝豆
クレープ
ミニかき氷 ¥200
etc.
ソフトドリンク各種
M¥250 L¥300 LL¥350
生ビール
M¥500 L¥600
缶ビール
¥400
カクテル各種
¥500
etc.
SEA SIDE SHOP
FOOD
20

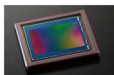
HD PENTAX-DA 55-300mmF4-5.8ED WR ／55mm（82mm相当）／プログラムAE（F6.3、1/160秒、±0EV）／ ISO 400／WB：オート

背後のゴージャスな結婚式場とは対照的に、シーズンオフで閑散としているビーチハウス。ゴチャゴチャしている様子だが、木や砂の細かいディテールまでしっかりと描写されていて、それぞれの質感が伝わってくる。光の捉え方も肉眼の印象に近く、臨場感があっていい

TOPIC 01 新CMOSとPRIME Ⅳ＋アクセラレーターユニットによる高画質

KPはAPS-Cサイズ相当で約2,432万画素のCMOSセンサーを搭載。有効画素数はK-3 Ⅱと同等だが、KPでは新設計のものが採用されている。光学ローパスフィルターレス仕様である点は同じで、イメージセンサーが持つ解像力を余さず生かしきめ細かくてシャープな画像が得られるという。さらに14bitの高速読み出し処理により階調が豊かだ。K-1にも搭載されている画像処理エンジンPRIME IVとアクセラレーターユニットにより、ノイズの少ない画像を高速に出力。高感度域でも解像感や階調性が損なわれないようにすることで、トーンジャンプやざらつきを抑えた優れた質感や立体感の描写になる。さらにはK-1のISO 204800を2段上回る、ISO 819200という超高感度撮影を実現。K-1やK-3 Ⅱでもおなじみのリアル・レゾリューション・システムとモアレを軽減するローパスセレクターはKPにも採用。どちらも手ブレ補正機構SR Ⅱを利用した先進技術だ。

▶ 高感度の拡大に貢献している新CMOSセンサー

ISO感度の上限を大幅に拡大することに成功している新しいCMOSセンサー。画像処理エンジン、アクセラレーターユニットと合わせて高画質を生成する

23.5×15.6mm、約2,432万画素CMOSセンサー

ISO AUTOの場合はISO 100〜819200まで、使用範囲を設定できる

かなりザラついているが、最高感度のISO 819200なら、光源がない暗闇でも被写体を写し取ることができる

F22まで絞って街灯から光条を発生させた。超高感度にすることで、手ブレしないシャッター速度を得ることができた

▶ 高精細な画像を生み出すリアル・レゾリューション・システム

イメージセンサーユニットを1画素ずつ移動させて4回露光し、1画素ごとにRGBの色情報を取り入れる。1枚の画素に合成することで超高精細な画像となる

TOPIC 02 小型でクラシカルなスタイリッシュボディ

KPはペンタ部分のルックスが似ていることから「プチK-1」の印象。K-3 Ⅱよりコンパクトかつスリムで、大きなグリップがなくなり、シャッターボタンは軍艦部へ。すっきりとしたボディデザインで、操作系もシンプルにまとめられている。ブラックとシルバーが選べて、Limitedレンズとのマッチングもいい。

- KP 131.5×101×76mm
- K-1 136.5×110×85.5mm
- K-3 Ⅱ 131.5×102.5×77.5mm

K-3 Ⅱよりも1.5mmスリム化されている

TOPIC 03 1/24,000秒の電子シャッターを搭載

K-1やK-3 Ⅱではリアル・レゾリューション・システムでの撮影時のみ電子シャッターが使われていたが、KPではメカシャッターとの切り換えが可能。ライブビューやミラーアップ時はさらに静音かつ低振動で撮影できる。

ビールをグラスに注ぐところを1/24,000秒で撮影。閃光時間が短いフラッシュで撮影したときのような、肉眼では見ることのできない流体の様子が捉えられた

Specification

小型ボディに惜しみなく入れたPENTAX最高スペック

リコーイメージングからAPS-Cサイズセンサーを搭載したミドルクラスのデジタル一眼レフカメラ「PENTAX KP」が登場した。撮像素子は有効約2,432万画素の新型のCMOSセンサーで、光学ローパスフィルターは非搭載。画像処理エンジンはK-1と同じPRIME IVで、最新のアクセラレーターユニットによる高速動作、優れた高感度性能と高画質を実現しているという。ISO感度設定の上限を大幅に拡大し、K-3 Ⅱの最高ISO 51200、K-1のISO 201800に対して、KPはISO 819200という超高感度撮影を可能にしている。AFシステムはK-3 Ⅱと同じSAFOX 11だが、アルゴリズムの改良により悪条件でのピントの迷いが減り、合焦速度も高速化しているという。KPはK-1やK-3 Ⅱ同様、位相差AFはEV－3の低輝度対応なので、暗い場所や低コントラストの条件でも問題ない。

KPの測距点は27点で、うち25点がクロスセンサーと、K-3 Ⅱと同じ。K-1のSAFOX 12は、35mm判フルサイズで画面が広いため33点と多めだが、クロスセンサーは25点と同じである。連続撮影はK-1の約4.4コマ/秒、K-3 Ⅱの約8.3コマ/秒に対して、KPは約7コマ/秒。シャッターユニットはK-1の30万回には及ばないが、10万回の耐久性能と高い動作精度を備えている。K-3 Ⅱのボディ内手ブレ補正機構はSR（Shake Reduction）で、その補正効果は約4.5段分。K-1とKPは角度ブレ、シフトブレ、回転ブレに対応する5軸補正のSR Ⅱで、約5段分の補正効果が得られるなど、手持ち撮影での対応シーンがさらに広がる。KPの光学ファインダーの視野率は約100%、倍率は約0.95倍（K-1は約0.7倍）。フォーカシングスクリーンが交換できる点はK-3 Ⅱと同じだ（K-1は非交換式）。背面液晶モニターはチルト式で、K-1と同じく明るさを素早く変更できるアウトドアモニター機能に対応。カスタムイメージはK-3 Ⅱにはない「オートセレクト」「フラット」が選べる他、デジタルフィルターの種類もK-1と同じく充実している。Wi-Fi機能に対応していて、スマートフォンアプリによるリモート撮影なども楽しめる。ただ、KPは小型化のためだろう、K-1やK-3 Ⅱのようにデュアルスロットではなく、GPSユニットも搭載されていないが、GPS機能には別売のGPSユニットで対応できる。

チューニングされた SAFOX11

AFシステムのSAFOX 11は最新のアルゴリズムを採用した改良型で、従来よりも高速に合焦。悪条件でも迷いが少なくなっているという。回折レンズの採用でAFユニット内の色収差を補正し、高い検出精度を実現した。

▶ 27点（クロス25点）AFシステム

+ クロスセンサー
| ラインセンサー
+ F2.8光束ラインセンサー

67カ所のシーリングによる防塵・防滴

KPは67カ所にシーリングが施されていて、水滴やホコリが浸入しにくい。防塵・防滴のAWレンズやバッテリーグリップD-BG7、WRレンズと組み合わせることで、悪天候でも安心して撮影が楽しめる。

開閉カバー、外装の合わせ目など67カ所をシーリング

自動で3枚撮影できるブラケット撮影機能

1回のレリーズで露出を変えずに、選んだF値から段階的に絞りを変えたり、選んだシャッター速度を変えながら3枚の画像を連続撮影する機能が被写界深度ブラケットとモーションブラケット。従来は手動で変える必要があったが、ボケや動感の異なる写真を自動で撮影できるので便利だ。ブラケット幅は1/3EVまたは1/2EVステップで、最大±3EVステップまで設定可能。

▶ 被写界深度ブラケット

被写界深度ブラケットは露出モードがAvのときに選択できる。三脚いらずで被写界深度の異なる写真を一度に撮れる。ステップ幅を広げると大胆に表現を変えることができる

F2.8

F8

F22

▶ モーションブラケット

モーションブラケットは露出モードがTvのときに選択できる。セルフタイマーも設定できるので、三脚使用時など低速シャッターでのカメラブレ防止に役立てられる

1/15秒

1/125秒

1/1,000秒

別売りのグリップでカスタマイズが可能

グリップ交換システムもKPの目玉の1つで、3種類が用意されている。購入時の標準装備は薄型のS。Limitedレンズとの組み合わせにぴったりだ。携行性とホールド性を高めたいのならMが良い。大口径の望遠ズームなど大きめのレンズを装着したときには、しっかり握れるLが最適。LはバッテリーグリップD-BG7にも同梱されている。

グリップM
O-GP1671
実勢価格
3,900円前後

グリップL
O-GP1672
実勢価格
4,800円前後

S

M

L

1

2

付属の六角レンチを使って、取り外しと取り付けを行う。簡単に行える

Feeling

幅広いフィールドで“使える”マルチなカメラだと実感

PENTAX KPは新しいコンセプトのミドルクラスのカメラなのだが、基本性能などK-3 Ⅱとつながる部分は少なくなく、その後継機と捉えられなくもない。でも、いろいろ比較をするとK-1にかなり近い存在であることが分かる。ペンタプリズムの形状をモチーフにした軍艦部のフォルムからも、そのAPS-C版との印象を受ける。機能ダイヤルと設定ダイヤルを装備している点もそのように感じる理由の1つ。その位置に大きな表示パネルがあるK-3 Ⅱとは操作スタイルは違ってくる。スマートファンクションの対応機能はK-1の9種類から、KPでは18種類に増えていて、より自分に合ったカスタマイズが可能だ。機能ダイヤルの下に静止画、ライブビュー、動画の切り替えレバーがあり、それぞれ電源オンと同時に撮影できてK-1やK-3 Ⅱより便利。スマートファンクション他、AFの動作設定、よく使う機能を割り当てられる3つのFxボタン、各種設定の確認や変更ができるコントロールパネルなど、高いカスタマイズ性にも魅力を感じる。さらにはK-3 Ⅱの3つから5つになったUSERモードに被写体やシーン、表現意図ごとによく使う設定を登録すれば、モードダイヤルを回すだけで素早く対応できるようになる。従来の機種よりさらに踏み込んだ使いこなしが楽しめそうだ。KPで初めて搭載された被写界深度ブラケットとモーションブラケットは、どちらもこれまで面倒に感じていたことが自動化できてとても便利。ISO感度AUTO設定の低速限界のシャッター速度を設定できる機能の追加もうれしい。手ブレ補正だけでなく、被写体ブレについてもきめ細かく対応できる。グリップ交換システムは、ボディのスリム化とホールド性の両立のためのナイスアイデア。手の大きさや好み、持ち方の工夫、慣れも関係してくるが、標準装備のグリップSは私の手にはやや頼りなく感じたので、グリップMに交換したいと思った。KPは小型・軽量という点ではミラーレス機が有利だが、光学ファインダーで実像を見ながらの撮影にこだわりつつ、フットワークを軽くしたいユーザーには魅力的な1台となるはずだ。Limitedレンズとのバランスも良くその機動性を生かせる。防塵・防滴で耐寒性能も備えるタフな作りで幅広いフィールドで活躍できそうだ。

COSINA WIDE HELIAR WORLD

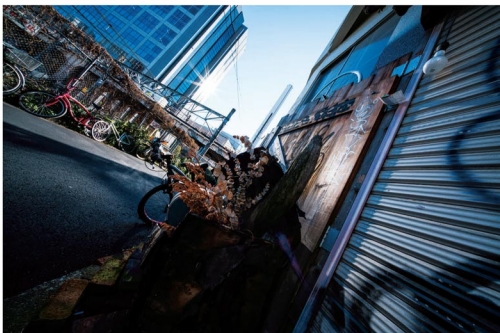
ソニー α7 II／ HELIAR-HYPER WIDE 10mm F5.6 Aspherical ／10mm ／絞り優先AE（F8、1/400秒、−1.3EV）／ ISO 100／ WB：オート

対角線を生かして構図を決めることで、10mmの広がりを最大限に強調できる。光条がアクセントとなり、建築の線が描く硬質な画面にリズムが。空のグラデーションが印象的だ

LENS 02

HELIAR-HYPER WIDE 10mm F5.6 Aspherical E-mount

大和田 良 Ryo Ohwada

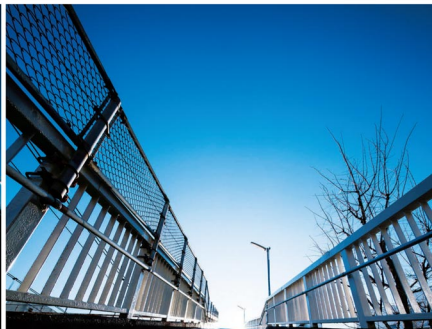
大和田 良（おおわだ りょう）：1978年宮城県生まれ。東京工芸大学大学院芸術学科研究科卒業。2005年、スイス・エリゼ美術館「reGeneration.50 Photographers of Tomorrow」展に選出。ドイツのLUMASギャラリーなど国内外で作品発表。2007年、初の写真集『prism』を青幻舎より刊行。2010年、フォトエッセイ『ノーツ オン フォトグラフィー』をリブロアルテより刊行。雑誌、広告媒体などでも活躍しつつ、個展やグループ展などを多数開催。独自の作品を発表し続けている。東京工芸大学非常勤講師

対角線を意識することが10mmの攻略法

絞り優先AE（F8、1/200秒、－0.3EV）／ ISO 100 ／ WB：オート

渋谷駅の再開発工事現場。歩道橋からカメラを水平に構えて撮影。順光状態のため空が深い青で写る。周辺に向かってビルが伸びるように描かれ、広角ならではの効果が強く感じられる

10mmという驚異的な超広角を使用するのは初めての経験であり、魚眼レンズのような世界を想像していたが、実際にカメラのファインダーをのぞき込むと良い意味で肩透かしを覚えた。学生の頃、50mmばかりを使い込み、初めて28mmの画角を体験した戸惑いとはずいぶん違う。おそらく10mmという世界はそのあたりの「慣れ」という感覚を飛び抜けた存在なのだろう。はじめはMFアシスト機能を使って、部分拡大しながらピントを合わせようとしたが、すぐにあまり意味がないことに気づいた。10mmという性質上、はじめから被写界深度が深いため、ほとんどすべてをF8に固定して、目測で距離を合わせて撮影した。超広角の世界では水平を目測で出すのも困難で、それも最終的にはあまり気にしなくなった。唯一、意識したことは“斜めの線”をどう使うかということだ。画面の対角線をどのように伸ばすかで、得られる遠近感や臨場感が大きく変化する。その他は目に見えた絵に反応してシャッターを押すだけだった。この肉体的な感覚が10mmという世界の醍醐味なのだろう。新たな写真を溢れるように与えてくれる希有なレンズとの出合いだった。

SPECIFICATION

- 焦点距離：10mm
- 口径比：1：5.6
- 最小絞り：F22
- レンズ構成：10群13枚
- 画角：130°
- 絞り羽根枚数：10枚
- 最短撮影距離：0.3m
- 最大径×全長：φ67.4×68.5mm
- 質量：375g
- レンズフード：一体型
- 電子接点：対応（Exif、レンズ補正、5軸ボディー内手ブレ対応）
- 発売日：2016年5月
- マウント：E-mount

① 絞り優先AE（F8、1/500秒、－0.3EV）／ISO 100／WB：オート
並木橋付近の横断歩道でのスナップ。並んだ白線に反射する光が、アスファルトの暗さと対比されてグラフィカルな画面に仕上がった。縦位置によって奥行きが強調されている

② 絞り優先AE（F8、1/60秒、－0.3EV）／ISO 100／WB：オート
被写体に手を伸ばして近づいても、思った以上に小さく写る。ある程度大きく写したければ被写体にレンズが触れるほどに寄るしかない

③ 絞り優先AE（F8、1/250秒、－0.3EV）／ISO 100／WB：オート
線路脇の金網に寄りかかって撮影。最も近い部分はレンズ側面に付くほどの距離だ。どう写るのかは撮るまで判断できない。とにかくさまざまな角度と距離で撮ることが楽しい

④ 絞り優先AE（F8、1/500秒、－0.7EV）／ISO 100／WB：オート
ゲートブリッジを真下から撮影。空が広く写り、白から群青までの色の変化が印象的だ。建築物に反射した川面からの光が画面にアクセントを与えている

⑤ 絞り優先AE（F8、1/60秒、±0EV）／ISO 100／WB：オート
恵比寿の歩道橋で写した螺旋階段。対角線を意識して長くうねるように伸びる階段を再現した。斜めに構えた場合は画面周辺のゆがみもさほど気にならないように感じる

⑥ 絞り優先AE（F8、1/500秒、－1.0EV）／ISO 100／WB：オート
並木橋近くの歩道橋。地面すれすれから上向きに撮影。10mmならではの表現。階段の上部に太陽を置いたことで、画面に輝きが感じられる

HELIAR-HYPER WIDE 10mm F5.6 Aspherical

協力：株式会社コシナ

LEICA DG VARIO-ELMAR 100-400mm / F4.0-6.3 ASPH. / POWER O.I.S. ／400mm（800mm相当）／シャッター優先AE（F6.3、1/1,000秒、−0.7EV）／ISO 640／WB：晴天

鳥が羽ばたく瞬間を6K PHOTOで撮影。鳥が羽ばたきそうだったので、瞬時にカメラを向けて撮影を開始したがラグもなくAFも速かった。羽のディテールまでしっかり確認できる

6K PHOTO

約1,800万画素×秒30コマのAF追従連写

【決定的瞬間を写真画質で残せる】

GH5で注目したいのが6K PHOTOだ。GH4の4K PHOTOは約800万画素、プリントはA3サイズまでが限度だったが、GH5では2.25倍の約1,800万画素に進化。GH4の静止画時有効画素数1,605万画素を上回るA1プリント対応だ。通常撮影と遜色のない写真画質を秒30コマで撮影した中から切り出せる。さらに前後コマの分析と合成により、ノイズの低減や、ローリングシャッター歪みの補正も行えるなど、通常の撮影ではできないことまで可能。AFは今までになく高速。特にプリ連写では今までのカメラではもたつきが感じられたが、GH5ではストレスなく使用できる。

ドライブモードの1つとして選べる

6K PHOTOはドライブモードダイヤルで素早く選択可能。6K対応のフォーカスセレクトも同ダイヤルで呼び出せる。写真画質となった結果、連写モードの1つとして使えるようになったといえる。

多彩なスタイルを選択可能な「6K/4K PHOTO機能」

6K PHOTOだけでなく、従来の4K PHOTOも選択可能。4K時は2倍の60コマ/秒にフレームレートを上げられる。さらに、3つの撮影スタイルとの組み合わせを、用途に応じて変更できる。

画素数と連写速度

- **6K・30コマ/秒**
- **4K・60コマ/秒**
- **4K・30コマ/秒**

×

撮影スタイル

- **連写**：シャッターボタンを押している間、高速連写する
- **連写（S/S）**：シャッターボタンを押すと開始、もう一度押すと終了する
- **プリ連写**：シャッターボタンを押した前後1秒間を記録する

※試作機による評価のため、製品版と外観および画質が異なる可能性があります

機動力と画質を兼ね備えたフラッグシップ

パナソニック LUMIX GH5

発売予定日
2017年3月23日
予想実勢価格
259,000円前後
（ボディ）
291,000円前後
（レンズキット）

6K PHOTOや4K/60p動画といった先進的な機能が注目されがちだが、LUMIXのフラッグシップ機としてふさわしい静止画撮影機能も充実したカメラだ。

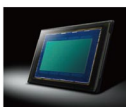
写真・文•上田晃司

FUNCTION

使い勝手も向上した静止画撮影性能

【 FRONT 】

新開発センサー&エンジン

有効画素数約2,033万画素の新開発センサーを採用。ローパスフィルターレスで解像性能も向上した。ヴィーナスエンジンも新開発となり、特に明部と暗部の色再現性能が向上している

望遠域にも強い手ブレ補正

ボディ内手ブレ補正はシャッター速度5段分の補正効果を実現。「Dual I.S.2」にも対応し、ボディとレンズ補正の両方を活用することで、280mm相当の望遠域まで5段分の補正効果を維持する

【 BACK 】

368万ドットOLEDファインダー

ファインダーには最高クラスの368万ドット有機ELを採用。ファインダー倍率は0.76倍相当でコントラスト比は10000:1とハイコントラスト。タイムラグも感じさせない非常に優秀なファインダーだ

AF選択が早いジョイスティック

定評のあるタッチパッドAFも今までどおり搭載されているが、ジョイスティックも新搭載。フォーカスポイントが225点と増えているのでジョイスティックの方が操作しやすくスピーディーだ

UHS-Ⅱ対応のダブルスロット

2つともUHS-Ⅰ/Ⅱ対応のダブルスロットを採用。1枚目の容量が一杯になると次のカードに切り替わるリレー記録の他、バックアップ記録、写真と動画を別に記録する振り分け記録を選択可能

SPECIFICATION

※青字は比較して有利なスペック

	GH5	GH4
有効画素数	約2,033万画素	約1,605万画素
AF測距点	225点	49点
AF速度	約0.05秒	約0.07秒
ISO感度	100（拡張）、200～25600	100（拡張）、200～25600
シャッター速度	メカ：1/8,000～60秒 電子：1/16,000～1秒	メカ：1/8,000～60秒 電子：サイレントシャッターのみ
連続撮影速度	[AF非追従]：約12コマ／秒 [AF追従]：約9コマ／秒	[AF非追従]：約12コマ／秒 [AF追従]：約7コマ／秒
ボディ内手ブレ補正	5軸/5段	―
動画	4K/60pほか	4K/30pほか
ファインダー	約368万ドット有機EL	約236万ドット有機EL
背面モニター	3.2型約162万ドット液晶	3型約104万ドット有機EL
タフネス性能	防塵・防滴・耐低温（－10度）	防塵・防滴
外形寸法（W×H×D）	約138.5×98.1×87.4mm	約132.9×93.4×83.9mm
質量（バッテリー・メディア含む）	約725g	約560g

新しくなった空間認識AF

空間認識AFはレンズの光学データとボケ量から物体距離を演算し、被写体までの距離を算出する機能。分解能は約8倍と高精度化、センサー駆動は480fpsと約6倍高速化しており、AF追従精度が格段に向上した。

• 225点マルチAF

測距点もGH4の49点から225点に大幅増。細かなAF枠選択が可能だ

• AFカスタマイズ

動体追従時の追従感度なども細かくチューニングできる

1 LEICA DG SUMMILUX 12mm / F1.4 ASPH./ POWER O.I.S ／12mm（24mm相当）／絞り優先AE（F4.5、1/500秒、+0.3EV）／ISO 200／ WB：オート

香港のマンションを撮影。鮮やかな運動広場とマンションをバランス良く配置した。12mm/F1.4の単焦点レンズとの組み合わせで、マンションの隅々までシャープに捉えられていることが分かる

2 LEICA DG VARIO-ELMAR 100-400mm / F4.0-6.3 ASPH. / POWER O.I.S. ／400mm（800mm相当）／シャッター優先AE（F4、1/1,000秒、−0.7EV）／ ISO 320／ WB：日陰

羽田空港から離陸する飛行機を撮影。夕日が当たる機体が美しい。ハイライトから暗部までしっかりと表現できておりダイナミックレンジも広い。AFも速く正確にピントを合わせることができた

3 LEICA DG VARIO-ELMARIT 12-60mm / F2.8-4.0 ASPH. / POWER O.I.S. ／12mm（24mm相当）／絞り優先AE（F2.8、1/80秒、−0.3EV）／ISO 1600／ WB：晴天

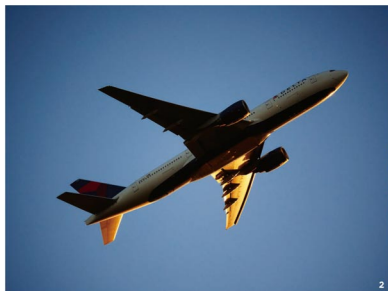
暗くなってきた時間帯に店先の雑貨を撮影した。雑貨の細かなディテールも暗部までしっかりと解像している。Dual I.S. 2のおかげで1/10秒のシャッター速度でも手ブレしていない

繊細な描写力と高い機動力はフラッグシップにふさわしい

GHシリーズが約3年の時を経てリニューアルされる。このGH5を機にLUMIXプロフェッショナルサービスが始まることも自信の表れといっても良いだろう。今回は静止画部分をメインにご紹介する。まずは画質。撮像素子は有効画素数約2,030万画素。これまでもGX8で20Mセンサーを採用しているが、ローパスフィルターレス設計は初だ。実写画像を見てもローパスレスと高画素化のおかげで線が細く、遠景から近距離、細かなパターンまで繊細に描写が可能だ。シャッターショックが小さいことも解像力に貢献している。絵作りも改善され、従来より多くの画素情報を参照し画像を生成する「マルチピクセル輝度生成」により、高コントラストと高解像度の両立が可能となった。高感度性能はマイクロフォーサーズ機の苦手な部分だが、個人的には厳しく見て実用はISO 3200、シーンによってはISO 6400まで使えそうだ。

空間認識AFは高速･高精度化され、苦手だった動く被写体もなんなく撮影できる。空間認識に加え、動作ベクトルの予測、奥行きの距離情報など予測技術も向上している。今まで以上にレスポンスが良く、合焦速度は約0.05秒。一眼レフとほぼ変わりない体感速度でピントを合わせられる。

メニューも一新され、より分かりやすくスピーディにアクセス可能。マイメニューを搭載し、カスタマイズ性も向上している。ボディー自体はGH4に比べ一回り大きくなったが、ジョイスティックを搭載するなど操作性も飛躍的に良くなった。

動画性能ばかり注目されるGH5だが、動体追従性能、AF速度、画質面とすべてが向上した。防塵･防滴･耐低温とタフなので、風景から動体までさまざまな撮影に対応できる。フラッグシップとしてふさわしい進化を遂げたといえるだろう。

パナソニック

LEICA DG VARIO-ELMARIT 12-60mm/F2.8-4.0 ASPH. / POWER O.I.S.

発売予定日
2017年2月23日
予想実勢価格
108,000円前後

NEW LEICA LENS

F2.8-4シリーズ第1弾

SPECIFICATION

フード付属

- レンズ構成：12群14枚
- 最小絞り：F22
- 絞り羽根枚数：9枚（円形）
- 最短撮影距離：0.2m（広角端）
- 最大撮影倍率：0.3倍（0.6倍相当）
- フィルター径：φ62mm
- 外形寸法（最大径×全長）：φ68.4×86mm
- 質量：約320g

LEICA銘を冠するレンズ

ライカ光学基準をクリアした高性能。EDレンズを2枚、非球面レンズを4枚使用するこだわりの設計だ。鏡筒もライカ銘に相応しい高級感のあるデザインを採用している

Dual I.S.2に対応

光学式手ブレ補正O.I.S.を搭載。Dual I.S.2に対応しておりボディ内手ブレ補正と組み合わせて、望遠端まで高い精度で5段分の手ブレが補正される

【オールマイティーに使える高画質なレンズ】

ここ数年LUMIXは交換レンズを次々と発売しておりファンの1人としてうれしい限りだ。名玉ぞろいのライカラインは単焦点中心だったが、久々にズームの「LEICA DG VARIO-ELMARIT 12-60mm / F2.8-4.0 ASPH. / POWER O.I.S.」が発表された。12-60mmはLUMIX Gシリーズにも同焦点距離のレンズがあるが、F値やレンズ構成も違う。ライカ基準で作られているので、最高級の1本と考えると良い。特徴は5倍ズームで、広角24mmから120mm相当の使い勝手の良い焦点域をカバーしているのでオールマイティーに使える。開放F値はF2.8-4とライカのズームレンズらしい設定だ。鏡筒もライカのレンズデザインを継承し、高級感がある。質量は約320g、GH5とのバランスは抜群だ。描写力は非常に高く、遠景のビル群などの細かな所までシャープに解像する。中央から周辺までの画質の安定感もズームレンズとは思えない。ナノサーフェスコーティングが施され、実写時にフレアやゴーストで悩むことはなかった。Dual I.S.2にも対応し、望遠側1/4秒でも十分手持ち撮影できた。防塵・防滴・耐低温でGH5と組み合わせればあらゆる場所に持ち出せる。

4 LEICA DG VARIO-ELMARIT 12-60mm / F2.8-4.0 ASPH. / POWER O.I.S. ／60mm（120mm相当）／絞り優先AE（F4、1/160秒、±0EV）／ ISO 200／ WB：晴天

望遠端の最短撮影距離で花を撮影。最短撮影距離は望遠端で24cm、最大撮影倍率は0.6倍相当なので簡易マクロ的に使用できる。近接域でもしっかりとコントラストがあり解像感も十分だ

5 LEICA DG VARIO-ELMARIT 12-60mm / F2.8-4.0 ASPH. / POWER O.I.S. ／60mm（120mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/2,500秒、±0EV）／ ISO 200／ WB：オート

望遠端で新宿のビル群を撮影。周辺部まで高い解像感が魅力だ。GH5のローパスフィルターレスセンサーやエンジンとも相性は抜群。エッジ部の不自然な縁取りもなく、細かい線で都市風景が解像されている

6 LEICA DG VARIO-ELMARIT 12-60mm / F2.8-4.0 ASPH. / POWER O.I.S. ／12mm（24mm相当）／絞り優先AE（F8、1/800秒、－1.0EV）／ ISO 200／ WB：晴天

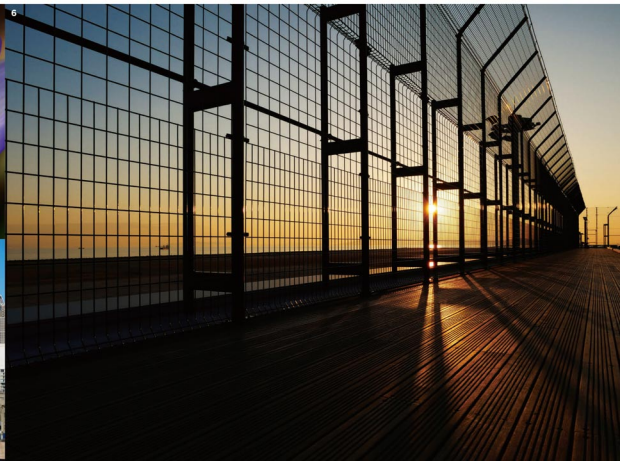
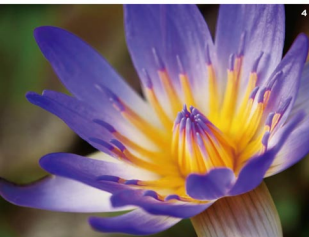
空港の展望デッキと夕日が印象的だったので撮影した。強い光ではあったが、ナノサーフェスコーティングのおかげでゴーストやフレアは気にならない。また、フェンスの細かなディテールまでしっかり解像している

4

5

6

兄弟機を徹底比較!

キヤノンのエントリークラス一眼レフカメラがそろって後継機を発売する。スペックは同等だが、デザインや操作性という面で明確にコンセプトが異なる。使い方に合わせて確かな選択をしてほしい。

文•高橋良輔

中級機に迫る操作性が魅力のプレミアムエントリーモデル

Canon | キヤノン

EOS 9000D

- 発売予定日 2017年4月上旬
- 予想実勢価格 100,000円前後(ボディ)、150,000円前後(EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM レンズキット)、140,000円前後(EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM、EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM ダブルズームキット)

上位機種に並ぶ2ダイヤル操作の9000Dとシンプルな操作性で親しみやすいX9i

EOS 9000D

EOS Kiss X9i

両者の違いはサブ電子ダイヤルの有無にある。EOS 9000Dは上位機と同様にサブ電子ダイヤルを備え、基本的な機能も同じだ。EOS Kiss X9iはサブ電子ダイヤルを備えず、ボタンや十字キーで設定を行う。ダイヤルの誤操作を防止する意味も含めて、あえて背面にサブ電子ダイヤルやAF-ONボタン、ロック機構を備えていない

アングル自在なライブビューの使い勝手は同じ

EOS 9000D

EOS Kiss X9i

ともに左側に展開するバリアングル方式を採用し、上方向に180度、下方向に45度可動。ライブビュー撮影では、ハイアングルからローアングルまで楽に行える。バリアングル方式は縦位置でもハイ・ローアングル撮影が行えることが最大の利点。デュアルピクセルCMOS AFを使うことで、迫力のあるアングルから動体を撮ることも可能だ

ミドルクラス級のスペックと操作性をコンパクトに凝縮

EOS 9000Dはエントリーとミドルの中間に位置するEOS 8000D(2015年)の後継モデルだ。ここ数年EOSを取り巻く環境は大きく変化しており、その代表格がデュアルピクセルCMOS AFであるが、エントリー機への搭載は見送られてきた。しかし、今回ついにEOS 9000Dに搭載されたことでライブビューAFが大いに飛躍し、いよいよこのクラスがシーンによっては上位機を食ってしまう場合すらあるような状況になっている。ファインダーAFの測距点数も大幅にアップしており、EOS 80Dに搭載されているAFセンサーを用いることで、クラス最多の45点オールクロス測距が行えるのだから驚きだ。詳しい技術の内容は各項目をご参照願いたいが、多くのモデルがひしめくラインアップにあって、EOS 9000Dは「上からでも下からでも入りやすい」独自の立ち位置にある。エントリー機からステップアップする人はもちろんだが、大型一眼レフからセミリタイアを考えているユーザーにとっても、決してがっかりさせない機能とプレミアム感を備えている。

SPECIFICATION

※青字は優位な点

	EOS 9000D	EOS 8000D
イメージセンサー	有効約2,420万画素CMOSセンサー	有効約2,420万画素CMOSセンサー
撮像面AF	デュアルピクセル CMOS AF	ハイブリッドCMOS AF Ⅲ
画像処理エンジン	DIGIC 7	DIGIC 6
ISO感度	100~25600	100~12800(拡張25600相当)
連続撮影速度	約6コマ/秒	約5コマ/秒
測距点	45点	19点
ネットワーク	Wi-Fi、NFC、Bluetooth Low Energy Technology	Wi-Fi、NFC
質量	約540g	約565g

CHECK 01 新デザインの見やすいインターフェース

クイック設定画面やメニューの表示方式に「やさしい」という項目が加わり、初心者にも使いやすいインターフェースになった。撮影に必要な設定はタッチやダイヤル操作でダイレクトに設定できる。初心者にも使い勝手が良く、従来の表示方法である「標準」にも変更できるので便利だ

CHECK 03 エントリークラス最多オールクロス45点AF

両機ともEOS 80Dと同じAFセンサーを使用。エントリー機ながらオールクロス45点、F8対応の測距点数は27点とスペックはEOS 80Dと同等だ。測距エリア選択モードも4種から選べ、ピントを面で捕捉できる

中央1点はデュアルクロス測距(F2.8、F5.6、F8対応)。赤色の27点がF8対応

※試作機による評価のため、製品版と外観および仕様が異なる可能性があります。

シンプルな操作感とハイスペックを同居させたパパママおすすめモデル

Canon | キヤノン

EOS Kiss X9i

● 発売予定日 2017年4月上旬
● 予想実勢価格 90,000円前後（ボディ）、140,000円前後（EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM レンズキット）、130,000円前後（EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM 、EF-S55-250mm F4-5.6 IS STMダブルズームキット）

上位シリーズにステップアップしやすい表示パネルの有無

撮影設定がひと目で分かる上面液晶表示パネル。Wi-Fiのオン/オフや選択しているAFフレームも表示される

最大の相違点はモードダイヤルの位置と表示パネルの有無だ。EOS 9000Dには表示パネル用の照明ボタンか装備されているが、EOS Kiss X9iは背面液晶での確認を基本としているので照明ボタンはない。グリップのデザインはほぼ同等で、どちらもコンパクトながらしっかりとホールドできる

同時発表

EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM

● 発売予定日 2017年4月上旬 ● 予想実勢価格 36,000円前後

新型は手ブレ補正効果を約4段分に強化。レンズ全長を従来の75.2mmから61.8mmに短縮することで携帯性を高めている。広角端で全長が最短になるよう光学の構成が一新されているため、レンズをバッグなどに収納する場合に扱いやすい。フィルター径や最短撮影距離（最大撮影倍率）などは従来品と同一だ。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

● 発売予定日 2017年4月上旬 ● 予定実勢価格 4,000円前後

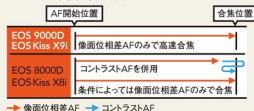
全方向レリーズ

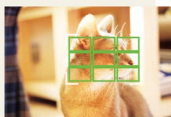
Bluetoothによる動作を初めて実現したリモコン。EOS 9000D、EOS Kiss X9iはスマートフォンアプリのリモート撮影に対応しておらず、このリモコンが便利。全方向レリーズが可能になり、マクロや夜景撮影でも使いやすい。

CHECK 02 デュアルピクセルCMOS AF&DIGIC 7

デュアルピクセルCMOS AFが搭載されたことで、ライブビューでのAF速度が飛躍的に向上している。また、新型映像エンジンDIGIC 7では、データの処理能力がアップ。より高度なノイズ成分の検出を行うことで、全ISO感度においてさらに画質が美しくなった

	AF開始位置 → 合焦位置
EOS 9000D EOS Kiss X9i	像面位相差AFのみで高速合焦
EOS 8000D EOS Kiss X8i	コントラストAFを併用 条件によっては像面位相差AFのみで合焦

→ 像面位相差AF → コントラストAF

CHECK 04 被写体を見つけてくれるスムーズゾーンAF

ライブビュー時に有効なスムーズゾーンAFを搭載。標準の1点AFフレーム9個分の枠内で最大9点のAFフレームを使ってピント合わせを行なう。サーボAF時にはAFフレームが動く被写体に追従する

簡単操作は継承、スペックは大幅に向上

EOS Kissシリーズはキヤノンが誇るベストセラー一眼だ。「操作は簡単でも性能に妥協がない」ことが特徴で、使い手によってはミドルクラス並みの仕上がりを得られる対応力が魅力。新モデルの作り込みにも甘さはなく、DIGIC 7の搭載や測距点数の増加など、ユーザーが確実に恩恵を受けられる要素が多数ある。その上で、今やEOS一眼の定番技術になったデュアルピクセルCMOS AFや、EOS M5に初搭載されたスムーズゾーンAFをいち早く搭載し、ライブビュー環境をさらに簡単・快適にしている。コマ速は最高6コマ/秒になり、かつての兄貴分であるEOS 60D（5.3コマ/秒）よりも速い。初心者にとって難しい設定の選択をカメラがアシストしてくれるので、撮影の失敗を未然に防げることも特徴の1つ。スペシャルシーンの新モード「集合写真」では自動的に被写界深度を深め（F8～11）にセットしISO感度を自動調節するなど、理にかなった制御を行っている。外観ではEOS Kiss X8iとの違いを見出しにくいが、レスポンスや安定感は確実にレベルアップしている。

SPECIFICATION

※赤字は優位な点

	EOS Kiss X9i	EOS Kiss X8i
イメージセンサー	有効約2,420万画素CMOSセンサー	有効約2,420万画素CMOSセンサー
撮像面AF	デュアルピクセル CMOS AF	ハイブリッドCMOS AF Ⅲ
画像処理エンジン	DIGIC 7	DIGIC 6
ISO感度	100～25600	100～12800（拡張25600相当）
連続撮影速度	約6コマ/秒	約5コマ/秒
測距点	45点	19点
ネットワーク	Wi-Fi、NFC、Bluetooth Low Energy Technology	Wi-Fi、NFC
質量	約532g	約555g

1

2

3

NEW CAMERA REVIEW

X-T2のエッセンスをコンパクトに凝縮した中級機

FUJIFILM | 富士フイルム　写真・文●藤田一咲

X-T20

シルバー

ブラック

● 発売予定日 2017年2月23日

● 予想実勢価格 113,000円前後

SPECIFICATION

撮像素子：APS-C　有効画素数：約2,430万画素
シャッター速度：1/4,000秒〜30秒（メカ）、1/32,000秒〜30秒（電子）　連写：約14コマ/秒（電子）、約8コマ/秒（メカ）　ISO感度：200〜12800
ファインダー：0.39型有機EL（約236万ドット）
液晶モニター：3型（約104万ドット）
記録メディア：SD、SDHC、SDXC
質量：約383g（バッテリーおよびメモリーカード含む）

SIZE

82.8mm

41.4mm

118.4mm

CHECK 01 タッチAFの搭載で素早くピント合わせができる

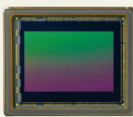
ファインダーではピントを合わせられる位置は限定されるが、タッチAFでは液晶モニター上のどこでも指を触れた位置にピントを合わせられる。タッチしたらピントを合わせてシャッターを切る、ピントだけを合わせる、エリアの移動だけの3つが選べる。液晶はチルト式なので、ハイ、ローアングルでもピントを簡単に合わせられて便利

CHECK 02 AF-C時のフォーカス駆動を変えるAF-Cカスタム設定を搭載

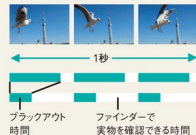
動く被写体の動きは一通りではなくさまざまだ。そんな動く被写体をAFで連写する場合、その被写体の動きに応じて最適な設定を5つのプリセットから選択ができるのがAF-Cカスタム設定。これにより動体追従性能が大幅に強化された。なお、X-T2にあった被写体保持特性などが選べるSET 6は搭載されていない

CHECK 03 撮像素子と映像エンジンが最新になりさらなる高画質&高速化を実現

モアレや偽色を抑制し、高画素化を実現した約2,430万画素の「X-Trans CMOS Ⅲ」センサーと、従来の約4倍もの処理速度の画像処理エンジン「X-Processor Pro」を搭載。画質に加えて撮影レスポンスが向上している

X-Trans CMOS Ⅲ

X-Processor Pro

CHECK 04 ブラックアウト時間が短縮し動体の撮影に強くなった

ブラックアウト時間はX-T10から大幅に短縮。連写時に被写体をファインダーやライブビューで確認できる時間がより長くなり、決定的瞬間を捉えるチャンスが増加した。AF-C+連写撮影が快適に行える

レンズ交換式XシリーズのX-T20が登場した。先に発売しているフラグシップ機X-T2のスペックをギュッと小型ボディに凝縮したモデルだ。小型ながらグリップはしっくり手になじむ形状。背面液晶モニターは可動式でハイ、ローアングルでの撮影が可能。タッチ操作でスマートフォンのように直感的な操作ができ、高い機動性を感じさせる。ボディ上面にシャッター速度や露出補正、撮影モードを選択できるダイヤルがあり、操作性も良い。街のスナップには最適なカメラだ。このX-T20を手に浅草と香港で街撮りした。

新AFシステム採用で格段に良くなったとされるAF機能を中心に試した。AFの設定は被写体の動きに合わせて用意された5つのプリセットから、SET 4の「急に現れる被写体向け」にセット。隅田川沿いに急に現れるカモメや、浅草の街角、香港では裏路地を撮影した。また、夜の香港の遊園地では、AFをSET 5の「前後左右に激しく動く被写体向け」にセットし、液晶モニターをチルトさせ、遊具をローアングルから狙い、液晶にタッチしてシャッターを切った。暗所でも高速移動する被写体を捉えるAF精度は非常に高く、ファインダーのブラックアウトの時間も短くて快適に連写を楽しめたのには正直驚いた。

また、上面の「オートモード切換レバー」をAUTOにしての撮影も楽しんだ。シーンを選ぶだけで、難しい設定をすることなくカメラ任せで失敗のない撮影が気軽にできる。さらに富士フイルム独自のカラーモード「フィルムシミュレーション」から最新のACROSや、フィルム写真の粒状性を再現するグレイン・エフェクト機能も加わり、白黒撮影にも表現の幅が大幅に広がった。X-T20はご近所や旅のスナップなど日常を切り取るのが楽しくなるカメラだ。

①XF10-24mmF4 R OIS/24mm(36mm相当)/絞り優先AE(F8、1/500秒、±0EV)/ISO 200/WB:オート
X-T20に新たに用意されたAF-Cカスタム設定からSET 4「急に現れる被写体向け」にセットして散歩中、急に飛び立ったユリカモメを撮った

②XF10-24mmF4 R OIS/15.9mm(24mm相当)/絞り優先AE(F4、1/420秒、−1.0EV)/ISO 200/WB:オート
自転車置き場をモノクロで。新たに搭載されたグレイン・エフェクトを「強」に設定。フィルム写真の持つ独特の粒状感を加え、街の片隅の寂しさを表現した

③XF18-135mmF3.5-5.6 R LM OIS WR/29.3mm(44mm相当)/絞り優先AE(F5.6、1/600秒、−0.3EV)/ISO 400/WB:晴れ
夕日の中を走る香港のフェリー。ホワイトバランスを「晴れ」にし、さらにWBシフトで夕景色を強くした。AFモードを「ワイド/トラッキング」に設定して連写した

④XF10-24mmF4 R OIS/10mm(15mm相当)/絞り優先AE(F4.5、1/40秒、±0EV)/ISO 1600/WB:オート
香港の夜の遊園地で。動く遊具を液晶モニターをチルトさせ低い位置から狙った。AF-Cカスタム設定をSET 5「前後左右に激しく動く被写体」に設定して撮影

⑤XF10-24mmF4 R OIS/12mm(18mm相当)/絞り優先AE(F4.5、1/180秒、−0.3EV)/ISO 400/WB:オート
香港の落書き。白壁のざらついた質感もしっかりと描写。その上の落書きの色も鮮やかに再現し、落書きのある路地裏の空気感さえも捉えることができた

4

5

EOS M3相当のスリムボディに M5の最新機能を凝縮

Canon | キヤノン　　文●中原一雄

EOS M6

● 発売予定日
2017年4月上旬

● 予想実勢価格 90,000円前後（ボディ）
105,000円前後（EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STMレンズキット）
135,000円前後（EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STM、EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STMダブルズームキット）
※EVF-DC2シルバーバンドルモデル（5,000台限定）はプラス10,000円前後

EVF-DC2シルバーバンドルモデル（5,000台限定）

シルバー

ブラック

EOS M3のコンパクトさはそのままに、EOS M5のパワフルな機能と操作性の高さを引き継ぎ、両者の良いとこ取りをしたカメラがEOS M6だ。EOS Mシリーズの中ではM3の正統な後継機となり、EOS Mシリーズはハイエンドの M5、ミドルのM6、エントリーのM10という3段階のラインアップを構える。

EOS M6のトピックはM3から大きくパワーアップした撮影機能と、操作性が向上したデザインだ。まず撮影機能については、約2,420万画素のデュアルピクセルCMOSセンサーを搭載し、画像エンジンは最新のDIGIC 7と、ハイエンドのEOS M5と全く同じスペックを有する。これにより、EOS M3対比でAFの高速化、常用ISO感度の向上（ISO 12800→ISO 25600）、連写性能のアップ（4.2コマ/秒→9コマ/秒）などを実現しており、メイン機として十分な実力を備えたスペックとなっている。外観はEOS M3を踏襲したデザインであるが、握りやすくなったグリップや指になじむダイヤルデザインなど、随所にEOS M5らしさを感じるポイントもある。また、露出補正ダイヤルに重なるようにサブ電子ダイヤルが新設された。ISO感度などはグリップポジションを変えずに設定でき、EOS M3に不足していた速写性能も強化されてチャンスに強くなった。

ファインダーは外付けで、EOS M6のデザインにマッチする軽量なEVF-DC-2が別売で用意されている。これを使えばファインダーを使用した一眼レフスタイルの撮影も楽しめる。EOS M5に比べるとタッチ&ドラッグAFなど省略された機能もあるが、ほぼ同じスペックながら、コンパクトで気軽に撮影をこなすことができる。毎日持ち歩くにはおすすめの1台だ。

高速AFで被写体のベストポジションを逃さない

EF-M11-22mm F4-5.6 IS STM ／ 22mm（35mm相当）／ 絞り優先AE（F14、1/60秒、±0EV）／ ISO 200 ／ WB：オート

この日は遠くの富士山までくっきりと良く見え、空の色がきれいだった。水際に映る山と人物の影を幻想的に表現するため、35mm相当で海・空・山の景色を大きく捉え、F14まで絞ってパンフォーカスで表現した。たまたま海から上がってきたサーファーが良い位置に来た所を高速なAFで捉えた

写真●鵜川真由子

CHECK 01 高精度画像エンジン DIGIC 7搭載

ミラーレスカメラでは、イメージセンサーで得た光の情報を使用してAFから撮像まですべてをコントロールするため、それを処理する画像エンジンのパワーはカメラの機能に直結する。DIGIC 7は過去の画像エンジンに比べ高感度撮影時のノイズリダクション性能が向上しているだけでなく、回折による小絞りボケが大きく改善されているなどさまざまな面で画質向上に寄与する

	EOS M6	EOS M3
電池の撮影可能枚数	約295枚（常温23℃）	約250枚（常温23℃）

省電力にも貢献するDIGIC 7。EOS M3と使用しているバッテリーは同じだが、同じ条件下での撮影枚数が増えている

CHECK 02 高速AFを実現する CMOSセンサー

デュアルピクセルCMOSセンサーは、撮像と像面位相差AFの機能を同時に有する。EOS M3のセンサーは画素の一部のみが像面位相差AF専用センサーに置き換わった構造のため、AFの精度やスピードが十分でなく、画素欠損の問題があった。一方、EOS M6では画面の広い範囲で高速なAFが使用でき、動体撮影能力が飛躍的に高まっている

縦横80%のエリアで高速な像面位相差AFが使用可能

CHECK 03 Bluetoothで スマホと連携できる

消費電力の少ないBluetooth Low Energyに対応しているため、スマートフォンとの常時接続が可能だ。Bluetooth接続されたスマートフォンでは専用アプリを使うことでいつでもシャッターリモコンとして使うことができる。さらに、素早くWi-Fi接続に切り替えることができるので、EOS M6で撮影した写真をすぐにSNSにアップできる

設定をオンにしておけば自動的に接続するようになり、毎回の接続設定の手間がいらないのが便利だ

※試作機による評価のため、製品版と外観および仕様が異なる可能性があります。

スペック SPECIFICATION

EOS M3からは格段に進化、M5と同等のハイスペックを実現

スペックを見ると主な機能はハイエンド機であるEOS M5とほぼ同じ実力をもっており、M3と比べればISO感度、連写速度、動画性能は2倍以上の進化だ。デュアルピクセルCMOS AFを搭載したことでAF速度が速くなっているのもポイント。M3にはなかったレリーズ端子が搭載されたのも三脚撮影が多い人には歓迎されるだろう。

	EOS M5	EOS M6	EOS M3
イメージセンサー	有効約2,420万画素CMOSセンサー	有効約2,420万画素CMOSセンサー	有効約2,420万画素CMOSセンサー
像面位相差AF	デュアルピクセルCMOS AF	デュアルピクセルCMOS AF	ハイブリッドCMOS AF Ⅲ
画像処理エンジン	DIGIC 7	DIGIC 7	DIGIC 6
ISO感度	100～25600	100～25600	100～12800（拡張25600相当）
連続撮影速度	9コマ/秒（AF固定） 7コマ/秒（AF追従）	9コマ/秒（AF固定） 7コマ/秒（AF追従）	4.2コマ/秒（AF固定） 4.2コマ/秒（AF追従）
シャッター速度	1/4,000～30秒	1/4,000～30秒	1/4,000～30秒
背面液晶モニター	ワイド3.2型（3：2） 約162万ドット 上方向に約85度 下方向に約180度	ワイド3.0型（3：2） 約104万ドット 上方向に約180度 下方向に約45度	ワイド3.0型（3：2） 約104万ドット 上方向に約180度 下方向に約45度
ファインダー	内蔵EVF	外付けEVF	外付けEVF
内蔵ストロボ	○	○	○
ネットワーク	Wi-Fi、NFC、Bluetooth Low Energy Technology	Wi-Fi、NFC、Bluetooth Low Energy Technology	Wi-Fi、NFC
質量	約427g	約390g	約366g
サイズ	115.6mm 89.2mm 60.6mm	112.0mm 68.0mm 45.5mm	110.9mm 68.0mm 44.4mm

※オレンジ字は優位な点

デザイン DESIGN

深いグリップとダイヤルの追加でより本格度の増したデザインに

基本の形はEOS M3を踏襲しているが、全体にやや丸みが増し優しいフォルムとなっている。ボタン類の配置もほぼ同じだ。背面の液晶モニターは上方に180度反転できるチルト式で、M3よりも動きがスムーズ。ストラップ穴は小さくなっているため市販ストラップを使う場合は三角環などと合わせて使用する必要がある。

ローレット加工のメイン電子ダイヤル
EOS M3より一回り大きく、指への引っかかりが良くなった

小さくなったストラップ穴
EOS M5を踏襲したデザインに変更された

深く握りやすくなったグリップ
EOS M3より深くホールド感の高いグリップに。手の大きい人でも安心して握れる

内蔵ストロボとチルト式背面モニターはEOS M3を踏襲している。ただ、チルトの動きはEOS M3よりスムーズな印象だ

操作性 OPERABILITY

サブ電子ダイヤルの新設で撮影時にも素早い設定変更が可能

ダイヤルの配置はEOS M3とほぼ同じだが、露出補正ダイヤルと一体化したサブ電子ダイヤルが新設されたのがトピック。EOS M5と同様に、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、コントローラーホイールの3つのダイヤルに機能登録の割り当てが可能になった。特にマニュアル撮影時はグリップを握ったまま設定変更ができ、自由度が向上した。

サブ電子ダイヤル

ダイヤルカスタマイズで、ホワイトバランスやドライブモードなどさまざまな機能を登録できる。露出補正ダイヤルとサブ電子ダイヤルの2つのダイヤルが一体化しているため、2つ同時に動く場合があり、操作には少し慣れが必要かもしれない

コントローラーホイール
左右どちらにも回転する背面のコントローラーホイールは従来と同じで、メニューの選択や再生画像のスクロールなどに用いる

EVF ELECTRONIC VIEW FINDER

EOS M5より明るく見やすい印象 軽量なのに本格的な別売EVF

従来品のDC1との大きな違いは、表示方式が液晶から有機ELに変わったことだ。液晶パネルはコントラストの低いねむい画像に見えることがあるが、有機ELはコントラストが高く発色も良いため、くっきりと見える。アイポイントは22mmとメガネを掛けていても見やすく、独立しているのでM5のEVFより没入感を味わえるのもうれしい。

	EVF-DC2	EVF-DC1
有効画素数	約236万ドット	
形式	有機EL	液晶
画面サイズ	0.39型	0.48型
アスペクト比	4：3	
視野率	約100%	
輝度調節	有	
アイポイント	約22mm	
視度調整範囲	約−3～+1m⁻¹(dpt)	
可動	なし	上方向に約90度
外形寸法（W×H×D）	31.4×36.2×45.7mm	33.4×40.4×56mm
質量	約29g	約43g
価格	25,000円前後	33,000円前後

※オレンジ字は優位な点

● 発売予定日
2017年4月上旬

● 予想実勢価格
25,000円前後

23mm(35mm相当)/絞り優先AE(F8、1/2,200秒、±0EV)/ISO 200/WB:オート
鎌倉稲村ケ崎の海岸。強い逆光での撮影だがフレアやゴーストは全く見られなくて、とてもヌケの良い描写だ。コーティングの優秀さが実感できる

NEW CAMERA REVIEW

撮像素子と画像処理エンジンを一新したプレミアムコンパクトの最上位モデル

FUJIFILM | 富士フイルム　写真・文●郡川正次

X100F

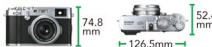
SPECIFICATION

撮像素子:APS-C　有効画素数:約2,430万画素　焦点距離:23mm(35mm相当)　開放F値:F2　絞り羽根枚数:9枚
ISO感度:200〜12800　シャッター速度:1/4,000秒〜30秒(メカ)、1/32,000秒〜30秒(電子)　液晶モニター:3型(約104万ドット)
記録メディア:SD、SDHC、SDXC
質量:約469g(バッテリーおよびメモリーカード含む)

SIZE

74.8mm

52.4mm

126.5mm

シルバー

ブラック

● 発売予定日 2017年2月23日
● 予想実勢価格 156,000円前後

① 23mm(35mm相当)/絞り優先AE(F4、1/80秒、±0EV)/ISO 200/WB:オート
横浜新山下のカフェ。こういう直線が多い被写体は歪曲収差が目立つことが多い。わずかに歪曲収差が見られるがそれほど気になるレベルではない

② 23mm(35mm相当)/絞り優先AE(F8、1/340秒、±0EV)/ISO 200/WB:オート
鎌倉七里ガ浜から見た江の島。15種類のフィルムシミュレーションの中からACROSを選んでみた。たしかに銀塩写真のような風合いが感じられる描写だ

③ 23mm(35mm相当)/絞り優先AE(F2、1/200秒、±0EV)/ISO 200/WB:オート
ネコは何を見ているのだろうか。その場の柔らかな雰囲気を再現できたらと開放絞りで撮影した。ピントを合わせた木肌の描写は非常にシャープだ

④ 23mm(35mm相当)/絞り優先AE(F4、1/400秒、±0EV)/ISO 200/WB:オート
横浜ベイブリッジを遠くに望むヨットハーバー。夕日を浴びたボートが非常にシャープに描写されている。2,430万画の効果が出ているといえるだろう

富士フイルムのプレミアムコンパクトカメラの最上位機種が新たに登場した。まず目につくのは画素数が約2,430万画素にアップしていることで画質の向上が期待される。フォーカスレバーが新しく搭載され、フォーカスエリアの選択が素早くできるようになった。さらにデジタルテレコンが搭載されたことでレンズ固定式カメラとしての汎用性が高まっている。この機構は単なるクロップではなくて画素の補完技術によるものでズームしても画素数が下がることはない。また特筆的といえるのは富士フイルムのモノクロ銀塩フィルムであるACROSのテイストをデジタルで再現したフィルムシミュレーションが加わったことだ。このACROSにはモノクロフィルター効果を求めてYe（イエロー）、R、Gのフィルターが3種も用意されている。

このカメラを実際に使ってみてまず感じるのはビューファインダーの良さだ。太陽光が直接当たっていて背面モニターが見にくいときだけではなく、ファインダーをのぞいて写真を撮るという撮影行為の原点を忘れないためにもビューファインダーはあった方が良い。本機の光学ファインダー（OVF）と電子ビューファインダー（EVF）を組み合わせたアドバンスト・ハイブリッドビューファインダーはEVFではピント確認と各種情報が、また対象物を直接見ることができる明るいOVF上でもフォーカスエリアや撮影範囲のブライトフレームが表示され、パララックスも自動補正される。レンズ画質は開放絞りからシャープだ。

X100Fはカメラとしての魅力にあふれたボディスタイルに固定式の単焦点35mm相当のF2レンズ、ファインダー機構、直感的なダイヤルを用いたアナログ的な操作性をX100Tから受け継ぎ、さらなる進化を遂げたカメラとなっている。

CHECK 01 ダイヤルで直感的に操作できる

ISOと露出補正は上面のダイヤル操作で行える。設定値を直接見るということで情報の認知度が高まる。フォーカスレバーは構図を決めた後からでも測距点を変えられるので正確なピント合わせが可能になる

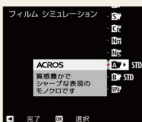
目で見て分かるということと、慣れてくれば見なくても分かるという便利さがある

CHECK 02 望遠での撮影が可能になるデジタルテレコン

35mm判換算で50mmと70mmが用意されているので簡易的な35〜70mmのレンズとして使用することができる。画質低下については70mmでもそれほど顕著には感じられない。ズームレンズと同じというわけにはいかないが表現の幅を広げるという意味でも使ってみる価値はある

望遠にしていくと、圧縮効果が出てきて島影が大きく描写される

CHECK 03 フィルムシミュレーションにACROSを追加

ACROSは単なるモノクロ変換ではなく銀塩フィルムが持つ粒状性や階調表現などの要素を加味したものだ。ACROS内で用意されたYe、R、Gの3種のフィルターはモノクロ写真のフィルター操作と同じで、フィルターと同じ色は明るく、その補色は暗く描写される

ACROS＋Rフィルターを使用した。空と海の青が暗く描写される

CHECK 04 325点の測距点で被写体を面で捉える

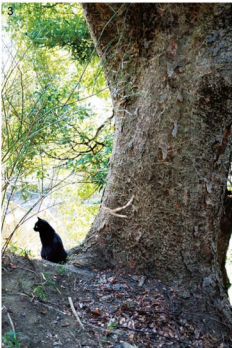
像面位相差エリアが230％拡大したことで測距点が大幅に増え、高速・高精度のピント合わせが可能になった。動体や人混みなどにはフォーカスエリアの選択モードのワイド/トラッキングが有効で、瞬時に測距点を判断できないときでもカメラが的確に判断してくれる

春節でにぎわう横浜中華街。こういう場面では非常に便利

1

2

3

4

最新の映像エンジンDIGIC 7搭載 小型プレミアムG9Xがさらに軽量化!

- 発売予定日 2017年2月23日
- 実勢価格 60,000円前後

Canon | キヤノン

PowerShot G9X Mark Ⅱ

ブラック

シルバー

SPECIFICATION

撮像素子：**1型高感度CMOS**　有効画素数：**約2,010万画素**　焦点距離：**10.2〜30.6mm（28〜84mm相当）**
開放F値：**F2〜4.9**　絞り羽根枚数：**9枚**　ISO感度：**125〜12800**　シャッター速度：**1/2,000秒〜30秒**　手ブレ補正：**デュアルセンシングIS（約3.5段分）**　液晶モニター：**3型（約104万ドット）**　記録メディア：**SD、SDHC、SDXC**　質量：**約206g**

SIZE

57.9mm

31.3mm

98mm

写真・文●
中原一雄

CHECK 01 情報の解析能力に優れたDIGIC 7を搭載

光学ファインダーのないカメラは、レンズから取り入れた情報の処理を画像エンジンが一手に処理するので、エンジンの進化はカメラの進化に直結するといっても良い。DIGIC 7は、EOS M5などにも搭載されるキヤノンの映像エンジンだ。AF機能や解像感の向上などで、6からの大きな進化が見られる

ピントを合わせた被写体を追尾する性能がアップ。手前から奥に泳いでいくカモの動きをAFフレームは捉え続けてくれた

CHECK 02 EOSおなじみのピクチャースタイル

G9Xにはなかったピクチャースタイルを搭載。「オート」を含めた8モードが用意された。任意の値を登録できるユーザー設定は3モードある。もちろん、シャープネスなどの詳細設定も可能だ

一眼のEOSシリーズと同様に、各モードで詳細設定ができる

CHECK 03 撮影後に調整ができるカメラ内RAW現像

G9Xでは不可能だったカメラ内RAW現像をサポート。カメラ内で明るさやWB、ピクチャースタイルなどの細かい設定が可能となり、一眼レフ並みの自由度の高い作品作りができる。クリエイティブフィルターも撮影後に適用できる

撮影時の設定どおりに現像することも、調整をして現像することも可能だ

5

6

7

8

① 10.2mm(28mm相当)／絞り優先AE(F4、1/1,000秒、+0.7EV)／ISO 125／WB：オート
28mm相当の広角で撮影したことでパースを生かした迫力を出すことができた。逆光のシーンだが解像力が落ちることもなくクリアな描写だ

② 10.2mm(28mm相当)／絞り優先AE(F5.6、1/1,000秒、±0EV)／ISO 125／WB：オート
空港の近くで散歩していたところ、政府専用機が飛んできた。慌ててポケットからカメラを出したが、スピーディーな起動のおかげでシャッターチャンスをものにできた

③ 30.6mm(84mm相当)／絞り優先AE(F4.9、1/400秒、+1.7EV)／ISO 125／WB：オート
望遠端では開放F4.9とやや暗いものの、被写体に十分近づいて撮影すれば前ボケを生かした表現も可能だ。コンパクトなためカメラの影の影響も少ない

④ 10.2mm(28mm相当)／絞り優先AE(F2、1/1,000秒、+0.7EV)／ISO 125／WB：オート
広角端の開放絞りはF2と明るいため、広角にもかかわらずボケを生かしながら撮影することが可能だ。スマートフォンでは難しい写真が楽しめる

⑤ 30.6mm(84mm相当)／絞り優先AE(F4.9、1/320秒、+1.7EV)／ISO 125／WB：オート
望遠端の最短撮影距離から撮影。コンパクトカメラのF4.9とは思えない大きなボケを作り出すことができた。ボケの印象も柔らかく癖が少ない

⑥ 10.2mm(28mm相当)／SCN(F4、1/20秒、±0EV)／ISO 1600／WB：オート
新搭載の流し撮りモードで撮影。DIGIC 7の恩恵でかなり高精度に撮影することができる。初心者でも手ブレを気にせずハイレベルな流し撮りが可能だ

⑦ 30.6mm(84mm相当)／絞り優先AE(F4.9、1/1,250秒、−0.3EV)／ISO 125／WB：オート
一眼レフでは周りに威圧感を与えてしまうシーンでも、手のひらサイズのカメラなら自然にシャッターを切れる。スナップ派にはうれしい

⑧ 10.2mm(28mm相当)／絞り優先AE(F4、1/640秒、+0.3EV)／ISO 125／WB：オート
カメラを真上に向けて看板に映り込むスカイツリーを撮影。コンパクトなカメラだからこのような変則的な撮影も楽にこなすことができる

キヤノンのプレミアムコンパクトであるPowerShot Gシリーズで、最も小型のG9XがMark Ⅱとなってリニューアル。外観デザインとレンズの焦点距離などは先代とほぼ同じだが、わずかに軽量化された206gの小型・軽量ボディに、DIGIC 7を搭載したことは大きい。ジャイロセンサーに加え、撮像センサーの情報から手ブレを検知し補正をかけるデュアルセンシングISを搭載し、G9Xよりも0.5段アップした約3.5段分の手ブレ補正を実現。ノイズ除去精度も向上し、ISO 3200程度でも十分にクリアな画質が得られるようになった。AF機能も向上し、動体の追尾機能はコンパクトカメラとは思えない高精度な仕上がりだ。回折による小絞りボケも軽減し、解像感もアップしている。高い技術が必要な流し撮りも新搭載の「流し撮りモード」を使えば画像情報をリアルタイム解析することで的確なシャッター速度を設定してくれる。個人的に非常にうれしかったのはピクチャースタイルに対応したこと。

街に持ち出してみると、G9Xと比べて明らかに撮影時のレスポンスが向上しているのが分かる。連写時でもストレスのない快適な撮影ができた。スマートフォンとの連携も強化されており、新たにBluetooth接続に対応したのもポイントだ。小さなボディにEOSが丸ごと入ったと感じる。G9Xとは全く別のハイパワーなカメラだ。

シリーズ比較

ボディサイズやスペックを見ると、撮影をメインに考えるならG7X Mark Ⅱ(右)が使いやすい。日常を撮影するならコンパクトなG9X Mark Ⅱ(左)がおすすめ

G9X Mark Ⅱ　G7X Mark Ⅱ

	G9X	G9X Mark Ⅱ	G7X Mark Ⅱ
撮像素子	1型高感度CMOS	1型高感度CMOS	1型高感度CMOS
有効画素数	約2,020万画素	約2,010万画素	約2,010万画素
焦点距離	10.2～30.6mm (28～84mm相当)	10.2～30.6mm (28～84mm相当)	8.8～36.8mm (24～100mm相当)
画像処理エンジン	DIGIC 6	DIGIC 7	DIGIC 7
外形寸法	98.0×57.9×30.8mm	98.0×57.9×31.3mm	105.5×60.9×42.2mm
質量※1	約209g	約206g	約319g

※青字は優位な点　※1バッテリーおよびメモリーカード含む

キヤノン EOS 80D ／10mm（16mm相当）／絞り優先AE（F11、1/640秒、±0EV）／ISO 200／WB：5,500K
荒々しくも美しく成長した中禅寺湖のしぶき氷。画面上のすぐ外側に太陽があり、逆光テストとしては厳しい条件だが、中央に立つ枝の横に1つ小さなゴーストがあるだけでとても優秀だ

NEW LENS REVIEW

手ブレ補正と新型モーターが魅力の超広角ズーム

TAMRON タムロン

10-24mm F/3.5-4.5 Di II VC HLD

● 発売予定日 2017年3月2日（ニコン用）、2017年3月23日（キヤノン用）
● 予想実勢価格 62,000円前後

写真・文● 今浦友喜

SPECIFICATION

対応マウント：**キヤノン用、ニコン用（APS-C対応）**　レンズ構成：**11群16枚**　最小絞り：**F22〜29**　絞り羽根枚数：**7枚（円形）**　最短撮影距離：**0.24m**　最大撮影倍率：**約0.19倍**　フィルター径：**φ77mm**　外形寸法（最大径×全長）：**約φ83.6×84.6mm（キヤノン用）、約φ83.6×82.1mm（ニコン用）**　質量：**約440g**

キヤノン EOS 80Dに装着　付属フード HB023

レンズ構成図

● ガラスモールド非球面レンズ
● 異常低分散レンズ
● XLDレンズ
● 複合非球面レンズ

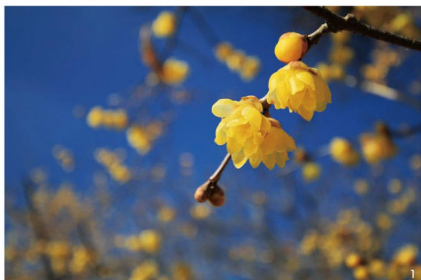
CHECK 01 約4段分の手ブレ補正を搭載

朝夕での手持ち撮影や室内撮影など、その恩恵は計り知れない。あえてスローシャッターを使う場面以外は積極的に手持ちで撮りたいレンズだ。光学設計が肥大化することなく重量も前モデルとほとんど変わっていない点も良い

CHECK 02 駆動力に優れた新型モーター HLD

新しく採用されたHLDは大型のフォーカシングレンズをスムーズに駆動できる。高速で静かな上に安定した制動を実現。大きなレンズを駆動できれば画質を優先したレンズ設計が可能になることを示す

CHECK 03 SPレンズと同様の新しいデザインに

SPシリーズと同様のスタイリッシュなデザイン。ルミナスゴールドのリングをアクセントにすっきりとしたマットブラックの外装が美しい。各リングの目の浅いラバーは汚れがたまりにくい

眼前に広がる景色を自分の視野を超えて1枚の写真に写し込める超広角レンズは、風景撮影においてマストアイテムだ。本レンズは35mm判換算で16〜38mm相当となるAPS-C用の超広角ズームレンズ。前モデルであるSP AF10-24mm F/3.5-4.5 Di Ⅱ LD Aspherical [IF] から約8年半ぶりのリニューアルとなる。焦点距離と開放絞りこそ変わらないが、それ以外の要素はほぼ全てが大幅な進化を遂げている。まず製品名からも分かるとおり、手ブレ補正機構「VC」が搭載された。補正スイッチを入れれば像がファインダーにスッと留まる感触があり、手持ち撮影時の安心感につながる。可動式液晶モニターを利用した難しいフレーミングも積極的に手持ちでチャレンジできそうだ。

「HLD」という聞き慣れない名称は、High/Low torque-modulated Driveの略で新しいAF駆動モーターのこと。駆動力と安定性に優れたモーターで、実際に使用してみると高速AFながらも良く制動していることが分かる。動作音も環境になじむ音で気にならず、室内や動画撮影にも向いているだろう。

画質はといえば、11群16枚のレンズ構成にガラスモールド非球面レンズ、異常低分散レンズ、複合非球面レンズ、XLDレンズを盛り込み、これでもかというほど光学設計に力を入れている。実写すると超広角ズームが不得手とする画面周辺部の描写に至るまで非常によく解像している。レンズ枚数が多いにもかかわらずBBARコーティングなどによって、逆光時のゴーストやフレアも最小限に抑えられている。簡易防滴構造やレンズ最前面のフッ素コートの採用など、フィールドでの使用の多いレンズだけに、こうした配慮もうれしい。

これだけ進化した本レンズだが、前モデルからたったの約34gの増量に抑え、全長はなんと約2mm短くなっている（キヤノン用）ことには驚きだ。手に収まりの良いサイズと優れた画質と使用感。風景でもスナップでもポートレートでも、ジャンルを問わず活躍できること間違いない。

①キヤノン EOS 80D ／24mm（38mm相当）／絞り優先AE（F4.5、1/1,600秒、+0.3EV）／ISO 200／ WB：オート

最短撮影距離はズーム全域で24cmと短く、ワイドマクロ的な表現を楽しめる。最短撮影でもピント面がぼやけることなくシャープで、ボケも柔らかめで使いやすい

②キヤノン EOS 80D ／10mm（16mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/1,000秒、−0.3EV）／ISO 200／ WB：オート

ひっそりと足元で花を咲かせ始めた福寿草。10mm域で最短撮影を試みた。16mm相当のワイド感を十分に残しつつ主役の主張もしっかりとできた。手ブレ補正と相まってフレーミングの自由度は高い

③キヤノン EOS 80D ／11mm（18mm相当）／絞り優先AE（F11、1/200秒、±0EV）／ISO 200／ WB：オート

約2,420万画素のEOS 80Dで撮影してみたところ解像感は鮮鋭で優秀だ。また長秒露光でもない限りは手ブレ補正を利用してアグレッシブな手持ち撮影を試みたい

④キヤノン EOS 80D ／13mm（21mm相当）／絞り優先AE（F8、1/6秒、−0.3EV）／ISO 200／ WB：オート

本レンズは一般的なφ77mmのフィルターが付けられるので風景写真家にはとてもうれしい。ここではPLフィルターで水面の反射をあえて増やすようにして撮影した

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／280mm ／マニュアル露出（F5、1/1,600秒）／ ISO 1000／ WB：オート／ TELE CONVERTER 1.4x使用

羽田のハミングバードディパーチャーを1.4倍テレコン装着で狙う。飛行機と風景を絡めるのにちょうど良い焦点域だ。開放F4と明るく、PLフィルターも余裕で使えるのも魅力だ

NEW LENS REVIEW

約5段分の手ブレ補正に対応した大口径望遠ズーム

TAMRON タムロン

SP 70-200mm F/2.8 Di VC USD G2

- 発売予定日 2017年2月23日
- 予想実勢価格 159,000円前後

写真・文● 伊達淳一

SPECIFICATION

対応マウント：**キヤノン用、ニコン用（フルサイズ対応）** レンズ構成：**17群23枚** 最小絞り：**F22** 絞り羽根枚数：**9枚（円形）** 最短撮影距離：**0.95m** 最大撮影倍率：**約0.16倍** フィルター径：**φ77mm** 外形寸法（最大径×全長）：**約φ88×193.8mm（キヤノン用）、約φ88×191.3mm（ニコン用）** 質量：**約1,500g（キヤノン用）、約1,485g（ニコン用）**

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳに装着

付属フード HA025

レンズ構成図

● XLDレンズ
● 異常低分散レンズ

CHECK 01 約5段分の手ブレ補正を採用

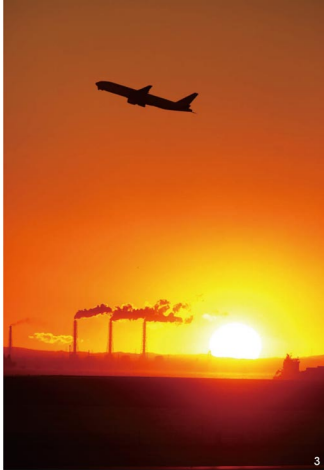
手ブレ補正ユニットの駆動系のパワーと制御性能が強化され、手ブレ補正効果が従来のA009の最大4段から5段に強化。基本のMODE1に加え、流し撮り専用のMODE2とシャッターが切れる瞬間のみ補正するMODE3を搭載する

CHECK 02 別売の1.4倍と2倍の専用テレコンバーター

1.4倍と2倍の専用テレコンバーターが用意されている。レンズと同様、防塵・防滴構造を採用したコンバーターで、それぞれ98-280mm F4.0相当と140-400mm F5.6相当でAF撮影が可能。TAP-in Consoleによ るAF微調整機能に対応する

TELE CONVERTER 1.4x　TELE CONVERTER 2.0x

CHECK 03 最短撮影距離が0.95mに短縮

光学設計の見直しとフォーカスカムやズームカムのメカ機構を改良することでVC非搭載のA001と同じ0.95mを実現。ただ最大撮影倍率は約0.16倍で、A001の約0.32倍に比べ、近接撮影時の画角はやや広めに写る

① キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／200mm ／絞り優先AE（F2.8、1/1,250秒、±0EV）／ISO 100／ WB：オート

最短撮影距離が0.95mになり、より被写体に近づいて撮影できるようになった。A001よりも撮影倍率は低いが、近接撮影時のにじみも少なく、クッキリした写りが得られる

② キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／200mm ／絞り優先AE（F2.8、1/1000秒、−0.3EV）／ISO 100／ WB：太陽光

前後のボケと口径食をチェック。二線ボケの傾向は少なく、ボケの輪郭の縁取りや色付きも軽微だ。口径食は多少あるが、このクラスの大口径レンズとしては標準的

③ キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／400mm ／絞り優先AE（F6.3、1/1,250秒、+0.7EV）／ISO 200／ WB：日陰／TELE CONVERTER 2.0x使用

朝日を背景に羽田を離陸する旅客機。2倍テレコンを装着しているが、朝日や夕日を直接画面内に入れて撮影してもゴーストは目立たない

SP 70-200mm F/2.8 Di VC USD G2（Model A025）は、タムロンの70-200mm F2.8ズームとしては3代目となり、2代目にあたるA009に比べ、外装デザインの一新と光学性能の向上が図られているのに加え、手ブレ補正効果も最大4段分から5段分へと強化。最短撮影距離は1.3mから0.95mに短縮、防汚コートや防塵･防滴構造の採用、三脚座のアルカスイス対応など利便性の向上も図られている。AI SERVO AF中にフォーカスリングをある一定角度以上回すとMFに切り替わるフルタイムMF機構（ニコンのM/Aモードに相当）が備わっている点は、キヤノン純正レンズにはない強みだ。

従来のA009も描写性能は非常に高く、ピント面の解像の高さと軸上色収差の少なさ、ボケ足の描写はかなり満足度が高かったが、VC機構の搭載に伴い、最短撮影距離が初代のA001の0.95mから1.3mと長くなってしまった。その点、A025はVC機構搭載でありながら最短撮影距離が0.95mまで短縮されており、近接撮影時でもハイライトがにじむことなく、高コントラスト･高解像な描写が得られるのが魅力だ。サードパーティーゆえにボディ側のレンズ補正が効かないので、開放絞りから2段までは周辺光量低下はそれなりに認められるものの、従来よりもワイド側の周辺解像が向上していると感じられた。

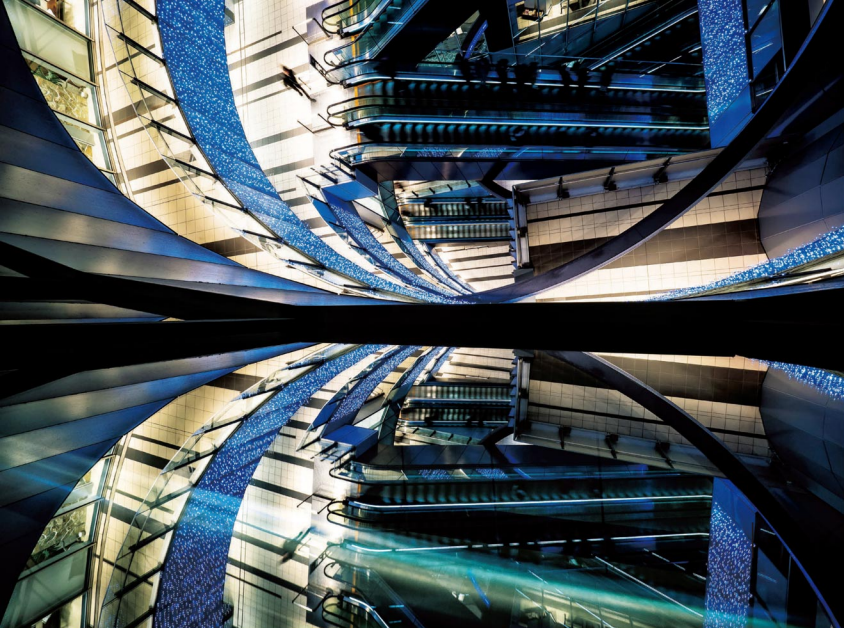
レンズ側面には基本のMODE1、流し撮り専用のMODE2、シャッターが切れる瞬間のみ補正する補正効果優先のMODE3のVC切り替えスイッチを装備。「FULL」と「∞〜3m」のフォーカスリミット切り替えスイッチも設けられている。MODE3で慎重に構えれば、テレ端200mmで1/8秒でも約半数のカットがぶれずに撮影できた。また、MODE2にすると明らかに流し撮りの歩留まりが向上した。

別売で1.4倍と2倍の専用テレコンバーターも用意されており、より超望遠のAF撮影にも対応できるほか、TAMRON TAP-in Consoleによるファームウェアアップデートや、最大24領域のピント調整、フォーカスリミットのカスタマイズ、VCの調整が行える点も従来製品よりもポイントが高い。

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／365mm ／シャッター優先AE（F20、1/20秒、−0.3EV）／ISO 100／ WB：オート／ TELE CONVERTER 2.0x使用

最初、うっかりMODE1のままで撮影したらブレが強調されてしまったが、流し撮り専用のMODE2にすると、きれいに背景を流すことができた

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／70mm ／絞り優先AE（F4.5、1/8秒、±0EV）／ISO 1000／ WB：オート

夜明け前の第1ターミナル。展望デッキが開いていない時間帯なのでガラス越しの撮影だが、それを感じさせない解像だ。手ブレ補正の効きも良く、1段絞る余裕さえあった

M.ZUIKO DIGITAL ED 7-14mm F2.8 PRO ／7mm（14mm相当）／マニュアル露出（F9、1/2秒）／ ISO 200／ WB：オート

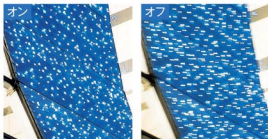
映り込みを生かしたシンメトリー構図で日常的な風景を非日常的に切り取った1枚。1/2秒のスローシャッターでぶらした歩行者がアクセントだ。のぞき込むように手持ち撮影する不安定な状況でも強力な**手ぶれ補正**の効果で背景はシャープに写り、静と動を対比できた

M.ZUIKO DIGITAL ED 7-14mm F2.8 PRO
M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO

PICK UP

ボディー内5軸手ぶれ補正

あらゆるシーンで諦めずに撮影できる

シャッターボタンを半押ししただけで実感できる強力なボディー内5軸手ぶれ補正の効果は約5.5段分。手持ち撮影が基本のスナップ撮影において、常に安心を与えてくれる存在だ。「今構えても撮るのは難しい」と諦めていたシーンのすべてがシャッターチャンスに変わる

Vol.3

千田智康

OLYMPUS

OM-D E-M1 Mark Ⅱで写す 0.0555555556秒の奇跡

コマ間わずか0.0555555556秒。最大18コマ/秒※のAF/AE追従連写実現のため、OM-D E-M1 Mark Ⅱはイメージセンサーと画像処理エンジンの高速性が飛躍的に高められた。
今回はセンサーの手ぶれ補正に注目! スナップでの優位性を語る。

※静音連写Hセレクト時

圧倒的自由度でイマジネーションを具現化できる

日常をアーティスティックに、そして見た人がそれぞれにストーリーを思い描いて楽しんでもらえるように。それが、スナップ写真において私が目指している表現だ。日常の何気ないワンシーンにひと工夫凝らして、時にはカッコよく、時には面白く表現する。OM-D E-M1 Mark Ⅱは、そんな私の写真表現の幅を広げてくれた。

スナップで必要なのは、一瞬一瞬を逃さないこと、その場の光景を見てひらめいたことやイマジネーションを具現化することだと思う。これらを大切にするからこそ、私はカメラを常に携帯している。今回使用したのはPROシリーズの広角ズームと標準ズームの2本。全域開放F2.8の明るさで14〜80mm相当をカバーする2本だが、小振りのカメラバッグにすっぽり収まるあっけないほどのコンパクトさだ。軽快に持ち歩けることは、スナップ撮影において何よりのアドバンテージとなる。

かゆいところに手が届く使い勝手の良さも魅力だ。シャッターボタンのすぐ下に絞りダイヤルがあるおかげで、人差し指をほとんど動かさずに被写界深度を調節でき、写真表現をコントロールしやすい。バリアングルモニターも魅力で、アングルに工夫を凝らした撮影を助けてくれることはもちろん、裏返しにしておけば画面の傷を防止できるので、喧噪の街中で躊躇なく持ち歩ける。ライブビュー撮影時はタッチAFを使えば、121点の中から直感的に測距点を選び、画面の狙った位置に配置した主題に対して、瞬時にピントを合わせられる。全点がクロス像面位相差AFなのでピントは素早く正確だ。日差しが強烈な場面ではEVFの出番。フレームレートは最高120fpsと滑らかで、歩行者を入れたいシーンでもストレスなく構図を決められた。

特筆すべきはボディー内5軸手ぶれ補正だろう。さっと構えてさっと撮る私の撮影スタイルにおいて、昼夜問わず手持ちで撮影できることは、撮影シーンを大きく広げてくれることに他ならない。手ぶれによる失敗写真は激減し、今回の撮影では最長2秒まで手持ち撮影で済ませている。

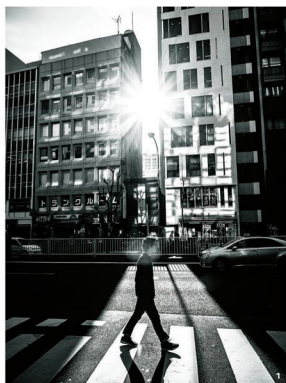
カメラの機動力による圧倒的な自由度は、スナップ撮影に新たな可能性をもたらしてくれるようで、ワクワクさせられた。

PROFILE

千田智康

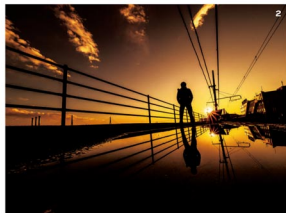
ちだ ともやす：岩手県生まれ。ストーリー性のあるスナップを撮影。「東京カメラ部10選2012」「シグマ・Foveonスクウェアフォトコンテスト2014」優秀賞をはじめ、フォトコンテストを多数受賞

① M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO／12mm（24mm相当）／マニュアル露出（F9、1/320秒）／ISO 200／WB：オート

EVFを使い、ビル間から伸びる強烈な日差しと、横断歩道を渡る人を狙った。**大型で高精細なEVF**と**全点クロス測距による高速AF**で、イメージしていた瞬間を逃さず切り取れた

② M.ZUIKO DIGITAL ED 7-14mm F2.8 PRO／7mm（14mm相当）／マニュアル露出（F11、1/640秒）／ISO 200／WB：オート

水たまりを使いシンメトリー構図で自分撮り。カメラの底面が水たまりに触れる状況だったが、十分な**防滴性能**を備えた組み合わせだったため、安心して撮影することができた

③ M.ZUIKO DIGITAL ED 7-14mm F2.8 PRO／10mm（20mm相当）／マニュアル露出（F11、2秒）／ISO 200／WB：オート

ピーキング機能を使ってピントを合わせ手持ちで撮影。車の光跡と信号待ちの人のバランスが一番良かったこの1枚をセレクト。拡大してピントを追い込めるので重宝している

④ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO／40mm（80mm相当）／マニュアル露出（F2.8、1/15秒）／ISO 200／WB：オート

女性の足元をエレガントに表現したくてイルミネーションとともに切り取った1枚。通行人を確認しつつ、**タッチAF**で撮影した。高速かつ正確なタッチAFは私には欠かせない機能だ

世界一わかりやすい
デジタル一眼レフカメラと写真の教科書

デ写教

RAILWAY
鉄道編

第8時間目 静岡県 **大井川鐵道**

写真●中井精也
イラスト●阿部伸二（カレラ） 取材●編集部

ニコン D5／ AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR ／ 105mm ／マニュアル露出（F4、1/10秒）／ ISO 25600／ WB：電球

LESSON 1

SLの旅情を感じるように切り取る

大井川鐵道では冬の特別企画として夜にSLが走る「SLナイトトレイン」を行っている。夜に走るSLは銀河鉄道のようだ。

「客車が昭和初期に製造されたオハ35系ですね。実に懐かしい感じです。この雰囲気を生かして、懐かしさを感じるSLの旅情写真を撮ってみましょう」

客車の中には魅力的な場所がたくさんある。つい、あれもこれも撮ってしまい、統一感のない写真になってしまう。そういうときはテーマを決めて撮ると良い。

「今回のテーマは旅情感なので、旅を感じさせる場所を切り取ります。ボケをうまく使うと想像がかき立てられます。WBは晴天日陰で赤くして懐かしさを出してみましょう。露出は少しアンダー目の方が雰囲気がアップします」

テーマを決めると、それに合わせてレンズ、WB、露出が決まってくる。撮り方に迷ったら、なにをどう撮りたいのかを考えてから写真を撮ってみよう。

夜撮影では明るい広角レンズが便利

明るい広角レンズがあればぼかしたり、星が撮れたりと色々活用できる。1本は持って行きたい

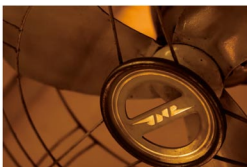
WBを変えて温かい印象に

旅情感を出すには色味は重要なポイント。オートWBで撮った左の写真では現在風の印象になってしまっている。WBを晴天日陰にして、赤くした方が雰囲気が増す

ピントは見せたい場所に合わせる

室内灯に懐かしさを感じたので、ピントは室内灯に合わせた。開放絞りにして背景をぼかすことで、お客さんの存在を薄くして現実感をなくしている

国鉄時代のマークをアップで

天井にあった扇風機。中央にはJNRのマーク。今では見られなくなった国鉄時代の証だ

椅子に当たる光を捉える

ハイライト優先で露出を決める。列車の移動中は光の当たり方がコロコロ変わるため、連写で撮ると良い

モノクロにして情感豊かに

懐かしさを出すのならモノクロにするのも1つの方法。ノスタルジーを感じさせるほかに、色味がないので意図をストレートに伝えられる

ニコン D500／AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED／12mm（18mm相当）／絞り優先AE（F4、1/350秒、+1.0EV）／ISO 6400／WB：晴天日陰

LESSON 2

煙を絡めてSLであることを分からせる

列車は千頭駅に到着して機関車を切り離し転車台へと向かう。回転中に煙（ドレン）をはき出す姿は壮観だ。

「機関車を撮る場合はこの煙がポイントになります。機関車は横長なので横位置で画面いっぱいに撮ってしまいがちですが、そうすると上の煙が切れてしまいます。ここでは縦位置にして夜空に伸びる煙も一緒に撮ってみましょう」

機関車を目の前にするとつい興奮して機関車ばかりをアップで撮ってしまう。夜の黒い空に伸びる煙を入れると昼間とは違った雰囲気になる。

「SLを撮りに来た場合、どうしても機関車の全体を撮った写真が多くなります。そういうときは今回の煙のようにモチーフを1つ決めて、それを絡めて部分を撮ります。車両全体は写っていませんが、SLを感じさせる写真にすることができます」

似た写真ばかりになってしまうときは、意識するものを決めて撮るとバリエーションが撮れるようになるのだ。

ニコン D500／AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED／12mm（18mm相当）／絞り優先AE（F6.7、1.5秒、－1.0EV）／ISO 280／WB：晴天

投光器の光がSLに直接当たる明暗差のある状況

現場は手前から投光器が機関車に当たる状況。つい近づきたくなるが、少し離れて撮った方がパースも付かずに撮れる

● 夜にSLが走る特別なイベント

大井川鐵道では1月と2月の夜にSLが走る「SLナイトトレイン」を実施している。新金谷駅と千頭駅を往復し、千頭駅では転車台の間近に寄って撮影することができる。興奮すること間違いなしだ

上に上る煙は切らないようにする

つい撮ってしまいがちな写真。せっかくの煙が切れてしまい、迫力がなくなっている

アップにするときも煙を意識する

アップで撮るときも煙を絡める。風で煙が横に流れた様子を入れて、煙が勢いよく出ていることを感じさせる

人物と煙を組み合わせる

車両の後ろに回って人と絡めても面白い。まさに昭和の風景だ。先頭部分が写っていなくても十分SLだということが分かる

フォトスクールの実例から学ぶ“自分らしい写真表現”

神保町写真塾

インプレス・フォトスクールの受講生が実際にどのようなアドバイスを受けて作品をブラッシュアップし、自分らしい写真表現を探求しているのか。その過程を見ながらレベルを高めていくポイントを紹介していく。

文•岡嶋和幸　今月の受講生•及川美奈子さん

CASE 05

試行錯誤という経験こそ“選ぶ力”を養う

画像処理に頼りすぎると正しい露出判断の妨げに

撮り直せないシーンでの失敗は、その原因を追及し、同じミスを繰り返さないようにすることが大切だ。デジタルカメラは撮影時にそのあたりの検証ができる。ところが、例えば適正露出で撮れなかった場合、それを失敗と認識しないで画像処理に頼っている人は少なくない。それによる不自然さやクオリティーの低下に気付かないと、アバウトな露出判断が身に付いてしまう。RAWで撮れば後でどうにでもなるという誤った認識も撮影技術向上の妨げになる。うまく撮れたつもり、うまく画像処理ができたつもりでも、目の肥えた人には失敗写真にしか見えないことも。そうならないために受講生には厳しい目で指導している。

私が担当する講座では、課題提出はすべてプリントなのだが、ほんのちょっとした粗でも目につきやすいのがその理由の1つ。目障りに感じるそれらは撮影でしかリカバリーができない場合がほとんど。つまりは失敗、すなわち撮り直しというわけだ。クオリティーの統一という観点から、組写真は画像処理での限界を知るのにちょうど良い。作品間で比較ができてしまうため、単写真のようにごまかしが利かない。

今回登場いただく及川さんは現在、画像処理やプリントを通じて撮影の大切さを学んでいる最中。作品制作および展示を繰り返しながら着実に経験値を高めている。基礎からしっかり学ぼうと思ったのは、撮影、セレクト、画像処理、プリントなど作品づくりの過程での判断力が不足していると感じたからなのだそうだ。

STEP 1 自分が知らない写真表現の世界

及川さんがデジタルカメラで写真を撮り始めたのはネコを飼うようになってから。しばらくは愛猫を撮って楽しんでいたが、友人が参加した展覧会で、美術館での展示を目指して作品制作を行う講座のことを知る。自分もやってみたいと受講することにした。

受講をきっかけに写真展や写真集を見る機会が増えて、写真表現の多様性を知る。自宅周辺など身近なところで何気ない光景を撮影する受講生もいたりして、そのような写真の良さが全く理解できなかったそうだ。自分がこれまで目にしていた写真とのギャップに戸惑いを感じもしたが、そのような表現の面白さに少しずつ気付き始める。

とはいえ、何もかもが初めての経験で、作品の完成イメージも曖昧であるため、講師のアドバイスどおりに制作を進めるしかなかった。展示作品は無事に完成したが、その制作過程では何ひとつ自分で判断することができなかった。知識や経験不足で、自力では作品づくりができないことを実感する。

東京・六本木にある国立新美術館での公募展の出展作品。写真家の大和田 良氏、菅原一剛氏、瀬戸正人氏、写真評論家の飯沢耕太郎氏、写真研究者の小林美香氏といった講師陣からアドバイスを受けながら作品づくりを行った。とはいっても、言われるがままに仕上げていっただけで、気がつけば作品が完成していたという。セレクトも自分が良いと思う写真とは違ったもので、本当にこれでいいのだろうかと疑問に思ったりもしたそうだ

インプレス・フォトスクールとは?

カメラの使い方や撮影実習中心の写真教室とは一線を画し、写真の知識や表現力の向上に重点を置いた各種講座を用意している。写真学校で基礎を身に付け、プロカメラマンとして経験が豊富であるだけでなく、継続的に作品を制作、発表している写真家が講師を務める。

少人数制でひとりひとりに向き合った講座スタイル。アットホームな雰囲気を大切にしている

**インプレス・フォトスクール
神保町写真教室の詳細は**

➡ http://school.ganref.jp/

STEP 2 伝わる写真を撮るための基礎に立ち返る

撮影、画像処理、プリントなどの技術は、たくさん実践をしないと自分自身の経験にはならない。急がば回れで、教則本やネット上に書かれていること、写真教室で教えられたことを鵜呑みにするのではなく、本当にそうなのか、それが自分に合っているのかなど、試行錯誤を重ねながら1つ1つを追体験していくことが大切である。

授業でもテキストを読んだり講師の話を聞いたりするだけでは分かったつもりになりがち。そこで復習がてら撮影することを課題にしているのだが、仕事などで忙しいと、過去の写真の中から選んで提出する人もいる。課題を提出することより、実際に自分でやってみることの方が大切なので、及川さんにはわざわざどこかへ出かけたり、フォトジェニックな被写体やシーンを探したりしないで、自宅周辺など無理のない範囲であれこれトライをした方が良いとアドバイスをした。

撮影というとカメラの使いこなしにウエイトを置きがちだが、撮り続けていくうちに着実に身についていくので焦る必要はない。最初から何でも成功しようとしないで、失敗を恐れず、トライアンドエラーを繰り返した方がいろいろ経験になる。自分には関係のない機能もあったりするので、まず先に得意とする被写体やシーンを見つけ、撮影スタイルを確立した方が効率的だろう。

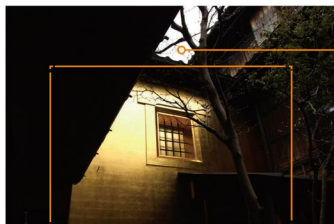
及川さんがインプレス・フォトスクールの「作品づくり基礎」で光や構図について学んでいく過程では画像処理を禁止にした。コントラストや彩度など、写真の印象は撮影するときの光が大きく関係するからだ。それを意識しながらしっかり撮れるようになることが最優先で、愛機の画質性能の優劣も自分の目で確かめることができる。

フレーミングがアバウトになりがちなのでトリミングも禁止だ。また、ファインダーや背面モニターを見ると足が止まってしまい、しかも切り取られた枠の中だけで観察したり判断することになる。これが構図の迷いにもつながるため、しっかりと肉眼で観察、判断してからファインダーや背面モニターを見る習慣をつけるようにした。

鑑賞者は文字に視線を奪われやすい

画面の下半分はゴチャゴチャしている。文字や鮮やかなものには鑑賞者の視線が奪われやすい。それらが入らないように観覧車と空だけの上半分で画面を構成した方が、優しく柔らかい雰囲気の写真に仕上がる

色やボケ具合で主題より前ボケの方が目立つことがある

クモの巣の様子がはっきり見える背景処理。ところが花の前ボケは鮮やかで目立つため、クモの巣に視線を向けづらい。主題は画面センターをキープしつつ、フットワークの工夫でそれらをフレームアウトすると良い

鑑賞者は明るい部分に視線が向きやすい

鑑賞者の視線は明るい部分や白い部分に流れやすい。左側のシャドウ部分の面積も多めの印象なので、主題は画面センターをキープしつつ、画角を狭めて上側の空が入らないようにすると引き締まった印象になる

及川さんの声 写真教室の初めの頃はフォトジェニックな被写体ばかりを選んでいましたが、身近なものにすることで時間に余裕ができました。光や構図について学ぶ中で、光の向きや強さ、時間帯を意識するようになりました。以前はズームレンズを動かすだけで安易に構図を決めていましたが、今はズームに頼らず体を動かして撮るようになりました。

POINT

シャープな部分があるからこそブレやボケが効く

ブレやボケによる表現は、基本的には画面内にシャープに見える部分があるからこそ、その対比で効果的に感じられるようになる。ブレを生かしたい場合は画面内の任意の場所をしっかりと写し止めること、ボケの場合はしっかりとピントを合わせることがポイント。どちらもどの部分をシャープに見せるかがとても重要で、鑑賞者はまずその部分に視線を向けることになる。もちろん、画面全体がぶれていたり、ぼけていたりといった表現も有効。ただし、その効果が中途半端だと、鑑賞者はどっちつかずの状態に違和感を覚えて、失敗写真と認識する場合もあるだろう。

シャープな部分が弱い

桜の木のブレをもう少し抑えることで、流れている人々の動きをより効果的に見せられるようになる

静と動の対比が効果的

ピントが合ってしっかり止まって見える部分があるからこそブレの効果が生かされ、躍動感のある表現に

及川さんの声 店に行きさまざまなアングルから撮ったりパーツのアップを撮ったりしました。1回目のセレクト時に、パースを付けた写真が多く説明的に見えると指摘を受け、正面から捉えるようアドバイスを受けました。2回目の撮影ではコンセプトもはっきりしてイメージどおりに撮れ、先生がよく言われる「組写真は点と点がつながる感じ」が少し分かった気がしました。

この人形のことを知らない人にも伝わるような表現を目指した。好きなパーツを組み合わせて自分好みの人形を完成させるように、自分が魅力的に感じた部分を撮影して、それらを組み合わせて1つの作品にまとめている

全作品点数10点

STEP 3 マニアックなフィギュアの世界を組写真で伝える

インプレス・フォトスクールの「組写真トレーニング」で、及川さんは毎回出題されるテーマをクリアしながら、これまで学んできたことへの理解力と対応力を高めていく。「世界」がテーマのときは「自分の好きな世界」ということで、テレビ番組で取り上げられていた「Blythe（ブライス）」というファッションドールをモチーフに、「オタクの世界」を表現してみようとトライをした。

それは及川さん自身も所有している人形なのだが、それだけでは組写真でまとめるのに限界があるため、販売しているショップに協力をお願いし、テーマを形にするための素材集め（＝撮影）をする。課題提出時に見たそれらは、よりコンセプトを明確にして撮り足すことで面白い作品になると感じたので、さらに完成度を高めて修了展でお披露目することになった。

店内の照明はいろいろな光源が混ざっていて、しかも場所によってその状態もさまざま。展示するプリント作品の制作では、明るさや色などそのバラツキを軽減するのに苦戦を強いられる。撮影時にもっと光に対する意識を高め、画面構成を工夫し、露出やホワイトバランスなどにも細心の注意を払いながら撮影しておけば、画像処理がラクになるだけでなく、統一感を出すためのさらにきめ細かい調整ができていただろう。

また、1点だけ違うカメラで撮影した写真があったのだが、セレクトから外さずに画像処理でカバーすることにした。色やトーンなど他の写真と同じ印象で見えるようにするのは大変なのだが、あえてそれにトライすることで、撮影と画像処理の役割分担や連携の大切さを知ってもらおうと考えた。撮影で詰め切れなかった部分や画像処理の限界を実作業を通じて学んでいくのだ。

POINT

写真で伝えたいことをしっかり伝えるためのワークフロー

1枚の写真で伝えなければならない単写真では、画面に入れる情報の取捨選択やその処理がポイントになる。組写真でそれはセレクトや構成で行うことになる。伝わる表現にするためには構成する写真の役割分担が大切。撮影時の視点やアプローチの方法が、単写真とは違ってくることもある。それぞれ主題が明確で、それらの点を1本の線でつなぐ必要がある。自由に撮影して、セレクトの段階でまとめることも可能だが、撮影前に組写真のテーマやコンセプトをあらかじめ明確にしてから撮影に臨んだ方が効率的だ。撮り足したり、組み直したりしながら構成をブラッシュアップし、より表現意図を伝わりやすくすることができる。

最初の取材では「ショップ紹介」的な写真が多かった。もちろんテーマやコンセプトに合わない写真はセレクトから外せば良いだけ。次回はどのような視点でアプローチをすれば良いのかなどが分かるので、決して無駄なことではないのだ

STEP 4 複数の写真と用紙の組み合わせで比較する

ひと息つく暇もなく今度は「岡嶋和幸ゼミ」での作品制作に着手する。選んだテーマは「気配」。愛猫がいつも居るお気に入りの場所で、姿はあえて写さずにその気配を捉えようというわけだ。コンセプトは及川さん自身の目線。部屋の中で見つけたとき、その仕草などを眺めているときの距離感やアングルを意識しながら撮り進めていった。

今回は窓からの自然光だけで撮影、イメージする仕上がりになるように適正露出にもこだわる。その結果、撮って出しのJPEG画像のストレートプリントでも問題なしのレベルをクリア。クオリティーを損なわずに統一感など用紙に合わせたきめ細かいトーン調整ができる。

ところが、いろいろ試して用紙を選んだはずなのに、シャドウの階調がつぶれているなどいまひとつの仕上がり。原因はシャドウの少ないお気に入りの1枚だけで用紙のテストをしてしまったこと。しかも、候補に選んだのはすべてマット系のファインアート紙。光沢系はないだろうと最初から決めつけてテストをしなかったのだ。

その後、光沢系の用紙をいくつか試して問題が解決。用紙が変更になったため、画像処理などすべて最初からやり直しになってしまったが、この経験も今後の作品づくりで生かされるはずだ。

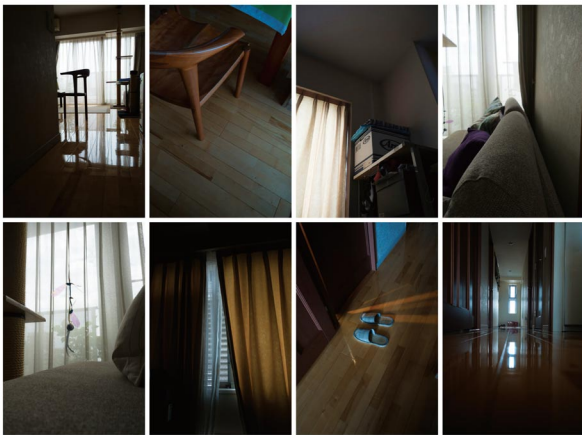
POINT

異なる用紙でテストプリントする

用紙選びではできるだけ多くの種類をテストしよう。マット系が合うと思っていても必ず光沢系も候補に加えたい。また、コントラストや彩度などによって優劣が顕著に現れるため、それぞれ異なる傾向の複数の写真で試そう。

キャンソン インフィニティ
ラグ・フォトグラフィック

キャンソン インフィニティ
プラチナ・ファイバー・ラグ

シャドウが多い画面構成であるため、風合いだけでなく、その部分の階調表現に有利な用紙を選択している

何気ない部屋の様子の中に、ネコの姿が浮かび上がってくるような表現を目指す。それらの写真をA4サイズの用紙にプリントをして、マットボードを付けずに特注の木製フレームで額装。8点の作品を2段に並べて展示した。最終的に選んだ用紙はキャンソン インフィニティの「プラチナ・ファイバー・ラグ」。明るさやコントラストなど微妙なトーン調整を繰り返しながら作品全体の統一感を出し、光が印象的に感じられるようなプリントに仕上げていった

全作品点数8点

及川さんの声 朝の光で撮影時間もほぼ同じにし、撮る場所は違うものの全体のトーンを統一し、用紙はマット系と決めました。セレクト、画像処理とほぼ仕上げの段階で、階調のつぶれが気になると先生から指摘を受け、光沢系の用紙で試しました。仕上がり直前の変更にとまどいもありましたが、プリントを見たら変更して良かったと感じました。もう少し早くアドバイスをいただけたら……。

まとめ 複数の方法があれば即断せずに両方を試すことがステップアップの秘訣

失敗をしたくない、早く結果を出したいなど、誰でもそう思うのは当然のこと。近道をするために他人からその答えを引き出そうとする人もいる。でも私が持っている答えは、私自身の経験により得たものであり、それがその人にとっての正解とは限らない。だから鵜呑みにしないで自分でやってみることが一番だ。

及川さんに「これとこれ、どちらが良いですか？」と聞かれたとき、私は「両方やってみたら？」と答えている。「○○○は違うだろう」と決めつけるのではなく、実際にやって「やっぱり○○○は違っていた」と確認できた方が良い。想定外の結果が出ることもあるなど、どちらの場合も自分自身の経験になるからだ。

自分の経験以外で得たさまざまな情報が、判断の邪魔をすることは少なくない。私もスタジオやカメラマンのもとで修行をしているときに頭でっかちになったことがある。その後、自信満々で独立したのに全然うまく撮れない自分に絶望した。プロの現場での経験があるとはいえ、それはただ見ているだけにすぎなかったのだ。仕事のチャンスをもらい続けて、それらの撮影の積み重ねで技術を自分のものにしてきた。

仕事と趣味は違うけれど、及川さんはアドバイスをしたことをすぐに実践して、その結果を見せてくれる。それが達成できていれば、さらに別のアドバイスをするなど少しずつハードルを上げていく。写真はやればやるほど成長するため、ここまでやれば十分というものはない。遠回りのようだが、そのような一歩一歩の前進が大切なのである。

鈴木みのる：
プロレスラー／実業家

オリンパス PEN-F ／
M.ZUIKO DIGITAL ED
40-150mm F2.8 PRO ／
50mm（100mm相当）／
絞り優先AE
（F3.2、1/125秒、ー1.3EV）／
ISO 800 ／ WB：オート

【出演者リスト】

相羽高徳	株式会社グラフィクスアンドデザイニング 代表取締役会長兼社長/ 株式会社東京妙案開発研究所 代表取締役社長/アートディレクター /アーティスト
青木柾憲	株式会社本田技術研究所 二輪R&Dセンター シニアエキスパート
青山 剛	室蘭市長
鯵坂司郎	株式会社タムロン 代表取締役社長
石川次郎	編集者
出井伸之	クオンタムリープ株式会社 代表取締役 ファウンダー&CEO
井上康生	柔道家/柔道全日本男子監督/ 2000年シドニーオリンピック男子柔道100キロ級 金メダリスト
猪子寿之	ウルトラテクノロジスト集団チームラボ 代表
今井啓太	株式運用世界1位のストックピッカー （SMBC日興証券株式会社 機関投資家営業部 次長）
緒形直人	俳優
小川泰弘	東京ヤクルトスワローズ 投手
花山院弘匡	春日大社 宮司
片岡鶴太郎	俳優/画家
加藤勝信	一億総活躍担当大臣/衆議院議員
金指 潔	東急不動産ホールディングス株式会社 代表取締役会長
北河原公敬	華厳宗大本山東大寺 長老
北の富士勝昭	第52代 横綱
久世博之	アトラ株式会社 代表取締役
小林知行	株式会社諏訪田製作所 代表取締役
今野翔太	B.LEAGUE 大阪エヴェッサ所属 プロバスケットボール選手
相馬卓弥	B.LEAGUE 大阪エヴェッサ所属 プロバスケットボール選手
齋藤孝司	鮨 さいとう店主

PHOTO EXHIBITION INFORMATION

瞬間の顔 vol.9 山岸 伸

会場：**オリンパスギャラリー東京**
日程：**2017年3月17日（金）～3月22日（水）** ※木曜休館
時間：**11：00～19：00** ※最終日15：00まで
※オリンパスギャラリー大阪は4月7日～4月13日まで（10:00～18:00、日曜・祝日休館）
※ギャラリートークが東京会場で3月20日（月・祝）14:00～15:00、
大阪会場は4月8日（土）14:00～15:00に開催予定（参加費：無料）

斉藤正明	株式会社JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント 代表取締役社長
坂田利夫	芸人
阪本順治	映画監督/脚本家
坂村 健	東京大学教授 東京大学大学院情報学環 ユビキタス情報社会研究基盤研究センター センター長
佐藤耕一	ヒューマンホールディングス株式会社 代表取締役会長
佐藤雅美	直木賞作家
島田精一	学校法人 津田塾大学 理事長
清水 崇	映画監督/脚本家
笑福亭仁鶴	落語家
白鳥真太郎	写真家/公益社団法人 日本広告写真家協会 会長
菅谷定彦	株式会社テレビ東京 顧問/学校法人 渡辺学園 東京家政大学 理事長
鈴木理也	レッド・ウィング・ジャパン株式会社 代表取締役 ゼネラルマネージャー
高見重光	TAKAMI BRIDAL 代表取締役
財部誠一	経済ジャーナリスト
竹内康雄	オリンパス株式会社 取締役副社長執行役員 CFO
田中 剛	株式会社レーサム 代表取締役社長
陳 建一	四川飯店 取締役会長
菰田欣也	四川飯店グループ取締役総料理長
陳 建太郎	四川飯店 代表取締役社長
坪井直樹	テレビ朝日 アナウンサー
テラウチマサト	写真家

東京消防庁 第八消防方面本部 消防救助機動部隊（通称：ハイパーレスキュー）

広田尚敬	鉄道写真家
広田 泉	鉄道写真家
深田晃司	映画監督/第69回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門審査員賞受賞
藤井雅之	宝生流能楽師 重要無形文化財総合指定認定者
細野 敦	弁護士
本間憲章	医療法人社団 本間歯科 理事長/ 日本歯科大学附属病院 総合診療科 臨床教授/医学博士
Massa	フラワーアーティスト
松井一郎	大阪府知事/日本維新の会・大阪維新の会 代表
松岡 敬	同志社大学長/工学博士
万代典彦	ジェイアールバス関東株式会社 取締役会長
三國清三	HÔTEL DE MIKUNI オーナーシェフ
水戸岡鋭治	イラストレーター /工業・建築デザイナー
宗雪雅幸	公益社団法人 日本写真協会 代表理事会長
村上太胤	薬師寺 管主
村上もとか	漫画家
矢崎雄一郎	テラ株式会社 代表取締役社長/医師
山田哲人	東京ヤクルトスワローズ 内野手
山内惠介	歌手
山本 亨	墨田区長
山本善政	株式会社ハードオフコーポレーション 代表取締役会長兼社長
行岡哲男	東京医科大学 救急・災害医学分野 主任教授
龍 信之助	虎ノ門ヒルズトルナーレ歯科・矯正歯科龍醫院 院長 神奈川歯科大学 臨床准教授/医療法人社団RMDCC 理事長
陸上自衛隊	**習志野駐屯地 第一空挺団**

三浦雄一郎：プロスキーヤー/冒険家
三浦豪太：プロスキーヤー/博士（医学）

オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F2.8 PRO ／ 57mm（114mm相当）／ 絞り優先AE（F4、1/80秒、－0.3EV）／ ISO 200 ／ WB：オート

二代目 喜多村緑郎：劇団新派 俳優

オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／ 22mm（44mm相当）／ 絞り優先AE（F3.5、1/100秒、－0.7EV）／ ISO 400 ／ WB：オート

林部広一：東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社盛岡車両センター 車両技術主務
熊谷貢治：東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社盛岡運輸区 主任運転士

オリンパス PEN-F ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／ 32mm（64mm相当）／ 絞り優先AE（F5、1/200秒、－1.3EV）／ ISO 500 ／ WB：オート

オリンパス PEN-F ／
M.ZUIKO DIGITAL ED
14-42mm F3.5-5.6 EZ ／
19mm（38mm相当）／
絞り優先AE（F6.3、
1/1,250秒、−0.3EV）／
ISO 200／ WB：晴天

オリンパス PEN-F ／
M.ZUIKO DIGITAL ED
14-42mm F3.5-5.6 EZ ／
20mm（40mm相当）／
絞り優先AE（F5.6、1/1,250秒、
±0EV）／ SO 200／
WB：オート

オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO／40mm（80mm相当）絞り優先AE（F5.6、1/8,000秒、−1.3EV）／ISO 200／WB：晴天

オリンパス PEN-F／M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ／14mm（28mm相当）／絞り優先AE（F3.5、1/25秒、±0EV）／ISO 3200／WB：オート

PHOTO EXHIBITION INFORMATION

なぎら健壱

「すれ違う日常」

眼に映るものがあり、それをカメラで切り取る。それは思いがけなく眼の前に現れた場景であり、二度と現われることはない。もし演出でそれを創り出そうとすれば、そこにあるものは似非の瞬間なのである。「撮らせてもらっていいですか？」そう言葉をかける。しかしカメラを意識した瞬間に自然体や、それに伴う趣は消滅してしまう。「真」を「写す」のが写真であるとすればだが……。

日頃、写真を撮ろうとカメラを構えて歩いているわけではない。偶然に遭遇した被写体が琴線にふれ、シャッターを切る。よってその一瞬の出合い、そしてその時カメラを持っていられたこと、それに対してシャッターが切れたこと自体がラッキーなのである。三脚を備えて何時間も粘ったり、被写体が現れるのをじっと待っているなど、到底私に出来ようはずもない。

そこにあるのは、ただラッキーな瞬間なのである。日常の中にラッキーがあったともいえる。いや、ラッキーな瞬間が日常だったのかもしれない。それに気づくかどうかである。そうした写真が好きなのである。街は面白い――だから歩く。日常は面白い――だから歩く。

そしてシャッターを切る。ここにあるのはそうした写真たちである。

会場：**オリンパスギャラリー東京**
日程：**2017年2月24日（金）～3月1日（水）** ※木曜休館
時間：**11：00～19：00**
※最終日15：00まで※オリンパスギャラリー大阪は3月10日～3月23日まで

オリンパス PEN-F／M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ／42mm（84mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/100秒、±0EV）／ISO 320／WB：晴天

オリンパス PEN-F／M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ／23mm（46mm相当）／絞り優先AE（F4.4、1/160秒、±0EV）／ISO 200／WB：晴天

OLYMPUS PRESENTS

写真で伝えたいこと

http://www.olympus.co.jp/jp/interview-photographers/

Vol.04

安田菜津紀

写真家はなぜ写真を撮るのか?
まだ見ぬ誰かに、
自分が感じたことを知ってほしいから
写真だからこそ伝わる思いがある

PROFILE

安田菜津紀

やすだ なつき：高校生のとき、NPO法人「国境なき子どもたち」のプログラムでカンボジアに赴き、青少年自立支援施設などを取材。その後、フォトジャーナリストとして、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地の記録を続けている。2012年、「HIVと共に生まれる -ウガンダのエイズ孤児たち-」で第8回名取洋之助写真賞受賞
http://www.yasudanatsuki.com/

1枚の写真が与えてくれるのは、微かな予感のようなものかもしれない。そこから感じられるものは本当に正しいのか、頼りないような感覚に襲われることもある。それでも、繰り返し写真を眺めたり少しずつ目にする範囲を広げたりすることで、そこに写ったものが少しずつ自分の心の中に定着することがある。

ここに1枚の写真がある。柔らかな光の中で折り紙を折る手。竹串のようなものでていねいに折り目を付けている。机上には、そうして折られた折り紙が居心地よさそうに並んでいる。明るい光の中で折り紙に集中するその手は、心なしか幸せそうに見える。

少しずつ、他の写真に目を広げてみる。折り紙を手にした高齢の女性。大事そうに掌にある折り紙を眺めている。机上には折り紙の束と、そこから生まれた折り紙作品。背後にはたくさんの段ボールが積み上がっている。別の写真には、夫と並んだ写真。カメラを見つめる2人の柔和な笑顔を見ていると、そこには撮影者への確かな信頼も感じられる。別の写真で夫がいるのは、半壊の家の前。「危」の張り紙が見える玄関を開けようとしている。

これらの写真はすべてフォトジャーナリスト・安田菜津紀の手による、熊本地震の被災者の様子だ。背景の事情を教えてもらった。

写真に写っているのは、作取さんご夫妻。2016年9月の段階で、益城町の避難所で生活していた。兄夫婦と母もこの避難所で生活。同じ仮設住宅に移りたいが、もともとの世帯としては別なので、その希望がまったく通らない状況だった。

折り紙は、妻ののぶ子さんのご趣味。折り紙に熱中しているときは嫌なことも忘れられるという。出来上がった折り紙は、お世話になっている人たちへのプレゼント。足がご不自由なのぶ子さんのため、夫の盛光さんが時々自宅に戻って、折り紙や手芸用品を持ち帰る。もちろん、半壊の家に立ち入ることに危険が伴わないわけではない。

2016年9月初めの時点で、毎日は寝泊りしていない人も含めると、益城町の避難所には約400人が生活していた。「本来はあってはいけないことなのですが、普段の生活から弱い立場にある方が追い込まれてしまっているという状況があります」。仮設住宅の申し込み要件が変わったことに気付かず、いつまでも避難所生活が続く高齢の男性。あるいは、車いすで生活できる仮設住宅がなかなか整備されず、あちこちの避難所を転々としてきた男性。東

被災者に寄り添いながら声なき声を伝え続ける

日本大震災を長く取材してきた安田は、それが残念でならない。「こういう災害で誰の声が届きにくくなるかは、実は私たちは東日本大震災で学んだはずのことだったんです」。

これらの写真が撮影された2016年9月は、初めて安田が避難所に足を踏み入れた時期でもある。もっと早い時期から熊本地震を取材していたのに、なぜそれまで避難所を訪れなかったのか。そこに、フォトジャーナリストとしての安田の姿勢が凝縮されている。

「東日本大震災のときは被災範囲が広かったのでメディアの取材もある程度分散していました。でも熊本の場合、狭い地域でこれだけの災害が起きたためにメディアの取材が集中してしまいました。そのことで避難者の方がかなり疲れていることは予想がついたので、少し間をおいてからお邪魔しようと思ったのです」。取材する側の論理を振りかざすのではなく、あくまでも取材される側の立場に立った深い配慮だ。

そして、マスメディアと個人で活動するフォトジャーナリストの立場の違いを説明する。「やっぱり新聞記者さんって締め切りがあるんですね。夕刊に間に合わせるためにここで話を聞いておかなければいかないというふうに、報道する側の時間に合わせて取材相手を振り回してしまうことだってあります。私たちの場合、基本的には差し迫った締め切りがないので、私たちの方が相手の時間に合わせることができると思います」。

被災者に寄り添って、声なき声をすくいあげる。そして、さまざまなチャンネルを使って、その声をじっくりと世の中に広げていく。そこで伝えられるのは、決して一目でわかることばかりではないかもしれない。そこでは写真を見る側も試されることになる。

文●岡野幸治

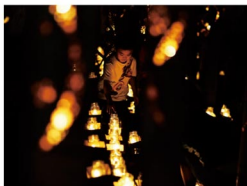
トークイベント情報

CP+2017オリンパスブース

「写真で伝える世界、東北の"今"」

2月24日（金）：13:40〜14:10
2月25日（土）：15:35〜16:05

オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL 17mm F1.8／17mm（34mm相当）／絞り優先AE（F1.8、1/6,400秒、－0.7EV）／ ISO 200／ WB：オート

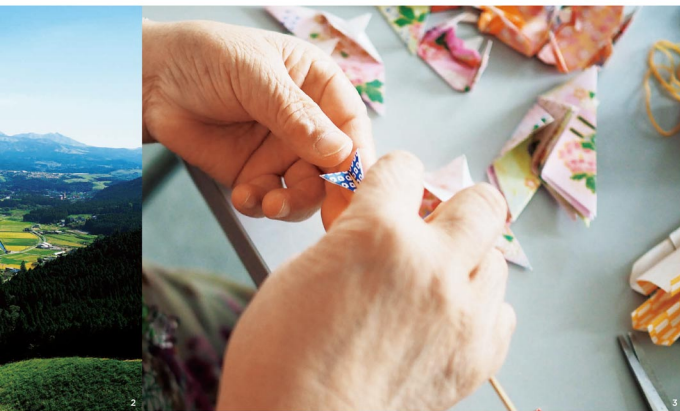
熊本地震から再起をかけたイチゴたち。小さな花が「生きたい」と訴えているようだった（熊本県阿蘇村）

オリンパス OM-D E-M5 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL 75mm F1.8／75mm（150mm相当）／絞り優先AE（F1.8、1/125秒、－1.3EV）／ ISO 3200／ WB：オート

熊本城下で今年も行われた「みずあかり」の祭り。街の再起を願って（熊本県熊本市）

オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL 17mm F1.8／17mm（34mm相当）／絞り優先AE（F8、1/400秒、－0.7EV）／ ISO 200／ WB：オート

以前泊まったことがあったペンション村も、その後の土砂崩れで営業ができなくなってしまった（熊本県南阿蘇村）

2

3

1 オリンパス OM-D E-M5 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL 17mm F1.8／17mm（34mm相当）／絞り優先AE（F1.8、1/1,000秒、＋0.3EV）／ ISO 1600／ WB：オート

体育館避難所で仮設住宅の当選を待つ、作取盛光さん、のぶ子さんご夫妻（熊本県益城町）

2 オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL 17mm F1.8／17mm（34mm相当）／絞り優先AE（F8、1/400秒、±0EV）／ ISO 200／ WB：オート

「それでも私はこの自然が大好きだから」とるり子さん。「またここに、心を癒しに来てちょうだいね」

3 オリンパス OM-D E-M5 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL 17mm F1.8／17mm（34mm相当）／絞り優先AE（F1.8、1/500秒、＋0.3EV）／ ISO 1600／ WB：オート

こうして折った人形や鶴は、ここで出会ったボランティアたちにプレゼントしているのだという（熊本県益城町）

あっ　颪……
日本中が悲しみに暮れたあの日からちょうどひと月
どこまでも穏やかな瀬戸内の光と颪
迷い込んだ暗闇に差し込む一条の光……
私の中で止まった時間が動き出した瞬間

詩的憧憬

写真・文
米 美知子

キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ／ EF24-105mm F4L IS USM ／58mm ／マニュアル露出（F11、1/80秒）／ ISO 800／ WB：太陽光

DRAMATIC CIRCUS
Formula 1 2016 Vol.11／狂瀾

熱田 護

キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／シグマ 12-24mm F4 DG HSM ／12mm ／絞り優先AE（F5、1/800秒、+0.7EV）／ ISO 3200 ／ WB：オート

チームスタッフとの大撮影会。「チャンピオーネ! チャンピオーネ! オ〜レ〜オ〜レ〜オ〜レ〜〜〜!」と全員で歌っている。下の撮影の直前にレンズの落下事件が勃発。慌ててレンズを付け直したら下の写真のように周りにはレンズだらけとなり、少し無理やり右前方に移動して撮影したのが上のカット。撮影ポジションのキープと、後ろ左右から激しく押されてブレを回避することに必死になってシャッターを切る

チャンピオンが決定した瞬間。それはカメラマンに

最終戦のアブダビGPはチャンピオンが決まるグランプリだった。チャンピオンになる権利があるのは、メルセデスに乗るハミルトン選手とロズベルグ選手の2人。レースが終わり、5ポイント差でロズベルグ選手が初めてチャンピオンを獲得した。この瞬間、世界中から集まったカメラマンたちは、ロズベルグ選手の歓喜の表情をカメラに収めようと行動を開始する。まずは、ロズベルグ選手がパルクフェルメ（車両保管所）でマシンを降りてメカニックに駆け寄って来たところを撮影し、表彰台でのセレモニーや記者会見などが終わったあと、チーム集合写真を撮る。毎戦撮るチーム集合写真と違うところは、ドライバー＆チームスタッフの高揚感とそれを撮影するカメラマンたちの気合いだ。たくさんの撮る側と撮られる側の人間がいるのだが、もちろんその中心はロズベルグ戦手。そしてチーム写真を撮影した直後のシャンパンファイトの始まりが、カメラマンにとってもスタートの合図となる。

12-24mmを付けたボディを右手に持ち、85mmを付けたボディは肩にかけて、シャンパンが降り注ぐ中、ただひたすらロズベルグ選手の真正面に陣取ることを目指して突っ込んでいく。その瞬間は、レンズにシャンパ

キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／シグマ 12-24mm F4 DG HSM ／12mm ／絞り優先AE（F4、1/400秒、+0.3EV）／ ISO 2500／ WB：オート
ウイニングラップを終えて、表彰台の下にあるパルクフェルメに上位3台がマシンを止める。迷わず最前列のフェンスの位置に進むと、背後にメルセデスのメカニックがやって来たので場所を譲る。それはひょっとしたらロズベルグ選手の担当メカニックならここに来るのではないかという賭けだった。もし、背後にメカニックが来なかったら、来たのがハミルトン選手の担当メカニックだったら、ほとんど何も撮れてなかっただろう

キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／シグマ 12-24mm F4 DG HSM ／24mm ／絞り優先AE（F4、1/500秒、+0.7EV）／ ISO 3200／ WB：オート
恒例のチーム集合写真のエンディングはシャンパンのかけ合い。それと同時に、カメラマンたちはロズベルグ選手に殺到する。最初の1歩が大事!

キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ／シグマ 12-24mm F4 DG HSM ／24mm ／絞り優先AE（F4.5、1/320秒、+0.7EV）／ ISO 3200／ WB：オート
記念撮影が行われた最後の方でお母さん（右）、奥さん（左）とキスシーンを撮影。初のチャンピオン獲得だったし、嬉しそう。でも、引退するとは思わなかった。いつか復帰するような気もする

とって戦いのスタートでもある

ンが付くとか、もう1台のボディが誰かに引っかかって引っ張られるとかをかまっている余裕などはどこにもない。どうぞどうぞとかいう譲り合いなど全くない。我こそが前に行くのだという5、60人の獣のような男たちが汚い言葉を吐きつつ1カ所へと突き進む。汗とシャンパンの匂いが充満する中、そこは本当に息もできないくらいの超強力なおしくらまんじゅう状態となる。ロズベルグ選手を中心にして周りにメカニックが集合し撮影状態になろうとしたとき、幸運にもほぼ理想的な位置に陣取ることができた。そして右手に持った12-24mm付きのボディを構えようとしたその瞬間、なぜか新品の12-24mmがふわ～っと、落下していくのが見えるではないか!!! マジかぁーーーーと叫んだことは憶えている。落下したレンズは、幸運にもすぐ右前にいたメカニックのスニーカーの上に落ちたあと、小さくバウンドして僕の手前に転がった。マッハで手に取り、ボディに装着したのだが、この信じられないタイミングでの出来事があった数秒の間に1人か2人に撮影ポジションを譲ってしまったようだ。

大喜びのロズベルグ選手は、あちこちでチームメンバーと記念撮影したり、輪になって大はしゃぎしたり、多くのシャッターチャンスを提供してくれた。30分くらいの撮影タイムのあと、プレスルームに戻る途中に考えていたことは、なんで、レンズが外れたのかだった。それになぜか、左胸も痛む。昔、ゴーカートのレースで肋骨を3本同時に骨折したときの痛みにそっくりだ。あのおしくらまんじゅうの息ができなかった数十秒で肋骨にヒビが入ったようだ。

その後2週間は笑ったり、くしゃみが出たりすると笑っちゃうくらいの激痛が続く日々だった。F1撮影ではこのように想像もできないようなことが起こる。それも含めて、楽しいね、撮影って！

人工光を思いどおりに操る写真の魔術

夜光都市 Another World アナザーワールド

写真・文● 山下裕之

第7夜 回送列車が眠りにつく静かな鉄道車両基地

夜の帳(とばり)が下りると、普段見慣れた都会の喧騒はドラマチックな世界へと変わる。そこにはデジタルカメラならではの楽しさが広がっている!

都市交通の重要な役割を担う鉄道。都心にもたくさんの車両基地が存在する。そこで今回は東京メトロ小石川車両基地を深夜に撮影した。この車両基地は都心の中にひっそりと佇むように建設され、まさにSFに出てくる秘密基地のような様子。車両基地の照明がレール表面に反射して、美しい光の軌道ラインを表しているようだ。特にカーブの曲線や複雑な軌道部分ではさらに美しい魅力を放っている。夜が深まるごとに、1日の仕事を終えた車両たちが静かに基地に戻ってくる。徐々に基地内には、機関を停止した無機質な車両たちが増えはじめ、時間が経つに連れて軌道上を車両たちが埋めていった。基地の照明で逆光での撮影となっているが、硬質な車両のフォルムが、良い具合にコントラストを作ってくれて、その光景はとても美しく静寂で、とても印象的な作品となった。この撮影地は橋の上で安全に撮影できる場所ではあるが、このようなケースは意外に珍しい。基本的に車両基地には高いフェンスや壁があるため、ベストポジションから狙え、かつ安全に撮影できる場所は少ない。だから撮影をする前にしっかり現場の状況を見て、通行人や交通の妨げとならないか、安全に撮影できるか、という点を意識してロケハンを行うことが大切となる。

撮影DATA

CAMERA
ニコン D810
LENS
AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR Ⅱ
FOCUS LENGTH
200mm
EXPOSURE MODE
マニュアル露出
F-NO F13
SHUTTER SPEED 60秒
ISO 64
WHITE BALANCE
2,500K

都市風景に欠かせないのが、鉄道のある風景。交通機関として、生活に何気なく溶け込んでいるそこには、無駄がなく機能美の世界観がある。そして静寂の深夜、1日を終えようとする電車と車両基地を美しく撮影した

構図・イメージ　雲の表情や線路の迫力で画面の要素を整理する

現場は撮影できる場所が限られているため、構図で一番課題となるのは画角だ。少し引き気味の構図で、街の雰囲気を入れたいところだが、雲がないためにどことなく空がのっぺりした感じに。また望遠寄りの構図で線路と電車に的を絞ってみたが、車両基地の良さが伝わらない。それでこの場合は、車両基地の建物と電車、軌道をバランス良く収める構図となった。写真撮影は環境や天候に大きく左右されるので、臨機応変に対処しよう。

102mmで空を入れる

200mmで空をカット

構図によって伝えたい都市の雰囲気がまるっきり変わってしまう。写真で何を表現したいのか、テーマを持つと構図を決めやすい

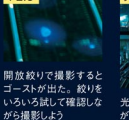
レンズワーク　200mmの圧縮効果で曲がるレールを強調する

撮影場所が前後に移動できず、脚立を使いフェンスの上から見下ろす、限られた場所から撮影するため、自由に画角を設定できる望遠ズームレンズを使用した。望遠域を使うことで、何気なく見えている平凡な景色が圧縮効果によって面白い光景になる。そのためには車両基地の長い列車やレールの軌道を、進行方向に沿って撮影することがポイントだ。カーブや分岐ポイントの複雑な場所がぐにゃりと変形し、これまた不思議な景色を見せてくれる。

車両基地周辺は撮影場所に制約があり自由に寄り引きができないため、フレーミングの微調整ができる望遠ズームが重宝する。フェンスの上から見下ろすアングルで200mmの圧縮効果を利用

カメラ設定　ゴーストと被写界深度を考慮してF13で撮影

焦点距離が200mmと長い場合に、被写界深度を十分に確保しパンフォーカスすることによって、長いレールや車両全体にしっかりエッジが効き、硬質な感じに仕上がる。また車両基地の照明が大きく光源が強いため、光条の出具合が主張し過ぎないようF値を調整。開け過ぎるとゴーストが出る場合があり注意が必要だ。ホワイトバランスや画質の調整は、深夜の質感を出すために色温度を低く。そして行先表示板で変わる光跡の変化も楽しみたい。

開放絞りで撮影するとゴーストが出た。絞りをいろいろ試して確認しながら撮影しよう

光跡で写真を演出するのも楽しいが、今回は主張しすぎると判断

山下ラボの光で遊ぶ実験室　夜景は楽しい!!

主役はぶらさず光跡は美しく露光間ズーム成功の秘訣の巻

ニコン D810／AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR ／120mm／マニュアル露出（F9、13秒）／ISO 64／WB：3,030K

夜景スポットやイルミネーションがきれいな場所で、ズームレンズを使った面白い光跡遊びをやってみた。方法は簡単で、三脚にズームレンズを付けたカメラをセット。撮影したいイルミネーションに画角を決め、10秒ほどのシャッター速度で露出を調整し、シャッターが開いて露光している間に、ズームインまたはズームアウトするだけ。これだけで楽しい光跡の写真が撮れてしまう。左の写真は女神像とイルミネーションの露出が違うため、女神像で7秒ほど露光し、残りの6秒でズームアウトしたもので、少しだけテクニックが必要になってくる。ポイントとしては、高倍率のズームレンズで、引いた画角でも画面いっぱいにイルミネーションがある場面が望ましい。

❶イルミネーションを主役の手前に入れる

❷高倍率ズームで7秒露光後望遠端から広角側へ

写真力がアップする

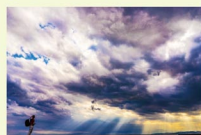
Photoshop レタッチ塾

お気に入りの写真をレタッチしても、なぜうまくいかないの? もしプロが自分の作品に手を入れたらどう仕上がるのだろうか? フォトグラファー・大和田 良がそんな疑問をスッキリ解決する。読者の皆さんから募集した作品を、実際に大和田先生がRAW現像&レタッチ! どんな仕上がりになるのか、ライブ感満点でお届けする。

写真・文•大和田 良

第19回 | 光が差す雲の質感を最大限に引き出すモノクロ表現

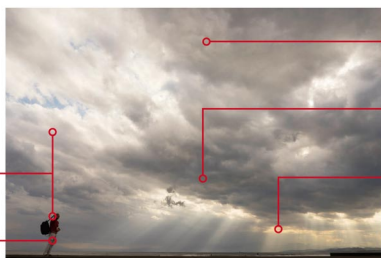
「希望」というテーマで拝見した今回の公募では、ポートレートを中心に明るく鮮やかな写真が多く集まった。また、逆に暗闇から浮かび上がるようなシャドウ描写の美しい写真も多かったように思う。その中から、今回は檀田剛之さんの写真をお借りしてレタッチを施してみたいと思う。雲の表情が豊かで、合間から差し込む光が美しく再現されている。バックパックを背負う瞬間が捉えられたことで動きが感じられ、旅人の雰囲気がうまく表現された1枚だ。美しい背景描写をよく生かしたスナップになっており、豊かなストーリーを思わせる佳作ではないだろうか。雲と人物の対比なども考えながら、オリジナル作品の特徴を受け継ぎつつ、少し趣向を変えたレタッチを施してみたい。

オリジナル作品

カメラ：ソニー α7 II
レンズ：FE 28mm F2
レタッチ：Photoshop Lightroom 2015でかすみの除去をし、彩度を微調整
撮影地：神奈川県藤沢市片瀬西浜海水浴場

作者：檀田剛之さん

準備

レタッチの方向性を検討する

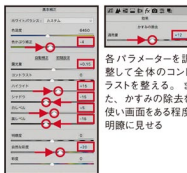
今回の写真で注目したいのは、何よりも雲の質感だろう。色調とコントラストを見極めながらどれくらい表情を豊かにすることができるか試したい。また、人物との対比を行うことで写真に描かれるストーリーも強調しよう。ディテール描写を見せるため、カラーとは別に最終的にはモノクロームに仕上げて違いを確かめたい。

※本連載はAdobe Photoshop CCを例に手順を紹介しています

STEP 1 雲を基準にWBを整える

Camera Raw

全体的にアンバー気味

正しい色合いになった

左上あたりの雲のシャドウ部分をターゲットにしてホワイトバランスを整える

各パラメーターを調整して全体のコントラストを整える。また、かすみの除去を使い画面をある程度明瞭に見せる

まず基本補正ではホワイトバランスツールを用い、左上の雲のシャドウをターゲットにして雲の色調をニュートラルなグレーに調整する。全体の階調は、明るい部分と暗い部分に適度なコントラストが表れるように各パラメーターを調整していくと良い。RAW現像の時点では白飛びや黒つぶれが広がらないように気を付ける。さらにかすみの除去で全体を若干明瞭に整えた。

※読者の公募作品を大和田先生がRAW現像&レタッチする「Photoshopレタッチ塾」のコンセプトを発展させた書籍『みんなのPhotoshop RAW現像教室』（本体2,000円+税／160ページ／ B5判）が2月24日に新発売! 38点の実例から実際に仕上げたい作品に近いものを参考にできる他、Camera RawやPhotoshop CCの詳しいテクニックも学べます。詳細はインプレスのWebサイト(http://book.impress.co.jp/books/1116101013)をご覧ください。

STEP 2 部分補正で階調を調整 Camera Raw

補正ブラシで人物の周辺を選択し、人物の階調を中心に明るくして被写体を強調する。同時に人物周辺の階調も明るくすることで右上の雲のシャドウとの対比を強める。その後段階フィルターで画面上側の雲を全体的に補正しよう。露光量を下げて質感描写を高め、コントラストを上げてさらに質感を高めたい。

補正ブラシで人物周辺の階調を補正する。コントラストと明るさを調整

段階フィルターで雲の質感描写を強調する。シャドウ部分をより暗く仕上げる

フラットでメリハリがない

雲と人物の質感が出た

STEP 3 選択範囲で細かく整える

画面の各部をそれぞれ選択し、階調を細かく調整する。選択範囲の大きさに合わせてぼかし量を変えて境界をなじませる。ここでは人物などの小さい部分では30ピクセル程度。大きな雲の範囲では200ピクセル程度ぼかしている。部分ごとの階調に合わせて適切なトーンカーブを描くようにポイントを設定する。カラーで仕上げる場合にはこのステップで完成となる。

雲の質感描写を強調しつつ人物との対比が表れるように画面内のコントラストを細かく決定する

選択範囲で部分を整える

さらにメリハリが出た

STEP 4 プラグインでモノクロ化

カラーで仕上げた写真をSilver Efex Pro 2を用いてモノクロームに変換する。調整レイヤーなどはフィルターを適用する前に全て統合しておこう。ディテールをさらに強調するため、プリセットの中から「高ストラクチャ（強）」を選択しパラメーターを微調整した。

フィルターを適用する前に調整レイヤー等は統合しておく

Silver Efex Pro 2の「高ストラクチャ（強）」を選択。赤の感度を高めて人物の服は明るく再現

階調豊かに仕上げたい

コントラストが際立った

STEP 3で仕上げたカラーの写真とオリジナル作品を比べると、コントラストのコントロールは似た傾向だがホワイトバランスが異なることで色合いに違いが表れ、雰囲気が大きく異なることが分かる。さらにSTEP 4でモノクロームに仕上げた写真では、雲の質感描写などが強調されダイナミックな風景がより強まっている。

酒場の情景

なぎら健壱

七献目

だるまの片隅で

この店に最初に足を向けたのはいつ頃だったか。『東京酒場漂流記』を書き下ろすために、酒場巡りをしていた頃ではなかっただろうか。それが1冊になったのが1983年であるから、それを考えれば30余年前ということになる。確か師走、大晦日近くではなかっただろうか、寒い日だったことがおぼろげに思い出される。

イラストを描いてくれたKさんと連れ立って店の客となった記憶がある。当時上梓したほとんどの本はこのKさんがイラストを担当してくれたのだが、2人してよく飲み歩いた。とにかく毎晩のように飲み歩いていたが、Kさんは2006年に早逝してしまった。

1 オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／40mm（80mm相当）／絞り優先AE（F4.5、1/80秒、±0EV）／ISO 4000／ WB：オート

2 オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／21mm（42mm相当）／絞り優先AE（F2.8、1/60秒、±0EV）／ISO 800／ WB：オート

3 オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／40mm（80mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/40秒、＋1.0EV）／ISO 6400／ WB：オート

4 オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ／M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／12mm（24mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/60秒、＋1.0EV）／ISO 6400／ WB：オート

東京都江東区門前仲町『だるま』にて

この『だるま』によく足を向けるようになったのは、その時から5年ぐらい経ってからではなかっただろうか。家が近所ということもあって足繁く通った。今は転居してしまい、ちょっと無沙汰という案配である。店を切り盛りしていたのは、店主であるお父さんとお母さんであった。お父さんはジャズが好きで、口開け時などでは雰囲気にちょっとそぐわないジャズに耳を傾けている姿があった。お母さんが病に倒れて入院したとき、お父さんは精彩を欠いた顔をして店に出ていたのを思い出す。やがてお母さんが退院してきて、二人で頑張る姿が復活したが、しばらくしてお父さんの方が先に亡くなってしまった。今度は精彩を欠いたお母さんの顔があった。

今は美人の誉れ高かった、姉妹が中心となって店を切り盛りしている。おっと「誉れ高かった」と過去形にしてしまうと、怒られますな。今も美人と誉れ高い姉妹が……これでいいかな。初めてこの店を訪れたときは、まだその姉妹も学生で店には出ていなかったはずである。今ではその娘さんが店の手伝いをしている。そんな月日が流れてしまったのである。

居酒屋の王道ともいうべきL字型の長いカウンターがあり、奥にはテーブル席が何席かある。あたしはまずカウンターに座ることはなく、テーブル席で気の置けない仲間と屈託のない戯れ話に花を咲かせるのが常である。

「よう、久しぶり」その声に振り向くのだが、どこかで会ったような気がするが、一向に思い出せない。しばらく話をしている内に「ああ、南砂の飲み屋で会った人か」と思い出して、話に弾みがつく。

さて、そろそろビールからホッピーに替えましょうか。この店の焼酎は濃いぞ。ホッピー1ビンを4回に分けて使えるんだから。

なぎら けんいち：1952年東京銀座（旧・木挽町）生まれ。フォークソングに傾倒し、1970年、岐阜の中津川で行われた全日本フォークジャンボリーに飛び入り出演したことをきっかけにデビュー。これまでに10数枚のアルバムをリリースしている。カメラ歴は古く、写真集に『東京のこっちがわ』『町のうしろ姿』があり、写真を添えたエッセイ集も上梓している。現在はコンサート活動のほか、独特のキャラクターでテレビ、ラジオ、映画、ドラマの出演や、新聞、雑誌等の執筆でも活躍をしている

オリンパス OM-D E-M5 Mark II／M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F2.8 PRO／120mm（240mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/250秒、+0.3EV）／ISO 200／WB：晴天
高層ビルに囲まれた木々に止まるアキアカネ（♂♀）。いったい何頭のトンボがいるのか、数えてみてほしい

編集長が行く!!

I TAKE PHOTOS JUST FOR FUN!

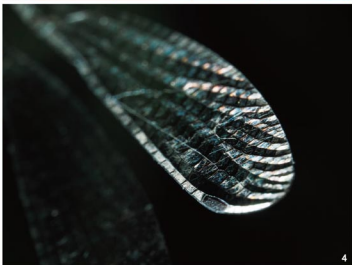
メーカーだって、やっぱり写真が好き！

オリンパス株式会社
オリンパスプロサロン
田中 博

プロの写真家のサポートや支援などを行いながら、そこで得た情報を開発にフィードバックする役目も担っている。OM-D E-M1 Mark IIなどは、そうした情報があってこそ、大幅な進化へつながった

「千の顔を持つ男」と聞いて、ジグソーのスカイ・ハイという曲が頭の中で流れたら、昭和のプロレスが大好きだった人に違いない。

オリンパスのプロサロンで活躍する田中 博さんもその1人だった。トンボ日記（http://www.tombo-tanaka.com/）というサイトで、ほぼ毎日のように日記を更新。そこにはトンボの写真だけでなく、さまざまな写真家たちとの交流の様子や新製品で撮影した体験談などが綴られている。日本写真家協会（JPS）、日本自然科学写真協会（SSP）にも所属するなど、その写真の腕前は業界でも知らない人がいないほどの実力者である。

今でこそトンボの写真が代名詞となっている田中さんだが、写真を始めた原点は意外にもプロレスにあったという。ルチャリブレを代表する覆面レスラー「ミル・マスカラス」の勇姿を写したいと願い、父親に買ってもらったのがトプコンのIC-1という一眼レフだった。夏休みや冬休みを利用して親戚が住む神戸に行き、そこを拠点に関西で開催される会場へ何度も足を運んだが、そのプロレス熱もアントニオ猪木が引退する1998年の4.4でひとつの区切りを迎えた。

「僕はプライベートと仕事を分けてはいない、ライフワークが写真で、その中に仕事もある」

では、その情熱がトンボへと変わったのは、いつのことだったのだろうか。大学生のとき、近くのカメラ店のプリントサンプルにトンボの写真が使われているのを見て、かつて昆虫少年だったころの自分を思い出したという。中でもトンボが好きだったこともあって、一眼レフで撮ってみようとフィールドに繰り出してはみたが、飛んでいるトンボを撮ることは容易ではなく、そこからどうすればキレイに撮れるかという試行錯誤が始まった。それから30年、未だその情熱は冷めることなく、

オリンパス OM-D E-M Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F2.8 PRO+MC-14／210mm（420mm相当）／絞り優先AE（F8、1/400秒、+0.7EV）／ISO 200／ WB：晴天

公園のスワンボートを背景に佇むウチワヤンマ（♂）。腹部の第8節がうちわ状になっていることから、この名が付いたと教えてくれた

オリンパス OM-D E-M10 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F2.8 PRO+MC-14／210mm（420mm相当）／絞り優先AE（F4、1/80秒、+0.3EV）／ISO 400／ WB：晴天

オオアオイトトンボ（♂）の美しい姿を写すべく「フォーカスブラケットモード」を使って50枚の深度合成をした

3

オリンパス OM-D E-M5 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F2.8 PRO+MC-14／210mm（420mm相当）／絞り優先AE（F8、1/400秒、+0.3EV）／ ISO 200／WB：晴天

東京ドームシティの赤い観覧車とアキアカネ（♀）。望遠ズームに1.4倍テレコンバーターを組み合わせて420mm相当の圧縮効果をうまく利用した

4

オリンパス OM-D E-M5 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 60mm F2.8 Macro ／60mm（120mm相当）／絞り優先AE（F11、1/60秒、±0EV）／ISO 400／ WB：晴天

トンボの羽根の透明感に魅力されたという言葉どおり、羽根のディテールを60mmマクロと外部フラッシュで表現した

田中さんはトンボに魅了されている。そのひとつの結果が写真展で発表される。すでに何度も展示経験を持つ田中さんだが、今回の作品は東京で撮影されたトンボの風景。国内には約200種類のトンボが生息しているが、そのうちの90種類が東京でも確認されているらしい。田中さんは今回の作品テーマとして、自分と同世代の人たちには懐かしさを、子どもたちには都会にもこんなにトンボがいることを伝えたいと話してくれた。

普段、使っているという2つのカメラバックには機材が隙間なく詰められていて、ほとんどプロと変わらないラインアップ。最近のお気に入りはOM-D E-M1 Mark ⅡとM.ZUIKO DIGITAL ED 300mm F4.0 IS PROとのことだ

最後に田中さんが自分の体験談として、こんなアドバイスをしてくれた。「写真を上達したければ、知識をたくさん覚えるのではなくて、自分の好きな被写体をどうやってキレイに写せるかを考えることが大切。説明書を頭からすべて覚えるのではなく、疑問に感じた部分だけを調べるようにした方がいいと思います」。田中さんにとっては、それがプロレスラーであり、トンボであったに違いない。

» 田中 博 写真展

東京トンボ日記

会場：**アイデムフォトギャラリー「シリウス」**
日程：**2017年3月9日（木）～3月15日（水）**
※日曜休館
時間：**10：00 ～18：00**
※最終日15：00まで
※ギャラリートークは3月11日（土）15:00から

1

好きな景色と一緒に星を写したい

星に興味を持ち始めたのはいつ頃だっただろうか。通っていた中学校にはプラネタリウムがあって、そこは滅多に行けない場所だったので星を見ることが特別な気分にさせてくれたのをよく覚えている。高校生になると天文部に入って、レンズを通して星を見るようになった。苦戦しながら組み立てた天体望遠鏡でのぞいた天体の姿は、肉眼で見たものとは全く違う幻想的な世界で心が躍ったものだ。

それから10年後、私は写真を撮り始め、当然の流れのように星景写真を撮るようになった。今でも時間を見つけてはカメラを空に向けている。

空に輝く星々ははるか彼方からの光で明るさもさまざまだ。星を見るのであれば邪魔になる都市の明かりだが、写真に撮ると自分の目では見ることのできない景色を作りだしてくれる。都会の街灯の光で照らされた公園の木を撮影したときの衝撃を今でも忘れない。明るい地上と紺碧の空に輝く星。露光時間を長くして明るく撮ると、夜でありながら、まるで昼間のような空と景色に写るが、やはり昼間とは違う不思議で幻想的な風景が写る。

星景写真だから広角レンズだけを多く使うというわけでなく、その場に応じて中望遠レンズを使う自分にとっては一番便利に使えるレンズが全域F2.8の標準ズームレンズだった。単焦点レンズでは撮影後にトリミングすることもあるが、ズームすることで撮影時に画角が決められるし、なによりF値が明るいのが良い。

長時間露光が必要な星景写真は、一晩の間に何度も場所を変えて撮ることは難しい。自然風景の中で撮るときは前日までに大まかに場所を決めておき、直前に現地の天気を確認して撮影地を決めることもある。都市の中で撮るときは、カメラバックにカメラを3台入れて三脚を持ちながら景色を探して移動する。夜露や低温の状況にも対処できて、持ち運ぶことも多いので軽量化したい。さらには広角から中望遠までを明るいF値でカバーしたい。という僕のわがままに一番応えてくれたレンズがオリンパスのM.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PROだ。

時には人が多くいる場所で2時間近く撮影を続けていたり、山の中で夕日から朝日までを撮影したりしているが気温の変化や天候の変化にも問題なく応えてくれた。雪の降る中で雲の隙間から見える星を撮影しているときはレンズが雪で濡れていたが、普段と同じようにイメージどおりの写真を写してくれた。星を写した星景写真ではなく、「好きな景色を写したらそこに星が写っていた」。そういう星景写真を撮りたい私は、今日もこのレンズを片手に空を見上げている。

中村貴史（なかむら たかし）

1984年埼玉県生まれ。星系写真を中心に風景写真やスナップなど幅広く撮影をしている。人と星空をテーマにレンズを向けている。写真セミナー講師や書籍の執筆も行う。
http://takashinakamura.com/

2

オリンパス OM-D E-M5 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／12mm（24mm相当）／マニュアル露出（F3.5、5秒）／ ISO 200／ WB：3,000K ／ライブコンポジットで545コマ撮影
晴れた日のお台場には、きれいな夜景を見るためにたくさんの人が集まる。桟橋の先で夜景を眺める恋人たちの上ではたくさんの星が線を描いていた

1. オリンパス OM-D E-M10／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／12mm（24mm相当）／マニュアル露出（F3.5、20秒）／ ISO 3200／ WB：3,400K

冬の北海道の美瑛。気温は－14℃で雪が積もり、冷えた空気の中でペルセウス座はきれいに輝いていた。明るい雲の下から伸びてきた電線は標識と共に雪の中にひっそりと佇んでいた

2. オリンパス OM-D E-M5 Mark Ⅱ／ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ／12mm（24mm相当）／マニュアル露出（F3.2、30秒）／ ISO 1000／ WB：3,700K ／ライブコンポジットで164コマ撮影

棚田では稲穂が青々と成長し、人々は夜の街で過ごす。星の軌跡の中に横切る小さい星屑に想いを託す。想いを乗せた弱い光でもしっかりと捉えていた

オリンパス

M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO

発売日 2013年11月　実勢価格 85,000円前後

レンズ構成：**9群14枚**　絞り羽根枚数：**7枚（円形）**　最小絞り：**F22**
最短撮影距離：**0.2m**　フィルター径：**φ62mm**　外形寸法：**約φ69.9×84mm**
重さ：**約382g**

カメラとレンズの実力を なぜ Epson Proselection SC-PX5VⅡ は引き出すことができるのか？

聞き手●福島 晃（本誌編集長）　まとめ●山崎理佳

vol. 1

世界中のきらめきを捉える夜景写真家
丸田あつし

with

Nikon D810

SPECIFICATION

- 有効画素数：3,635万画素
- 記録解像度：7,360×4,912ピクセル
- ISO感度：64〜12800
- フォーカスポイント：51点
- 外形寸法（W×D×H）：約146×81.5×123mm
- 質量：約980g

Malta's CHECK POINT

街のきらめきを鮮やかに再現

夏の暑さで立ちこめた蒸気の表情と光のきらめきが見事に再現されている

暗部の中にある微妙な階調を表現

RAW現像でギリギリまで追い込んだ暗部もつぶれずにプリントされている

ニコン **D810**

AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED

- 焦点距離：58mm
- 撮影モード：絞り優先AE
- 絞り：F8
- シャッター速度：20秒
- 露出補正：−0.7EV
- ISO感度：100
- ホワイトバランス：3,800K
- 場所：ブラジル リオ
- 用紙：写真用紙クリスピア<高光沢>A3ノビ

この町の特徴である、幾重にも重なるダイナミックな奇岩が表現のポイント。町明かりのきらめきを鮮明に描写しながらも、シャドウ部である奇岩の微妙な階調を豊かに表現できたことで、立体感があり空間を感じる作品になった

Epson UltraChrome K3インクによる豊かな階調表現で夜景を美しく再現する

SC-PX5VⅡ

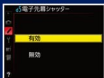
カラーの色再現性と黒の階調にこだわった顔料プリンター。黒濃度（OD値）も写真光沢紙で2.86とK3インクの2.26に比べてアップしている。夜景写真をより美しく表現できる

- インク：Epson UltraChrome K3インク　顔料8色
- 最高解像度：5,760×1,440dpi
- 対応用紙：L判/KG/2L判/ハイビジョン/六切/四切/A6縦〜 A3ノビ縦
- 外形寸法（W×D×H）：616×369×228mm
- 質量：約15kg

CAMERA *Setting*

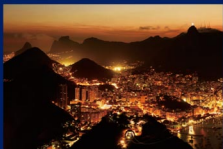
カメラの振動を抑えて ブレを徹底的に防ぐ

夜景撮影ではブレ対策が重要。電子シャッターでシャッターによるブレを防ぎ、さらに取り外し式のストラップで風による揺れのリスクを軽減する

電子シャッターでブレを防ぐ

電子シャッターにして、機械の作動による衝撃のブレをなくす

Adobe RGBの高色域で記録する

色空間は「Adobe RGB」に設定。より広い色域を記録する

露出はアンダー目で撮影する

撮影したままの状態の写真。ハイライトが白飛びしないように、かなりアンダーで撮影している

RAW *Retouch*

その場で感じた臨場感と記憶したイメージの色を再現する

アンダーで撮影した写真の明るさを取り戻し、色味と階調を整える。ソフトはAdobe Photoshop CCのCamera RAWを使っている

色温度
全体的な色味の調整は色温度で行う

露光量
アンダーで撮影した明るさを調整する

ハイライト&シャドウ
白飛び、黒つぶれしないように階調を整える

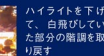
明瞭度&自然な彩度
記憶に近い色合いまで彩度を上げる

アンダーで撮影した明るさを整える

露光量を変えて、撮影時に実際見ていた風景の印象に近づける

色温度を変えて空を青くする

空を青くして、夏の夜空の美しいグラデーションを再現する

ハイライトのディテールを出す

ハイライトを下げて、白飛びしていた部分の階調を取り戻す

"街の光は命の灯火。その

――夜景を撮り始めた理由はなんですか？

丸田　夜景評論家の兄（丸々もとを氏）から、夜景ガイドブック制作のための撮影をしてほしいと頼まれて、さまざまな場所にバイクで夜景を撮りに行きました。ある日、秩父の山奥で真っ暗な道に入り、恐怖を感じながらカーブを曲がると、次の瞬間キラキラと輝く街灯りが目に飛び込んできました。すごく、ほっとしたのと同時に、光は人間の存在そのものであり、生きている証だと感じたのです。私は「命の灯」と呼んでいるのですが、光をそう捉えるようになってから、夜景に対する特別な思いを抱くようになりました。

丸田さんは写真集を多数出版している。印刷の色合わせにもSC-PX5VⅡで印刷したプリントを使っている。理想とする色は言葉で伝えるよりも、自分が求める色が出ているプリントを見せる方が確実だという

――夜景撮影でニコン D810を使う理由と、撮影のコツについて教えてください。

丸田　D810を使うのは繊細な夜景の表情を捉えるときに必要な要素がそろっているからです。画素数が約3,635万画素と多く、ダイナミックレンジも広い。それに電子シャッター搭載でブレを最小限に抑えられる点ですね。RAW現像したときの補正に対する画像耐性が高いのも大きな理由です。夜景の光を大切にしたいので、白飛びを避けるために露出は適正露出から－2EVくらいとかなりアンダーで撮影することが多いのですが、RAW現像でその画像を補正しても破綻なくイメージどおりに仕上がってくれます。

――RAW現像ではどんな調整をしますか？

丸田　まずは「露光量」で全体の明るさを決めます。次にハイライトで飛び気味のところは露光を下げて、暗い部分は少し上げて隠れている微妙な階調を出します。最後に「明瞭度」と「自然な彩度」を上げて、自分が感じた記憶色に近くなるように仕上げていきます。人間の目は暗いところでの光を強く感じますし、その場の高揚した空気感にも包まれているので、実際に目にした風景は鮮やかな印象として記憶されています。

――SC-PX5VⅡでプリントするときの、設定があれば教えていただけますか。

丸田　プリントは「Epson Print Layout」を使っています。「カラー設定」の「タイプ」は「ICCプロファイルを選択」と「プリンターによるカラー管理」を比べてみたのですが、「プリンターによるカラー管理」の色の方が好みだったので、こちらを使っています。プリントは最初からA3ノビなど大きなサイズでプリントする方が効率的だと思っています。大

実際現場で見た印象に限りなく近づく色再現性

光のバランスが美しい夕暮れのワンシーン。原色の圧倒的な色彩を放つ屋台船のネオンを、記憶の中にとどめた色に近づけるべくプリントした。高彩度で鮮やかな色彩は、驚くほど肉眼に近い印象だ。四切サイズを選び、上下にスペースを開けて写真に注目させている

ニコン D810／AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED／60mm／絞り優先AE（F8、1/1.7秒、－0.3EV）／ISO 200／WB：晴天／場所：トルコ イスタンブール／用紙：写真用紙クリスピア<高光沢>（四切）

光を力強く表現してくれる”

ディスプレイはEIZOのColorEdgeを使っている。プリントの色にこだわるのなら、ディスプレイにもこだわりたい

きなサイズで見ると、より細かい部分の階調が確認できるため、伝えたい表現を詰めることができます。小さなサイズで確認してから大きなサイズにプリントすると、小さなサイズでは分からなかったディテールの甘さが見えてくることがあるので、最初から大きなサイズでプリントして、トライ＆エラーを繰り返していった方が効率的なのです。

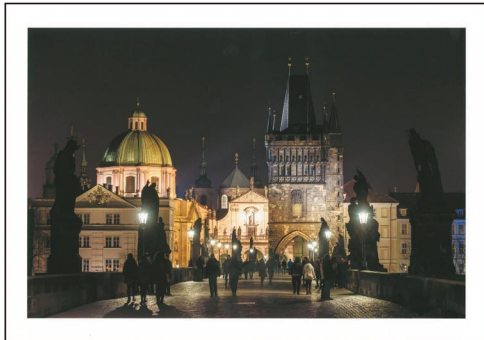
――夜景をプリントするのに最適な用紙は？

丸田　夜景の写真では、クリアな印象とか輝きを後押ししてくれる写真用紙クリスピア<高光沢>をよく使います。写真用紙クリスピア<高光沢>は黒が締まり、暗部の中の階調も豊かです。ただ、私は絵を描いていた経験があるので、Velvet Fine Art Paperのようなマット系の用紙も好きです。写真は現実的なものですが、用紙を変えることで絵画的に表現することもできます。用紙の特性を知っていると「このシーンならあの用紙にプリントしたら面白いかも」と考え、ふだんは撮らない被写体に食指が動いて、写真を撮ることが楽しくなります。展示の仕方によっても用紙の選び方は変わってきます。写真用紙クリスピア<高光沢>は光を反射するので、ガラスの額装なら絹目調などの半光沢の用紙の方が良いと思います。

――丸田さんがSC-PX5VⅡを選んだ理由を教えてください。

丸田　プリンターに求めるのは、実際にその夜景を撮影していたときの臨場感と、光や色彩の美しさが表現できるか？ということです。元々エプソンのA3プリンターを使っていたのですが、カメラをD810に変えたときに、カメラの実力を生かせるプリンターを探しました。選ぶときに最も注目したのが、黒の階調と発色性の良さです。写真を大きくプリントしたいのでA3ノビまでプリントできるということを考えてSC-PX5VⅡを選びました。基本的には、製品の中でできるだけスペックの高いものを買います。一番良い製品を使って、それでイメージどおり行かなかったらあとは自分の腕を磨くしかない。そういった意味でこのプリンターは自分の実力を教えてくれるプリンターですね。

生み出した作品のゴールはプリント。気に入った写真は、プリントして人に渡すこともある

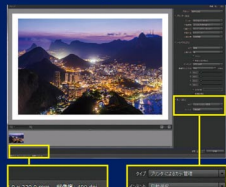
ドラマ性の強い被写体をマット紙で演出する

夜のカレル橋には“絵画の世界”に迷い込んだような魅力がある。こういう被写体は光沢の写真用紙クリスピア<高光沢>より、表面に質感のあるアート系用紙との相性が良い。落ち着いた雰囲気の中にも重厚さがあり、ドラマチックな光はより印象的に表現された

ニコン D810／AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR／92mm／絞り優先AE（F5.6、1/6秒、－0.3EV）／ISO 1250／WB：晴天／場所：チェコ プラハ／用紙：Velvet Fine Art Paper（A4）

PRINT *Technique*

Epson Print Layoutは簡単な操作で美しいプリントができる

細かな設定をする必要がなく用紙を選ぶだけで美しいプリントができる。Photoshopなどのプラグインでの起動や単独でも使えるのが便利だ

Epson Print Layoutの設定

印刷解像度を確認する

大きなサイズにプリントをするとき、印刷解像度が低いと、描写の甘いプリントになる。それを防ぐために、プリント前に必ず解像度をチェックする

プリンターによるカラー管理で印刷

カラー設定は「プリンターによるカラー管理」を使っている。プリンターが持つ色域を最大限生かせる設定で、発色や階調も全く問題ない

Epson Print Layoutはこちらからダウンロード
http://www.epson.jp/printlayout/

PAPER *Select*

発色性に優れ、美しい光沢感を持ち夜景と相性が良いクリスピアを使う

プリントの印象を大きく決めるのが用紙だ。鮮やかで見たままを表現したいのか、ドラマ性を与えたいのか。表現の違いによって用紙は変わる

夜の光の輝きはクリスピアできらめかせる

きらびやかな夜景をプリントしたい場合には、高光沢の写真用紙クリスピア<高光沢>を使う

彩度が高い色の発色が違う

クリスピアはインクの色域を最大限生かせるため、彩度が高い色の発色が美しい

黒の締まりが写真にメリハリをつける

クリスピアでは黒が輝き、メリハリが付くので立体感が出る。マットでは落ち着いた表現になる。

協力：エプソン販売株式会社

DIGITAL CAMERA MAGAZINE PHOTO CONTEST

［2017年3月号選考］

デジタルフォト部門 ── 選者・ハービー・山口

「Rainy Night」

作者・舘 太加志（大阪府）

カメラ：富士フイルム X-E2
レンズ：XF18-55mmF2.8-4 R LM OIS
レタッチ：SILKYPIX Developer StudioでRAW現像、コントラストを調整
撮影地：大阪府大阪市 大阪ミナミ千日前

【講評】
見慣れた光景を少し違ったアングルやコンセプトで新鮮に見せるというのは素晴らしい手法だと思います。日常がまるで別世界のように感じられ、新鮮な発見に感動するのです。この舘さんの作品も、大阪・ミナミの夜、雨が降る中をたくさんの人が行き交う横断歩道という日常です。それをローアングルで撮ることで、ダイナミックに表現しました。車のライトで輝くぬれた歩道の光のつかみ方も素晴らしいですね。さらに一番手前を歩く人の足がトンネル構図になっていて、一歩足を出した状態を横から見ると三角形に見える、ということに気付かされます。するとたくさんの人の連続した三角形が見え、グラフィック的にもとても優れたものであると分かります。このアングルとこの天気、そして光をうまく利用した秀作です。

【アドバイス】
見慣れたものを新鮮に見せるというのは素晴らしいテーマだと思います。これからも、自分ならこう見せる、という場面をどんどん発見してください。天候にもめげず、新しいアングルやアプローチを試みていただきたいと思います。

2017年度選考スタート！

INFORMATION

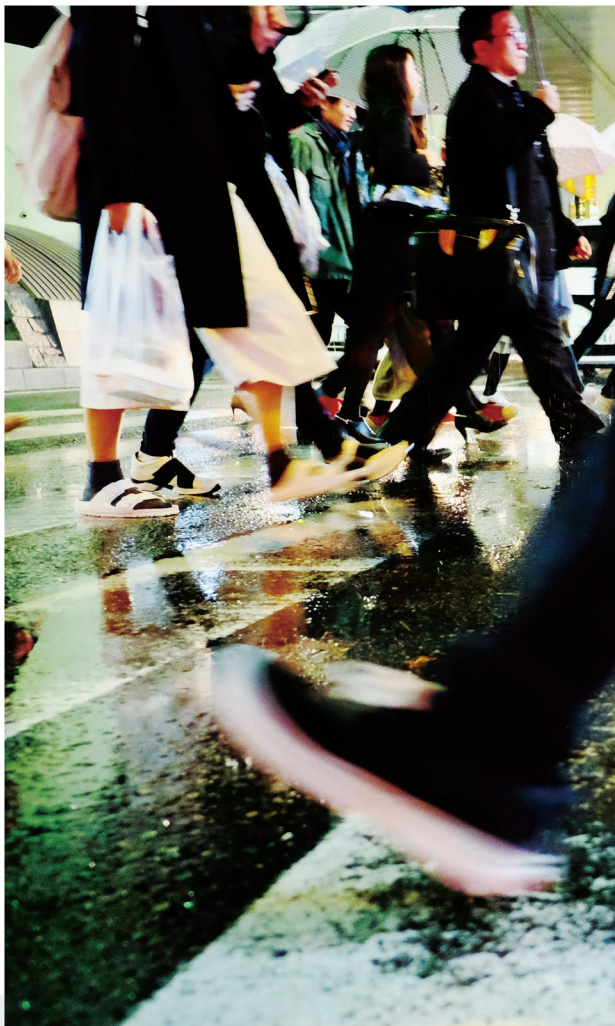
- 2017年度DCM フォトコンテスト応募要項　P.180
- 2017年度DCM フォトコンテスト累計ポイント　P.181

2016年度最優秀賞発表！

順次、誌面にて
副賞のギャラリー掲載を行います

• デジタルフォト部門
03さん（東京都）　11ポイント
榎木圭介さん（大阪府）　11ポイント

• 組写真部門
求磨川貞喜さん（岡山県）　13ポイント

• プリント部門
井上幾雄さん（大分県）　14ポイント

副賞

サンディスク
エクストリーム プロ SDHCカード16GB
提供：サンディスク

応募はGANREFから！

GANREF

フォトコンテストの結果は、
下記URLでもご覧いただくことができます。
http://ganref.jp/photo_contests

フォトコンテストはすべての部門が
Webからの投稿 となります。
詳しくは上記URLをご覧ください

「黒門市場の漬物店」

作者 • 田井伸治（大阪府）

カメラ：オリンパス STYLUS XZ-2
レタッチ：Windows Photo Editorにて明るさ、コントラストを調整
撮影地：大阪府大阪市 黒門市場

【講評】

店先での3人の穏やかな表情に、このお店のキャラクターまでもがにじみ出ています。3人の全身を捉えていますが、手前に商品の一部を置くなどして店の説明も行っています。このあたりの情報の処理が実にうまいですね。引きすぎもせず、アップ過ぎない距離感が、大変うまくこの3人の人生や生活を物語っています。こういう写真を見ると、アップだけが写真の強さではないということがよく分かります。どの情報を写真に入れるべきかカットすべきか、その判断が実にうまくいっている作品です。

【アドバイス】

この老婦人は98歳だとのこと。作者の田井さんは、彼らの人間性をひしひしと感じながらこの3人を尊重して写真を撮っています。その気持ちが人物写真の基本だと思います。これからも人の尊厳を十分に感じつつ、シャッターを切ってほしいと思います。

「これからも……」

作者 • 多久善雄（東京都）

カメラ：ニコン D750　レンズ：AF-S NIKKOR 28-300mm f/3.5-5.6G ED VR　撮影地：東京都豊島区

【講評】

懐かしいたたずまいのモルタル2階建ての昭和の建物。背景とのコントラストが絶妙な作品です。この高層マンションの隙間に取り残された古い民家を応援したくなりますね。

【アドバイス】

昔、写真家・木村伊兵衛氏の撮影で東北を案内したというむのたけじさんにお会いしたとき、「木村伊兵衛さんは、新しいものより、失われていく物にレンズを傾けていた」と言っていたのを思い出しました。多久さんもその視線で失われつつあるものに温かい目を注いでいってください。

「跡」

作者 • 沢目和仁（埼玉県）

カメラ：キヤノン EOS 80D
レンズ：EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM
レタッチ：Photoshop Lightroom 6にて明るさ、コントラストを調整　撮影地：東京都中央区 築地市場

【講評】

マンホールとタイヤの跡がグラフィック的な魅力を放つ、都会の造形の面白さを感じさせる作品です。作者の沢目さんの「タイヤの跡が人間社会の混沌のように感じた」というコメントを読んでとても深いものがあるなと気付かされました。

【アドバイス】

ただ模様を見るだけにとどまらず、その背景（この場合は築地市場）からさまざまなテーマで作品を深いものにするという沢目さんの手法に感心しました。ぜひ今後もそのセンスを生かして作品作りを進めてください。

「豊饒の海」

作者 ● 鮫島康高（千葉県）

カメラ：キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ
レンズ：EF16-35mm F4L IS USM（PLフィルター使用）
レタッチ：Digital Photo Professionalにて彩度・コントラストを調整
撮影地：鹿児島県姶良市上空

【講評】

PLフィルターで光の加減をコントロールしたという作者の鮫島さん。効果が大きいため風景写真家に重宝されているPLフィルターですが、さらに画面を左に傾けて躍動感を表現。すてきな航空写真だと思います。

【アドバイス】

PLフィルターを微妙に調節しながらこうした自分の世界を切り取れるセンスが素晴らしいと思います。自分だけが見つけたアングルや色は写真作家としての醍醐味（だいごみ）ですね。今後もそれをぜひ意識してみてください。

佳作

「なにしてんの？」

作者 ● 今井保一<iman>（新潟県）

カメラ：キヤノン EOS 6D　レンズ：EF16-35mm F4L IS USM
レタッチ：Photoshop Lightroom 4にて
モノクロ化、露光量、明瞭度、トーンカーブを調整、トリミング
撮影地：新潟県糸魚川市

【講評】

この街の風情が大変素直に描かれたスナップで、好感を持ちました。手前の少年と後ろのふたりの距離感が良く、この街の空気感が余すところなく捉えられています。

【アドバイス】

木造3階建てとは珍しいですね。こうした時代に置き去りにされたような風景はとても懐かしさを伝えてくれます。ぜひこのタッチでいろいろな地域の懐かしさをこれからも作品に残してください。

「途中乗り換え禁止!」

作者 • 渡部美佐子<Stribling>（アメリカ）

カメラ：キヤノン EOS 80D　レンズ：タムロン 16-300mm F/3.5-6.3 Di Ⅱ VC PZD MACRO
レタッチ：Photoshop Lightroom 6にて色相、彩度を調整
撮影地：アメリカ合衆国ノースカロライナ州

【講評】

アメリカの移動遊園地だということです。遊具の形と、抜けるような青空との色のコントラストが小気味良く、とてもポップな仕上がりで、ここを訪れる人たちの、うれしそうな気持ちが写真から伝わってきます。4つの遊具が1枚の写真に写っているので合成かと思いましたが違いました。移動遊園地が故に遊具同士が近接していることもあるでしょうが、大変うまい切り取り方で、画面の隅々まで必要な要素が詰め込まれた、充実した構成になっています。それでいて、煩雑すぎない。そこにフレーミングのうまさが光ります。

【アドバイス】

狙いが素晴らしいですね。たくさんの情報を入れ過ぎると煩雑になるものですが、空の抜け感が功を奏して優れた構図を作っています。さらに、人間の表情も垣間見えます。こうした形と人々が織りなす不思議な光景をこれからもテーマにしてはどうでしょうか。

「街を飛ぶ」

作者 ● えすてぃ(大阪府)

カメラ：キヤノン EOS-1D X Mark Ⅱ　レンズ：EF600mm F4L IS Ⅱ USM
レタッチ：SILKYPIX Developer Studio Pro 7にて彩度を調整、トリミング
撮影地：大阪府

【講評】
コミミズクが中空を飛ぶ勇姿。とても良い形で飛んでいて、かわいくも美しく、勇ましい。それだけでも十分絵になりますが、背景には大自然ではなく、河川敷の向こうにある家々が写されています。この組み合わせのギャップが素晴らしい。その斬新さが気に入りました。横位置にしたことでコミミズクの姿が小気味良く、構図としても成り立っています。

【アドバイス】
感心したのは、わざと人工物を入れて狙ってみたという、えすてぃさんのセンスです。このギャップ感はどんなときにも強さとなって表出してきます。目のつけどころの良さを生かして、ぜひそのギャップ感をテーマにこれからも作品を撮ってみてください。

「作品」

作者 ● 井上幾雄(大分県)

カメラ：ライカ LEICA Q
レタッチ：Photoshop Lightroom 6にて調整
撮影地：大分県大分市

【講評】
人をほぼ真上から撮ったというアングルが実に新鮮です。顔は見えないのですが、十分に人の営みが感じられ、味わい深い作品になりました。中央の女性がパンフレットを持っている最小限のインフォメーションから、いろいろなものを想像します。

【アドバイス】
今月の優秀賞もそうですが、アングルがちょっと変わるだけで、日常の光景がこうも変わって見えます。人間観察という永遠のテーマを抱えながらこうした新鮮さを出すのは大変ですが、ぜひこれからの作品にも期待します。

「静かな海、黄昏時……」

作者 ● 林 繁俊(神奈川県)

カメラ：ニコン D810　レンズ：タムロン SP 70-200mm F/2.8 Di VC USD　レタッチ：Capture NX-Dにて明度、コントラストを調整
撮影地：千葉県南房総市

【講評】
寂しい風景写真ですが、この中に漂う空気感に魅せられました。桟橋の形状、電灯のにじみ、長時間露光による波の表現など地味ながらもじわっと伝わる感触がステキです。

【アドバイス】
この寂しさはとても良いですね。日が暮れて、徐々に暗くなっていくその切ない気持ちが伝わります。同じ場所を違う時間帯に撮ったり、違う場所を同じ時間帯に撮ったりして比較するなど、さまざまな表現手段も考えられますね。

PICK UP

アジアの素朴な生活感が伝わる作品。売り手の表情もぜひ見たい

男性が少しずれるまで待って、お店の人の表情を見せたい

ダンボール箱で売られる商品の描写も的確

「一軒の出店」

作者 ● 如月 壇(京都府)

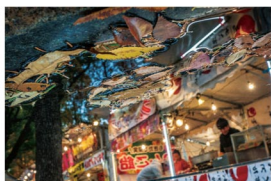
カメラ：パナソニック LUMIX DMC-GM1S
レンズ：LUMIX G X VARIO 35-100mm/F2.8 /POWER O.I.S.
レタッチ：Photoshop Lightroom 6にて
モノクロ化、明瞭度、コントラスト、露出を調整

【講評】
ある開発途上のアジアの街角、買い物する労働者たちの早朝の光景です。作者の如月さんの心を捉えたリアルな生活感が路上販売の光景から伝わります。すべてが日本のコンビニのように整理整頓され、便利になり過ぎると、失うものもあるかもしれません。こうした素朴な光景を残しておきたいですね。

【アドバイス】
後ろ姿でも十分買い物をしている姿は捉えていますが、お店の人の表情が見えないのは残念なところ。中央の男性が少し右にずれるタイミングを狙うか、撮影位置を半歩ずらせばお店の人の表情が見える位置になるのではないでしょうか。表情からこの国の風情を伺い知ることができ、作品にさらに深さが生まれたのではないかと思います。

「仕込み中」

作者 ● 草島敬子(大阪府)

カメラ：ソニー Cyber-shot DSC-RX100M3
レタッチ：Photoshop Lightroom 5にてRAW現像、ハイライト・シャドウ、白・黒レベル、露光量、明瞭度、彩度、トーンカーブ、周辺光量を調整　撮影地：兵庫県神戸市

【講評】
水の反射に背景の屋台が写っています。手前の枯れ葉という寂しさを感じるものと、にぎわうお店との、静と動の明暗も面白いですね。水の反射というワンクッションで味わい深い写真になりました。

【アドバイス】
光をうまく捉えています。ストレートに撮らず、何かワンクッションを入れる工夫を今後も続けてください。不思議議で新しい都会の風景が見つかるのではないでしょうか。

「Joker」

作者 ● KOSHIN+(滋賀県)

カメラ：リコー GR Ⅱ
レタッチ：Photoshop Elements 13にて彩度、コントラストを調整　撮影地：滋賀県蒲生郡竜王町

【講評】

切り取り方がうまいですね。お店のディスプレイを撮ったものですが、帽子の色やちょっとしたバリエーションなど、少しずつ違うところを見ていくと、なかなか飽きない写真です。色のポップ感も素晴らしいです。

【アドバイス】

見逃しがちではありますが、日常目にする光景にもこうしたドラマがあるものです。KOSHIN+さんが気付いたドラマを作品にする、その面白さを今後もぜひ意識していってください。

「アンテナ」

作者 ● 荻野 豊(埼玉県)

カメラ：リコー GR　レタッチ：SILKYPIX Developer Studio 3.0 LEにて周辺光量、コントラストを調整
撮影地：紀伊半島

【講評】

不思議な形のアンテナ（?）と手前の建物の組み合わせに目が留まりました。本当に面白い形ですね。車窓から撮ったことで、ブレや窓に写った車内の光などの要素が絡み合い、さらにこのアンテナとの関連性を想像させる、見れば見るほど不思議な写真です。

【アドバイス】

とっさに撮った写真だとのことですが、素晴らしい反射神経ですね。こうした出合い頭のインパクトや、えたいの知れない不思議感というのが作者の新たなテーマとなるかもしれません。

「あの頃」

作者 ● パプ(神奈川県)

カメラ：ニコン D800　レンズ：AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G
レタッチ：Windows フォト ギャラリーにて明るさ、コントラストを調整　撮影地：神奈川県横浜市

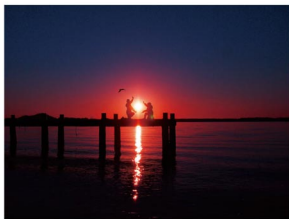
【講評】

かやぶき屋根のたたずまいや石畳の小道など、何か懐かしい思いがこみ上げる光景の中、記念写真を撮っている家族の姿を写した作品です。その光景を見た作者のパプさんは、自分自身を振り返り、子どもが小さかったころを思い出したとのこと。1つの街の光景を見て、ある種の感情が巻き起こったのをすくい取った、自分の人生を反映した素晴らしい写真です。

【アドバイス】

人の家族を見て自分のことを振り返るというのは、素晴らしい心の営みですね。このように自分の記憶を他の人になぞらえて題材にするというのはすてきなテーマだなと思いました。「あの頃」というテーマで、さらに作品を作っていってはどうでしょうか。まとまればとてもすてきな写真集になると思います。

PICK UP

黄金比率を意識して構図を調整すればさらにドラマチックになる

「Welcome! 初日の出2017」

作者 ● 10max(東京都)

カメラ：オリンパス PEN E-P3
レンズ：パナソニック LUMIX G VARIO 14-140mm/F3.5-5.6 ASPH./POWER O.I.S.　レタッチ：OLYMPUS Viewer 3にてRAW現像　撮影地：静岡県浜松市

【講評】

浜名湖の初日の出を、お子さんふたりのポーズと撮られています。初日の出をふたりの間に挟み、鳥が横切り、遠くに観覧車の円が見える。素晴らしい光景を写し、初日の出の存在感や水面の反射など、さまざまな要素が美しく決まっています。

【アドバイス】

とてもドラマチックな光景なのですが、かなり広角で、お子さんふたりが画面のほぼ中央にいることで、構図の面白さに欠けてしまっていることが悔やまれます。解決策としては、太陽とお子さんを中心からずらし、水平線を上1/3か下1/3に持って行き、もう少しズームで彼らに寄ってはどうでしょうか。空でも湖面でもどちらを詰めても良いと思いますが、いわゆる黄金比率を意識して、左右上下1/3の場所にポイントを置くとよりドラマチックになるのではないでしょうか。

「暮れなずむ海と空！」

作者 ● 村岡章史（広島県）

カメラ：キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ　レンズ：EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM（PLフィルター使用）
レタッチ：SILKYPIX Developer Studio Pro 7にてRAW現像、Photoshop CS6にて彩度、コントラストを調整　撮影地：山口県下関市 角島

【講評】

白い建物の上部に沈みかけた夕日がかすかに当たる光景。あと数分でこの建物は暗闇の中に埋もれていくのでしょう。その夕日のかすかな命が、背景の雲や建物の白い壁により見事に色として浮かび上がっています。構図や風景を見せるのではなく、この最後の数分間の夕日を見せることで、1日の終わりの切なさが漂ってきます。

【アドバイス】

太陽の光のデリケートなところを感じるというのは、写真家として素晴らしい感性だと思います。あと数分というギリギリの、この絶妙な時間帯だけで風景を撮り続けるというのもステキかもしれないとふと思いました。

「超越」

作者 ● 小野祐輝<YUUKI>（兵庫県）

カメラ：ソニー α7 Ⅱ　レンズ：FE 50mm F2.8 Macro
レタッチ：Photoshop Lightroom 6にてコントラスト、彩度を調整
撮影地：静岡県富士宮市

【講評】

強烈な太陽光によるレンズ内でのハレーション「フレア」を利用した人物写真です。ポーズが特徴的で、両手を水平に広げ、そこにうまい具合に後光のように光が差し込んでいます。大変うまくフレアを処理したことに感心しました。

【アドバイス】

作者の小野さんのコメントに「すべては光のために」とありましたが、これもまさに"光画"とも訳されるPhotographの楽しみの1つですね。ぜひこれからもフレアで遊んだ写真を見てみたいです。

「き〜んぱ〜ち せ〜んせ〜いっ!!」

作者 ● 高木 嶺（東京都）

カメラ：パナソニック LUMIX DMC-G1　レンズ：LUMIX G VARIO 45-200mm/F4.0-5.6/MEGA O.I.S.　レタッチ：iPhotoにてコントラストを調整　撮影地：ルワンダ共和国

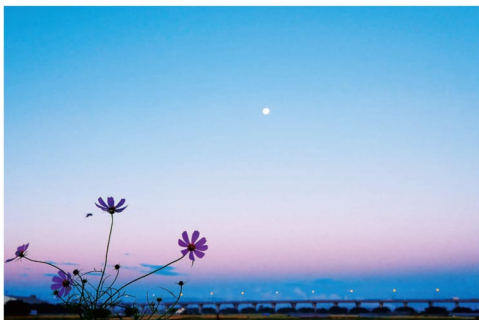
【講評】

アフリカ、ルワンダでの写真。鬼ごっこをしたシーンだったそうですが、作者の高木さんの「鬼はひとりというルールを無視して全員で追いかけてくる」というコメントを読み、とても温かいものを感じました。異文化交流が生んだ素晴らしい写真だと思います。子ども1人ひとりの表情に思わず心が明るくなります。

【アドバイス】

ルワンダで子どもたちを撮影された作品を何度か選ばせていただいていますが、いつも高木さんならではのスタンスを感じます。今後も機会があれば、日本人が関わってはじめて見せる表情や、子どもたちの素顔をぜひ撮り続けてください。

「月とコスモス」

作者 ● 梅田憲治（愛知県）

カメラ：富士フイルム X-T10　レンズ：XF10-24mmF4 R OIS　レタッチ：RAW FILE CONVERTER EX 2.0 powered by SILKYPIXにて彩度を調整　撮影地：愛知県清須市

【講評】

コントラストを高くしたいわゆる派手な写真が多い中、梅田さんの実に詩情あふれる、しっとりとした色調の写真に逆に新鮮さを覚えました。コメントにもありますが、日の出前の光、遠くの高速道路、そして月。何か俳句を詠んでいるような詩情豊かな風景写真におそらく多くの方が共感されると思います。

【アドバイス】

コメントを読むと、大変表現力があり、ありのままの自然をそのまま受け取れる素直さが感じられます。この心意気はとても貴重なものだと思いますので、大自然をできるだけナチュラルに撮る姿勢をこれからも続けてください。

「夕暮れの観覧車」

作者 ● 寺嶋文哉（フランス）

カメラ：パナソニック LUMIX DMC-GH4
レンズ：オリンパス M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO
レタッチ：Photoshop LightroomにてRAW現像、露光量、コントラストを調整
撮影地：フランス共和国 リヨン フルヴィエールの丘

【講評】

フランス、リヨンの街並みだとのことです。画面中央にある観覧車がまるで動物の目のように捉えられ、とても印象的です。その奥に見えるクレーンの赤い光、道路を行き交う車のライト、建物の窓の光など、この暮れなずむ一瞬、闇が来る直前の光のにじみ具合がとてもロマンチックです。昼と夜が微妙に混ざり合う瞬間の危うさと美しさが同居しています。作者の寺嶋さんのコメントにもありましたが、左に観光客の指が見えていて、これが近景としての重要な働きをして構図がとても引き締まったと思います。

【アドバイス】

私も真っ暗に日が沈んだ時よりも、わずかに昼の光を感じる時間帯が大好きです。その人工の光と自然の光が混じり合うデリケートな時間帯を、さらに撮り進んでいただければと思います。

「動物園」

作者 ● 小向朋恵（東京都）

カメラ：キヤノン PowerShot G7 X
レタッチ：Photoshop CS6にて自動トーン調整
撮影地：東京都台東区 上野動物園

【講評】

上野動物園なのですね。このアングルには気が付きませんでした。手前に写るゴリラは強い日差しのためかタオルをかぶっていて、ユーモアがあります。しかし注目すべきはガラスの向こうの人々の姿ですね。笑顔ともまた違う、人々のゴリラを見る表情がとても興味深いです。

【アドバイス】

動物園ではたくさんの写真が撮られますが、このように人を観察するというこの発想はおもしろいですね。ぜひ「見ている人を見る」というコンセプトでさまざまな作品が見てみたいです。

「光芒翔ける」

作者 ● 駒村優宇（千葉県）

カメラ：ニコン D810　レンズ：シグマ 12-24mm F4.5-5.6 II DG HSM
レタッチ：Photoshop Lightroom CCにて明瞭度、コントラスト、彩度を調整
撮影地：千葉県柏市

【講評】

まさに後光が差すような、もしくは千手観音のような、神々しさが感じられる大変ダイナミックな光線と雲を捉えた写真です。太陽の回りに360度、ぐるりと直線の光が差していて、見事というほかありません。

【アドバイス】

雲間からの光が美しいと知っていても、なかなかこれだけの光線には恵まれません。駒村さんの良い写真が撮りたいと強く思う気持ちが引きつけているのかもしれませんね。これからもそのモチベーションをぜひ持ち続けてください。

ハービー・山口先生の今月のひとこと

今月の選考では、躍動感あふれる夜の横断歩道の写真「Rainy Night」を優秀賞に選びました。この作品をはじめ、今月はふとしたアングルの違いで物事がとても新鮮に見えるという作品が多かったのが印象的でした。毎日見ているものであっても、小さな工夫やちょっとしたきっかけで、物事が新鮮に見えるから驚きです。

昨年12月から今年1月にかけて、乃木坂の「Books and Modern」という、書店とギャラリーが併設されたお店で写真展を開いたときのことです。なるべく在廊に務め、多くの方と交流させていただきました。無言で帰られる方もいらっしゃいますが、お1人でいらっしゃった方にもふと声をかけると話は盛り上がるもの。後から来た方との輪が広がったりと、社交場のような楽しい雰囲気になりました。

実は写真を撮るときもこうした小さなきっかけ作りは大切で、シャッターチャンスも増えますし、同じく人の輪も広がります。準優秀賞の「黒門市場の漬物店」や佳作の「なにしてんの？」もそうした声がけやきっかけ作りが生んだ秀作ではないでしょうか。

他にも、過度なレタッチをせず素朴な美しさを表現した作品や、失われつつある光景を写真に残した作品も印象的でした。アングルの発見にしろきっかけ作りにしろ、作者ならではの気付きが成功の要因です。皆さんもぜひ意識してみてください。

※作者名の＜ ＞内はGANREFネームを表します。応募に関する詳しい説明は、http://ganref.jp/photo_contestsをご覧ください

DIGITAL CAMERA MAGAZINE PHOTO CONTEST

［2017年3月号選考］

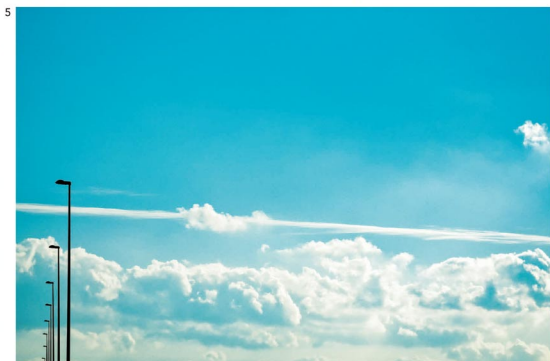
組写真部門

—— 選者・小林紀晴

副賞
メッセンジャーバッグS＋PIXI EVOキット
提供：マンフロット株式会社

1

3

優秀賞
First prize

「冬日」

作者・名倉吉康（静岡県）

カメラ：ニコン D800
レンズ：AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED　撮影地：静岡県浜松市

【講評】

何気ない風景を撮影しています。被写体とは一定の距離があります。かなり離れているといってもいいでしょう。遠くから傍観しています。コメントには「太陽の日差しの温かさに癒やされ、冬の空虚な光景に孤独を感じました……」とありました。まさにそんな空っぽな空気感が伝わってきます。空も雲も枯れた植木鉢も影もすべてが同等です。それでいて、ここには相反するものが同居しています。過ぎ去った季節とこれから訪れるであろう、新たな季節との間の停止した時間。そう感じられました。だからこそ、どこか愛おしいのです。露出がオーバー気味なのと浅い空の青色が印象的です。

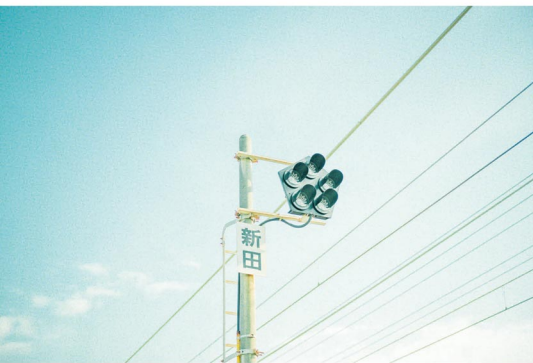
【アドバイス】

とても良くまとまった作品です。まるで違うものを1つのイメージによって束ねる能力にたけていると感じました。その上でのことですが、1枚目の写真だけ違和感がありました。抜け感が違うからでしょうか。このあたりを熟考してみてください。

5

2

4

6

「ぬくもりの記憶」

作者 ● 吉井健一<ken-1>(大阪府)

カメラ：ニコン D750　レンズ：1・2・5・6枚目：AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G、3・4枚目：AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR　撮影地：徳島県徳島市

【講評】

しっかりとした視点で撮られています。コメントには「父の記憶」とありました。男性はお父さまでしょうか。何より1匹の犬の存在が効果的です。男性と犬の視線が交差し、無言ながら言葉が交わされているかのようです。

【アドバイス】

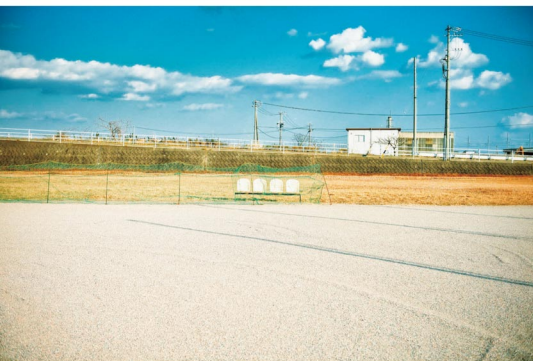
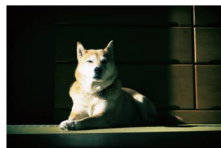
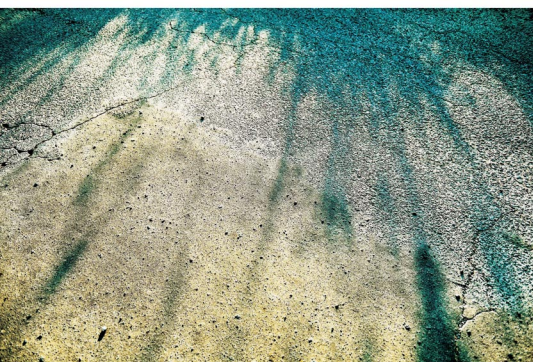
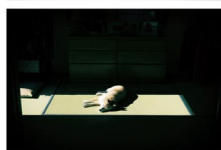
やはり犬の存在感が際立っています。とても魅力的です。犬の視線でさらに新たなものが撮れるような気がしました。動物に物語を語らせるということは、きっと可能です。

1

2

3

4

5

6

「カンボジアの夢」

作者 • 相賀望弘（岡山県）

カメラ：ニコン D7000　レンズ：シグマ 17-50mm F2.8 EX DC HSM　撮影地：カンボジア王国 プノンペン

【講評】
カンボジアのプノンペンにある遊園地とのことです。こんなところがあるのですね。どこか懐かしさを感じます。「子どものころ、父に連れられて行った遊園地の様子が、今遠いアジアのカンボジア プノンペンの遊園地でよみがえりました」とコメントにありました。すでに日本が忘れ去ってしまった時があります。私は街には「感性」があると思うのですが、ここにもそれを強く感じました。私たちが懐かしく思っているものが、ここでは「現在進行形」であるからです。そんなことに気づかせてくれる作品です。

【アドバイス】
いくつかはストロボを用いて日中シンクロで撮られているようです。その方法により現実が希薄になり、より効果的になりました。モノクロも悪くないのですが、カラーではどんなふうに見えたのかも気になりました。ぜひ、拝見したいです。

1
2
1

2

「Edge」

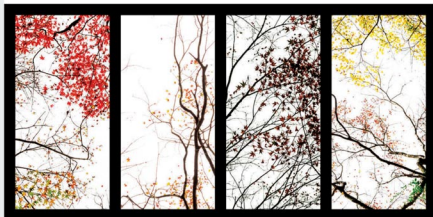
作者 • 本田勝彦（北海道）

カメラ：キヤノン EOS 5D Mark II　レンズ：1枚目：Carl Zeiss Distagon T* 35mm/F2.8、2枚目：EF24-105mm F4L IS USM　撮影地：北海道石狩郡

【講評】
コメントに「雪と風と光」とあったので、雪と氷だと分かりました。雪や氷は実はとても抽象的な存在です。存在していながら希薄だからです。その表層のはかなさが見事に捉えられています。

【アドバイス】
ていねいに光を見ていることが分かります。画の切り取り方、画像処理の仕方も見事です。この作品は2枚組ですが、このスタイルで枚数を増やしていってはいかがでしょう? その場合、絵柄が似ないことがポイントになります。

1

2

「晩秋紅葉図 四曲一双」

作者 • 石井大地（福岡県）

カメラ：リコーイメージング PENTAX K-01　レンズ：DA50mmF1.8　撮影地：福岡県福岡市

【講評】
タイトルの通り晩秋の紅葉を撮影していますが、額縁効果がすてきです。ふすま絵を連想したのは私だけでしょうか。細かく切断していながら、それでもつながりがあります。空が青ではなく、白く処理されているのがきっと効いているのでしょう。全体が面として見えてくるからです。

【アドバイス】
とても面白い方法だと思います。実験的でありながら、古典的でもあるといえます。だからこそ、落ち着いた趣を感じるのだと思います。この方法で、さらにいろんなものが撮れるのではないでしょうか。

3

4

1

2

佳作

「お楽しみ」

作者● 鈴木啓久<KC>(神奈川県)

カメラ：キヤノン EOS-1Ds Mark Ⅲ
レンズ：EF100mm F2.8L マクロ IS USM　撮影地：神奈川県川崎市

【講評】

いさぎよい写真の選択です。一見、まったく関係のない場面です。もしかしたら撮影時は、この完成形が想定されていなかったのかもしれません。それでも見事なつながりができあがりました。

【アドバイス】

ショートムービーを見ているような気持ちになりました。子どもが振り向いているのも良いですね。振り向けば「氷」があるからです。カット割りで映像がつながって見えるこの感覚を今後も大切にしてください。

PICK UP

ユニークで楽しめる作品。さらにストーリーを楽しみたい

1

2

佳作

「議論する人たち」

作者● 墨桜(福岡県)

カメラ：ニコン D7000
レンズ：AF-S DX NIKKOR 55-200mm f/4-5.6G ED VR Ⅱ
撮影地：福岡県

3

4

【講評】

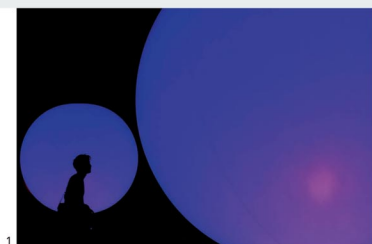
あまり拝見したことのない種類の作品で、とても楽しめました。小さな人形たちが必死に議論しています。不思議と議論する声が聞こえてきそうです。異質なもの、水着姿の女性、怪獣が入り込んでいます。それも意外で面白いです。さらにフルーツの存在がスケール感を的確に表現しています。

【アドバイス】

とてもユニークな発想で魅力的です。それゆえに残念に思うところがありました。それぞれの関係がストーリー的にもう少し発展しても良かったのではないでしょうか。具体的には水着の女性と怪獣の組み合わせも見てみたかったです。起承転結的なものは組写真ではかなり難易度が高いのですが、この場合きっと成立するのではないでしょうか。

1

2

3

「Color Balloons」

作者 ● 角田恒雄<NEONEO>(滋賀県)

カメラ：富士フイルム X-T2　レンズ：XF18-135mmF3.5-5.6 R LM OIS WR　撮影地：東京都台東区 上野公園

【講評】

完全にパソコン上で処理したものかと当初は思ったのですが、違いました。タイトルの通り、色のついたバルーンの前に人が立っている姿をシルエットで捉えたものでした。シルエットの人たちの表情が豊かです。指先に目がいきました。1枚1枚にリズムがあります。全体も色が違っていて、とても楽しめます。

【アドバイス】

普段の生活のなかでは出合えないものが、時に街に顔を出すことがあります。そんなときはチャンスです。そんな好例ともいえる作品です。切り絵のような表現をまたお待ちしています。

PICK UP

強い日差しによる非日常感で高揚感が伝わる作品。枚数と並びを調整すればさらに印象が強くなる

1

2

3

4

5

「村祭り」

作者 ● 中本則昭(兵庫県)

カメラ：ニコン D300S　レンズ：1〜3、5枚目：AF-S NIKKOR 28-300mm f/3.5-5.6G ED VR、4枚目：AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED　撮影地：1・3〜5枚目：兵庫県姫路市、2枚目：兵庫県神戸市

【講評】

こぢんまりとしているがゆえに、より魅力的なお祭りだと想像しました。強い光の下での非日常感と、参加する人たちの内に秘めた高揚感といったものが不思議と伝わってきます。あえて抑制した視線でカメラを向けているからだと思います。

【アドバイス】

5枚組の組写真ですが、少し枚数が多い印象を覚えました。中でも、最後の古い民家の写真は、4枚目の男性がたたずんでいる写真の背景と印象が似ているため、弱く感じられます。思い切って取ってしまったほうが良かったでしょう。最後は止めの意味でも男性がこちらを見つめている写真で終えた方がインパクトもあり、余韻が残ります。最初の1枚目も少し気になるところです。絵柄的に、それを2枚目と3枚目の間に持ってきた方がリズムが出て自然な気がします。

小林紀晴先生の今月のひとこと

もう1カ月もすれば花も咲き次第に鮮やかな色にあふれる季節がやってきますが、冬の間はどうしても外にでるのがおっくうになりがちです。今月、優秀賞に選ばせていただいたのは名倉吉康さんの「冬日」という作品です。タイトルの通り、冬の間に撮られたものしょう。それでいて、意外と穏やかな気持ちになります。ひだまりという言葉が自然と浮かんできます。一見撮るものが何もないと思いがちな季節にも実は多くの被写体が転がっていると気付かせてくれる好例です。コメントのなかに「空虚な光景」とありましたが、まさにそれを逆手にとっているともいえます。何もない場所にこそ、実はいろいろなものが潜んでいるはずです。外に撮影しに行きたくなる気持ちにさせてくれます。

準優秀賞は相賀望弘さんの「カンボジアの夢」という作品です。幼い頃の記憶と旅先で出合った光景がシンクロした瞬間です。初めて見るものなのに懐かしい。作者のその思いがよく表現されていて、見る側に伝わってきます。こんなときにどこかで聞いた「世界はあなたの思った通り」という言葉を思い出します。人の思いは目の前の光景を作り変える力を持っているのです。時にカメラによって。

※応募に関する詳しい説明は、http://ganref.jp/photo_contests/ をご覧ください

Let's Study

イラストレーター●ナカムラエコ　写真・文●鈴木知子

第9回

いろいろなボケ表現でイメージ写真を撮ろう

今回のお題

① ボケがイメージや物語を生み出す
② ボケを作る4つの要素を覚えよう
③ 幻想的な玉ボケ写真に挑戦しよう

背景が柔らかくぼけた雰囲気のある写真は、とても素敵ですよね。背景がぼけることで見る人の視線を主題に集中させることができますし、何より幻想的なイメージを表現できるのが魅力です。今回は思い通りのボケを表現するテクニックにチャレンジしてみましょう。

ボケをマスターして
写真にイメージを
加えましょう!

1 ボケがイメージや物語を生み出す

ボケは写真の表現方法の1つで、被写界深度(シャープに写る範囲)に入らない、ぼけて見えるエリアを意図的に作り出すものです。主役である被写体が浮かび上がって、見る人の視線を引きつけたり、写真に奥行きを与えたりするなど、さまざまな効果をもたらします。さらに、ボケの度合いや位置を変えることで、写真から感じるイメージに変化をつけることもできます。いくつかのポイントを押さえれば、ボケを自在にコントロールできるようになりますよ。

背景のボケで主題を浮き立たせる

主役の被写体が際立つように望遠レンズをF4にして撮影。大きなボケは不要な要素が目立たないよう引き算することができる

手前のボケで幻想的な雰囲気を生み出す

白壁と石階段とを二分割構図で撮影。手前の植物で画面下部に前ボケを入れ、幻想的な雰囲気を強調している

STUDY 大きな柔らかいボケが得られる大口径レンズ

大口径レンズとは、開放F値が小さいレンズのことです。一般的にはF2.8よりも明るいレンズを指します。F値が小さいほどぼけやすいので、大きなボケを生かした写真を撮ることができます。暗所での撮影では、F値を小さくすることでシャッター速度を速められるのも魅力です。手ブレを防ぎ、ISO感度を上げずに撮影できるというメリットがあります。ただし被写界深度は浅くなるので、ピント合わせはシビアです。

一般的に開放F値がF2.8よりも明るいレンズを大口径という

F1.4　F2　F2.8　F4　F5.6　F8　F11　F16　F22

F値を変えて同じ焦点距離で被写体を撮影し、背景のボケ具合を比較した。F値が小さい左の写真の方が、背景が大きくぼけていることが分かる

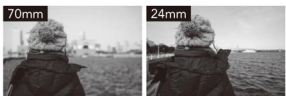
2 ボケを作る4つの要素を覚えよう

ボケの大きさは、「F値」「背景との距離」「撮影距離」「焦点距離」の4つの要素の組み合わせでコントロールできます。全ての要素でボケを大きくする条件に寄せるのではなく、それぞれ調整して、イメージ通りのボケを作りましょう。ちなみに、ボケの大きさはカメラのセンサーサイズに関係するとよくいわれますが、センサーそのものはボケの大きさには関係ありません。同じ画角（写る範囲）で撮影する場合、センサーが小さいほどレンズの実焦点距離が短くなり、右の「焦点距離」の条件に基づきボケが小さくなるわけです。

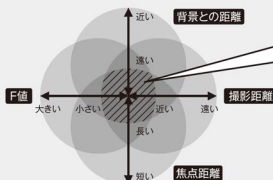
F値 F値を変えて撮影。F値は小さくなるほど被写界深度が浅くなり、背景がぼけるようになる。大きくぼかすならば、開放F値が小さい大口径レンズが有利だ

背景との距離 主題から背景が離れるほどぼける。同じF4、撮影距離でも、アングルを低くした左の方が背景が遠くなり、大きくぼけている

撮影距離 F4、焦点距離50mmで撮影距離を変えて撮影。被写体に近づいた方が、背景がぼけている。最短撮影距離まで近づくと、ボケはさらに大きくなる

焦点距離 F4で、主題が同じ大きさになるように焦点距離を変えて撮影。70mmの方が背景がぼけている。焦点距離が長い望遠レンズほどボケは大きくなる

STUDY

最も大きなボケが得られる条件とは？

最も大きなボケになる条件は、焦点距離を長くする、F値を小さくする、カメラと被写体までの距離を近づける、被写体と背景の距離を遠くすることです。例えば、開放F値が大きめのズームレンズであっても、望遠端で最短撮影距離まで近づき、背景が遠くなるアングルで撮影するとボケを大きくできます。条件を覚えておくことで、ボケをコントロールする手段が広がります。

Let's TRY

ボケを生かした写真を撮ってみよう

ボケを撮りたいとき、カメラの露出モードは絞り優先AEがおすすめ。F値を変えることで、ボケの大きさを自在に変えることができます。4つの要素からも分かるように、ボケは距離も関係します。大きなボケを得るため、被写体に対して角度をつけるなど、ポジションを意識しておきましょう。

ウィンドウのディスプレイを見上げるようにスナップ。ボケを生かすため、被写体に正対せず斜めから捉えるようにした。ピントの前後をぼかして柔らかい雰囲気を埋め込んでいる

主題はベンチで、誰かが来るのを待ちわびているイメージだ。2階の窓から撮ってベンチまで距離があったので、前ボケにした窓枠とカーテンを大きくぼかすことができた

STUDY

必ずしも最大のボケが良いわけではない

大きなボケは見る人の視線を主役に引きつけてくれますが、主役の置かれた状況を見せたいときは、ある程度背景の要素を見せた方が撮影意図が伝わりやすくなります。いたずらに開放F値ばかりを使うのではなく、周りの見え方を意識してボケの大きさを決定することが大切です。

F5.6まで絞っても主役は際立っている。背景の建物や文字が見えることで、周りの状況がより具体的に伝わるようになる

F1.8で背景を大きくぼかしたことで主役にした提灯は際立っているが、周りの雰囲気や状況は伝わりづらくなってしまった

柔らかいイメージで古い時代を連想させるため、ピントを合わせたタイプライターのキーをボケで包むような表現にしたかった。大きくぼかすために手前から奥まで角度をつけている

3 幻想的な玉ボケ写真に挑戦しよう

キラキラした丸い光、この光を玉ボケ（丸ボケ）といいます。とても幻想的ですよね。玉ボケは点光源（点状の光源）をぼかすことで表現できます。まずは主役となる被写体を決めて、点光源を被写体の前か後ろにぼかして入れます。点光源としては、晴天の日ならば木漏れ日や葉っぱ・水面の反射、夜は街灯やイルミネーションの電飾などが候補になります。大きな玉ボケにしたい場合は、ボケの４つの要素に当てはめてみましょう。

夜景の玉ボケ

波止場にあった浮き輪にピントを合わせ、遠くに見える街灯り（左）を玉ボケにした。キラキラとした細かい光を演出するため、単焦点50mmのF2.5で撮影した

木漏れ日の玉ボケ

バラの花を主役にして、キラキラとした葉の表面の反射（左）を背景にして玉ボケにしている。背景までの距離が近かったので、焦点距離200mmで撮影した

STUDY 心象的なアウトフォーカス

わざとピントを外してボケを生かした写真のことを、「アウトフォーカス」といいます。ぼやけた世界は想像力をかき立て、見る人が物語を作り出してくれます。カメラの設定はマニュアルフォーカスにして、意図的にピントを外してみましょう。人物や建物などをぼかすことで、被写体そのもののイメージを和らげることができます。懐かしい風景など、心象的な雰囲気に合った表現です。

家族のシルエットをアウトフォーカスで表現。過ぎた日々を回想するようなイメージだ

手前に窓枠を入れてフレーム構図に。窓から見える建築物をぼかして幻想的に表現した

マニュアルフォーカスに切り替えて撮影しよう

まとめ 主題をボケで際立たせ、物語を込めよう

ボケの一番の魅力は、主題を際立たせること。それだけに主題と副題の決定が大切になります。基本は主題にピントを合わせ、副題は主題をアシストする要素になります。

下の写真のように、同じ場所でも、主題と副題を入れ替えれば、写真が与える印象を変えられます。イメージ通りにボケの演出ができれば、表現力も飛躍的にアップしますよ。

歩行者を主題にして撮影。車止めを前ボケにしてフレーム効果を狙った。看板などを隠し人の流れに視線が向かうように演出した

同じ場所で、今度は車止めの龍のモチーフを主題にした。背景が閑散と見えないように、人がいることが分かる程度にぼかした

ボケをどこに配置するかで表現が変わる

同じ場所で撮影しても、ボケの位置によって主題やイメージを変えることができる。撮影距離はほぼ同じで、車止めまでは30cmというところだ

気になるポイントをユーザー目線でチェック!! ・編集部発

デジカメNEWS調査隊

デジタルカメラ関連の新製品情報や編集部員による試用レポート、そしてお得なキャンペーンやイベント情報など。
今月もカメラやレンズの発表など旬のトピックが満載。内容盛りだくさんでお届けします!

写真・文●榊 信康、編集部

手のひらサイズで光学45倍ズームの超望遠ズームコンパクト機

CHECK

キヤノンは、コンパクトデジタルカメラの新モデルとして「PowerShot SX430 IS」を発売した。PowerShot SXシリーズの特徴である高倍率ズームレンズは、従来の光学42倍(SX420 IS)から光学45倍に向上。プログレッシブファインズームにより約90倍まで解像感を保持したズームが可能だ。ボディサイズは従来と変わらず、ホールドしやすいグリップも健在。わずかながら軽量化も実現した。

▶キヤノン PowerShot SX430 IS

◎発売予定日:2017年2月23日
◎予想実勢価格:32,000円前後

●撮像素子:1/2.3型CCD
●有効画素数:約2,000万画素
●焦点距離:4.3〜193.5mm (24〜1,080mm相当)
●開放F値:F3.5(W)〜6.8(T)
●背面モニター:3型23万ドットTFTカラー液晶
●無線機能:Wi-Fi、NFC
●外形寸法(W×H×D):約104.4×69.1×85.1mm
●質量:約323g(バッテリー、カードを含む)

ズーム倍率がさらに向上

SX430 IS:24〜**1,080mm**相当(45倍)
SX420 IS:24〜1,008mm相当(42倍)

参考URL
キヤノン
http://canon.jp/

タムロンのフルサイズ対応望遠ズームがAFや手ブレ補正を向上してリニューアル

CHECK

タムロンは、フルサイズ対応の望遠ズームレンズ「SP 70-300mm F/4-5.6 Di VC USD」(Model A030)を発売する。2010年に発売したModel A005のリニューアルモデル。AFの制御回路やアルゴリズムの調整でスピードや精度を改善。手ブレ補正効果も改良され約4段分の効果がある。ズームリング、フォーカスリングにはグリッドパターンが採用され、外観品位の向上も図られた。レンズ面は防汚コートが採用され手入れもしやすい。

▶タムロン SP 70-300mm F/4-5.6 Di VC USD (Model A030)

◎発売予定日:2017年2月23日
◎予想実勢価格:46,000円前後

●レンズ構成:12群17枚
●絞り羽根枚数:9枚
●最小絞り:F32〜45
●最短撮影距離:1.5m
●最大撮影倍率:0.25倍
●フィルター径:φ62mm
●外形寸法(最大径×長さ):約φ82.2×142.7mm
●質量:約765g
●対応マウント:キヤノン用、ニコン用

防汚コートを採用　外観品位を向上　4段分の手ブレ補正

参考URL **タムロン http://www.tamron.co.jp/**

軽量・高画質のカメラとレンズがセット! お得なフルサイズ機レンズキットが登場

CHECK

キヤノンは、一眼レフカメラ「EOS 6D」に軽量ズームレンズ「EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM」を組み合わせたレンズキットを発売した。ボディ、レンズ共に軽量を特徴とした製品を組み合わせることにより、撮影をより軽快に楽しめることを狙っている。

▶キヤノン EOS 6D・EF24-105 F3.5-5.6 IS STM レンズキット

◎発売日:2017年2月2日 ◎実勢価格:254,000円前後

小型フルサイズ機
×
軽量ズームレンズ

参考URL **キヤノン http://canon.jp/**

オート撮影機能が充実したIXYシリーズの新モデル2機種

CHECK

キヤノンは、コンパクトカメラIXYシリーズの新モデルを発売した。「IXY 210」は光学10倍ズーム、「IXY 200」は光学8倍ズームレンズを装備する。両機とも新機能として、日付写し込み機能を切り替える「DATEボタン」、初心者の誤操作を防止する「安心オート機能」を搭載する。

▶キヤノン IXY 210

◎発売予定日:2017年2月23日
◎予想実勢価格:22,000円前後

●撮像素子:1/2.3型CCD ●有効画素数:約2,000万画素 ●焦点距離:24〜240mm相当 ●開放F値:F3〜6.9 ●背面モニター:2.7型23万ドットTFTカラー液晶 ●無線機能:Wi-Fi、NFC ●外形寸法(W×H×D):約95.3×56.8×23.6mm ●質量:約137g(バッテリー、カード含む)

▶IXY 200

◎発売予定日:2017年2月23日
◎予想実勢価格:16,000円前後

●撮像素子:1/2.3型CCD ●有効画素数:約2,000万画素 ●焦点距離:28〜224mm相当 ●開放F値:F3.2〜6.9 ●背面モニター:2.7型23万ドットTFTカラー液晶 ●外形寸法(W×H×D):約95.2×54.3×22.1mm ●質量:約126g(バッテリー、カード含む)

8倍ズームの
シンプルモデル

参考URL
キヤノン
http://canon.jp/

APD搭載でボケ描写に強い100mmとリーズナブルな85mmの最新FEレンズ2本

CHECK

ソニーは、最新FEレンズとして「FE 100mm F2.8 STF GM OSS」と「FE 85mm F1.8」を発売する。FE 100mm F2.8 STF GM OSSはSTF（Smooth Trans Focus）レンズとなり、アポタイゼーション光学エレメントの搭載によって、ボケが柔らかく描写される。FE 85mm F1.8はリーズナブルな大口径中望遠レンズ。シャープな描写とボケ味を両立した描写を小型・軽量で楽しめる。

▶ **FE 85mm F1.8**

◎発売予定日：2017年4月
◎希望小売価格：79,920円

●レンズ構成：8群9枚
●絞り羽根枚数：9枚（円形）
●最小絞り：F22　●最短撮影距離：0.8m
●最大撮影倍率：0.13倍
●フィルター径：φ67mm
●外形寸法（最大径×長さ）：約φ78×82mm
●質量：約371g

▶ ソニー　**FE 100mm F2.8 STF GM OSS**

◎発売予定日：2017年4月
◎希望小売価格：203,040円

●レンズ構成：10群13枚
●絞り羽根枚数：11枚（円形）
●最小絞り：F20（T22）　●最短撮影距離：0.57m
●最大撮影倍率：0.25倍　●フィルター径：φ72mm
●外形寸法（最大径×長さ）：約φ85.2×118.1mm
●質量：約700g

参考URL ソニー
http://www.sony.jp/

アポタイゼーション光学エレメントを搭載していることが特徴。柔らかなボケ描写を実現する。絞りリングにはF値ではなく、フィルターによる減光分を含めたT値が記載される

レンズ本体のリングで近接撮影モードに変更できる「マクロ域切り換え機能」を搭載。最大撮影倍率は0.25倍となる。この機能により近接時も高い解像力を維持する

防水性とクッション性を兼ね備えた安全・安心のクッションポーチ

CHECK

ハクバ写真産業は、防水性とクッション性を兼ね備えた汎用クッションポーチ「ドライクッションポーチ」の新サイズWモデルを発売した。IPX4準拠で豪雨でも浸水しない安心構造が身上。従来のLサイズよりも一回りほど大きく、レンズを装着した一眼レフボディと交換レンズが収納可能。

▶ ハクバ写真産業
ドライクッションポーチW

◎発売日：2017年2月13日
◎実勢価格：6,400円前後

●内形寸法（W×H×D）：約220×220×140mm
●質量：約210g

大型化によりレンズを装着した一眼レフ機と交換レンズ1本程度を収納可能となった

参考URL
ハクバ写真産業
http://www.hakubaphoto.jp/

面ファスナーでレンズサイズに合わせて留め位置を調整できるレンズ用ポーチ

CHECK

銀一は、peak design社の「Range Pouch」を発売した。ベルトやストラップに取り付けて、レンズを安全に運べるポーチ。ふたは面ファスナー式で、レンズに合わせて留め位置が調整できる。背面にはアンカー用のループを備え、ポシェットとして利用できる。サイズはS、M、Lの3種。

▶ peak design　**Range Pouch**

◎発売日：2016年12月18日
◎実勢価格：7,500円（L）、6,800円（M）、6,000円（S）

●内径寸法（最大径×長さ）：約11.7×23.6cm（L）、約10.4×17.3cm（M）、約8.6×12.2cm（S）

フェルト製の中仕切りによってさまざまな形でレンズを保護できる

参考URL 銀一　http://www.ginichi.com/

ビデオスピードクラスV90に対応した高画素動画時代の高速転送SDXC

CHECK

パナソニックは、ビデオスピードクラスV90に対応したSDXC UHS-Ⅱカード「RP-SDZA128JK」を発売する。高速MLCフラッシュメモリーの採用と、擬似SLC化技術によりデータ転送速度の高速化を実現。V90は最低速度90MB/秒を保証する、8K記録を想定したビデオスピードクラス。4K動画撮影で求められる高速で安定したデータ転送を可能にする。

▶ パナソニック　**RP-SDZA128JK**

◎発売予定日：2017年3月23日
◎予想実勢価格：59,000円前後

●容量：128GB　●インターフェイス規格：UHS-Ⅱ
●スピードクラス：class10　●UHSスピードクラス：UHS speed class3　●ビデオスピードクラス：V90
●最大読み出し速度：280MB/秒　●最大書き込み速度：250MB/秒

参考URL
パナソニック
http://panasonic.jp/

8K動画撮影を想定したスピードクラスに対応！

4K動画を長時間記録可能な512GBの大容量CFast 2.0カード

CHECK

マイクロン ジャパンは、レキサー「Professional 3500x CFast 2.0メモリカード」の512GBモデルを発表した。同メモリーカードのこれまでの最大容量は256GBであり、2倍の容量を実現している。最大445MB/秒の書き込み速度を備え、4Kなどの高画質動画を継続的に録画可能。最大525MB/秒の読み取り転送速度で、データ転送も高速で行える。

▶ Lexar **Professional 3500x CFast 2.0メモリカード**

◎発売予定日：2017年前半　◎価格：未定

●最大読み出し速度：525MB/秒
●最大書き込み速度：445MB/秒

4K動画を長時間継続記録できる

参考URL
マイクロン ジャパン
https://jp.micron.com/

圧倒的低コストなエコタンクモデルが写真プリント対応となって新登場

CHECK

エプソンは、エコタンク搭載プリンターの新モデルとして「EW-M770T」を発売した。従来のエコタンク機はドキュメント向けのビジネスプリンターとしての色が強かったが、EW-M770Tは印刷品位を向上し、フォトプリンターとしての性能も確保。インクボトルはフォト4色が各70ml、顔料ブラックが140ml。印刷可能枚数はA4カラーで約8,000枚。ランニングコストはA4で1.3円/枚に抑えられている。

▶ エプソン　**EW-M770T**

◎発売予定日：2017年3月2日　◎予想実勢価格：70,000円前後

●外形寸法(W×H×D)：約425×161×359mm

参考URL エプソン
http://www.epson.jp/

注目

文書も写真も印刷できる2つのブラックインク搭載

顔料ブラックと染料ブラックの2つのブラックインクと、染料カラー3色の計5色を搭載。これまでのエコタンク搭載プリンターではできなかった写真プリントが可能になった

手が汚れない挿すだけ満タンインク方式

インク補充はボトルのスクリュー式キャップを開けてインクタンクに挿すだけ。色ごとに注入口が異なり、間違いもない。満タンになると自動的に補充が完了する

インクの残量確認や補充に便利なフロント部

撥水加工が施されたインクタンクをフロントに設置してインク窓を設けた。ひと目でインク残量の確認ができるうえ、インク補充も楽に行える

印刷ごとに用紙交換不要! 3way給紙システム

トレイ式の前面2段カセットと背面給紙で3通りの給紙を一度に設定できる。印刷ごとに用紙を交換する手間がなくなり、気軽に印刷できる

水や汚れに強い特殊素材を採用した折りたためる軽量カメラバッグ

CHECK

ハクバ写真産業は、ルフトデザインの「アーバンライト ショルダーバッグL」を発売した。ポリカーボネートコートを施したナイロンを素材に使用しており、軽量な上に水・汚れに強い。開口部は広く取られており、上部ジッパーを開けると内部が一覧できる。

▶ ルフトデザイン
アーバンライト ショルダーバッグL

◎発売日：2017年2月3日
◎実勢価格：5,100円前後

●素材：ポリカーボネートコーティング210dナイロン
●内形寸法(W×H×D)：約320×180×120mm
●外形寸法(W×H×D)：約360×360×160mm
●質量：約430g

収納したカメラやレンズが見やすく、素早く取り出せる

参考URL ハクバ写真産業
http://www.hakubaphoto.jp/

フィルターガラスの歪みを抑えた保護フィルターに大口径モデルが追加

CHECK

ケンコー・トキナーは、ZXプロテクターの大口径サイズ「86S ZXプロテクター」(φ86mm用)と「95S ZXプロテクター」(φ95mm用)を発売した。Zフレームからガラスにかかる負荷を極力なくすフローティングフレームシステムが特徴。ガラスの平面性を維持し、レンズ本来の描写を損なわない。

▶ ケンコー
ZXプロテクター 86mm/95mm

◎発売日：2017年2月10日
◎実勢価格：14,000円前後(86S)、17,000円前後(95S)

参考URL ケンコー・トキナー
http://www.kenko-tokina.co.jp/

指すべりがよく傷が付きにくい極薄0.2mmの液晶保護ガラスが登場

CHECK

ハクバ写真産業は、強化ガラスにARコート、フッ素コートを施した「ULTIMA 液晶保護ガラス」を発売した。ガラス厚が0.2mmと極薄で、バリアングルモニターにも使用可能。シリコン粘着層により貼りやすく、気泡も自然に消える。サイズは主要カメラメーカーに合わせた13種を用意。

▶ ハクバ写真産業
ULTIMA 液晶保護ガラス

◎発売日：2017年2月8日　◎実勢価格：3,000円前後

薄型で装着感が少ない最新保護ガラス

参考URL ハクバ写真産業
http://www.hakubaphoto.jp/

三脚を面ファスナーで固定して冬季撮影の手の冷たさを軽減!

CHECK

ラムダは、寒冷期の撮影を支援する「三脚ウォーマー」を発売する。面ファスナーで三脚に固定することで、冷え切った三脚に直接触れることなくセッティングが行える。表布は合成皮革、裏布はストップレザーを採用。衝撃吸収効果もあるので三脚の保護にも役立つ。

▶ ラムダ　**三脚ウォーマー**

◎発売予定日：2017年3月1日
◎予想実勢価格：4,600円前後

●素材：合成皮革(表)、ストップレザー(裏)
●カラー：ブラウン、ブラック
●外形寸法(W×H)：約130×220mm
●対応脚径：φ20〜30mm

参考URL ラムダ　http://www.lamda-sack.com/

編集部 耳より情報

デジカメ関連の新情報はこのほかにもまだまだ紹介しきれないほど発表されている。
ここではその中から、特に耳よりな情報をピックアップしてお届けしよう。

対象商品を購入した応募者全員にキャッシュバック GOING2020！SPRINGキャンペーン

●キャンペーン期間：2017年2月18日～5月8日
●応募締切：2017年5月31日（当日消印有効）

キヤノンは、期間中の対象商品購入者を対象とした「GOING2020! SPRINGキャンペーン」を開始した。対象商品（Gシリーズを除く）を購入し、応募した全員にキャッシュバックを行うもの。また、PowerShot G9X Mark Ⅱ/G7X Mark Ⅱを購入した応募者全員にバッテリーなどがプレゼントされる。さらに抽選で100名にキヤノンオリジナル「GOING2020! 缶」が当たる。対象商品は右の一覧を参照。

レンズ交換式カメラ
- EOS 80D
- EOS M10

コンパクトカメラ
- PowerShot SX720 HS
- PowerShot SX620 HS
- PowerShot G9X Mark Ⅱ
- PowerShot G7X Mark Ⅱ

インクジェットプリンター
- TS9030
- TS8030
- TS6030

参考URL キヤノン http://canon.jp/

APS-C機もフルサイズ機もキャッシュバック αシリーズから2つのキャンペーンがスタート

●キャンペーン期間：2017年2月3日～5月7日
●応募締切：2017年5月22日（当日消印有効）

ソニーはαシリーズを対象とした「スタートαキャンペーン」と「αウェルカムキャンペーン」を開始した。対象商品を購入した応募者全員にキャッシュバックを行う。「スタートαキャンペーン」はα6000/α5100およびズームレンズキットを対象とし、「αウェルカムキャンペーン」はα7R Ⅱ/α7S Ⅱ/α7 Ⅱ/α7 Ⅱズームレンズキットの他、一部の交換レンズも対象とする。

◀α6000

◀α7 Ⅱ

参考URL ソニー http://www.sony.jp/

OM-D E-M1 Mark Ⅱ発売記念キャッシュバック 好評につきキャンペーン期間の延長を発表

●キャンペーン期間：2017年3月31日まで
●応募締切：2017年4月14日（当日消印有効）

オリンパスは、昨年末より実施していた「OM-D E-M1 Mark Ⅱ発売記念キャッシュバックキャンペーン」の期間延長を発表した。内容は、期間中にOM-D E-M1 Mark Ⅱと対象レンズもしくは対象レンズのみを購入したユーザーにJCBギフトカードでのキャッシュバックを行うもの。当初は1月31日までの購入者が対象だったが、延長後は3月31日までとなり、応募締切も4月14日に変更された。

▲OM-D E-M1 Mark Ⅱ

参考URL オリンパス http://www.olympus-imaging.jp/

先着3,000名に専用メタルハンドグリップをプレゼント X-T20 デビューキャンペーンがスタート

●キャンペーン期間：2017年1月19日～3月31日
●応募締切：2017年4月21日（当日消印有効）

富士フイルムは、X-T20の発売を記念した「X-T20 デビューキャンペーン」を開始した。内容は、期間内（3月31日まで）にX-T20を購入し、かつキャンペーンに応募したユーザー先着3,000名に専用メタルハンドグリップ「MHG-XT10」をプレゼントするというもの。応募は、まずキャンペーンサイトでエントリーしてから、応募用紙に必要書類を貼付して郵送する。

▲X-T20

参考URL 富士フイルム http://fujifilm.jp/

早期購入者にオリジナルラッピングクロスプレゼント FiRIN 20mm F2 FE MF発売記念キャンペーン

●キャンペーン期間：2017年1月27日～予定数終了まで

ケンコー・トキナーは、「FiRIN 20mm F2 FE MF発売記念キャンペーン」を実施する。内容は、FiRIN 20mm F2 FE MFの早期購入者にオリジナルのラッピングクロス（大小2枚組）をプレゼントするというもの。応募は、パッケージに同梱の「ご愛用者カード」に、キャンペーン用の「管理ナンバー入り応募シール」（同梱）を貼付して郵送する。予定数に達し次第シールの同梱は終了となるとのこと。

◀オリジナルのラッピングクロス（大）
▶FiRIN 20mm F2 FE MF

参考URL ケンコー・トキナー http://www.tokina.co.jp/

新宿、銀座、大阪のニコンサロンがリニューアル 写真展会場「THE GALLERY」が今夏オープン

●リニューアル予定日：2017年7月（新宿・銀座）、8月（大阪）

ニコンは創立100周年を記念し、ニコンサロンのリニューアルを実施。銀座ニコンサロンは2017年7月、大阪ニコンサロンは8月改装予定。新宿ニコンサロン、ニコンサロンbis新宿、ニコンサロンbis大阪は「THE GALLERY」となる。また、若手写真家の新支援制度「Be a Photographer」も右に記載の概要で開始される。

「Be a Photographer」概要
- **募集開始日**：2017年1月
- **支援内容**
  - **公開講評会** 写真家やキュレーターからの講評を無料で受講できる「フォトレビュー」の開催
  - **制作支援** プリント制作補助費5万円および増刷分を除く案内ハガキ制作費用の全額補助
  - **三木淳賞** 35歳以下の作家を対象に「三木淳賞」を贈呈。特典に「THE GALLERY」での作品発表を含み、制作支援金として総額300万円を進呈

参考URL ニコンイメージングジャパン http://www.nikon-image.com/

主要メーカー37社の製品を一挙掲載 写真・映像用アクセサリーの総合カタログ最新版

●刊行日：2017年2月23日

日本写真映像用品工業会は、「写真・映像用品年鑑 2017年版」を2月23日（CP+開催初日来場者特典として無料配布予定）に発刊する。A4判フルカラーで全296ページ。掲載企業37社の多彩な製品群を掲載、紹介している。購入は全国カメラ店の他、同会へ購入申込書と切手を送付（配送代込720円分）することでも可能。またPDF版であれば、同会のWebサイトから無料でダウンロードが行える。

▲『写真・映像用品年鑑 2017年版』

参考URL 日本写真映像用品工業会 http://www.jpvaa.jp/

「APAアワード2017」2部門の受賞者を発表！ 広告部門は正田真弘氏、写真部門は関 健作氏

●展覧会会期：2017年3月4日～19日
●展覧会会場：東京都写真美術館

日本広告写真家協会は、実広告による広告作品部門とテーマに沿って競う写真作品部門の2部門からなる「APAアワード2017」を開催し、受賞者を発表した。広告部門の経済産業大臣賞に正田真弘氏、写真部門の文部科学大臣賞に関 健作氏が輝いた。3月に受賞作品による公募展を開催する。

◀経済産業大臣賞受賞作品「＃ポカ写」©正田真弘

▶文部科学大臣賞受賞作品「ブータン 92歳の1日」©関 健作

参考URL 日本広告写真家協会 http://www.apa-japan.com/

ヨコハマを舞台に高校生たちが熱い写真魂を伝える

レポート●編集部

ニコン主催 第5回 TopEye 全国高校生写真サミット2017

真冬の海風が身体にしみる港町ヨコハマを3日間熱くするイベントが今年も開催された。今回で5回目を数える「TopEye全国高校生写真サミット」を毎年楽しみにしている。四十路を超えた筆者にはない柔軟な発想や、ついつい被写体に遠慮してしまいがちなシーンにグッと近寄って捉える大胆なアプローチなど、毎年「うまい!」と思わせる作品に出合えるからだ。

「TopEye」はニコンが全国の中学生、高校生を対象にした写真部応援マガジン。その関連イベントとして、高校生同士の交流や実践的な写真撮影の場を提供することを目的に行われている。全国から選抜された15校の写真部員が3人1組となり、3枚の組写真による「チーム賞」と個人作品による「個人賞」で競い合う。審査員は小林紀晴、秋元貴美子、藤村大介、若子jet、織作峰子の各氏。今年のテーマである「キズナ、横浜。」を表現すべく、総勢45人の高校生がヨコハマを舞台に作品制作に情熱を傾けた。提供されたカメラはD5600 18-140 VR レンズキットだ。

本イベントは充実したプログラムが特徴。審査員による撮影アドバイスやエプソン EP-10VAを使用したプリントセミナー、織作峰子氏による基調講演、5人の審査員が自身の作品を通して高校生たちに写真の魅力を伝えるフォトレビューなどが実施された。さらに今年は生徒の持ち込み作品を元に審査員にアドバイスをもらったり親交を深められる交流会も新設された。緊張の面持ちで臨んだ作品プレゼンテーションを経て迎えた結果発表は、笑いあり涙ありの盛り上がりを見せた。高校生たちに確かな記憶を刻んだであろう本イベントは大盛況のうちに幕を閉じた。

交流会

自由撮影時間

プレゼンテーション

織作氏の基調講演

3日間で行われた充実のプログラム

1日目 2/3(金)
- 開会式
- アドバイススポット撮影
- 自由撮影時間

作品制作は共通の機材を使い、自由撮影時間という同一の時間帯で行われる。審査員のアドバイスも受けられる

2日目 2/4(土)
- 自由撮影時間
- プリントセミナー
- 交流会
- 作品プレゼンテーション

撮りためた作品はプリントセミナーを経て印刷。選定作業に入り、チーム作品と個人作品を決定する。そしてプレゼンテーションの大一番に臨む

3日目 2/5(日)
- 織作峰子氏基調講演
- 審査員フォトレビュー
- 審査発表
- 表彰式

最終日は審査員によるトークショーが行われる。プロの作品を通して、写真の魅力や写真家としての生き様を知る。最後に緊張の審査発表となる

カメラはニコン D5600 18-140 VR レンズキットが貸し出された。手の小さい生徒でも持ちやすい薄型ボディと多機能を両立したモデルだ

チーム賞グランプリ 宮城県白石工業高等学校

「溢れ出る愛情」

テーマであるキズナを表現するにあたり、最初はかぶり物のグッズを使って他校の生徒と一緒に撮ることを考えましたが、街で出会う親子、特に子どもの笑顔に引かれて方針を変えました。撮影に協力していただいた方々の人柄も良く、撮っているうちに笑顔を引き出すコツをつかみました

大槻清楓さん／駒田一樹さん／梶川玲奈さん(写真左から)

チーム賞準グランプリ 山口県立下松高等学校

「元町記憶印刷所」

撮影中に印刷所を偶然見つけ、思い切ってご主人に交渉しました。戦前から続く印刷所とのことで、過去から現代につながるキズナをイメージしました。機械、それを扱う職人、そして出来上がった製品といったストーリーが伝わるように構成を工夫しました

竹之内春花さん／金子香穂さん／石井そらさん(写真左から)

優秀賞

沖縄県立浦添工業高等学校
「それぞれの休日」

八代白百合学園高等学校
「幸せ」

群馬県立藤岡北高等学校
「TariTari」

個人賞

小林紀晴賞
山口県立下松高等学校
金子香穂「ありゃりゃ!?」

秋元貴美子賞
沖縄県立浦添工業高等学校
比嘉夏子「日常の裏側」

藤村大介賞
群馬県立藤岡北高等学校
木村里穂「OTODAMA」

若子jet賞
静岡県立伊東高等学校
村上夏鈴「Charmingly」

織作峰子賞
帝塚山学院中学校高等学校
阪口亜由「朝焼け」

横浜市長賞
中越高等学校
星 美紀「この手の中に」

インプレス

工場夜景に必要な機材選びから、基本的なカメラ設定を解説

こだわりポイント 1

大きな写真には工場名が載っている!

誌面を見ていて、このかっこいい工場はどこの工場だろうという疑問に応えるため、大きなサイズで掲載した写真にはすべて工場名を記載しています。撮影場所探しの参考にしてください。

幻想的な工場夜景が撮れるシーンの撮り方をステップで紹介

こだわりポイント 2

必要な情報はアイコンで分かりやすく表示

シーン別テクニックや撮影スポットガイドでは撮影に必要な情報をアイコンでまとめてあります。見ただけでいつ、どんな時間のどんな天気で撮るとベストなのかが分かります。

小林哲朗が厳選した、日本全国の工場夜景 絶景スポット

こだわりポイント 3

すべてのスポットに撮影マップを掲載

スポットガイドでは全ての撮影スポットに撮影マップを掲載しています。撮影位置だけでなく、撮影対象の工場の位置も分かるので、工場が撮れる方向が分かります。

夜の絶景写真

誰でも幻想的な工場夜景が撮れるようになる

工場夜景編

定価(本体1,800円+税)

小林哲朗 著／160ページ／B5変型判

ISBN 978-4-2950-0018-1

1,600円+税※

※インプレス直販参考価格です

夜の絶景写真シリーズ 今後も続々登場!

夜の絶景写真シリーズでは「工場夜景編」を皮切りに「花火」「星空風景」など、多くの人が夜に撮りたいと思うシーンの刊行を予定しております。乞うご期待!

大好評発売中!本書のご購入について詳しくはこちら

http://book.impress.co.jp/books/1116101009 [お問い合わせ] info@impress.co.jp 株式会社インプレス

散歩の風景

第6回目 ペンキ塗りたて

写真・文●斎藤公輔

漫画では見かけるが、実際には見たことがないもの。それがペンキ塗りたて。そもそも本当にあるのかどうかもあやしい存在だ。

誰もが知っているけれど、現実にはあまり見かけないのが「ペンキ塗りたて」の表示である。よく考えてみてほしい、ペンキは自然に乾くのだ。気温にもよるが、塗りたてなのはせいぜい1日くらいの間であって、そのタイミングでペンキが塗られた場所に行かないと見ることができない。発見の難易度はかなり高いことが分かるだろう。

私が今まで見つけた（というより、たまたま通りかかった）ペンキ塗りたては、この5年ほどでわずか5件である。それが多いのか少ないのか、世間の平均は全く分からないが、予想ではそこそこ多い方だと踏んでいる。発見は偶然に左右されるとはいえ、普段から気にかけていないと素通りしてしまう可能性が高いため、探す意思を持つことは重要なのである。また運良く発見できたからといって、油断してもいけない。表示はすぐに消えるものだと心得て、見つけたら真っ先に撮影して、後悔のないように味わっておく必要がある。

それは今でも悔やまれる出来事なのだが……ある日、出張先へと向かう途中で、たまたまペンキ塗りたての現場に出くわした。しかし急いでいたために「帰りに撮ろう」と思って、そのときは素通りしてしまったのである。あとはお察しの通りである。帰りに通りかかった際にはペンキ塗りたての表示はなくなって、もうペンキが乾いていた。一度タイミングを逃してしまうと、もう二度とその勇姿を見ることはできないのである。

このように、ペンキ塗り立てはとてもはかない存在であり、その出合いはまさに一期一会といえる。その日、その時、その場所でしか見られない光景がそこにはある。たまたま見つけたときには、出合えた運命をかみしめてみるのも一興である。

最初の1枚

旅行中に函館で発見したもの。この素朴な佇まいに魅了されて、ペンキ塗りたてのことが一気に好きになった

柱に直貼り

ペンキ塗りたての柱に、注意の紙を直貼りしていた。あとできれいに剥がれるのか心配になる

専用テープ

「ペンキぬりたて」と書かれた専用のテープが張り巡らされていた。こんなタイプもあるのか!

広範囲に

人通りの多い場所だったため、近づけないようガードしてあるパターン。安全度は高い

いつもネコだらけ
―ネコカフェ巡り―

第9回　猫カフェ MONTA

営業時間：11時～20時
（最終入店19時30分）
定休日：火曜日（祝日の場合は水曜日）
料金：平日10分216円、30分648円、60分1,080円／土日祝60分1,296円
住所：東京都台東区花川戸1-5-2 サテライトフジビル8F
URL：http://cafe-monta.jugem.jp
TEL：03-5830-7428

猫カフェ MONTA
浅草駅

各線の浅草駅からほど近い、おしゃれで高級感のあるネコカフェ。フードメニューも充実している。店内には純血種のネコが常時10匹ほど在籍している

写真・文●小川晃代＆湯沢祐介

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM／70mm／絞り優先AE（F2.8、1/160秒、＋1.0EV）／ISO 800／WB：オート

テーブルに乗ったお皿が気になって思わず手が出るネコ。ネコ撮影では、思わずこちらの笑みがこぼれてしまうような瞬間を見逃さない観察力が重要だ

キヤノン EOS-1D X／EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM／28mm／絞り優先AE（F2.8、1/250秒、＋1.3EV）／ISO 1000／WB：オート

ガラス張りのキャットウォークを下から撮れば、普段は見られないピタッと密着した肉球を撮ることができる。座り姿もどことなくかわいく見えるから不思議だ

キヤノン EOS-1D X／EF24-70mm F2.8L Ⅱ USM／55mm／絞り優先AE（F2.8、1/640秒、＋1.3EV）／ISO 4000／WB：オート

ソファーの上を歩いていたネコの目線を、左手に持ったネコじゃらしで画面左側に向けさせた。カメラ目線よりもこの角度の方が雰囲気に合っている

浅草駅から歩いてすぐのビルの8階にあるネコカフェ MONTA。中に入ると、外のにぎやかさを忘れてしまうほど静かで穏やかな空間が広がっている。大きな窓からたっぷりと光が注ぐ店内でくつろぐネコたちが、この雰囲気を作り出しているのだろう。ここのネコはみなオーナーが自分の目で見て迎え入れた子ばかり。長毛種も短毛種もさまざまな種類がいて、長らく撮影していても飽きることがない。インテリアにもこだわっていて、面によって壁紙を変えてある。造りのしっかりした家具とおしゃれな壁紙が一役買って、背景を変えてのバリエーション豊富な撮影が可能だ。

おすすめのスポットは店内中央のキャットタワー。歩く部分がガラスでできているので、下から仰ぐようにフレーミングするとガラスにぺったりとくっついた肉球を撮ることができる。他には、重厚感のある革張りのソファーもぜひ活用したい。ベンガルなどのスマートで鋭さがあるネコと一緒に収めると、かわいいだけではない、スタイリッシュな写真に仕上がる。ネコじゃらしも豊富にあるので、遊び好きで反応する子を狙って、視線をコントロールしたり、前足を上げたかわいいあおり写真を狙ってみたりしよう。

ネコカフェには珍しくフードメニューも充実。席に着くと1匹のネコが興味津々で近寄ってきた。テーブルの上に手を伸ばす姿が微笑ましい。スタジオのようなクールな写真が撮れる一方で、こんなアットホームな雰囲気の店内をぜひ訪れてみてほしい。

今月のニャンテク

店内のオブジェを上手く使う

ネコのかわいさだけを狙うのではなく、少し視野を広げて撮影しよう。内装や家具にこだわりのあるネコカフェでは、そこでしか撮れない作品作りを心がけたい。空間全体に意識を配り、スパイスを1つ加えるだけで、一気に印象的な作品になるのだ。

ダークブルーの壁に掛けられた、ローマ数字の巨大な時計がとても印象的だった。あえて大きくフレーミングし、ネコと時計が1：1の配置になるよう撮影した

ネコの形のオブジェとネコを一緒に撮ったらかわいいだろうと思った。ネコじゃらしで誘導して、意識をオブジェに集中させて撮影した

【今回のオススメニャンコ】

名前：
ルナ
種類：
マンチカン

マンチカンならではの超短足と大きな目が特徴の美しいネコ。昼寝から起きて立ち上がるだけで歓声が上がるほどの人気ネコだ

神奈川県

湯河原梅林（ゆがわらばいりん）

幕山の斜面を彩る梅林

湯河原温泉の幕山公園の一角に湯河原梅林がある。公園からは幕山の岩壁が望め、その直下の山裾が紅白の梅林になっている。ここの梅林はピンクのしだれ梅や真紅の紅梅が多く、とてもカラフルだ。園内のなだらかな散策路を10分ほど登って行くと、幕山の岩壁近くから梅林全体を見渡せる場所がある。梅林を広く写す場合、順光で撮ると平面的に写りやすい。この場所からの撮影では、午後になると逆光気味になり、梅林に立体感が出る。

- 神奈川県足柄下郡湯河原町
- 3月中旬
- 15時
- 広角レンズ

熱海海岸自動車道の門川出入口から国道135線に合流して、吉浜橋の信号手前を左折して、幕山公園まで約4km、約15分で到着

キヤノン
EOS 5D Mark Ⅲ／EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM／28mm／絞り優先AE（F16、1/40秒、−0.7EV）／ISO 200／WB：オート

美しき東西の風景を撮る

日本の絶景

写真・文•山梨勝弘

第9回【梅林のある風景】

撮影時期：3月

桜に先駆けて咲く梅の花。古来、大勢の文人に詠まれた梅だが、その多くの歌に梅の匂い、香りが表現されている。梅の花には視覚だけでなく嗅覚でも癒やされる。今回紹介する幕山公園の梅林と農業公園の梅林は東西を代表する規模の梅林で、ともに高台から全体を俯瞰できるのが魅力だ。

- 三重県いなべ市藤原町
- 3月下旬
- 11時30分
- 標準レンズ

名神高速道路の関ケ原ICから国道365号線を四日市市方面へ約15km。県道107号線へ左折して、その先約4.5kmでいなべ市農業公園に到着

キヤノン
EOS 5D Mark Ⅲ／EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM／50mm／絞り優先AE（F16、1/40秒、−0.3EV）／ISO 200／WB：オート

三重県

いなべ市（し）梅林公園（ばいりんこうえん）

残雪の鈴鹿山系を望む絶景梅林

いなべ市農業公園内に梅林公園がある。広大な敷地には100種類、約4,500本の梅の木があり、紅白に咲き乱れる梅のかなたに、残雪をかぶって白く連なる鈴鹿山系を眺める景色は正に絶景である。整備された梅林には休息所もあり、所々に咲く黄色いサンシュユの花がアクセントになる。公園のいたるところから鈴鹿山系を望めるが、入り口から梅林に向かって左手の高台から撮るのが一番おすすめだ。

隠れた銘品

藤井智弘の

カメラグッズ発掘調査リポート

今月のオススメのカメラグッズを紹介します

カメラグッズマスター

ヨドバシカメラ
カメラ専門チーム
マーケットイノベーター
阿部淳一

有名ではないが使ってみると便利なカメラグッズの至宝が世の中にはある。カメラグッズマスター ヨドバシカメラ新宿西口店 阿部淳一が見つけたお宝を、写真家 藤井智弘が徹底検証し、その使い勝手や有用性をリポートする。

第9回 ／ 寒さに負けないカメラグッズ編 第2弾

“極寒の地での風景撮影では必携！カメラもレンズも両手も温めてくれる”

両手を入れると本当に温かい。これなら厳冬の風景撮影に活躍するだろう。指先が自由に動くので、カメラの操作が楽だ

カメラグッズマスターがオススメする

今月の調査品

ダウンでカメラを温めて撮影できる

ベルボン

KANI AC-004 ダウン防寒カバー

PRICE

ヨドバシカメラ販売価格
7,280円（728ポイント還元）

SPEC

カラー：ブラック
材質：ポリエステル（表地）、ダウンフェザー（インナー）
外形寸法（W×H×D）：約500×180×280mm

※製品にカメラ、レンズ、三脚は付属しません

オススメポイント 1
上部が開いて換気できる
内部の温度が上がったら上部を開けて換気できる。ストロボも装着可

オススメポイント 2
両手が入って画面も見やすい
両手が入り、窓から背面が見えるので、カメラを確実に操作できる

専用ケース収納時

オススメポイント 3
レンズ鏡筒までダウンが温める
レンズ鏡筒までスッポリ覆ってしまうため、常に温かい状態で撮影できる

70-200mmレンズに対応 じっくり構える撮影向き

少しずつ春の足音が聞こえる時期になってきたとはいえ、まだまだ寒い日は続く。寒さ対策は欠かせない。防寒着を着込んだ状態で冷え切ったカメラを操作するのは大変だし、結露の恐れもある。カメラが冷えるとバッテリーの持ちも悪くなる。そこでオススメしたいアクセサリーが「KANI AC-004 ダウン防寒カバー」だ。

ダウン防寒カバーはその名のとおり、まさにカメラ用のダウン。ふかふかした感触はいかにも寒さに強そうだ。インナーにはダウンフェザーを使用し保温に優れた仕様。ダウン防寒カバーには、両手が入れられるようになっていて、手袋をする必要がなく素手でカメラが操作できるのがポイント。手がかじかまないので、快適な操作につながるのだ。さらに背面は大きな透明の窓になっており、カメラの設定がひと目で分かり、ライブビュー撮影もしやすい。上部が開くことで、ファインダーを出したりストロボを装着したり、さらに内部の換気ができるなど、使い勝手も良好だ。レンズは70-200mmクラスまで対応。ただカバーを装着したままレンズ交換は難しいので、ある程度画角を決めた撮影や、高倍率ズームレンズだと扱いやすいだろう。

カメラにも撮影者にも優しいダウン防寒カバー。しかも素材にIPX3対応の高密度ポリエステルを使用しているため、雪に降られても安心。極寒の地で風景を撮る人には注目のアクセサリーだ。

☑1 しっかりと外気を遮断 70-200mmまで対応

レンズは70-200mmクラスまで対応。先端部のひもでギュッと締めれば外気がダウン内に入るのをしっかり遮断できる。低温はもちろん北風が強い日にもありがたい

☑2 丸窓を見ながら 両手でカメラを操作

背面部は透明の窓になっていて、両手でカメラを確実に操作できる。撮影後の再生チェックも楽々。いちいちダウンからカメラを取り出す必要がなく使いやすい

☑3 上部の便利な窓は 使い方いろいろ

どちらかといえば窓からライブビューで撮影する作りだが、上部を開ければペンタ部を出してファインダーをのぞくこともできる。またストロボの装着にも便利だ

初日のランチは、長野電鉄長野駅にある信州蕎麦処しなのでかけそばをいただきました

アップル iPhone 7 Plus ／3.99mm（28mm相当）／オート（F1.8、1/1,800秒、±0EV）／ ISO 20／ WB：オート

長野市のシンボル善光寺。せっかくなので初詣も兼ねてお参り

海外からの旅行客が多いバックパッカースタイルのお宿。もともと旅館だった建物なので、お部屋や温泉も立派。なのに激安!

1万円で行く

ゆきぴゅー編 温泉ザルを見に行く1泊2日

連載開始より半年。いまだ1万円の予算で宿泊する旅に挑戦した猛者はいない。そこへ、旅のプランを考えるのが三度の飯より好きだというゆきぴゅーが手を挙げた。高速バス旅で節約に成功したものの、うっかり忘れていたのが食事代。さぁ、どうする!?

アップル iPhone 7 Plus ／3.99mm（28mm相当）／オート（F1.8、1/4秒、±0EV）／ ISO 100／ WB：オート

宿のお部屋から見た渋温泉の風景。温泉情緒たっぷり♪

湯田中駅前のコンビニで買い込んだ3食分の食材。ビールとつまみと野沢菜とお菓子は妹からの差し入れ（ありがとう～!助かりました）

ニコン D5500／AF-S DX NIKKOR 55-300mm f/4.5-5.6G ED VR ／185mm（277mm相当）／絞り優先AE（F5、1/200秒、+0.7EV）／ISO 900／ WB：オート

母ザルの背中に子ザルが乗っている姿をよく見かけます。落ちないように必死にしがみついている様子がなんとも可愛らしいのです

「プランを考えたは良いのですが、旅先での3、4食を1,000円弱で賄うような超ひもじい旅になりそうなんですが？」とメールをすると、鬼編集部からソッコーで返事。「頑張って来て下さい♥」。というわけで行って来ました、冬の地獄谷野猿公苑。池袋から乗った高速バスを長野駅で下車すると、妹が甥っ子と姪っ子を連れて応援に駆けつけてくれました。かわいそうな姉のために、野沢菜やビールの差し入れをどうもありがとう～（涙）！

妹と別れ、善光寺でお参りをし、宿に向かいます。の猿Hostelは、名湯 渋温泉にある外国人向けのバックパッカースタイルのお宿。ドミトリーを予約していたのですが、空いていたため、なんと一部屋をシングルユースできました！（でもちょっぴり海外の方とおしゃべりをしたかった気持ちも）。源泉かけ流しの温泉も貸し切り状態で堪能して、翌朝は地獄谷野猿公苑へ。宿から歩くと1時間弱かかりそうだったので、途中までは路線バスに乗車。1年ぶりに訪れた地獄谷野猿公苑は管理事務所が建て替えられて、トイレも売店もピカピカにリニューアル。Wi-Fiも導入されていました。そして相変わらずのワールドワイドな雰囲気は健在。皆さんしっかり防寒対策をして、一眼レフと望遠レンズを抱えていらっしゃいました。この日はあいにくの（？）好天だったため、おサルさんたちの頭に雪が降り積もっているような写真が狙えずちょっと残念だったのですが、湯けむりの中で幸せそうな顔を見ていたら「ここの撮影は真冬が一番良いな」と実感したのでした。

路線バスに乗るか乗らないかも死活問題だった今回の1万円旅。その都度スマホの電卓アプリを叩くという18歳みたいな貧乏旅行は、終わってみればなかなか楽しかったです。

写真旅

25分ほど雪道を歩いて地獄谷野猿公苑に到着。おサルさん専用温泉の周りは一眼レフ率高し!

ニコン D5500／AF-S DX NIKKOR 55-300mm f/4.5-5.6G ED VR／300mm（450mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/200秒、+0.3EV）／ISO 720／WB：オート

毛づくろいのシーンは、絶好のシャッターチャンス。恍惚の表情を狙ってパチリ

ニコン D5500／AF-S DX NIKKOR 55-300mm f/4.5-5.6G ED VR／70mm（105mm相当）／絞り優先AE（F4.5、1/250秒、+0.7EV）／ISO 400／WB：オート

あまりの寒さに固まる3匹の子ザルたちが大人気。さかんにスマホを向けられていました

ニコン D5500／AF-S DX NIKKOR 55-300mm f/4.5-5.6G ED VR／185mm（277mm相当）／絞り優先AE（F5.6、1/200秒、+0.7EV）／ISO 1250／WB：オート

お母さんのおっぱいを飲みながら温泉に浸かる甘えん坊の子ザル。ほのぼのするシーンです

ニコン D5500／AF-S DX NIKKOR 55-300mm f/4.5-5.6G ED VR／240mm（360mm相当）／絞り優先AE（F5.3、1/200秒、±0EV）／ISO 720／WB：オート

幸せそうな表情を見ていると、私たち人間もハッピーな気分になれます。そんな温かい場所（実際は極寒だけど）、地獄谷野猿公苑の魅力です

旅の明細

交通費	池袋駅⇔長野駅往復	3,000円（高速バス）
	長野駅→湯田中駅	1,260円（長野電鉄）
	渋和合橋停留所→スノーモンキーパーク	190円（バス）
	スノーモンキーパーク→長野駅	1,400円（バス）
宿泊代	の猿Hostel	2,200円
食費	かけそば	300円（しなのそば）
	おにぎりなど	621円（コンビニ）
その他	入湯税	150円
	地獄谷野猿公苑入苑料	800円
	お賽銭	5円
合計		9,926円

2017年度 フォトコンテスト 応募要項

2017年度のデジタルカメラマガジンフォトコンテストでは、3つの常設部門と、特集・季節に連動した企画部門を開催します。

応募期間

※応募締切・開始時間は当日昼12:00です
※GANREFでの入賞発表は各号の発売日昼12:00、事前の入賞連絡はありません

常設部門

デジタルフォト部門

2017年5月号選考　**2017年2月11日～2017年3月11日**
2017年6月号選考　**2017年3月11日～2017年4月11日**

組写真部門

2017年5月号選考　**2017年1月11日～2017年3月11日**
2017年7月号選考　**2017年3月11日～2017年5月11日**

プリント部門 ※公開審査実施中（次ページ参照）

2017年6月号選考　**2017年2月11日～2017年4月11日**

企画部門

2016年の紅葉フォトコンテスト

2017年冬選考　**2016年11月19日～2017年3月20日**

個性派写真展（お題：「逆光」）

2017年5月号選考　**2017年2月20日～2017年3月10日**

デジタルフォト部門
選考　毎号掲載
選者：ハービー・山口氏

デジタルカメラで撮影された画像データ。
カラー、モノクロは問いません。

組写真部門
選考　奇数月掲載
選者：小林紀晴氏

デジタルカメラまたは銀塩カメラで撮影された画像データ。複数枚の組写真。カラー、モノクロは問いません。

プリント部門
選考　偶数月掲載
選者：岡嶋和幸氏

デジタルカメラまたは銀塩カメラで撮影された、A3ノビサイズまでのプリント作品。カラー、モノクロ、出力機、用紙は問いません。

※GANREF応募ページまたは右ページ下部に掲載の「応募票」をプリント作品の裏面に貼り付けて郵送してください
※作品は1枚ずつ透明袋（スリーブ）に入れてください

賞金・賞品について

◎常設部門、企画部門
- 優秀賞：3万円 ● 準優秀賞：1万円
- 入選：Amazonギフト券5千円分 ● 佳作：Amazonギフト券1千円分

◎個性派写真展 ● 採用作品：Amazonギフト券1千円分

※入賞者にはGANREF経由で振込先・送信先についてのメールをお送りいたします。3カ月間振込先の返信、Amazonギフト券登録をいただけない場合、賞金・賞品をお渡しできない場合があります。賞金振込および送信は掲載号の発売日から約40日以内をめどに処理しています。

副賞について

下記の部門の優秀賞受賞者にはメーカー協賛のもと景品を贈呈します

◎デジタルフォト部門
エクストリーム CFカード16GB
エクストリーム プロ SDHCカード16GB
提供：サンディスク 株式会社
※使用機種によってどちらかを贈呈

◎組写真部門
メッセンジャーバッグS+ PIXI EVOキット

提供：マンフロット株式会社

◎プリント部門
ルフトデザイン アーバンライト ショルダーバッグL（ネイビー）
提供：ハクバ写真産業株式会社

常設部門のポイント制および年間賞

◎デジタルフォト部門／組写真部門／プリント部門

フォトコンポイントは部門ごとに集計され、各入賞者（同一の投稿ネームに限る）に加算されます（ポイント数は優秀賞＝4、準優秀賞＝3、入選＝2、佳作＝1）。各部門の年間でもっともフォトコンポイントの多い方を、年間最優秀賞として2018年3月号で発表。その後、特別ギャラリーにて作品を掲載いたします。企画部門のポイントはありません。

応募規定（共通）

- デジタルフォト部門はデジタルカメラ（スマートフォンなどのモバイル機器を含む）で撮影した写真に限ります。組写真部門とプリント部門は銀塩カメラによる作品も投稿可能です。
- 応募作品は応募者本人が撮影し、著作権を持っている写真に限ります。
- 一般に公募されている雑誌、Web、企業や団体主催のコンテストとの二重投稿や類似作品の応募はご遠慮ください。他コンテストでの落選が確定した作品、応募者本人のWebまたはSNSのMyページなどで公表した作品の投稿は可能です。
- 同一作品は1部門のみへの投稿に限ります。また、同じ号の同じ部門での入賞はひとり1賞までになります。
- 審査は選者と編集部が行います。
- 応募点数は、GANREFのシステム上の制限に沿います。
- **優秀賞の場合、誌面に大きく掲載されることになります。その際、リサイズ前の大きなデータの発送を編集部からメールにてお願いすることがあります。作品のオリジナルデータはなるべく保存しておいてください。**
- プリント部門において、プリント作品の取り扱いには十分注意しますが、万一の事故（紛失、破損など）について主催者はいっさい責任を負いません。
- プリント部門において応募された**プリント作品の返却は行っておりません。**
- **応募作品の著作権は、応募者（撮影者）に帰属します。**
- 被写体の肖像権、著作権などには十分に注意してください。応募者の責任ですべての問題を解決したうえで応募してください。
- **入賞作品について、応募者は、当社のデジタルカメラマガジン記事等出版物、ホームページ、広告、宣伝などで使用する著作権法上の権利について、国内外を問わず、非独占的に使用を当社に許諾するものとし、著作者人格権を行使しないものとします。**
- 応募規定に違反した場合は入賞を取り消すことがあります。
- 審査結果についての問い合わせにはお答えできません。
- 応募された作品は添削の対象となる場合があります。
- 掲載する際は、名前、都道府県名などの情報を掲載します。
- 誌面掲載時の名前はGANREFの表示名とは別に設定できます。ただし、年度内で投稿ネームを変更した場合は合算されません。
- 投稿ネームは、商標や特定の個人の権利を侵害しないものにしてください。
- 人（実在の人物であるか否かを問わず、マンガ、アニメ等のキャラクターを含む）の裸体（性器・アンダーヘア・女性のバストトップなど）を撮影、描写した写真や、暴力的なシーンを撮影、描写した写真は応募できません。
- **本応募要項は、デジタルカメラマガジン誌上で行われた過去のフォトコンテストすべてに適用いたします。不明な点は、GANREF（http://ganref.jp/）の「お問い合わせ」フォームからお問い合わせください。**

GANREF
応募はすべて本誌連動Webサイト「GANREF」から行います
http://ganref.jp/

応募規定違反の作品は審査の対象になりません。
応募前にしっかり確認をして、どしどしご応募ください。

2017年度フォトコンテスト プリント部門について

プリント部門　投稿の手順

プリント部門の作品の郵送締め切りは偶数月の10日（必着）となります。その日が土日祝日の場合は、その前に編集部に到着するように郵送してください。

① GANREF（http://ganref.jp/）の「コンテスト」からコンテスト名を選び、応募規定をご確認後、応募手続きを行います。GANREF登録がない場合、この作業は不要です
② 応募規定に登録されている「応募票」をダウンロードしてプリントし、必要事項を記入します。GANREFを介さない場合は下記URLから直接応募票を入手してください
③ プリントした作品の裏面に記入した応募票を貼り付け、郵送にてお送りください

郵送先

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
株式会社インプレス　デジタルカメラマガジン編集部
「フォトコンテスト応募係 プリント部門」

応募票ダウンロード

http://ganref.jp/oubo

PHOTO CONTEST DCM

フォトコンテスト 2017年度累計ポイント

ここでは、2017年度のデジタルカメラマガジン フォトコンストの各部門ごとに、作者の累計ポイントを発表します。左ページの応募要項をご参照いただき、ぜひご応募ください。

2017年度フォトコンテスト累計ポイント結果（2017年3月号）

デジタルフォト部門（3月号現在、敬称略）

順位	氏名	都道府県	今月のポイント	トータルポイント
1	舘 太加志	大阪府	4	4
2	田井伸治	大阪府	3	3
2	渡部美佐子 <Stribling>	アメリカ	3	3
4	パブ	神奈川県	2	2
4	梅田憲治	愛知県	2	2
4	えすてぃ	大阪府	2	2
4	村岡章史	広島県	2	2
4	寺嶋文哉	フランス	2	2
9	沢目和仁	埼玉県	1	1
9	荻野 豊	埼玉県	1	1
9	駒村優宇	千葉県	1	1
9	鮫島康高	千葉県	1	1
9	10max	東京都	1	1
9	小向朋恵	東京都	1	1
9	高木 嶺	東京都	1	1
9	多久善雄	東京都	1	1
9	林 繁俊	神奈川県	1	1
9	今井保一 <iman>	新潟県	1	1
9	KOSHIN+	滋賀県	1	1
9	如月 壇	京都府	1	1
9	草島敬子	大阪府	1	1
9	小野祐輝 <YUUKI>	兵庫県	1	1
9	井上幾雄	大分県	1	1

組写真部門（3月号現在、敬称略）

順位	氏名	都道府県	今月のポイント	トータルポイント
1	名倉吉康	静岡県	4	4
2	相賀望弘	岡山県	3	3
3	角田恒雄 <NEONEO>	滋賀県	2	2
3	石井大地	福岡県	2	2
5	本田勝彦	北海道	1	1
5	鈴木啓久 <KC>	神奈川県	1	1
5	吉井健一 <ken-1>	大阪府	1	1
5	中本則昭	兵庫県	1	1
5	墨桜	福岡県	1	1

フォトコンテスト プリント部門 公開審査実施中！

当日持ち込み可！ 「インプレス・フォトスクール 神保町写真教室」で選考過程を間近で！

本誌に偶数月掲載中のフォトコンテスト「プリント部門」では、公開審査を実施しています。会場は、「インプレス・フォトスクール神保町写真教室」。当日持ち込みでの応募も可能です。選考の現場を間近で見られるチャンス! 事前申込みは不要です。ぜひご参加ください。

日時：2017年6月号掲載分　2017年4月15日（土）13:30〜15:30
2017年8月号掲載分　2017年6月17日（土）13:30〜15:30
会場：株式会社インプレス 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング（23階セミナールーム）
※13:00開場。参加希望の方は神保町三井ビルディング1Fで担当者にお声がけください
参加費：無料　**選考**：岡嶋和幸氏

写真は12月号の公開審査の様子。選考はプリント部門選者の岡嶋和幸氏です

impress PHOTO SCHOOL

自分の個性を生かした写真表現ができる、おとなのための写真教室「インプレス・フォトスクール神保町写真教室」の講座内容やお申し込みの詳細はこちら

http://school.ganref.jp/

プリント部門 応募票

応募方法は左ページをご参照ください。応募票ダウンロード　http://ganref.jp/oubo

デジタルカメラマガジン・フォトコンテスト・プリント部門応募票	
応募月号（○○○○年○○月号）	
作品名	
誌面掲載時の名前	居住地域（都道府県名）
撮影地（○○県○○市まで）	作品の天地　↑
GANREF表示名	年齢　　歳
GANREF Myページの URL（GANREF外応募の場合はメールアドレスまたは電話番号を明記） http://ganref.jp/m/　　　　/portfolios	
カメラ（メーカー名・機種名）	
レンズ・フィルター（メーカー名・機種名）	
プリンター（メーカー名・機種名、またはDPE）	
用紙（メーカー名・用紙名）	
レタッチ	
作品の説明・コメント（150字程度）	

集まれ! DCM写真部 2017/3

寒い日の中にも、暖かな日が挟まるようになり、少しずつ春の足音が聞こえてきています。
今月の特集「桜の絶景写真」でひと足先に春を感じていただくとともに、
来るべき桜の季節に向けて、撮影プランを立ててもらえるとうれしいです。

お題を決めてみんなで撮る

個性派写真展

今月号のお題は

「ローアングル」

今回のお題はローアングル。いつもとちょっと違う低い視点やアングルで撮ると、写真が大きく変わります。

「スカジットのチューリップ祭り」 中村良樹（海外）

ニコン D800E ／ AF DX Fisheye-Nikkor 10.5mm f/2.8G ED ／10.5mm（16mm相当）／絞り優先AE（F11、1/250秒、－1.0EV）／ ISO 100／ WB：オート

地面すれすれのローアングルからリモート機能で撮影した写真。魚眼レンズの効果と相まって、伸びやかなチューリップの咲きっぷりが強調されています

「+。゜☆ Happy New Year ☆゜。+」

miel（愛媛県）

ニコン D5300／シグマ 10mm F2.8 EX DC FISHEYE HSM ／ 10mm（15mm相当）／絞り優先AE（F11、1/2,000秒、＋0.7EV）／ ISO 2200／ WB：オート

わずか10cmの距離から魚眼レンズでアゲハチョウを撮影した写真。羽ばたきの伸びやかさとともに、爽やかなの夏の日を感じる1枚です

「飛火野の鹿」

igu（大阪府）

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ／ EF70-200mm F4L IS USM ／200mm ／絞り優先AE（F5.6、1/2,000秒、－0.3EV）／ ISO 400／ WB：太陽光

ローポジションにすることで、玉ボケによって地面を隠して、ステージの上を鹿が歩いているように写された1枚。逆光で鹿の輪郭が浮かび上がり、幻想性が増しています

「かえる」

ichi16（新潟県）

オリンパス PEN mini E-PM2／パナソニック LUMIX G 20mm/F1.7 ASPH. ／ 20mm（40mm相当）／絞り優先AE（F4、1/1,000秒、±0EV）／ ISO 200／ WB：オート

窓ガラスにへばりついたカエルを撮影した写真。ガラスの質感が伝わってきてその場の臨場感が伝わってきます

「CIRCLE WALK」 YOKOHAMA（神奈川県）

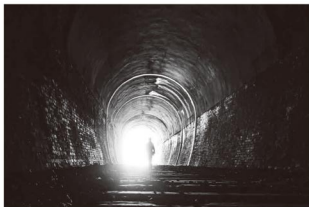
オリンパス OM-D E-M10／サムヤン 7.5mm 1:3.5 UMC Fish-eye MFT／7.5mm（15mm相当）／絞り優先AE（F11、5秒、±0EV）／ISO 160／WB：オート

特徴的な形状をした横浜の円形の歩道橋を魚眼レンズであおって撮影した写真。巨大な構造物はレンズの効果でデフォルメするとその迫力を強調できます

「一瞬に賭けた男達♪」

キリン（大阪府）

ニコン D7200／AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-6.3G ED VR／18mm（27mm相当）／絞り優先AE（F8、1/400秒、±0EV）／ISO 100／WB：晴天

飛行機を捕まえようとする少年と着陸の瞬間を捉えようとする写真家の姿がまとまった1枚。ローアングルによるパースで飛行機の迫力が増して、疾走感あふれる写真に仕上がりました

「明日への約束」 中本則昭（兵庫県）

ニコン D300S／AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED／24mm（36mm相当）／マニュアル露出（F8、2秒）／ISO 200／WB：オート

視線を下げることでトンネルの奥行きが強調されて出口から差し込む光の印象がより高まっている作品です。2秒の露光が必要な暗さだったため、人物は立ち止まって撮影しているそうです

「目覚めの時代」

seinin（埼玉県）

リコーイメージング GR DIGITAL Ⅳ／6mm（28mm相当）／マニュアル露出（F9、1/1,000秒）／ISO 80／WB：オート

視線を下げると見えてくるものの1つが映り込み。映り込み写真を反転させて見せることで、建設当時の東京駅の雰囲気を伝えたいという撮影者の意図が伝わります

「Contrail way」

藤元麻未（岡山県）

ニコン D5100／AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR／18mm（27mm相当）／絞り優先AE（F3.5、1/320秒、−0.7EV）／ISO 400／WB：オート

飛行機雲が印象的な空の下で歩く子どもに声をかけて撮影した作品。ローアングルで用水路の映り込みを生かすことで、気持ちの良い開放感が表現されています

「儚き夢の跡」

岩野保幸（福岡県）

キヤノン PowerShot S120／5.2mm（24mm相当）／プログラムAE（F8、1/200秒、−1.7EV）／ISO 100／WB：オート

散ってしまったモミジの葉にスポットを当てた1枚。小さな被写体に存在感を与えられることもローアングル撮影の魅力です。光条のアクセントによって存在感がさらに増しています

5月号のお題は「逆光」

ドラマチックな逆光は、使い方次第で写真にさまざまな表情を与えられる魅力的な光です。逆光の条件を生かして撮影した写真を募集します。

募集期間：2月20日〜3月10日

写真家の愛用カメラバッグ

日々撮影に臨む写真家にとって、大切な商売道具である撮影機材をいかに持ち運ぶかも重要だ。

thinkTANKphoto
Mirrorless Mover 10
実勢価格 5,000円前後

コンパクトにカメラを持ち出せる手のひらサイズの軽快性

気軽に写真を撮るときに持ち出すことが多いOLYMPUS AIR。その独特な筒型のカメラにピッタリなバッグがthinkTANKphotoのMirrorless Mover 10だ。名前のとおりミラーレス機に合わせたバッグでまさに手のひらサイズ。愛用のOLYMPUS AIRだとレンズを付けたボディ3台に交換レンズ1本がピッタリ収まる。サイドポケットにモバイルバッテリーも収納可能で、カメラとスマホと接続して撮影することが多い私にはありがたい。ショルダーストラップはベルトループにもなるので山歩きのときにはウエストバッグにしている。ミラーレス機や小型軽量カメラのメリットを最大限に引き出してくれるカメラバッグだ。

SPEC 外形寸法(W×H×D):約135×155×115mm
内形寸法(W×H×D):約125×135×95mm
質量:約250g(全オプション装備時)

小さいバッグだが、これだけのカメラとレンズ、オプションが収納できる。モバイルバッテリーはスマホもカメラも充電できる必須アイテム。スマホとカメラ共用のACアダプターも収納しており遠出の撮影でも不安はない

小物用収納ポケットも充実!
コンパクトにもかかわらず収納ポケットが豊富なこともお気に入り。撮影アイテム以外の小物を入れておくこともできる。私はもしものときのために電子マネーを忍ばせている。

旬のカメラグッズ

季節に応じたオススメグッズを編集部の独自セレクトでご紹介!

桜のある風景をパキッと撮りたい

- 青空や桜の色をコントロールしたい
- 水面への桜の映り込みを生かしたい
- 桜の花をぶらしたくない

透過率の高いPLフィルターに注目!

ケンコー・トキナー **Zeta Quint C-PL**
実勢価格 11,000円前後~(サイズにより異なる)
対応フィルター径:37、39、40.5、43、46、49、52、55、58、62、67、72、77、82mm

風景撮影に欠かせないPLフィルターは反射をコントロールすることで、被写体本来の色を引き出せるアイテム。桜の撮影においても、空の青を濃くすることで桜の存在感を際立たせたり、桜本来の色を引き出せる。桜の撮影の天敵は風による被写体ブレ。PLフィルターは減光効果があるので、シャッター速度が落ちてしまう弊害があるが、本製品は透過率が高いことが特徴だ

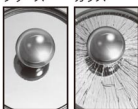
オススメポイント

① 従来より約1.0EV明るい透過光量
露出倍数は約1.7~2.2倍と、従来のC-PLフィルターよりも約1.0EV明るく、シャッター速度を一段分上げられるので、風がある状態でも感度を上げずに桜を止めて写しやすい。一眼レフ機ならファインダーが見やすくなる効果もある

Zeta Quint C-PL　Zeta ワイドバンド C-PL

② 強化ガラスの採用でレンズを保護
通常のガラスより約3倍の強度を誇るガラスが使用され割れにくいため、アクシデントの際にレンズを保護する効果が高い。割れても破片が粒子状になるためけがを防げる

Zeta Quint シリーズ

通常のガラス

③ 手入れしやすい防汚コート
ガラス面にコーティングを施し、水滴や指紋が付きにくい。汚れが付いてしまった場合もさっと拭き取ることができるので、手入れをしやすい

応募要項

お便り
誌面への感想、カメラ、レンズに関する疑問・質問・意見、最近のカメラ生活近況など、みなさんからのお便りを募集します。

写真
「個性派写真展」では、毎号お題を決めて写真を募集します。今回は「逆光」をテーマにした写真を大募集。応募締め切りは3月10日で、掲載は5月号です。どしどし投稿ください。
写真を掲載した方には…Amazonギフト券1,000円分

応募方法
E-mailの場合▶digitalcamera@impress.co.jp
※Subject(タイトル)は「DCM写真部 ○○○」
・あて先には必ず「個性派写真展」か「お便り」と入れてください
・すべての投稿には、住所・郵便番号・氏名を書いてください
・ペンネームがある場合はわかりやすく書いてください
インターネットからの場合▶ GANREF ガンレフ
投稿ページ…http://ganref.jp/photo_contests

デジタルカメラマガジンからのおしらせ
- 賞金、Amazonギフト券、読者プレゼントの発送時期
PHOTO CONTESTや個性派写真展の賞金、およびAmazonギフト券、読者プレゼントなどの発送は掲載号の発売日から約40日後をめどに処理させていただいております。
- 編集部のTwitterアカウント
@digicame_magをレッツフォロー!
- 撮影こぼれ話も掲載中!
本誌の最新情報が分かるWebページ
http://ganref.jp/dcm/をチェック!

デジタルカメラマガジン2017年1月号
DIGITAL CAMERA MAGAZINE PRESENT 当選者発表

1. マンフロット「ナショナルジオグラフィック NG AU 2450 中型メッセンジャーバッグ」 朝霧圭太(兵庫県)
2. ラムダ「フリースレインボー四季」 尾張智一(北海道)/桑原敬至(茨城県)
3. クロスフォレスト「Canon 5D Mark Ⅳ/5D Mark Ⅲ/5Ds/5Ds R用ガラスフィルム」 荒川恭子(宮城県)/益田貴子(埼玉県)/田村英男(神奈川県)
4. ブラックピクセル「CustomSLR 伸縮スリムストラップ」 田中克明(北海道)
5. 2017年オリンパス/WWFカレンダー「Galapagos Islands/絶海に生きる―ガラパゴス諸島」 牧野亜希子(山形県)/三枝裕太(三重県)/田中義行(熊本県)
6. Cokin「クリエイティブフィルターシステム エキスパートキット(Pシリーズ)」 佐藤洋一(青森県)
7. サンディスク「エクストリーム SDHC UHS-Iカード 16GB」 田中眞博(大阪府)/生島宏行(奈良県)
8. レキサー「Professional 2000x SDHC UHS-Ⅱ 32GB」 関口敬文(東京都)

今売れているカメラや交換レンズはこれだ！

売れ筋カメラ・レンズ通信

今人気のカメラやレンズは何だろう？ 毎月ヨドバシカメラとフジヤカメラに突撃取材を敢行！ 気になる売れ筋情報をランキング形式で紹介する。現在人気の製品がひとめで分かるので、カメラやレンズを購入する際の参考にしていただきたい。

文●編集部

ヨドバシカメラ

取材協力：新宿西口本店 カメラ総合館 東京都西新宿1-16-13桑原ビル1F
担当：阿部淳一さん

新製品 カメラランキング

E-M1 Mark Ⅱ強し！ 一眼レフユーザーに人気のミラーレス機

順位	動向	製品	価格
1	STAY	オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱ	234,540円
2	STAY	キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ	405,360円
3	UP	ニコン D5500 ダブルズームキット	90,410円
4	UP	ニコン D500	247,640円
5	UP	ニコン D500 16-80 VR レンズキット	314,670円
6	UP	キヤノン EOS M5 EF-M18-150 IS STM レンズキット	147,360円
7	DOWN	ソニー α6500	160,240円
8	DOWN	キヤノン EOS 80D EF-S18-135 IS USM レンズキット	179,420円
9	UP	ニコン D810	269,270円
10	UP	キヤノン EOS Kiss X8i ダブルズームキット	84,310円

OM-D E-M1 Mark Ⅱが2連覇を達成。動体撮影が苦手とされていたミラーレスのイメージを払拭する連写性能の強化などが支持されている。「品薄の状態が続いていて、特に望遠好きのキヤノンやニコンの一眼レフユーザーにも軽量さを求めて買われています。40-150mm F2.8 PROやバッテリーグリップなどと一緒によく出ていますね」。同様に好調のEOS 5D Mark Ⅳは多少の価格変動があり、安いタイミングを見計らって買い替えが進んでいるそうだ。「ニコン D500はキャッシュバックが底上げしています。α6500やEOS 80Dなど動画に強い機種も手堅いですね」

新製品 レンズランキング

キャッシュバック効果が功を奏してニッコールが好調

順位	動向	製品	価格
1	STAY	ニコン AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR	269,450円
2	UP	オリンパス M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO	150,310円
3	DOWN	ニコン AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR	300,000円
4	DOWN	ニコン AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR	161,130円
5	UP	キヤノン EF24-105mm F4L IS Ⅱ USM	149,130円

先月と同様、主力のニッコールレンズが順当に上位を獲得。「レンズでもキャッシュバックの時期を利用して新型に買い替えているようです。70-200mm f/2.8Eは対象外ですが、軽量化や画質が支持されています」。オリンパスの12-100mmもランクアップ。「OM-D E-M1 Mark Ⅱとの相乗効果で伸びています。標準ズームの12-40mmからの買い替えるケースもあるようです」。EF24-105mm Ⅱ型は現在も品薄状態が続いており、少なからずランキングに影響しているようだ

フジヤカメラ

取材協力：フジヤカメラ 東京都中野区中野5-61-1
担当：北原弘明さん

中古製品 カメラランキング

新品のD750が品薄により中古が好調に

順位	動向	製品	価格
1	UP	キヤノン EOS 7D	49,680円
2	UP	キヤノン EOS 5D Mark Ⅱ	88,560円
3	UP	オリンパス OM-D E-M1	45,360円
4	STAY	富士フイルム X-T1	61,560円
5	DOWN	キヤノン EOS 5D Mark Ⅲ	194,400円
6	UP	ニコン D750	142,560円
7	UP	キヤノン EOS 7D Mark Ⅱ	110,160円
8	DOWN	キヤノン EOS M3	31,320円
9	STAY	ニコン D810	213,840円
10	STAY	ニコン D7200	73,440円

※フジヤカメラはボディのみの販売です

5Dシリーズや7DシリーズといったEOSの売れ筋モデルが上位をキープ。5DシリーズはMark Ⅳの登場で堅調にMark Ⅱ、Ⅲが人気となっている。「全般的に一眼レフが強い状況で、特にD750は新品が一時品薄になったことで中古が買われたようです」。D810も十分な性能を備えながら相対的に割安感があり、よく売れている。一方、ミラーレスも常連になりつつある3台がランクイン。「E-M1はMark Ⅱ、X-T1はX-T2、EOS M3はM5への買い替えで需給バランスが良いです。特にE-M1は12-40mmとセットで買っても10万円を切りますからお買い得ですね」

中古製品 レンズランキング

AF-S NIKKOR 70-200mm Ⅱ型がついにランクイン

順位	動向	製品	価格
1	STAY	キヤノン EF24-105mm F4L IS USM	51,840円
2	UP	富士フイルム XF18-55mm F2.8-4 R LM OIS	34,560円
3	DOWN	オリンパス M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO	51,840円
4	UP	ニコン AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR Ⅱ	151,200円
5	UP	オリンパス ZUIKO DIGITAL ED 50-200mm F2.8-3.5 SWD	44,280円

ここ数カ月若干値上がり傾向があったEF24-105mmが少し値下がりしたことも手伝ってがっちり首位をキープ。世の中にある圧倒的な本数の多さが強さの秘密だ。「今月のトピックはAF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8Gでしょう。新型の登場で買い替えが進んでいますが、もともと画質への評価が高いレンズでしたので、中古でも人気がありますね」。12-40mmは新製品の12-100mmに買い替えるユーザーもいるようで、大三元相当の標準ズームが5万円を切り、お買い得となっている

ヨドバシカメラ 今月の注目はこれ！

ファンの悲願達成！ フィルムカメラとほぼ同じ厚さに

ライカ M10
販売価格
918,000円前後
（45,900ポイント還元）

フィルム時代からのライカユーザーの悲願がついに達成されたのではないでしょうか。ボディ内部の構造を見直して、フィルムカメラとほぼ同じ厚さを実現しています。ISO感度も50000まで高まった他、背面の操作系もシンプルな構成になり、デザインがより洗練されました。 個人的にはぜひ「M10-P」も出していただきたいです

イメージセンサー：35mm判フルサイズ、約2,400万画素／ISO感度：100〜50000／記録メディア：SD、SDHC、SDXC／ファインダー：大型ブライトフレームファインダー、パララックス自動補正機能／背面液晶モニター：3型TFT、約103万ドット／外形寸法（W×H×D）：約139×80×38.5mm／質量：約660g（バッテリー含む）

ヨドバシカメラ
新宿西口本店
カメラ専門チーム
マーケットイノベーター
阿部淳一さん

フジヤカメラ 今月の注目はこれ！

F2シリーズらしい柔らかい開放絞りの描写に期待です

富士フイルム
XF50mmF2 R WR
販売価格（新品） 48,120円

35mm、23mmに続く第3弾となるF2シリーズが登場します。シリーズに共通する開放絞りの柔らかい描写に期待が膨らみます。35mm判換算75mm相当の中望遠域とこの柔らかい描写を生かし、明るめの露出で春先に花を撮るような使い方も良いのではないでしょうか。持ち運びがしやすい小型の鏡筒も好印象です

レンズ構成：7群9枚（ED非球面レンズ1枚）／絞り羽根枚数：9枚（円形）／最小絞り：F16／最短撮影距離：0.39m／最大撮影倍率：0.15倍／フィルター径：φ46mm／外形寸法（最大径×全長）：約φ60×59.4mm／質量：約200g

フジヤカメラ
営業部
販売課 課長
北原弘明さん

掲載している販売価格は1月末現在の価格（税込）です。店頭販売価格は変動するため、掲載価格と実際の販売価格は違う場合があります。フジヤカメラの中古カメラ・レンズはすべてA（最高）ランクの販売価格です。

写真展最新情報 INFORMATION

メーカーギャラリー

（2月20日〜3月19日）

地域	ギャラリー	展示（日程順）
札幌	キヤノンギャラリー http://canon.jp/	キッチン ミノル「メオトパンドラ」 / フォトコン 2016年度月例コンテスト入賞作品選抜展 / 2016年アサヒカメラ賞受賞作品展 ～3/28
札幌	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/	今泉 潤「キタキツネの大地」 / 川隅 功「雨・霧・雪 の情景」ー車から降りてすぐ撮れる旬瞬景ー / 堀田 清と植物大好きな仲間たちの写真展「植物エネルギー 2017」 / 吉川優子「Solitude ～ひとりぼっちの白馬の物語～」 / さっぽろ緑と花のフォトコンテスト ～3/22
仙台	キヤノンギャラリー http://canon.jp/	横木安良夫・鶴巻育子 / 2016年アサヒカメラ賞受賞作品展 / 第50回キヤノンフォトコンテスト入賞作品展 ～3/21
仙台	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/	奈良 美弥子 / 第12回 美しい風景写真 100人展【No.1～50 春夏編】 / 第12回 美しい風景写真 100人展【No.51～100 秋冬編】 / 【写真家たちの新しい物語】山形 豪「Go Wild！」～南部アフリカ　動物たちの最驚楽園～ ～3/21
銀座	キヤノンギャラリー http://canon.jp/	フォトコン 月例コンテスト入賞作品選抜展 / 栗田哲男「虫草 -チベット・極限の標高5000m地帯で冬虫夏草を採る人々-」 / 熊切圭介「三都物語り -ウィーン・プラハ・ブタペストの鉄-」 / 米 美知子「桜（はな）もよう」 / 横山将勝「CROSSINGS」 ～3/22
銀座	ソニーイメージングギャラリー 銀座 http://www.sony.co.jp/	ミゾタユキ「ウズいろ ～ウズベキスタン街歩き」 / ◯展 六大学合同写真展 / 東京工芸大学 “写真学科スペシャル” アワード2017 作品展 / 悠佑「一車真一　今を生きる車たち」 ～3/23
銀座	ニコンサロン http://www.nikon-image.com/	有野永霧「日本人景 ビニール」 / 上瀧由布子「糸遊」 / 千田貴子「草のゆりかご」 ～3/28
銀座	リコーイメージングスクエア銀座 http://www.ricoh-imaging.co.jp/	榎本敏雄、織作峰子、志鎌 猛、テラウチマサト「桜・モノクロームで愛でる」 ～3/26
銀座	富士フォトギャラリー銀座 http://www.prolab-create.jp/	伊加田康隆／菊池哲男と仲間たち / 第4回 元気な写真店 写真展 / 第4回 渋がき塾 写真展「私のお気に入り 2017」／三菱商事（株）写真同好会 2016年度展 / 篠原雅彦「日本人の見たRostock」／和佐 昭「ヒマラヤに魅せられて」／清水久美子「MASHALLAH」 / 小山光弘／ニッコールクラブ ～3/23
新宿	エプソンイメージングギャラリー エプサイト http://www.epson.jp/	エプソンプリンター×東京カメラ部 写真展 in epSITE / ILFORD Masters Photo Exhibition vol.2 ～3/23
新宿	オリンパスギャラリー http://www.olympus.co.jp/	日本写真芸術専門学校 / なぎら健壱「すれ違う日常」 / 松本伸夫「野良猫たちの朝 ～都会暮らしと公園暮らし～」 / 東日本震災復興支援「#空でつながる Dearest Fukushima vol.5」 / 山岸 伸「瞬間の顔 vol.9」 ～3/22
新宿	ニコンサロン http://www.nikon-image.com/	写真学校8校による卒業制作展2017 vol. 1 / 写真学校8校による卒業制作展2017 vol. 2 / 赤木 遥「love letter」 ～3/20
新宿	ニコンサロン bis http://www.nikon-image.com/	写真学校8校による卒業制作展2017 vol. 1 / 写真学校8校による卒業制作展2017 vol. 2 / 大元一洋「げんきっ子、かしまっ子の肖像」 / 福岡育代「Happiness ～観音様の掌～」 ～3/20
新宿	リコーイメージングスクエア新宿 ギャラリーⅠ http://www.ricoh-imaging.co.jp/	井村 慈「YAKUSHIMA ～ INTO THE WOODS ～」 / 中村邦夫「津軽1984-1988」 / 吉村和敏「MORNING LIGHT」 ～3/27
新宿	リコーイメージングスクエア新宿 ギャラリーⅡ	縄倉瑠璃子「Calle 15」 / 川崎彰典・飯野佳代子「フォト俳句二人展～秩父路・詩的世界～」 / 吉村和敏「MORNING LIGHT」 ～3/27
品川	キヤノンSタワー　キヤノンギャラリー S http://canon.jp/	鋤田正義「SUKITA/M Blows up David Bowie & Iggy Pop」 / 奈良原一高「華麗なる闇　漆黒の時間」 ～4/24
六本木	フジフイルムスクエア スペース1 http://www.fujifilm.co.jp/	富士フイルム 企画写真展「X Photography ーフィルムからのデジタルー」 / 佐藤 尚「47 ぼくのより道 ～ガイドブックにないニッポン探訪」 / 第68回中日写真展・東京展 / 第56回 富士フイルムフォトコンテスト入賞作品発表展 ～3/22
六本木	フジフイルムスクエア スペース2	富士フイルム 企画写真展「X Photography ーフィルムからのデジタルー」 / 五十川 満「世界一美しい猫たち」 / 第56回 富士フイルムフォトコンテスト入賞作品発表展 ～3/22
半蔵門	JCIIフォトサロン http://www.jcii-cameramuseum.jp/photosalon/	―古写真に見る明治の東京―「南葛飾郡編」 / 吉岡専造「眼と感情」 ～3/26
名古屋	キヤノンギャラリー http://canon.jp/	名古屋ビジュアルアーツ / 蓮井幹生 2017年キヤノンカレンダー作家展「富士の息づかい」 / 2016 第40回 鉄道ファン・キヤノンフォトコンテスト入賞・佳作作品展 ～3/22
名古屋	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/	「昴」&「宙」合同写真展 / 林 惣一「こころ葉」～水の旅～ / はなみづ季名古屋写真展「季にかんじて」 / 2016 富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品発表展 / New Horizon 2017「新しき地平」 ～3/23
大阪	オリンパスギャラリー http://www.olympus.co.jp/	小竹直人「国境鉄路」 / 川上譲治「釜ヶ崎劇場 2011ー2015【吾亦紅ありたい】」 / 第28回フォトクラブ大峰「渓峰静謐Ⅳ」ー世界遺産 大峰・台高の四季ー / なぎら健壱「すれ違う日常」 ～3/23
大阪	キヤノンギャラリー http://canon.jp/	日本レース写真家協会「COMPETITION」 / 中嶋 宏「昭和残像（大阪下町寸景）」 / 「カメラをもって逢いにいく」横木安良夫「Dance on the Shore」・鶴巻育子「Stories Everywhere」 / キッチン ミノル「メオトパンドラ」 / キヤノンフォトクラブ梅田／それぞれの出会い ～3/22
大阪	ニコンサロン http://www.nikon-image.com/	ニッコールフォトコンテスト 第1部 第2部 / ビジュアルアーツ専門学校・大阪 写真学科 選抜作品展 Visual Arts Showcase 2017 / juna21 但馬園子「その日の午後」 / 2016 日本カメラフォトコンテスト展 / juna21 久野梨沙「SURFACE」 ～3/22
大阪	ニコンサロン bis http://www.nikon-image.com/	ニッコールフォトコンテスト 第3部 第4部 / 高等学校文化連盟全国写真専門部 日韓中 高校生フォトコンテスト写真展 / juna21 青木秀平「彩の国」 / 田渕善信「元町高架下」 / juna21 田巻 海「null」 ～3/22
大阪	富士フイルムフォトサロン スペース1 http://www.fujifilm.co.jp/	日本リンホフクラブ / 2016年 毎日写真コンテスト優秀作品展 / 山田耕治「美しきさぬき」 / 富士フイルムフォトサロン大阪企画展 野口 健×藤巻亮太「100万歩写真展」 ～3/22
大阪	富士フイルムフォトサロン スペース2	名取洋之助写真賞受賞作品展 / 第43回 日本報道写真連盟関西本部展 / 三島クラブⅢ 第十回写真展 / 富士フイルムフォトサロン大阪企画展 野口 健×藤巻亮太「100万歩写真展」 ～3/22
福岡	キヤノンギャラリー http://canon.jp/	南 しずか「MINAMI + Carnival 2016」 / 日本レース写真家協会「COMPETITION」 / 蓮井幹生「富士の息づかい」 ～3/28
福岡	富士フイルムフォトサロン http://www.fujifilm.co.jp/	富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品 / 第2回　写人（シャトゥ）クワトロ　写真展 / 今泉 潤「キタキツネの大地」 / 樋口一男「水彩譜」 ～3/22

ピックアップギャラリー

（2月20日〜3月19日）

地域	ギャラリー	展示
東京	Alt_Medium http://altmedium.jp/	内藤 明「echo」
東京	Art Gallery M84 http://artgallery-m84.com/	エリオット・アーウィット「ウィット&ユーモア」 ～4/15
東京	ヒルトピア アートスクエア http://hilartsq.com/	井上冬彦「Symphony of Savanna」

米 美知子写真展
「桜（はな）もよう」

GALLERY

キヤノンギャラリー銀座／3月9日～3月15日

風景写真家・米 美知子が贈る世界に誇れる美しい桜の情景を伝える写真展。桜は日本人にとって特別な存在。これほど開花が待たれ、喜ばれる花は他にはない。辛いことや悲しいことがあっても、美しい桜を見上げると心が落ち着き安らぐものだ。清楚な山桜、人の暮らしに寄り添う桜やご先祖様を守る桜、道路や公園の桜、そして人知れず咲く桜。春の訪れを共有する気持ちが何ともうれしくなる、そんな桜の情景写真を楽しめる。

©米 美知子

吉村和敏写真展
「MORNING LIGHT」

GALLERY

リコーイメージングスクエア新宿／3月15日～3月27日

国内、海外と精力的に旅をして多くの作品を撮ってきた吉村和敏の写真展。今回のテーマは「世界の朝」。吉村が第二の故郷だというカナダをはじめとした世界26カ国で撮影された、美しい朝の光景や人々の暮らしを捉えたカラー作品約60点で構成される。「BLUE MOMENT」「MAGIC HOUR」に続く3部作の完結編となり、同タイトルの写真集『MORNING LIGHT』（小学館）も3月に出版される予定。

©吉村和敏

風景写真家・佐藤 尚写真展
「47 ぼくのより道 ～ガイドブックにないニッポン探訪」

GALLERY

フジフイルムスクエア／3月3日～3月9日

風景写真家として日本各地の名所を巡り作品を撮影してきた佐藤 尚は、そのかたわらで名もなき町や村にも「より道」をしてきた。誰もがほっとひと息つける、何気ないけれど愛おしい光景。絶景とは少し違う、幸せを感じる景色を集めた写真が展示される。期間中は毎日15時からギャラリートークも開催される。写真集『47 サトタビ』（風景写真出版）も3月に出版される予定。

©佐藤 尚

内藤 明写真展
「echo」

GALLERY

Alt_Medium ／3月2日～3月14日

内藤 明は化学反応や光学的な原理に基づいて生成される銀塩写真の即物的なあり方に探究心を持ち、制作を続けてきた。「飛来していた光の粒が銀の粒子になる時、あの時以上に神経を沸き立たせる調べ」内藤の写真に焼き付いた深い闇とまぶしい光は、印画紙上の銀の粒子が、見る物に束の間の幻視を見せているようでもある。“ある瞬間”の忘却に抵抗するかのように存在する写真というものの存在を考えさせられる写真展。

shirahama©naito

エリオット・アーウィット写真展
「ウィット ＆ ユーモア」

GALLERY

Art Gallery M84／3月6日～4月15日

エリオット・アーウィットの作品はウィットとユーモアに富んだ人間味あふれるものばかり。ジャーナリスティックなエッセイから広告写真まで、作品の使途はさまざまだが、いずれの写真もアーウィット自身が見たそのままが写し出されている。アーウィットの代名詞ともいえる「犬」の作品を中心に、約30点のオリジナルプリント作品を展示。見て、感じて、楽しめる写真展だ。いずれもアーウィットのサイン入り。

New York City, 1946.
©Elliott Erwitt/Magnum Photos

井上冬彦写真展
Symphony of Savanna

GALLERY

ヒルトピア アートスクエア／2月22日～3月27日

医師と自然写真家という2つの顔を持つ井上冬彦。サバンナに通い続けて30年の集大成となる写真展が開催される。井上は、動物の生態ではなく、循環と調和、母の無償の愛、生命の本質という3つをテーマに撮り続けてきた。「いのちの意味」と「家族の愛」。その本質はどこにあるのかを問い続けながら撮影してきた作品群約70点が展示される。同名の写真集『Symphony of Savanna』（新日本出版社）も発売中。

TRYADHVAN

BOOK

古賀絵里子／赤々舎（6,480円）

「TRYADHVAN」（トリャドヴァン）は、サンスクリット語で三世（過去世、現在世、未来世）を意味する仏教用語。新たな命を授かった古賀は、体内にもう1つの鼓動を抱え、変わりゆく体に不穏なものを感じながら、自身の存在とその源となる命について問いかけた。古い家族アルバムを紐解き、時間の中を行き来しながら、自身の内側に無限に続く三世の時間を旅した古賀が、突き上げるような衝動の中で捉えた作品が全ページ袋綴じ、和綴じの装丁にまとめられている。

海のミュージアム

BOOK

ルイス・ブラックウェル（著）・千葉啓恵（訳）／創元社（3,024円）

地球の大部分を構成する海。そこには、魅惑的な生き物たちの営みによって作り上げられた40億年の軌跡がある。海にまつわる科学エッセイに、世界の第一線で活躍する海洋写真家による写真105点が彩りをそえるビジュアルブック。地球と海の始まりから生命の誕生、豊かな生物多様性と種間の相互関係、未踏の地・深海、人類の資源としての海や創作の中に見る主題としての海、環境保護の未来まで、壮大なストーリーと美しい写真の融合で語られる。

日本坂道学会会長
山野 勝と巡る

文•山野 勝 写真•郡川正次

江戸ゆるり坂道散歩

第21回
虎ノ門・麻布台
(港区)

東京都心部は意外に坂が多い。今も昔もそこには同じ坂があり、人々の営みが脈々と受け継がれている。坂の名の由来や歴史に触れながら、カメラ片手にぶらぶら散歩。江戸の風情を感じながらのスナップもまた一興。

かつて市街を一望できた急坂に漂う江戸情緒
江戸見坂(えどみざか)

東京メトロ銀座線・南北線の溜池山王駅7番出口を出ると、正面が首相官邸、右手が外堀通りになる。江戸時代には、外堀通りを含むこの一帯には広大な溜池 用語解説 が広がっていた。外堀通りを横断して直進、さらに六本木通りを横断して、ベルリッツのあるビルを左折すると、右前方にアメリカ大使館がある。ここを緩やかに上るのが榎坂(えのきざか)だ。先の溜池が完成したとき、坂に沿った堰堤(えんてい)に記念の榎が植えられたのが坂名の由来だ。

坂上は変形十字路で、右折すると霊南坂の急な上り、直進すると汐見坂(しおみざか)の緩やかな下りになる。霊南坂の名は、嶺南和尚(れいなんおしょう)によって開創された嶺南庵(後の東禅寺。1610年に高輪に移転)がこの坂脇にあったことに因み、いつしか「霊」の字に変わった。霊南坂は江戸を代表する坂として有名だった。

❺一息では上れないほどの急坂が続く江戸見坂。昭和の初めごろまでは東京の街が見渡せたというが、現在はビルが建ち並ぶ

❶榎坂、汐見坂、霊南坂が交わる差路。3つの坂に囲まれたホテルオークラが改装中だ

❹日本消防会館のエントランスに設置された義士洗足のモニュメント。先に自首した2名と、後に合流した44名、計46名分が揃っているのを数えて確認した

汐見坂を下っていこう。江戸中期まで、ここから江戸湾が眺望できたという。途中、1本目を左折すると日本消防会館があり、江戸時代、この辺りに大目付・仙石伯耆守(ほうきのかみ)の屋敷があった。赤穂浪士 用語解説 が 仙石邸に出頭したとき足を洗ったという「義士洗足の井戸」が再現されている。井戸を左手に見て外に出て右折し、次を右折して進むと江戸見坂の急な上りになる。坂上から江戸市街が見渡せたという。湾曲する姿に江戸の情緒が漂っている。

再開発が進むもいまだ緑が味わい深い
道源寺坂(どうげんじざか)

江戸見坂を上り、霊南坂との合流点(十字路)を左折していく。この通りは江戸時代、名主・黒沢市兵衛の名から麻布市兵衛町と呼ばれていた。しばらく進み、1本目(フォーマット・ホームズの角)を右折すると、三谷坂(さんやざか)の短い下り。昔、この辺りを今井三谷町と呼んだのが坂名の由来。坂を下り、突き当たり(サントリーホール裏側)を右折していく。道は二度ほど屈曲し六本木通りに出る。坂下部分を桜坂という。明治中期に造られた道筋だが、坂下に桜の大木があったという。今は改変された坂上部分も桜並木になっていて、春には花のトンネルを作る。

六本木通りを左折していく。アークヒルズの先の左側(南西)には2本の道が並行して走っている。手前の道がスペイン坂(スペイン大使館まで上る)で、その先が道源寺坂だ。六本木一丁目駅を右手に見ながら、道源寺坂を上っていこう。左手の西光寺の石塀にからまるツタの緑が美しい。坂上に道源寺がある。

坂上でスペイン坂と合流するが、ここを直進し、大通りを右折して次を右折すると御組坂(おくみざか)の下りになる。江戸時代、この

⓫戦火で焼失した偏奇館の跡碑。地上45階建て「泉ガーデンタワー」の裏にひっそりと佇む

❼明治時代に造られた桜坂。新坂には珍しい滑らかな曲線を見せる

用語解説

□ 溜池
瓢箪型をした溜池は、慶長11年(1606年)、当時の和歌山藩主だった浅野幸長によって赤坂川をせき止めて造られた。外堀兼用の上水源で、約50年間、武士や町人たちの飲料水として利用された。明治43年(1910年)に埋め立てられた

❾道源寺坂。永井荷風の句「木魚ひゞく寺の小径や梅の花」は坂上の道源寺に立って詠まれた。道源寺の塀にツタが絡まり、風情ある趣を呈している

一帯に御先手組という幕府の陸軍先鋒隊の組屋敷があったが、略して御組といったのが坂名の由来。この辺りは再開発で地形が一変。かつては深い谷になっていたが、その姿は失われた。坂下の右前方に偏奇館 用語解説 の説明板がある。

汐見坂

三谷坂

スペイン坂

御組坂

行合坂

落合坂

三年坂

雁木坂

西久保八幡神社

2代将軍秀忠の正室が柩に入れられ運ばれた
我善坊谷坂

御組坂の坂上を右折し、次を右折すると首都高速の通りに出る。ここを左折すると行合坂の急な下りになる。坂下を左折すると落合坂に入る。2つの坂とも、往来する人が行き合ったり、落ち合ったりすることからの命名といわれる。落合坂の通りは、御先手組与力同心の大縄地の中を走っている。この低地は里俗に我善坊谷 用語解説 と呼ばれた。

しばらく歩き、十字路で左折すると我善坊谷坂へ、右折すると三年坂へと続く。まず、我善坊谷坂へ向かう。左手に深い崖があり、古木が坂に緑の陰影を投げている光景には魅了される。次に三年坂へと歩を進めよう。坂名は「この坂で転ぶと3年以内に死ぬ」という迷信からきている。寺に隣接する急坂によく付けられた。坂上を進み、1本目を左折すると雁木坂の下りになる。雁木とは、雁の行列のようにぎざぎざの形をしたものをいい、階段の敷石が雁木型に組まれていたのが坂名の由来という。

雁木坂の坂上をさらに進むと、外苑東通りに出る。前方にロシア大使館があるが、ここを左折すると榎坂の下りになる。古街道に榎が植えられていた。坂下の飯倉の信号で左折し、桜田通りを進むと、左手に西久保八幡神社がある。正面の急坂が西久保八幡男坂、左の緩やかなのが女だ。さらに進むと神谷町駅に着く。

⓮坂下から木造家屋と堅牢なマンション群の対比が迫ってくる我善坊谷坂。急勾配を上っていくと緑深い閑雅な風景が待つ

□ 赤穂浪士
元禄15年（1702年）12月5日朝、本懐を遂げた赤穂浪士が泉岳寺に向かう途中、吉田忠左衛門と冨森助右衛門の2人が先発組として仙石邸に自首。後に寺坂吉右衛門を除く44人も合流し、深夜に四大名家への配流が決まって護送された

□ 偏奇館跡
偏奇館は小説家・永井荷風が住んでいた住宅で、ペンキ塗りの洋館だったのでこう呼ぶ。大正9年（1920年）に建てられ、昭和20年（1945年）に焼失した。元は高台にあった。荷風はここで名作『濹東綺譚（ぼくとうきたん）』を書いた

□ 我善坊谷
寛永3年（1626年）、2代将軍秀忠の正室・お江与の葬儀が増上寺で行われ、柩（ひつぎ）を火葬地の六本木に運ぶとき、この谷に仮堂が設けられた。その仮堂を龕前堂（がんぜんどう）といったのが転じて我善坊となり、谷地の地名になった

山野 勝（やまの まさる）：1943年広島県生まれ。坂道研究家。早稲田大学政経学部新聞学科卒。講談社常務取締役の時に、『タモリのTOKYO坂道美学入門』の企画プロデュースを行う。その後、講談社コミッククリエイト代表取締役社長を経て現在はフリーとなり、朝日カルチャーセンター、NHK文化センターなどの「坂道講座」の講師を務める。日本坂道学会会長（副会長はタモリ氏）。著書に、『江戸と東京の坂』『古地図で歩く江戸と東京の坂』など

2017.3 Digital Camera Magazine PRESENT

01 ルフトデザイン
アーバンライト ショルダーバッグL

特殊素材で水や汚れに強い! 使わないときは小さく折りたためて 負担の少ない軽量カメラバッグ

カラー：ブラック／素材：ポリカーボネート コーティングナイロン／付属品：ショルダーパッド／内形寸法(W×H×D)：約320×180×120mm／外形寸法(W×H×D)：約360×360×160mm／質量：約430g

提供：ハクバ写真産業株式会社
http://www.hakubaphoto.jp/

▶ 製品の詳細はP.166をチェック!

1名様

02 ベルボン
KANI AC-004 ダウン防寒カバー

高密度ポリエステルとダウンで 保温に優れ悪天候にも対応 持ち運び収納ケース付き

素材：ポリエステル(表地)、ダウンフェザー(インナー)／外形寸法(W×H×D)：約500×180×280mm

提供：ベルボン株式会社
http://www.velbon.com/jp/

▶ 製品の詳細は P.177をチェック!

1名様

※製品にカメラ・レンズ・三脚は含まれません

03 フォースメディア
世界巡業

旅行や出張に便利! USBポートとコンセントが付いた 持ち運べるモバイルバッテリー

カラー：白、黒各1色／対応機種：USB充電に対応した機器／充電時間：約3.5時間／内蔵バッテリー容量：2,600mAh/9.62Wh／コネクター形状：USBタイプA メス×2ポート、コンセント×2口／外形寸法(W×H×D)：約150×43×29mm／質量：約150g

提供：株式会社フォースメディア
http://www.j-force.net/

※カラーは編集部で決めさせていただきます

2名様

04 クロスフォレスト
Nikon D500/D610/D600用 ガラスフィルム

カッターでも傷付かず 指紋が付きにくい 機種専用ガラスフィルム

厚さ：約0.33mm／対応機種：ニコンD500/D610/D600

提供：株式会社クロスフォレスト
http://crossforest.jp/

3名様

※製品にカメラは含まれません

05 Cokin
ピュアエクセレンスUV MC77mm

超高透過ガラスでクリアな描写 撥水・撥油・防汚・防塵・傷防止の 最高級真鍮枠フィルター

フィルター径：φ77mm

提供：株式会社ケンコー・トキナー
http://www.kenko-tokina.co.jp/

2名様

06 サンディスク
エクストリーム コンパクトフラッシュ カード 16GB

2名様

最大160MB/秒の読み取り速度と 最大150MB/秒の書き込み速度を 実現したコンパクトフラッシュ

読み取り速度：最大160MB/秒／書き込み速度：最大150MB/秒／スピードクラス：VPG-65／付属ソフトウェア：レスキュープロ デラックス(1年間無料)

提供：サンディスク株式会社
http://www.sandisk.co.jp/

07 レキサー
Professional 2000x SDHC UHS-Ⅱ 32GB

1名様

最高約300MB/秒の読み込み速度 高画素写真や4K動画の記録もできる UHS-Ⅱ対応超高速SDHC/SDXCカード

転送速度：2,000倍速(300MB/秒)／UHSスピードクラス：UHS-Ⅱ(U3)／SDスピードクラス：Class10／付属ソフトウェア：Image Rescue(ダウンロード版)

提供：マイクロン ジャパン株式会社　http://jp.lexar.com/

応募要項

応募締切

2017年3月19日(日)

雑誌公正取引競争規約の定めにより、この懸賞に当選された方はこの号のほかの懸賞に入選できない場合があります。

デジタルカメラマガジンでは下記の内容でWebアンケートを実施しています。そちらにお答えいただいた方の中から、プレゼント抽選を行います。当選者はデジタルカメラマガジン2017年5月号にて発表いたします。

応募の流れ ※ご応募には「CLUB IMPRESS」への登録が必要です

❶ GANREFにアクセス▶▶▶http://ganref.jp/dcm/
❷「読者プレゼント申込」をクリック
❸「プレゼント応募ページへ」をクリック
❹ Webアンケートに回答

アンケート内容 ご希望のプレゼント／住所／年齢／都道府県／役職／業種／職種／メインで使っているデジタルカメラの機種名／お使いのフォトレタッチソフトや画像管理ソフト／購入したいカメラ用品／お持ちのパソコンのOS／お持ちのプリンターのメーカー名と機種名／カメラ歴／メールによるお知らせの可否／本誌の記事内容について（［COVER］星降る夜の千年桜 木村琢磨／［TECHNIQUE］イカロスの翼／［TECHNIQUE］FUJIFILM X-T2 FILES／［PICK UP］富士フイルム GFX 50S／［特集1］桜の絶景写真―日本ベストセレクション100／［PICK UP］リコーイメージング PENTAX KP／［TECHNIQUE］COSINA WIDE HELIAR WORLD／［NEW PRODUCTS REVIEW］パナソニック LUMIX GH5／［NEW PRODUCTS REVIEW］キヤノン EOS 9000D/EOS Kiss X9i／［NEW PRODUCTS REVIEW］富士フイルム X-T20／［NEW PRODUCTS REVIEW］キヤノン EOS M6／［NEW PRODUCTS REVIEW］富士フイルム X100F／［NEW PRODUCTS REVIEW］キヤノン PowerShot G9X Mark Ⅱ／［NEW PRODUCTS REVIEW］タムロン SP 70-200mm F/2.8 Di VC USD G2／［TECHNIQUE］オリンパス OM-D E-M1 Mark Ⅱで写す0.0555555556秒の奇跡／［連載］中井精也のデ写教 鉄道編／［連載］詩的憧憬／［連載］神保町写真塾／［PHOTO EXHIBITION INFORMATION］瞬間の顔 vol.9 山岸 伸／［PHOTO EXHIBITION INFORMATION］すれ違う日常 なぎら健壱／［連載］写真で伝えたいこと Season04／［連載］Dramatic Circus／［連載］夜光都市 Another World／［連載］Photoshopレタッチ塾／［連載］酒場の情景／［新連載］メーカーだって、やっぱり写真が好き!／［連載］私の写真を変えたLENS／［TECHNIQUE］カメラとレンズの実力をなぜSC-PX5VⅡは引き出すことができるのか?／フォトコンテスト 3月号選考／［連載］すずちゃんのはじめてのカメラとレンズ DCM出張所／［デジカメ新製品情報］デジカメNEWS調査隊／［TOPIC&INFORMATION］TopEye 全国高校生写真サミット2017／［連載］散歩の凡人／［連載］いつもネコだらけ―ネコカフェ巡り―／［連載］美しき東西の風景を撮る日本の絶景／［連載］藤井智弘のカメラグッズ隠れた銘品発掘調査リポート／［連載］1万円で行く写真旅／集まれ! DCM写真部／［デジカメ新製品情報］最新売れ筋カメラ・レンズ通信／写真展最新情報／［連載］江戸ゆるり坂道散歩／読者プレゼント／［連載］カメラおじさんをたずねて三千枚／［PICK UP］ライカ M10／［連載］Weekend Girl／［連載］アカルイトコロ ハ アタタカイトコロ／［TECHNIQUE］Beautiful TRAIN Journey／編集後記）／今月号の誌面でいちばんよかった写真／現在気になるデジタルカメラの機種名／これから欲しいレンズの製品名／好きな写真家／好きな被写体／撮影した写真のおもな使用法／本誌を知った理由／今月号を購入した理由／本誌購入の頻度／本誌へのご意見、ご感想

あなたの隣にもきっといるはず

カメラおじさんをたずねて三千枚

Art Ojisan

Collection Ojisan

風景やポートレートなど、撮影する写真のジャンルは多岐に渡るが、
俗に言う「硬い被写体」を愛するおじさんは多い。一般的には乗り物のことを指す。
今月は、鉄道おじさんに続いて2人目の硬い物系おじさんが登場。

文・イラスト●大村祐里子

第9回

飛行機おじさん

【 Airplane Ojisan 】

プロフィール

名前：**成羽田 葉さん（59歳）**
飛行機おじさん歴：**本格参入は3年**
身長：**168cm**
体重：**79kg**
職業：**会社員（プロカメラマンのサポート）**
好きな写真家：**岡本 豊さん**
好きな女性のタイプ：**奥さん**
出没地：**成田空港、羽田空港、新千歳空港、伊丹空港**
写真以外の趣味：**猫と遊ぶこと、海水魚飼育**

解説

撮影機材を一通りそろえるだけで車1台が買える。そのため、奥様の理解は「絶対」に必要。基本的にお金持ちでゆとりのある紳士が多く、そんなおじさんたちは「飛行中年」と呼ばれる。分類は航空機の登録番号（通称：レジ番）を集めるおじさん、図鑑のような写真を撮るおじさん、情景写真を撮るおじさんに大別される。

photo

成羽田さんの作品。一番好きな機体はB787。カーボン製なので主翼がしなるのだが、そのしなり方が鳥っぽくてかっこ良く、なんともいえないのだそう

羽田空港の第一ターミナルから富士山をバックに撮影。国際線ターミナルに電気が点くのを狙っていたときに、鶴（※JALのこと）がタイミングよく入ってきた。富士山が流れないギリギリのところで撮影

Scene

成羽田さんの撮影風景。奥様の理解をとにかく大切にされている成羽田さん。月に2回程度の撮影は奥様と一緒に。成田で奥様とバイキングを食べるのが第1目的で、飛行機撮影は2番目。「JALとかANAとか書いてある飛行機がいっぱい来るだけじゃん」と言われたという

――飛行機おじさんになったきっかけは何ですか。

僕は子どもの頃からネジを回すのが大好きで（笑）、ネジをたくさん回せる飛行機の整備士になりたかった。航空工業高等専門学校で航空原動機工学を専攻したものの、オイルショックの直後で就職先がなくて、カメラ関連の会社に入社しました。そこで飛行機を撮り、本格的に始めたのは定年を前に「歩いて遊べる航空写真をやってみよう」と思ったのがきっかけです。

――本格的に始めたのは最近なのですね。そんな飛行機写真の魅力を教えてください。

機能美ですね。青空でも朝焼けや夕焼けでも絵になります。鉄道と違って風向きなどの天候で航路が変わったり、重量で離陸ポイントが変わったりするので、それを予想しながら撮影するのも楽しいです。成田だとA滑走路とB滑走路は10km以上離れているので、予測を外すと大変です……。機材を持ってよく歩くのでダイエットにも最適です。5kg痩せましたよ（笑）

――なんて健康的な！ 空港は広いですが、撮影スポットはどのように探していらっしゃるのですか？

Flightradar24.comという、世界中の飛行機の場所がリアルタイムで分かるサイトを見て、飛行機の位置を予測してポジション取りをします。あとは、FlyTeamというコミュニティサイトを参考にします。撮影位置情報やExif情報が載っているので便利です。

――お使いの機材について教えてください。

キヤノン EOS 5D Mark Ⅳ、EOS 80D、EF24-70mm F4L IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS Ⅱ USM、EF50mm F1.8 STM、EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STMに、1.4倍のエクステンダーをつけています。退職金でEF500mm F4L IS Ⅱ USMを狙っています……（笑）

――飛行機写真のお仲間はいらっしゃるのですか？

僕はFoton Aircraft Photo Storiesに参加しています。電子書籍を通じて多くのフォトグラファーの写真を紹介していて、僕も先日写真集を出しました。

――飛行機写真を撮っていて、困ることはありますか？

ゴミを捨てる人が多いこと。僕らは早朝に掃除をしています。飛行機写真のジャンルを守っていきたいです。

おじさん判定

男の子らしさ	★★★★★
お金がかかる度	★★★★★
大人の良識度	★★★★★
愛妻家度	★★★★★
付き合いたい度	♥♥♥♥♥

判定

飛行中年

おおむら ゆりこ：1983年東京都生まれ。写真家。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。写真家福島裕二のアシスタントをしながら自身もジャケット撮影、雑誌、ワークショップ講師などで活躍中。幼少期の夢はマンガ家

デジタルカメラマガジン 3

2017 March

2017年2月20日発売

2017年4月号は 3月20日（月）発売

次回予告 内容は変更することがあります。ご了承ください。

［特集1］

人気写真家28人に聞いた
カメラの基本設定とその理由

おすすめの
マイセッティングと
勝負レンズも分かる!!

［特集2］

春の新製品

AD INDEX

STAFF

AD	平岡和之（ビーワークス）
デザイン	荒牧春香／久米雄次郎／廣谷 汐／須磨裕子／春原卓也／猪瀬 樹（ビーワークス）
写真撮影	加藤丈博
用紙	第一紙業株式会社 国際紙パルプ商事株式会社
印刷製本	共立印刷株式会社
生産管理	籔田 武
広告営業	株式会社インプレス
広告部	清水栄二／高橋伸行／田中真一郎 野原大輔／五十嵐敦子
出版営業	伯田 敦／吉田和彦／丸岡重之 岩織康子／岩本琢磨／村田哲史
制作進行	島村正人
編集協力	赤池淳子／山崎理佳
編集	牧浦裕介／杉本律美
デスク	武間俊樹／白石由佳
副編集長	上田大輔
編集長	福島 晃

発行人●土田米一
編集人●小川 亨
発行所●株式会社インプレス
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
http://book.impress.co.jp/
販売●株式会社インプレス 出版営業統括部
TEL 03-6837-4635
広告●株式会社インプレス 営業統括部
TEL 03-6837-4631
http://ad.impress.co.jp/
インプレスカスタマーセンター
TEL 03-6837-5016 FAX 03-6837-5023
info@impress.co.jp

雑誌コード 16453-03

フィルムライカ並みに薄くなったM型最新モデル

LEICA M10

● 発売日 2017年1月28日　● ライカストア販売価格 918,000円

写真・文●斎藤巧一郎

REPORT from WETZLAR

ライカ製品の魅力を探りにドイツへ向かった

ライカ本社はドイツの中西部フランクフルトの北に位置する小都市ウェッツラーにある。はるかかなたの国の製品に惹かれ続ける理由を確かめに寒さも厳しい1月中旬に訪れた

ライカ本社で行われる不定期イベント「A Celebration of Photography」。ライカで多くの傑作を残す写真家の功績をたたえる趣旨のもと、写真家の座談会、新型機の発表が行われた

ウル・ライカと呼ばれる初代試作機は1914年に製作され、その後のライカカメラ、また我々の使うカメラの礎のような存在。現存1台といわれ普段は金庫に眠るものが特別に展示された

世界各国から多くのVIPや写真家が招かれたイベント会場は大にぎわい。中でもライカ M10とウル・ライカの展示には多くの人が集まり記念撮影がなされ、注目度の高さがうかがえる

工場の見学コースではライカ M10の組み立て工程を見学することができた。人の手で1台ずつ組み立てられていく様子に、 手にしていたライカM10への思い入れも一層高まる

ジョエル・マイロウィッツ氏の功績をたたえた写真展、トークショーが開催。私にとって神のような写真家に緊張しながら声をかけると、名前が刻印されたライカ M10を気さくに見せてくれた

SPECIFICATION

撮像素子：**約36×24mm CMOSセンサー**　有効画素数：**約2,400万画素**　ISO感度：**ISO 100〜50000**　最高シャッター速度：**1/4,000秒**　連続撮影：**約5コマ/秒**
ファインダー：**大型ブライトフレームファインダー**　ファインダー倍率：**0.73倍**　背面モニター：**約104万ドット 3型TFTカラー液晶**　外形寸法（W×H×D）：**約139×80×38.5mm**
質量：**約660g（バッテリー含む）**

ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／ 28mm ／絞り優先AE（F11、1/90秒、－0.3EV）／ ISO 100／ WB：オート

スナップこそライカの出番だと意気込み、 電車に乗り込んで、 ウェッツラーの隣町ギーセンに向かった。低い朝の光が、 街に並木の影を落としていて美しい。水平・垂直にカメラを構え、 加工肉を販売するお店の前で通行人の姿をアクセントに撮影した。SUMMICRON-M F2/28mm ASPH.とライカ M10を組み合わせた画質はシャープで、再現性の高い写真を撮影できる

1

2

3

① ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／28mm ／ 絞り優先AE（F16、1/45秒、±0EV）／ ISO 200 ／ WB：オート
手が震えるほど寒い朝。凍った小川を溶かそうと日が差していた。レンズ端に太陽を入れてフレアを起こさせ、枝に葉もない冷たい光景を優しく見せようとした

② ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／28mm ／ 絞り優先AE（F4、1/30秒、+0.3EV）／ ISO 800 ／ WB：オート
ドイツといえばソーセージ。市場の店での客と店主のやりとりを後ろから撮影。28mmの広角域と大口径の利点を生かして手前の客をぼかしている

③ ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／28mm ／ 絞り優先AE（F4、1/90秒、−0.3EV）／ ISO 100 ／ WB：オート
冬の低い太陽光線が街に光と影のメリハリを与えていた。質感描写に富んだ画質のおかげで、店先にぶら下がった衣類が立体的に描写される

帰ってきたフィルムライカの感覚

① フィルムライカ並みの薄さを実現

デジタルのM型ライカは厚さが増してフィルムのそれとは異なるスタイルに甘んじていたが、ライカ M10では3.5mm薄型化し、ほぼフィルムライカ（M型）と同じ厚さを実現。バッテリーも薄型化しているが、レンジファインダーのみの撮影なら5～600枚程度は撮影可能だという。

▼LEICA M10

7.4V
1,300mmAh

▼LEICA M（Typ240）

7.4V
1,800mmAh

▼LEICA M10

▼LEICA M（Typ240）

② 撮影に集中できるシンプルな操作系

ライカ M10のボタンは極めて少なく、DELETEボタンすらない。フィルムカメラは撮影中に写真を消すことはない。削ぎ落とされた操作系に、撮影に集中できると思うか、使いづらいと思うかがライカ使いの分かれ道。

▼LEICA M10

▼LEICA M（Typ240）

4

5

6

④ ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／28mm ／ 絞り優先AE（F8、1/30秒、−0.7EV）／ ISO 200／ WB：オート

ラーン川にかかる石橋とウェッツラー旧市街。このゆったりした流れに、ライカを発明したオスカー・バルナックや多くのライカファンがカメラを向けたことだろう

⑤ ライカ SUMMICRON-R F2/35mm ／35mm ／絞り優先AE（F2、1/60秒、−0.3EV）／ ISO 200／ WB：オート

レンジファインダー機は近距離撮影に向かない。Mレンズも極端な近接は不可。そこでライブビュー機能で一眼レフ用Rレンズを使用して距離30cmで撮影した

⑥ ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／28mm ／ 絞り優先AE（F2、1/30秒、±0EV）／ ISO 6400／ WB：オート

夕方のウェッツラー旧市街、大聖堂付近は閑散としていた。ISO 6400程度ではノイズが目立たず、夕暮れの雰囲気が写る。ライカ M10はイブニングスナップも楽しい

3 巻き戻しノブのような独立したISO感度ダイヤル

ISO感度ダイヤルは独立。カメラをひと目見れば、電源オフでもシャッター速度、絞り、ISO感度を認識できる。さらにこのダイヤルはフィルムライカの巻き戻しノブの形状に似せてあり、引き上げて設定し、戻すとロックする構造。Mに合わせるとメニュー画面で最高ISO 50000まで設定できる。

ロック時

アンロック時

ダイヤルではISO 100～6400まで選択可能。Mを選択すると、メニュー画面で最大ISO 50000まで上げることができる

4 近接撮影に強いRレンズや最新外付けEVFも装着可能

ライカの一眼レフ用Rレンズを使用する際に、Exifデータにレンズ名を残せるようになった。メニュー内のライカRレンズのリストから選択する。GPS搭載の最新の電子ビューファインダーに対応し、Rアダプターでレンズを装着すると、レンジファインダー機にはできない近接撮影も可能だ。

Rアダプター

ビゾフレックス電子ビューファインダー

▶東京　隅田川 | SUMIDA RIVER

① ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／28mm ／絞り優先AE（F2、1/40秒、±0EV）／ISO 32000／WB：タングステン
夜空に漂う白い雲が街の灯りに照らされていた。ISO 32000まで上げるとノイズこそ目立つが、ディテールは残り、高感度フィルムのような描写で嫌いではない

② ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／ 28mm ／絞り優先AE（F2、1/30秒、−0.7EV）／ISO 6400／WB：タングステン
橋の下の通路を走る自転車を、スナップの名手を気取りタイミングを合わせた。ISO 6400程度ならコントラストの低下も感じず黒に締まりがある

③ ライカ SUMMILUX-M F1.4/50mm ASPH. ／50mm ／絞り優先AE（F1.4、1/45秒、−0.3EV）／ ISO 8000／WB：タングステン
大きな月が隅田川の上に明るいラインを輝かせていた。F1.4/50mmを開放で使用しているため近距離はぼけている。遠い月を意識してピントを合わせた

2つの川と向き合いながら

F2/28mm、F1.4/50mmの明るいレンズとライカ M10を携えて、夜の東京隅田川沿いを歩く。ライカ M（Typ240）では拡張ISO 6400が最大だったが、ライカ M10では最大ISO 50000まで上げられる。高感度画質も向上し、再生画面には美しい隅田川の夜が浮かび上がった。画像処理エンジンはライカ Q、SLと同じ最新のマエストロⅡ。高感度ノイズの出方は自然で、フィルムの粒状感のようだ。寒い夜にもかかわらず楽しくなって歩が進む。

一般的なカメラのようにフルオートではないので、良い写真を残すには多くの手動操作が要求される。絞りを選び、ブライトフレームを意識しながら構図を決めて、レンジファインダーで丁寧にピントを合わせる。光学系が新設計されたファインダーは、倍率がライカ M（Typ240）の0.68倍から0.73倍に上がり、ピントが合わせやすい。操作に意識を埋没させるように撮影を進めると、心地良いシャッターの感触とともにカメラと息が合ってくる。こちらの

2

3

4

自分のために写真を撮った

指示以上のことはしてくれないカメラで自分の感じた光景を写真に現そうと懸命になる。それは、忘れがちな自分のために写真を撮るという感覚だった。見たことを大切に残すため、私は写真を撮っているのだ。

ライカ本社に赴く前にロンドンにも立ち寄り、テムズ川を見に行った。それは世界の基準を作ったイギリスの川だ。現代のカメラもライカが規定した基準を使うものが多い。カメラの源流ともいえるライカを手にすれば、多くの憧れの写真家の流れの下に自分もいられるように思える。

カメラの源流に戻ろうとするように、ライカ M10は、フィルム時代のカメラサイズに戻った。動画機能は搭載せず、操作ボタンも極限まで削ぎ落とされたデザインは「写真を撮る」という行為そのものに目を向けさせられるかのよう。真鍮のトップカバーはこだわりの仕上がりで、手にすると誇らしくなる。きっと、フィルムライカを懐かしむファンにも、憧れる若い世代にも受け入れられるカメラとなるだろう。

▶ロンドン　テムズ川 | RIVER THAMES

④ ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／28mm ／絞り優先AE（F8、1/180秒、±0EV）／ISO 100／WB：タングステン

運搬船がゆったりと進んでいく朝のテムズ川。川沿いには近代的なビルが見えているが、川の流れは昔から変わらず同じなのだろう

⑤ ライカ SUMMILUX-M F1.4/50mm ASPH. ／50mm ／絞り優先AE（F1.4、1/45秒、−0.7EV）／ISO 3200／ WB：タングステン

川をながめて物思いにふけるイギリス紳士の姿を借りた。ピントは人物に合わせ、背景のライトアップされた橋や建物はピントを外す。折良く紳士は明るい街灯の下だ

⑥ ライカ SUMMICRON-M F2/28mm ASPH. ／28mm ／絞り優先AE（F1.4、1/30秒、−0.7EV）／ISO4000／WB:タングステン

川沿いの道を家路につく人々。テムズ川対岸にはロンドン・アイと呼ばれる大観覧車。ヨーロッパによくある街灯は暖色系のライト。WBはタングステンを選択した

5

6

屋外でのポートレート撮影は露出の決定が難しい。ボケとブレのバランスとも密接に関係している。魚住さんといえば、マニュアル露出で撮影することが多い。大口径レンズを使い、F値も開放絞りを多用する。「大きなボケで背景をぼかしたり、空気感を演出するためだよ」。これはイメージを表現する写真集でもインタビュー記事の写真でも基本的には変わらない。「屋外の場合、ISO感度を250に設定して、シャッター速度で明るさを調整する。1/125秒よりも遅くなってしまいそうな場合は被写体ブレが怖いので、感度アップで対応する。だいたいISO 1600までは許容しているよ」。女性ポートレートの場合は、画質をシビアに考えなければいけないからむやみにISO感度は上げたくないのだそうだ。今月はシーンによる露出の決め方についても考えてみたい。

今回モデルになってくれた松林うららさんは、映画や舞台で活躍する女優。最近はアクションにも挑戦する頑張り屋さんだ。そんな彼女の魅力を引き出すために、ロケ地はカルチャーの聖地、下北沢に決定。実は下北沢ではここ数年、駅前の再開発などであちこちで工事が行われている。「シモキタは、若者向けのカラフルな古着屋やカフェが多いとはいえ、バリエーションを考えた背景選びがポイントになるね。再開発のエリアを避けて、店内でも撮影してみようか」。ということで、室内での撮影にも挑戦。カフェでのかわいいポートレートを撮るためのテクニックを紹介する。「ポイントは光量が少ない室内での光の扱い方と、イメージの伝え方。複数のバリエーションを撮影して、自分の好みのイメージを吟味するというのも写真上達のための大事なプロセスだよ」。

街のイメージに合わせたファッションで、いざシモキタ散歩へ。

▼シモキタ散歩のキーワード

カラフルなショップ
工事　電車　古着屋
カフェ　民家　ライブハウス
路地　劇場

ロケ地 ▶ 下北沢

衣装オーダー

- ☑ 雑多な街でも目立つ色味のスカート
- ☑ 歩きやすいカジュアルな服装（古着でもOK）

Vol. 7 シモキタ散歩×松林うらら

写真●魚住誠一　モデル●松林うらら（シュルー）

ソニー α7R II／FE 85mm F1.4 GM／85mm／マニュアル露出（F1.4、1/800秒）／ISO 250／WB：オート

洋服屋さんのショップ看板の上で頬杖をついてもらった。風が吹いていたので、1/800秒で髪の毛の動きを止めている

ソニー α7R II／Planar T* FE 50mm F1.4 ZA／50mm マニュアル露出（F1.4、1/800秒）／ISO 250／WB：オート

細い商店街に逆光が差していた。モデルには建物が作った日陰に立ってもらっている。輝度差が明るいイメージを作っている

1

3

4

2

① ソニー α7R Ⅱ／ Planar T* FE 50mm F1.4 ZA ／50mm ／マニュアル露出（F1.4、1/200秒）／ ISO 250／ WB：オート

シモキタといえば！ のコインランドリーで撮影。白い洗濯機に顔を寄せれば、美白効果が得られる。室内のため、開放でもシャッター速度が1/200秒となった

② ソニー α7R Ⅱ／ Planar T* FE 50mm F1.4 ZA ／50mm ／マニュアル露出（F1.6、1/500秒）／ ISO 250／ WB：オート

派手なシャッターを背景に立ってもらう。ペイントされたバラの絵柄をぼかすために、シャッターからは少し離れて立つように指示した

③ ソニー α7R Ⅱ／ Distagon T* FE 35mm F1.4 ZA ／35mm ／マニュアル露出（F1.4、1/8,000秒）／ ISO 250／ WB：オート

ショップの前に腰を下ろしてもらう。影が出てドラマチックなイメージにするために、わざと日向に座ってもらった。ブルーのショップとグリーンの自転車がポイント

④ ソニー α7R Ⅱ／ Planar T* FE 50mm F1.4 ZA ／50mm ／マニュアル露出（F1.4、1/800秒）／ ISO 250／ WB：オート

民家のグリーンを生かしたかったので、しゃがむポーズを指示。細やかな葉がうるさくならないように、開放絞りで大きくぼかしている

シャドウを生かす

ソニー α7R Ⅱ／ Planar T* FE 50mm F1.4 ZA ／50mm ／マニュアル露出(F1.6、1/250秒)／ ISO 250 ／ WB：オート

窓際のソファで窓とは反対側に顔をもってきてもらったカット。暗く、アンダー目な表現にするため、シャッター速度を遅くしている

ハイライトを生かす

ソニー α7R Ⅱ／ Planar T* FE 50mm F1.4 ZA ／50mm ／マニュアル露出(F1.6、1/125秒)／ ISO 250 ／ WB：オート

顔を窓際に寄せたカット。光が顔に回ることで明るい印象になり、爽やかなイメージが表現できる

ソニー α7R Ⅱ／ Planar T* FE 50mm F1.4 ZA ／50mm ／マニュアル露出(F1.4、1/125秒)／ ISO 250 ／ WB：オート

ドリンクを飲みながら、カップで口を全部隠したカット。目から表情を読み取ろうとするため、見つめ合っている印象が強まる

・Technique・

1 カフェでの撮影は光を生かすか締めるかの2択

一般的にカフェは薄暗い店が多い。室内の照明を頼りにするよりも、窓からの自然光を使う方が明るい写真が撮影しやすい。逆に、暗い方へ顔を倒すことで、シャドウを生かした表現が可能だ。

大きなガラスの窓があるカフェ。照明は暗く、大人な雰囲気が漂う。窓からは正午過ぎの光が店内に入ってきていた

・Technique・

2 口元の見え方で顔の印象を調整する

カフェでドリンクを飲むシーン。カップの角度によって、写真のイメージは変わる。カップを前に突き出してもらうことでカップをぼかす。前ボケができ、口元を隠すか隠さないかでもイメージが変わる。伝えたいイメージによってカップをどのように利用するのかを考えよう。

自然光を利用したかったのでオープンカフェで撮影。カップを少しずつ傾けてもらいながら、1枚ずつ撮影する

カップを前ボケにしてモデルの目に引きつける

口を隠していない状況。何か言いたいのかな?

口角が見えていると、なんとなく表情が分かる

松林うらら（まつばやし うらら）：1993年東京都生まれ。女優。公開中映画「僕らのごはんは明日で待ってる」に出演中。カラオケの十八番は「レット･イット･ゴー～ありのままで～」。Twitter@urarasaan、Instagram@saaaban_

LOCATION — 07 神さまの道

ニライカナイ伝説が残る場所

琉球弧とよばれる沖縄や奄美地方には、ニライカナイ伝説とよばれる独特の世界観をもったお話しがあります。彼らは、その世界観の中で古代より暮らしてきました。それらの一端が、今でも日常生活の中に色濃く残っています。多くの集落にある小道は、邪気などが迷うようにと、かなり細かく入り組んでいます。そんな奄美の小さな集落の多くも、車社会の波とともに、ほとんどの道が舗装されています。しかしその中で、僕の知る限り、たった1つだけ、今でも集落の中心にあたるすべての道が舗装されておらず、いつ行っても道も生け垣も、とてもきれいに手入れをしている集落があります。奄美大島の南端の古仁屋(こにや)港から船で渡る、加計呂麻島の須子茂(すこも)という場所です。

奄美の多くの集落には、彼らが“ミャー”と呼ぶ集落の中心的広場に隣接するかたちで、“アシャゲ”と呼ばれる女司祭ノロが祭祀を行うための、壁のない小さな家のような祭場があります。通常、1つの集落には1つの“アシャゲ”があるのですが、ここ須子茂には2つの“アシャゲ”があります。それでも争いの気配などはまるでなく、むしろ調和的で穏やかな空気に包まれています。そんな須子茂には、これも今ではすっかり姿を消してしまった“神道(かみみち)”と呼ばれる、まさに神さまが通る道が何本もあります。山の聖地と海を結ぶ道。時にはそんな神さまの道を、人々が歩くこともあるのですが、それでもどこか遠慮がち。たしかに、もし自身が日々暮らす家のすぐ横に「神さまの道」と呼ばれる道があったなら、気にならないわけもなく、ましてや自然と共存しながら暮らす奄美の人々にとっては、なおさらのことなのではないでしょうか。

そのすべての道は“ミャー＝日常の広場”に通じています。それらを集落のみんなで共有しているのですから、そこにある道も、そこにある生け垣も、すべてのものたちがとても大切にされているのです。

僕は、この須子茂という集落が大好きです。だから奄美に行くとこの場所を訪れています。いつもカメラを片手にぶらぶらと数時間、集落の中を歩いているのですが、不思議ととても穏やかな気分になります。そしてそこには、とても美しい日常が存在しています。もしかしたら、僕たちにとって、今一番大切な道とは、このような道なのかもしれません。

PROFILE

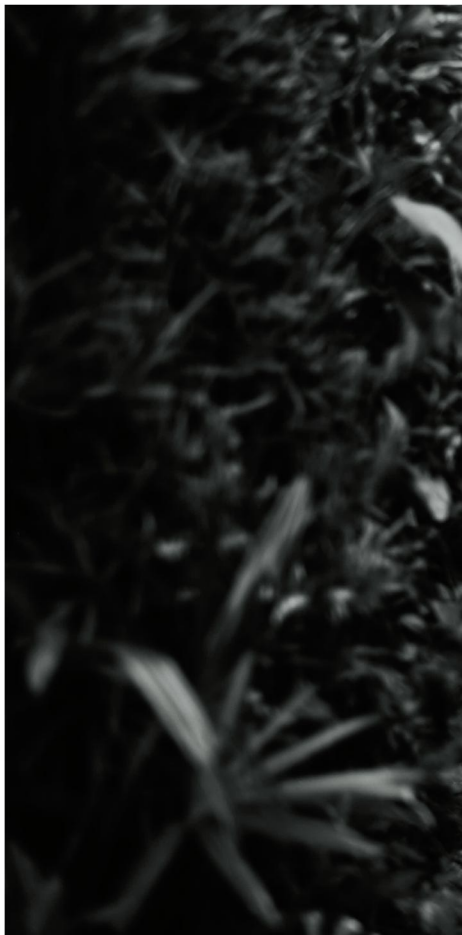
すがわら いちごう：1960年札幌生まれ。大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業後、早崎 治に師事。フランスにて写真家として活動を開始して以来、数多くの個展を開催。2005年、ニューヨークのPace MacGill Galleryにて開催された『Made In The Shade』展にロバート・フランク氏らと共に参加。また同年、アニメ『蟲師』のオープニングディレクターを務めるなど、従来の写真表現を越え、多岐にわたり活動の領域を広げている。2002年からは「今日の空」というブログを開始、14年間欠かすことなく空の写真をアップ。著書、写真集に『写真がもっと好きになる』『DUST MY BROOM』(ソフトバンク クリエイティブ)がある。2013年に写真集『Blue+Daylight』(WOW)などがある
http://www.ichigosugawara.com/

富士フイルム X-Pro2／XF35mmF1.4 R／35mm／
プログラムAE(F1.4、1/150秒、−1.0EV)／ISO 200／WB：オート

PHOTO ESSAY

The Light in Sight from The Shade,

アカルイトコロハ

Ichigo Sugawara 菅原一剛

アタタカイトコロ

ソニー α6500／FE 70-200mm F2.8 GM OSS＋SAL20TC（2倍テレコン）／400mm（600mm相当）／マニュアル露出（F5.6、1/200秒）／ISO 400／WB：太陽光／上越新幹線（越後湯沢駅）

ソニー α6500／FE 70-200mm F2.8 GM OSS+SAL20TC（2倍テレコン）／396mm（594mm相当）／マニュアル露出（F6.3、1/400秒）／ISO 400／WB：電球／上越新幹線（越後湯沢駅）

SPECIFICATION

有効画素数：2,420万画素（APS-Cサイズ）　記録画素：6,000×4,000（24M）
ISO感度：ISO 100-25600（静止画撮影時：拡張上限ISO 51200）
測距点数：425点（位相差検出方式）／169点（コントラスト検出方式）
検出輝度範囲：EV−1～EV20（ISO 100相当、F2.0レンズ使用）
外形寸法：約120.0（W）×66.9（H）×53.3（D） mm
質量：約410g（※本体のみ）

連続撮影速度約11コマ/秒、世界最多425点の像面位相差AFセンサーと169点のコントラストAFを画面のほぼ全域に配置した「4Dフォーカスシステム」、光学式5軸ボディ内手ブレ補正、防塵・防滴に配慮した設計のタフなフルマグネシウム合金ボディなど、鉄道写真に必要なカメラの条件を全て兼ね備えたα6500。見通しの悪い駅のホームでの手持ち撮影でも、見事に決定的な瞬間を捉えてくれた。

美しき旅を支えるもの

街も、山も、架線までも、
すべてが雪に覆われた世界。
それでも線路にはまったく雪がない。
融雪装置の激しい飛沫を割き、
α6500のファインダーに現れた新幹線は、
堂々と、誇らしげに見えた。
大げさに思える設備も、ホームでの確認作業も、
すべては「安全」のため。
まさにそれこそが、美しい列車の旅を支えているのだ。

SONY PRESENTS

Beautiful TRAIN Journey — Seiya Nakai

中井精也がαと旅する美しき鉄道風景

Vol. 07 | α6500

from STAFF —— *An Editor's Postscript*

上田大輔 Daisuke Ueda

▶ 富士フイルム X-T2

今回の桜の絶景特集いかがでしたか。「 春は夜桜　夏には星　秋には満月　冬には雪　それで十分酒は美味い 」と比古清十郎はいっていましたが、桜のなかで夜桜は格別の美しさがありますね。昼間の桜を撮ることがむずかしいので、毎年、夜な夜な三脚を背負って自転車で夜桜を撮りに行っていました。今年は遠出をしてようかなと思っています。写真はホテルの庭を撮っていたら映り込みが桜に見えたので、咲いている風に配置して撮りました。春が待ち遠しいですね。

島村正人 Masato Shimamura

▶ ニコン D7000

寒かったり、暖かくなったりと寒暖の差が激しい天候が続きますがみなさん体調はいかがですか? 編集部ではインフルエンザ罹患者が出ましたが蔓延することなく1人だけで収束し、本誌の進行に影響がなかったのは幸いでした。寒いとついつい家にこもりがちですが、テレビのスポーツ番組を観ていると春のスケジュールが発表され気持ちも高まってきます。今年はいろいろなスポーツを撮りに行きたいと思っています。暖かい春の日差しが待ちどおしいです!

杉本律美 Ritsumi Sugimoto

▶ ソニー　α7II

今月号の連載「いつもネコだらけ」は浅草のネコカフェへ。私もロケにお邪魔しました。いつもかわいいネコ写真に癒やされていましたが、見るのと撮るのは大違い! とにかくすばしこいネコたちを、背景と絡めて撮る、なんていう高度なことはできず、写真家のお2人が巧みにたくさんのシチュエーションで写真を押さえていく様を現場カットとして捉えるのが精一杯でした。かろうじてまったりしている気品高いネコさんを1枚。ネコ写真道の道のりは長いです……。

武間俊樹 Toshiki Takema

▶ ニコン AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G

会社がある神保町は古書店、大学、楽器店、アウトドアショップと、多彩な表情を持ちますが、カレー屋が相当に多かったり、大手町につながるビジネス街だったりと、何とも奥深い街です。この神保町を定期的に撮ったら面白いのではないかと、会社の写真部で「神保町夜スナップ」を始めました。岡嶋先生の連載の教えを実践しようと、レンズは50mm、できるだけカメラに任せて構図やシャッターチャンスに集中。撮ってセレクトしてまた撮る、を試してみたいと思います。

白石由佳 Yuka Shiroishi

▶ アップル iPhone 7

今年はいつもよりも春が急ぎ足のような気がします。年明け早々、花粉症が本気を出してきた! と思ったら桜の蕾もふっくら。この調子だと桜撮影の予定は少し前倒しして考えた方が良いのではないかと思いきや、暖冬の場合は開花が遅くなることが多いそうです。桜は寒暖差で目覚めるようですね。ずっと暖かいと、うっかり寝過ごしてしまうのかも。今月の特集は「桜の絶景」。編集部はひと足お先に春を堪能させていただきました。日本は絶景に恵まれた国ですね。

牧浦裕介 Yusuke Makiura

▶ 富士フイルム X-T1

部屋の寒さで起きてすぐベッドに戻り、そのまま1時間ほど余計に寝る、という残念な行為を繰り返している冬の日々です。温かい布団に包まると幸福を感じるように遺伝子レベルで刷り込まれているのだから仕方ない、という言い訳を自分にはしていますが、社会人として何かが失われていく感じがしています。温かい布団に包まる幸福感と同じくらい、日本人の遺伝子に刷り込まれていると思うのが、桜を愛でる心。心浮き立つ桜の絶景特集で春への準備をどうぞ。

福島 晃 Akira Fukushima

▶ オリンパス OM-D E-M5

今月からスタートした新連載「メーカーだって、やっぱり写真が好き!」。写真好きを自負するメーカー担当者を私が単身で乗り込み、自分で写真を撮り、自分で原稿を書くという企画です。そういう訳ですから、温かい目で見ていただけると助かります。記念すべき第1回目に登場いただいたのはオリンパスの田中さん。普段から良く知っているように思っていましたが、改めてこうして取材させていただくと、プロレスという同じ趣味があったことなど、新たな発見も多々ありました。